

令和6年度第2回袖ヶ浦市地域福祉計画策定・推進委員会及び
袖ヶ浦市地域福祉活動計画策定推進委員会

1 開催日時 令和7年2月17日(月) 午後2時開会

2 開催場所 袖ヶ浦市役所北庁舎3階 中会議室

3 出席委員

| | | | |
|-----|--------|----|-------|
| 委員長 | 石井 啓 | 委員 | 後藤 秀美 |
| 委員 | 関口 三枝子 | 委員 | 竹元 悦子 |
| 委員 | 置田 和子 | 委員 | 土屋 則子 |
| 委員 | 小島 直子 | 委員 | 若林 和秀 |
| 委員 | 森岡 かおり | 委員 | 鈴木 滝民 |
| 委員 | 杉山 峰生 | 委員 | 大島 裕子 |
| 委員 | 荻谷 文介 | 委員 | 粕谷 秀夫 |
| 委員 | 鶴岡 公一 | 委員 | 今岡 直人 |
| 委員 | 石井 美喜男 | 委員 | 小林 芳昭 |

(欠席委員)

| | | | |
|------|--------|----|--------|
| 副委員長 | 二宮 義文 | 委員 | 齊藤 眞理子 |
| 委員 | 関 茂 | 委員 | 磯野 恵美 |
| 委員 | 井口 清一郎 | 委員 | 君塚 和枝 |

4 出席職員

| | | | |
|-----------------|--------|-----------------|-------|
| 福祉部長 | 金子 則彦 | 社会福祉協議会 常務理事 | 杉浦 弘樹 |
| 福祉部次長 | 田中 敦則 | 同事務局長 | 山上 拓也 |
| 地域福祉課 副参事 | 黒氏 良浩 | 同次長 | 手島 陽一 |
| 地域福祉課主幹 | 鹿嶋 章夫 | | |
| 地域福祉課 生活支援班長 | 鹿間 久美子 | | |
| 地域福祉課 | 出来町 瑛司 | | |

5 傍聴定員と傍聴人数

| | |
|------|----|
| 傍聴定員 | 5人 |
| 傍聴人数 | 0人 |

6 議 題

(1) 地域福祉に関する住民意識調査（市民）について（報告）

資料1、資料1-1、資料1-2に基づき、事務局（市地域福祉課）から説明

【質 疑】

粕谷委員：

住民意識調査の有効回収率が前回は52.8%、今回は36.6%ということで16.2%減っています。減少理由について教えていただけますか。

事務局：

1年前に企画政策課が、令和5年9月1日から9月30日まで18歳以上の2,000人を対象とした住民意識調査を行っています。その時の有効回答数が787人、有効回答率が39.4%でした。やはり、それらを含め回答率が下がっていると思います。

事務局：

補足させていただきます。回収率自体は30%台で推移しています。

詳細について調べていませんが、恐らく今回紙による調査になったことがネックになっていると考えています。

今後もこのような調査は市でいくつか続いていきます。回収率を上げていくためにも、今後はインターネット等を使った方法にシフトしていけたらと考えています。したがって今回は、実施方法に若干問題があったと考えています。

後藤委員：

4ページ「2 地域での暮らしやすさ」についてです。「満足」と「満足でない」の両方が高い数値になっている項目があります。これは非常におもしろい数値だと思います。大体は、どちらかに偏っているはずですが。

地域の暮らしの満足度を本市全体で表していると思いますが、地域によってばらつきがあると思います。やはり次の施策を決めるには、地域ごとの満足度・不満足度を明確にしないといけないと考えています。全体で物を見ると不明確になってしまうという点が、この数値に出ていると思います。

せっかくデータを取っているので、地域ごとの満足度・不満足度を明確にしたうえで施策を決めることが大切だと思います。

事務局：

ご指摘のとおりですが、5ページ(2)「問12 地域社会の中で安心して暮らしていくには、どのようなことが大切だと思いますか。」では、地域ごとのパーセンテージが入っています。これから課題を出すにあたっては、もう少し深く踏み込んで進めていきたいと思っています。

石井委員長：

今のお話ですが、(1)と(2)では設問の内容が違うため、(1)で地区ごとのポイントを見た方が良いのではといったご意見でした。その他いかがでしょうか。

事務局：

データの的には、地区ごとの内容を把握しているため、この部分は再集計して後日お示めいたします。

粕谷委員：

資料1-1の62ページ「問36 社会福祉協議会の活動を知っていますか」についてです。

私も社会福祉協議会の市民後見人として参加しているため良く理解していますが、社会福祉協議会は活動を一生懸命されています。

ただ、それとは反対に「名前は知っているが、内容は知らない」、「まったく知らない」といった回答が多いです。活動についてPR等されていることも知っていますが、どうしてこれだけ認知度が低いのか教えていただけますか。

事務局（社会福祉協議会）：

現状アンケートの回答では、このような数字となっています。事務局内で共有した際も大変残念な思いでした。

アンケート結果の数字を上げる特効薬のようなPR活動について打ち出せていませんが、広報紙、ホームページ、SNSを活用した情報発信については、前年度以上の回数で発信しております。しかし、このような結果になっています。

私たちは「顔の見える関係づくり」といった考え方を大変重要視しています。成年後見の活動で様々な場所へ行かれる方々による各種事業の紹介、また、様々な委員等の方々による各種事業PRも再度重要視していきます。今後の活動を具体的に深めていけるように検討していきます。

粕谷委員：

要望としては、「広報そでがうら」の紙面を多数頂けるように努力していただきたいです。

事務局（社会福祉協議会）：

担当課等と検討を進めてまいりたいと思います。

石井美喜男委員：

関連して認知度についてですが、社協についても民生委員についても、これらを知らないという方が非常に多いです。どの年齢層で認知度が高いのか、低いのか分からないので質問いたしますが、年齢層別の分析はされていますか。

事務局：

資料1-1の69ページ下段が年齢層別の区分表となっております。

石井美喜男委員：

若い層の人たちに「知らない」が多いということになります。これを見る限り、各民生委員のPR活動が足りないと思います。特に若い層の人たちにとっては、関心がないので知らない、まだ直面していないため等の理由から、認知されていないのかもしれませんが。そうするとPRのやり方を再検討する必要があると深く反省しています。

深く分析していけば、いろいろな見方があると思いますが、もう少しそういった面について勉強していかななくてはいけないと感じました。

小島委員：

最近地区社協の全体会議に参加しました。社会福祉協議会というと、皆さんは高齢者だけかと思うかもしれませんが、地域によっては、子どもから高齢者までを対象とした様々な企画を実施しています。

ただ、なかなかこういったことが地域全体に伝わらないため、ホームページの充実などたくさんの方の意見を出して、いろいろな形で頑張っています。努力が足りないということかもしれませんが、皆様にお伝えできたらと思い発言しました。

杉山委員：

民生委員の認知度が低いといった点についてですが、自治会に属さない人が多い、こども会を作っても人数が少ない、または自治会に入っていない家庭のお子さんが多かったりしています。やはりそういう人たちに、どうやって知らせたらいいのか、これからの課題になっていくと思います。

石井委員長：

その他、いかがでしょうか。質疑が無いようですので、議題1は終了いたします。

(2) 地域福祉に関する住民意識調査（事業所・福祉団体）について（報告）

資料1、資料1-1、資料1-2に基づき、事務局（市地域福祉課）から説明

【質疑】

森岡委員：

民生委員は守秘義務があるため、相談があまりできません。支援が必要な人がいて、そこに携わっていて何とかしたいと思い、次のステップとして地域包括支援センターなどに相談します。地域包括支援センターも一生懸命やってくれます。その次のステップとして例えば「要支援をもらいたい」と申請しますが、そこでやはり落とされたりします。こういった部分がクリアされないと、その先に進めません。そして状況が悪い方へ行ってしまいます。

民生委員の活動として、私が実際にその方の親族に連絡を取っても近くにいません。また、その方自身が病気を持っているため病院へ付き添い、お買い物も若干お手伝いするなどしています。そこをクリアすれば、その方は助かると考えています。

そうやって頑張っても、その先のハードルを越えられないと先に進めないといった状況が、地域福祉の難しい部分だと思います。

石井委員長：

今の話は高齢の方で、なかなか介護サービスに結びつかないといったお話でしょうか。

森岡委員：

その方は見守り対象者ではありますが、いくら民生委員でもそれ以上できない場合があります。

市でも認定方法の基準などがありますが、実際の状況を見ると、本当に助けが必要な状況です。誰が悪いといった話ではないと理解していますが、そういった状況をどうにもできないことが、もどかしいです。

事務局：

私たちが日々支援している中で「支援に手間がかかる方の要介護認定が要支援1や要支援2」という認定結果にがっかりすることは多々あります。

その中で何ができるかについては、重層的支援体制整備事業、生活支援体制整備事業、お助け手帳などを活用して、何人かで集まって検討することはできますので、個別に地域福祉課へご相談いただければと思います。

解決できるといったお約束はできないですが、アイデアはたくさん出せるので、個別にご相談いただけたらと思います。

森岡委員：

全体的な話ではないので、詳細については後ほど個別に相談いたします。

後藤委員：

45ページの地域福祉についてのまとめの中で「支援につながらなかったり、孤立したりするケースも生じているようです。」といった結果論になっています。

私自身は民生委員の活動とさわやかネットの責任者をやっていますが、我々のチームには、民生委員の方が入って一緒に活動してくれています。民生委員が入っている地域の高齢者の困り事は、情報が次々と入ってくるため支援につながりやすいです。一方で民生委員が入っていない地域については、情報が全く入って来ないといった極端な状況です。

現在、民生委員が訪問している件数が、月に1人当たり5件～10件ほどです。ただ高齢化が極端に進んでいるため、あと5年くらい経つと1人当たり15件～20件になり、把握しきれなくなっていくと思います。そうした状況の中で、民生委員の見守り体制ができていない地域は良いですが、そうではなく、穴があいてしまう地域ができてしまうのではないかと危惧しています。

先ほどお話のあった重層的支援体制といった組織もありますが、実際に一度も声がかかっていないです。やはり地域包括支援センター、民生委員または様々なボランティア団体が、定期的

に会って地域の細かい情報を交換してサポートにあたる。隠れた情報を表に出して、みんなで対応していくといった具体的な取り組みをしない限り、この問題は解決しないと思います。

解決に向けて取り組んでいきたいと私も思っていますが、取り組むにあたり1番の問題は、個人情報取り扱いです。現在民生委員にオープンにされている情報は、高齢者の見守りリストだけです。障がい者、要介護者のリストなどは頂いていません。私たちは、手探りの状態で活動しています。これは非常に問題だと思えます。

すべてをオープンにする必要はないですが、やはりサポートすることのベースになるのは、隣近所の付き合いといった精神だと考えます。よって個人情報も少しはオープンにしていけないと問題解決は難しいと思っているため、ぜひ次の段階は、個人情報の取り扱いも含めて組織としての活動ができるようご検討をお願いします。

石井美喜男委員：

私たち民生委員が活動しやすい環境として、情報はある程度必要です。例えば見守りするとして、ご本人が不在の場合など情報が見えにくくなってしまいます。民生委員としては、その方がどういう病気で施設に入っているとか細かい情報は不要です。ただ必要なのは、どこにいらっしゃるのかです。それさえ分かれば良いです。

昭和地区では今月会議があり、地域包括支援センターの方、ケアマネジャーネットワークの会長さんをお呼びして「個人情報をどこまで扱うことができるか」について議論しました。取り扱いについて法律的にも改正されているようですが、よくよく読んでみると変わっていないと感じました。民生委員も含めいろいろな団体もなかなか活動しにくい状況です。

少し時間をかけて、ある程度情報を頂けるよう高齢者支援課の方とディスカッションしてみたいと考えています。そこで何かが見えてくれば、我々も後輩への足掛かりとなり、活動しやすい環境が少しずつできるのではと考えています。行政機関を通じて、情報共有の環境づくりをご検討いただきたいと考えています。

事務局（福祉部長）：

個人情報の取り扱いについては、我々も苦慮しています。

該当する方々の一覧表などについて、一つ一つ状況を整理したうえでないと進められないのが現状です。一方で、できるだけ民生委員の方々へ寄り添っていけるよう細かく確認しながら進めていきたいと考えています。

一覧表をすぐにお渡しすることは難しいですが、訪問に行ったが会えない等については、市でも状況を把握している場合がありますので、個別にご相談いただきたいと思います。

長期入院などについては、市が把握している可能性は低い場合もありますが、一方で施設に入って住所が変更されている方などについては把握することは可能です。

ケースバイケースの部分がありますが、個別の事案については、それぞれ担当課へお声がけいただければと思います。このような形で、少しずつでも活動頂いている団体さんへ対応できればと思っています。

石井美喜男委員：

これはハードルが高いのですが、少しずつ検討しながら、より動きやすい環境を作っていただければ、このアンケートの結果も段々変わってくるのではないかと思います。オープンにする部分はオープンにする方向でご検討をお願いします。

竹元委員：

先日夜の会合に出席しました。やはりそこでも民生委員、社協を知らない若い人が多かったです。一生懸命私たちがアピールしてみましたが、なかなか難しかったです。

私たちが直接出向いて、そして学校とタイアップする形などで、子どもたちが福祉について、民生委員について知るための勉強会をやっていくことが大切だと思いました。それにより、子どもたちが家に帰ってからおじいちゃんおばあちゃん、お父さんお母さんと会話をしながら知らせてくれる。そうすることが必要だと感じました。

広告やパンフレットをいくら渡しても見ないです。なかなか細かいところまで行き届かなかったりするので、勉強会を開催することも良いと思いました。

石井委員長：

教育の必要性だと思います。その他はいかがでしょうか。

ないようですので、議題2は終了いたします。

(3) 袖ヶ浦市地域福祉計画（第3期）の取組事業の目標値の見直しについて（報告）

資料2に基づき、事務局（市地域福祉課）から説明

【質疑】

後藤委員：

【17】自治会の加入促進への取組の見直しについて、違和感があったため発言します。

自治会の加入率に関して下がっているのは承知のうえですし、自治会の加入率が市にとって重要なことも認知しています。やはり自治会が共助のベースになり、マクロで見ると非常に重要であります。残念ながらそれを見直すのはいかがなものかと思えます。理由が非常に問題です。「転入世帯の自治会加入が進んでいないため見直します」というのは、理由になっていないと思えます。

施策を見ると「パンフレットを配ります」、「いろいろな施策をやってきました。だけど転入者が入ってくれない。だから数値が低いので数値を見直します。」これは、論理的になっていないと考えます。要するに目標値を見直すということは、つまり「施策がそれで良かったのか」といった問題です。この事業が、本当にまともなものだったのか見直すのであれば納得がいきますが、「施策が悪かったから数値が下がった。だから目標値を下げます。」といったことは、あまりにもやり過ぎではないですか。特に大事な数値は、この自治会の加入率を何とかキープして、逆に上げていかななくてははいけません。高齢者も減っていて離れていくといった意見もありますが、高齢者にとって自治会は非常に大事です。よって、加入率を維持してもらうための施策を立ていかななくてははいけないと思っています。これは見直していただきたいです。

事務局：

ご指摘はごもっともですが、事業の内容については、いろいろな係で進めていく部分もあり今回数値を下方修正しました。今回の資料では、次期の計画に盛り込む内容までは反映していなかったため説明ができていませんが、第2期実施計画の中では、自治会の立ち上げなどの取り組みも現在進めています。

施策については、今回の資料では反映させていませんが、結果、第2期実施計画においての目標値は下方修正の60.5%です。

後藤委員：

そんなこととしてまで「達成度」Aを取ろうとしていたら、福祉が失われてしまい本末転倒です。

第1期実施計画の施策が駄目であったのにその施策の取り組みを継続していたことも反省する点だと思えます。

これを良い機会に目標値の立て方、P D C Aの回し方を、しっかりとしないといけないと思います。

各自治会の長も含めて、みんなで共有して何とかして数値を上げる取り組みをしないと、市役所だけがチラシを配っても良くなりません。要するに市全体で取り組まないといけない事項であり、福祉部だけではなく全体で取り組んで活動を展開していくように、次の第3期では進めていって欲しいです。

事務局：

自治会の加入率を上げるために、市としてどう進めるかについては、随分前からの課題です。正直なところどうしていいのかが非常に苦慮しています。

ご指摘いただいたように市民協働推進課などの1課の問題として捉えるのではなく、他の部署部分も含めどう取り組んでいくかについて、頂いたご意見を参考にして進めていきたいと考えています。

資料にあるように、隣近所の付き合いが少なくなっているのが現状だと思います。個人のプライバシーが尊重される傾向にある一方で、隣近所との付き合いが求められているといった相反する状況の中で、市としてどう対応するべきかについての課題は、1課だけでの問題ではないですし、まさにこれは「協働」の取り組みだと思います。皆様のお力を借りながら数値向上に向けて取り組んでいくよう担当課にも働きかけますし、私たちも自分事として捉えて取り組んでいきたいと考えています。

ただ数値を60.5%にしたのは、A評価を取りたいといったことではなく、もう少し現実に即した形で見直したいといった担当課の意向もあるかと思しますので、そこについてはご理解いただけたらと思います。

石井委員長：

目標値を下方修正することの是非といったご意見でしたが、あくまでも現実に即した形での下方修正は変わらないといったことでしょうか。

事務局：

現実問題として、目標値66%は達成可能な数値かと問われると非常に厳しい目標値とされます。そういった部分から現実的なところで60.5%といった数字になったと考えています。そして、達成できない目標をいつまで掲げるのかといった意見もあります。

ここからは推測になりますが、達成できない目標を掲げるより、まずは達成できる目標を掲げて努力していきたいといった担当課の意思の表れだと考えています。よってこの下方修正に関しては、ご理解いただけたらと思います。

森岡委員：

自治会の問題は、私たち自治会員、地区の住民の問題でもあり、行政の問題でもあるため、事務局の説明を聞いて納得できる部分ではあります。

どちらの責任でも何でもないので、まずしっかり自分の足元からといった意味で、市の職員も全員が自治会に加入しているのか。確かに個人の自由なのできつく言えませんが、本当に自分が携わっている仕事で必要とされているのか。もう一度職員の方が、真摯に受け止めておられるのか。個別にはと言いませんが、皆さんにもう一度自治会について考えてくださいと周知していただきたいと思います。

私たちは微力ですが、自治会もそのような運動は行っています。多分ほかの地区もされていると思います。社協の活動においても、市の補助金についても、ことあるごとにお話しをさせていただいております。

みんなが意識を持って取り組むことにより、たとえそれが年間に1件でも2件でも増えていけば目標値がどうであれ、それはそれで進歩だと思います。よって、ここは協働で頑張っていければと思います。

石井委員長：

他にございますか。質疑が無いようですので、議題3は終了いたします。

(4) その他

- ・地区懇談会の実施について（報告）

資料3に基づき、事務局（社会福祉協議会）から説明

【質疑】

石井委員長：

地区懇談会についてご質問等ございますか。これは目を通していただくということでよろしいでしょうか。

事務局（社会福祉協議会）：

はい。

石井委員長 その他何かありますか。

事務局：

次回の会議についてご連絡いたします。令和7年度1回目の会議は、5月下旬を予定しています。日程はまだ決まっていないため、一か月前までには郵送にてご案内いたします。

石井委員長：

次回は5月下旬ということで、4月頃にご連絡頂けるということです。

ほかにごございますか。質疑が無いようですので、議題4を終了します。

すべての議事が終了しましたので、議長の任を解かせていただきます。ご協力ありがとうございました。

8 閉会

令和6年度第2回袖ヶ浦市地域福祉計画策定・推進委員会及び
令和6年度第2回袖ヶ浦市地域福祉活動計画策定推進委員会

日時：令和7年2月17日（月）午後2時～

会場：袖ヶ浦市役所北庁舎3階 中会議室

次 第

1. 開 会

2. 委員長あいさつ

3. 議 題

- (1) 地域福祉に関する住民意識調査（市民）について（報告）
- (2) 地域福祉に関する住民意識調査（事業所・福祉団体）について（報告）
- (3) 袖ヶ浦市地域福祉計画（第3期）の取組事業の目標値の見直しについて（報告）
- (4) その他
 - ・地区懇談会の実施について（報告）

4. 閉 会

袖ヶ浦市地域福祉計画策定・推進委員名簿

令和6年4月 時点

令和6年4月1日～令和9年3月31日

| No. | 氏名 | 要綱上の選出区分 | 性別 | 備考 |
|-----|--------|----------------|----|-----------------------------|
| 1 | 関口 三枝子 | 社会福祉団体の代表 | 女 | 障がい者団体 |
| 2 | 置田 和子 | 社会福祉団体の代表 | 女 | 高齢者団体 |
| 3 | 石井 啓 | 社会福祉団体の代表 | 男 | 社会福祉施設 |
| 4 | 小島 直子 | 社会福祉団体の代表 | 女 | 袖ヶ浦市社会福祉協議会 |
| 5 | 関 茂 | 地区社会福祉協議会の代表 | 男 | 昭和地区社会福祉協議会 |
| 6 | 森岡 かおり | 地区社会福祉協議会の代表 | 女 | 長浦地区社会福祉協議会 |
| 7 | 杉山 峰生 | 地区社会福祉協議会の代表 | 男 | 蔵波地区社会福祉協議会 |
| 8 | 苅谷 文介 | 地区社会福祉協議会の代表 | 男 | 根形地区社会福祉協議会 |
| 9 | 井口 清一郎 | 地区社会福祉協議会の代表 | 男 | 平岡地区社会福祉協議会 |
| 10 | 鶴岡 公一 | 地区社会福祉協議会の代表 | 男 | 中川・富岡地区社会福祉協議会 |
| 11 | 石井 美喜男 | 民生委員・児童委員の代表 | 男 | 昭和地区民生委員児童委員協議会 |
| 12 | 小林 芳昭 | 民生委員・児童委員の代表 | 男 | 長浦地区民生委員児童委員協議会 |
| 13 | 後藤 秀美 | 民生委員・児童委員の代表 | 男 | 蔵波地区民生委員児童委員協議会 |
| 14 | 竹元 悦子 | 民生委員・児童委員の代表 | 女 | 東部地区民生委員児童委員協議会 |
| 15 | 齋藤 真理子 | 民生委員・児童委員の代表 | 女 | 袖ヶ浦市民生委員児童委員協議会 (主任児童委員) |
| 16 | 土屋 則子 | ボランティアの代表 | 女 | 袖ヶ浦市ボランティア連絡協議会 |
| 17 | 若林 和秀 | 地域団体の代表 | 男 | 袖ヶ浦市自治連絡協議会 |
| 18 | 鈴木 滝民 | 地域団体の代表 | 男 | 地域総合型スポーツクラブ |
| 19 | 二宮 義文 | 地域団体の代表 | 男 | 青少年育成袖ヶ浦市民会議 |
| 20 | 大島 裕子 | 学識経験者（家庭教育） | 女 | |
| 21 | 磯野 恵美 | 学識経験者（子育て関係） | 女 | 袖ヶ浦市PTA連絡協議会 |
| 22 | 粕谷 秀夫 | 一般市民 | 男 | 公募 |
| 23 | 今岡 直人 | 教育機関職員（教育指導主事） | 男 | |
| 24 | 君塚 和枝 | 教育機関職員 | 女 | |

袖ヶ浦市
地域福祉に関する住民意識調査
結果報告書

令和7年1月

袖ヶ浦市

袖ヶ浦市社会福祉協議会

目次

| | |
|---|----|
| I アンケート調査の概要 | 1 |
| 1 調査の目的 | 1 |
| 2 調査概要 | 1 |
| 3 回収結果 | 1 |
| 4 報告書の見方 | 1 |
| II アンケート調査結果 | 2 |
| 1 回答者について | 2 |
| 問1 あなたの性別はどちらですか。 | 2 |
| 問2 あなたの職業は、次のうちどれですか。 | 2 |
| 問3 あなたは、どちらにお住まいですか。 | 3 |
| 問4 あなたの年齢はおいくつですか。令和6年10月1日現在の年齢をお答えください。 | 3 |
| 問5 あなたは、袖ヶ浦市に何年お住まいですか。 | 4 |
| 問6 あなたは、今後も袖ヶ浦市に住み続けたいと思いますか。 | 5 |
| 問7 あなたのお住まいは、次のうちどれですか。 | 6 |
| 問8 あなたの家族構成は、次のうちどれですか。 | 7 |
| 問9 あなたの主な交通手段は、次のうちどれですか。 | 8 |
| 問10 あなたは、日頃の生活の中で、経済的なゆとりがある方だと思いますか。 | 9 |
| 2 地域での暮らしについて | 10 |
| 問11 あなたが現在お住まいの地域の暮らしやすさはいかがですか。 | 10 |
| 問12 地域社会の中で安心して暮らしていくには、どのようなことが大切だと思いますか。 | 12 |
| 3 地域の助け合いやボランティア活動について | 14 |
| 問13 あなたは、隣近所の人とどのようにおつきあいされていますか。 | 14 |
| 問13-1 その主な理由を次の中からお答えください。 | 16 |
| 問14 あなたは、お住まいの地域のいろいろな行事や活動にどの程度参加されていますか。 | 17 |
| 問14-1 どのような行事や活動に参加されていますか。 | 19 |
| 問14-2 あなたがこういった活動に参加したきっかけをお答えください。 | 20 |
| 問14-3 あなたがこういった活動に参加している理由をお答えください。 | 21 |
| 問14-4 あなたが参加している活動に課題はありますか。 | 22 |
| 問14-5 参加されていない理由をお答えください。 | 23 |
| 問15 あなたが地域活動やボランティア活動に参加する上で必要な条件は、 どのようなことだと思いますか。 | 25 |
| 問16 ボランティア活動の対価としての謝礼について、あなたはどのようにお考えですか。 | 26 |
| 問17 地域活動やボランティア活動の中で、現在参加しているものはありますか。 また、今後参加してみたいものはありますか。 | 27 |
| 問18 あなたは、地域の人々がお互いに支え合っていくうえで大切なことは、 どのようなことだと思いますか。 | 28 |

| | | |
|------|---|----|
| 4 | 情報入手手段や相談について | 30 |
| 問 19 | あなたは、保健福祉サービスなどの情報をどのように入手しますか。 | 30 |
| 問 20 | あなたが困ったときに相談できる身近な相談相手はどなたですか。 | 32 |
| 問 21 | あなたは、保健福祉に関する情報発信や相談を行っている、 下記の機関をご存知ですか。 | 34 |
| 5 | 権利擁護について | 35 |
| 問 22 | あなたは、福祉サービス利用援助事業（日常生活自立支援事業・ 愛称「すまいる」）があることを知っていますか。 | 35 |
| 問 23 | あなたは、成年後見制度があることを知っていますか。 | 36 |
| 問 24 | あなたが成年後見制度について相談したい場合、どこに相談しますか。 | 37 |
| 6 | 防災対策について | 38 |
| 問 25 | あなたは、どのような防災対策を普段から行っていますか。 | 38 |
| 問 26 | あなたは災害が起こった場合に、住民がお互いにどのような支援をすることが 必要だと思いますか。 | 40 |
| 問 27 | 現在、災害のときに一人では避難できない方の避難を支援する人が不足しています。 地域における避難支援について、どのように思いますか。 | 41 |
| 7 | 再犯防止対策について | 42 |
| 問 28 | 犯罪や非行のない安全で安心な明るい地域社会を築くための全国的な運動である 「社会を明るくする運動」や「再犯防止啓発月間」を知っていますか。 | 42 |
| 問 29 | 犯罪や非行の防止、犯罪や非行をした人たちの立ち直りを応援し、 社会復帰を果たすために、市が行う支援として何が重要だと考えますか。 | 43 |
| 8 | 地域共生社会について | 44 |
| 問 30 | あなたは、これまでに、地域共生社会という言葉や意味を聞いたことがありますか。 | 44 |
| 問 31 | 地域共生社会の実現に向けて、市や社会福祉協議会が力を入れて 取り組むべきものはどのような活動だと思いますか。 | 45 |
| 問 32 | あなた自身が取り組めそうな活動はありますか。 | 47 |
| 問 33 | 地域福祉の推進のためには、自助、共助、公助の連携が重要だと考えられます。 あなたは地域福祉の推進のため、（１）自助、（２）共助、（３）公助において、 どのようなことが重要だと考えますか。 | 49 |
| 9 | 袖ヶ浦市の地域福祉の取組について | 55 |
| 問 34 | あなたは、これまでの袖ヶ浦市における福祉施策の取り組みについて、 総合的にみるとどの程度満足されていますか。 | 55 |
| 問 35 | 現行の「袖ヶ浦市地域福祉計画」における主要施策（以下のア～セ）に対する、 ①現状の満足度と②今後の地域福祉推進における重要度について、5段階の評価 をおうかがいします。 | 56 |

| | | |
|------|---|----|
| 10 | 地域福祉の推進について | 62 |
| 問 36 | 地域福祉の推進において、中心的役割を担っている社会福祉協議会の活動を 知っていますか。 | 62 |
| 問 37 | 社会福祉協議会の主な事業・活動には、以下のようなものがあります。 これらのうち、あなたが知っているものはありますか。 | 64 |
| 問 38 | 社会福祉協議会にどのようなことを期待しますか。 | 66 |
| 問 39 | 社会福祉協議会の活動の充実を図る上で、あなたが重要と思われることは どのようなことですか。 | 68 |
| 11 | 民生委員・児童委員について | 69 |
| 問 40 | あなたは民生委員・児童委員の活動を知っていますか。 | 69 |
| 問 41 | あなたの住んでいる地域の担当の民生委員・児童委員がだれか、知っていますか。 | 71 |
| 12 | 市へのご要望・ご意見 | 73 |
| 問 42 | 地域の支え合い、助け合い、地域福祉について、袖ヶ浦市へのご要望・ご意見等が ございましたら、自由にお書きください。 | 73 |
| Ⅲ | 調査結果からみえる課題 | 80 |
| 1 | 地域生活のインフラ整備（地域の暮らしについて） | 80 |
| 2 | 近所づきあいの促進 | 80 |
| 3 | 地域活動やボランティア活動の参加促進 | 81 |
| 4 | 情報提供・相談機能の充実 | 81 |
| 5 | 権利擁護の普及啓発 | 82 |
| 6 | 災害などに備えた、地域での支え合いの仕組みづくり | 82 |
| 7 | 再犯防止対策の推進 | 82 |
| 8 | 地域共生社会に向けた地域福祉活動の推進 | 83 |
| 9 | 社会福祉協議会の活動の充実 | 83 |
| 10 | 民生委員・児童委員の周知 | 84 |
| 11 | 地域福祉計画（第3期）の施策満足度・重要度 | 84 |

I アンケート調査の概要

1 調査の目的

本調査は、袖ヶ浦市の「地域福祉計画（第4期）」及び、袖ヶ浦市社会福祉協議会の「地域福祉活動計画（第5期）」の策定のための基礎資料とすることを目的として実施しました。

2 調査概要

- ◇調査対象者：令和6年8月時点で市内在住の満18歳以上の方
(住民基本台帳から無作為抽出)
- ◇調査期間：令和6年10月1日（火）～10月22日（火）
- ◇調査方法：郵送配布・郵送回収による本人記入方式

3 回収結果

- ◇配布数：1,000件
- ◇有効回収数：366件
- ◇有効回収率：36.6%

4 報告書の見方

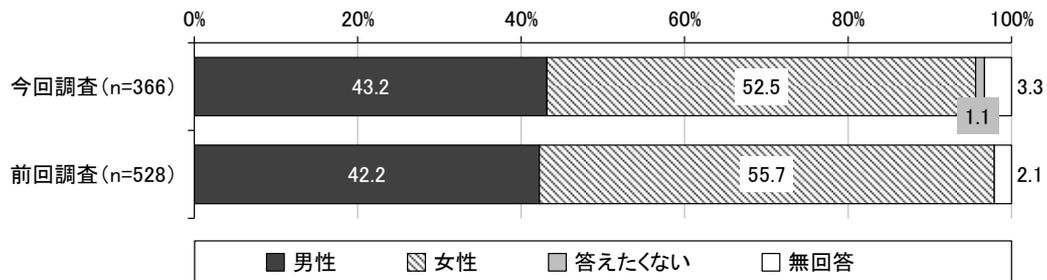
- ◇回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- ◇複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- ◇図表中において「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- ◇図表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- ◇本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。
- ◇集計対象者数（n値）が少ない（25件未満）クロス集計について、コメント対象外としています。また、クロス図表においては上位7項目までの掲載としているため、「無回答」を表示していない場合があります、回答者全体のn値と合わない場合があります。

Ⅱ アンケート調査結果

1 回答者について

問1 あなたの性別はどちらですか。(〇は1つだけ)

「女性」が52.5%、「男性」が43.2%、「答えたくない」が1.1%となっています。
 前回調査との比較では、特に大きな違いはみられません。

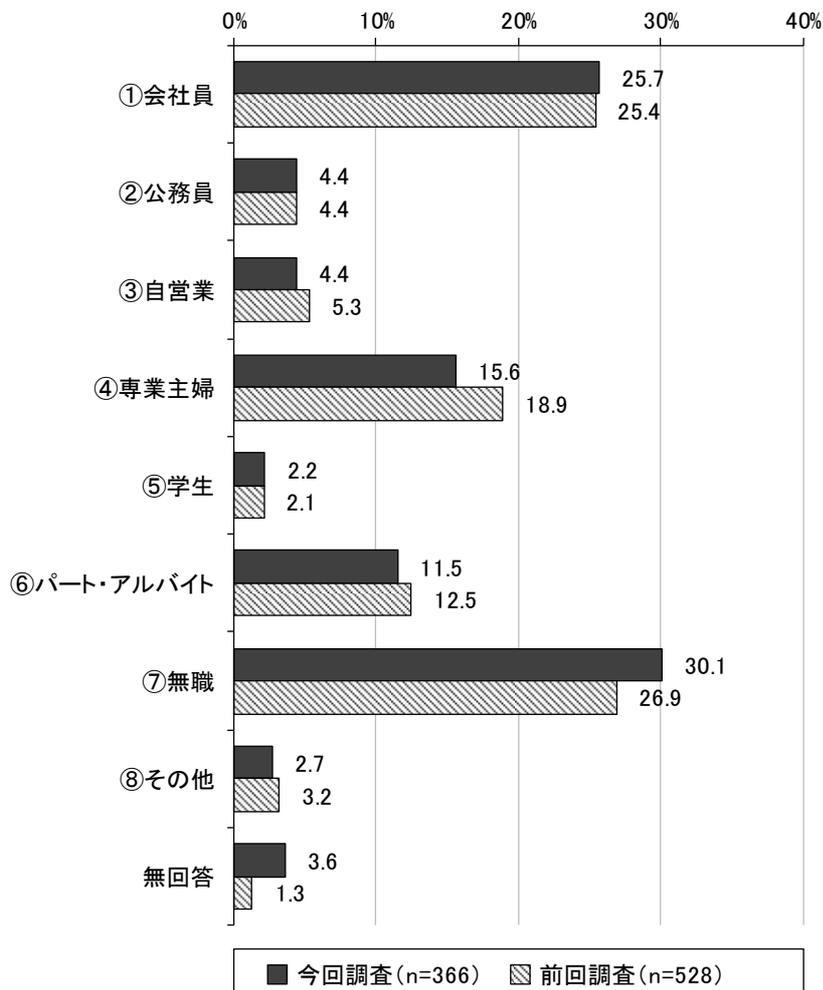


※「答えたくない」は今回調査のみ

問2 あなたの職業は、次のうちどれですか。(〇は1つだけ)

「⑦無職」が30.1%と最も高く、次いで「①会社員」が25.7%、「④専業主婦」が15.6%となっています。

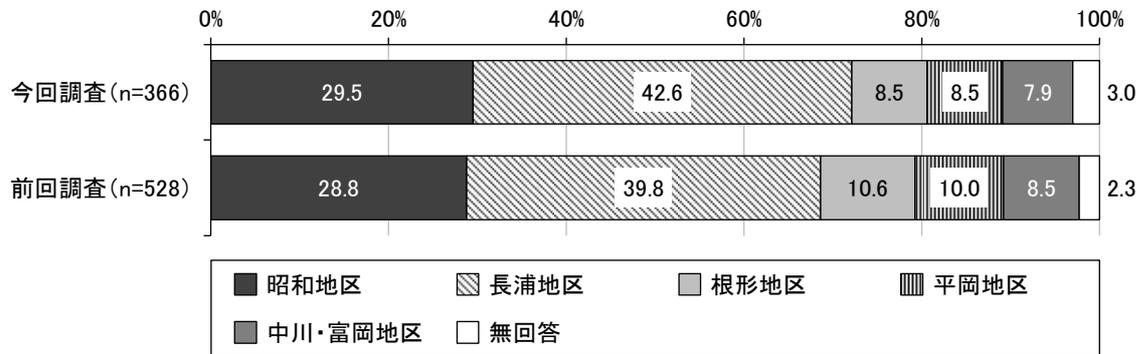
前回調査との比較では、特に大きな違いはみられません。



問3 あなたは、どちらにお住まいですか。(〇は1つだけ)

「長浦地区」が42.6%と最も高く、次いで「昭和地区」が29.5%、「根形地区」「平岡地区」が8.5%となっています。

前回調査との比較では、特に大きな違いはみられません。

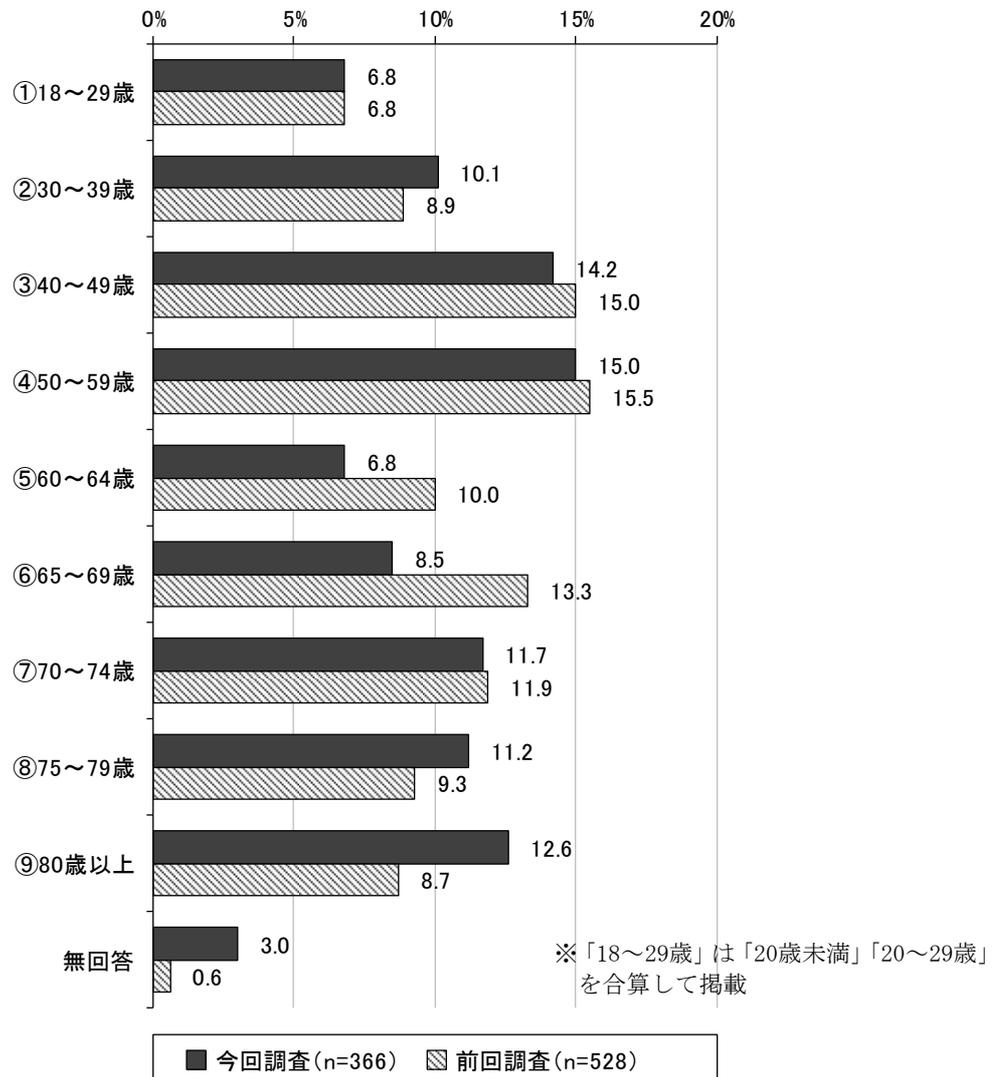


問4 あなたの年齢はおいくつですか。

令和6年10月1日現在の年齢をお答えください。(〇は1つだけ)

「④50～59歳」が15.0%と最も高く、次いで「③40～49歳」が14.2%、「⑨80歳以上」が12.6%となっています。

前回調査との比較では、特に大きな違いはみられません。



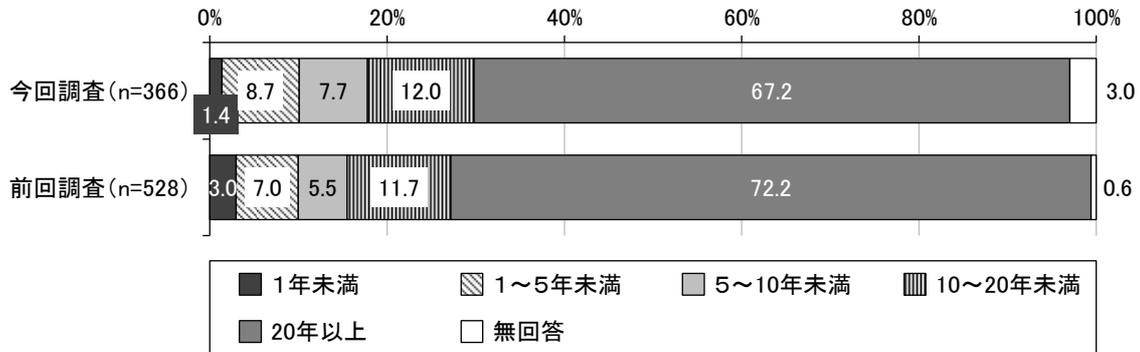
問5 あなたは、袖ヶ浦市に何年お住まいですか。(〇は1つだけ)

「20年以上」が67.2%と最も高く、次いで「10～20年未満」が12.0%、「1～5年未満」が8.7%となっています。

前回調査との比較では、「20年以上」が5.0ポイント減少しています。

居住地区別にみると、すべての区分で「20年以上」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての区分で「20年以上」が最も高くなっています。



| 単位: % | | 1年未満 | 1～5年未満 | 5～10年未満 | 10～20年未満 | 20年以上 | 無回答 |
|------------|----------------|------|--------|---------|----------|-------|-----|
| 全体 (n=366) | | 1.4 | 8.7 | 7.7 | 12.0 | 67.2 | 3.0 |
| 居住地区別 | 昭和地区 (n=108) | 1.9 | 13.9 | 11.1 | 14.8 | 58.3 | 0.0 |
| | 長浦地区 (n=156) | 0.6 | 10.3 | 7.7 | 13.5 | 67.9 | 0.0 |
| | 根形地区 (n=31) | 0.0 | 3.2 | 0.0 | 12.9 | 83.9 | 0.0 |
| | 平岡地区 (n=31) | 6.5 | 0.0 | 3.2 | 0.0 | 90.3 | 0.0 |
| | 中川・富岡地区 (n=29) | 0.0 | 0.0 | 10.3 | 10.3 | 79.3 | 0.0 |
| 年齢別 | 18～29歳 (n=25) | 8.0 | 24.0 | 4.0 | 24.0 | 40.0 | 0.0 |
| | 30～39歳 (n=37) | 5.4 | 21.6 | 21.6 | 13.5 | 37.8 | 0.0 |
| | 40～49歳 (n=52) | 0.0 | 17.3 | 23.1 | 23.1 | 36.5 | 0.0 |
| | 50～59歳 (n=55) | 0.0 | 7.3 | 5.5 | 23.6 | 63.6 | 0.0 |
| | 60～64歳 (n=25) | 0.0 | 8.0 | 0.0 | 4.0 | 88.0 | 0.0 |
| | 65～69歳 (n=31) | 0.0 | 0.0 | 6.5 | 3.2 | 90.3 | 0.0 |
| | 70～74歳 (n=43) | 0.0 | 4.7 | 0.0 | 7.0 | 88.4 | 0.0 |
| | 75～79歳 (n=41) | 0.0 | 0.0 | 4.9 | 2.4 | 92.7 | 0.0 |
| | 80歳以上 (n=46) | 2.2 | 2.2 | 0.0 | 4.3 | 91.3 | 0.0 |

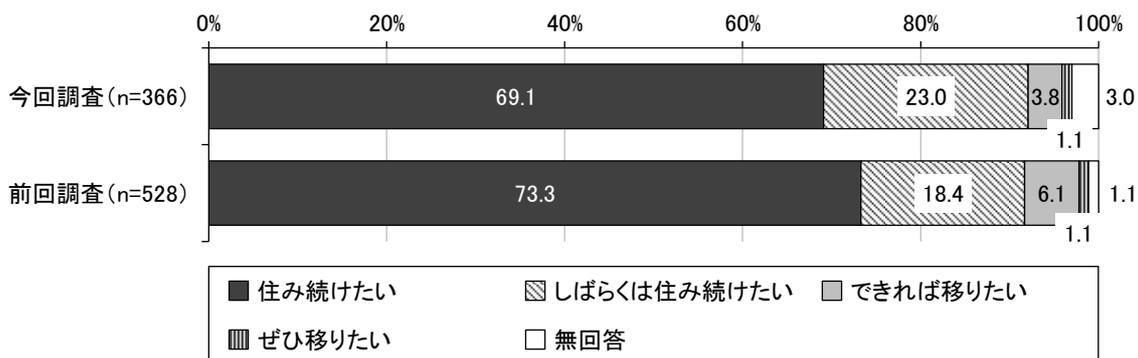
問6 あなたは、今後も袖ヶ浦市に住み続けたいと思いますか。(〇は1つだけ)

「住み続けたい」が69.1%と最も高く、次いで「しばらくは住み続けたい」が23.0%、「できれば移りたい」が3.8%となっています。

前回調査との比較では、特に大きな違いはみられません。

年齢別にみると、「18～29歳」では「しばらくは住み続けたい」、「30歳以上」では「住み続けたい」が最も高くなっています。

居住年数別にみると、「1～5年未満」では「住み続けたい」「しばらくは住み続けたい」が同率となっており、「5年以上」では「住み続けたい」が最も高くなっています。



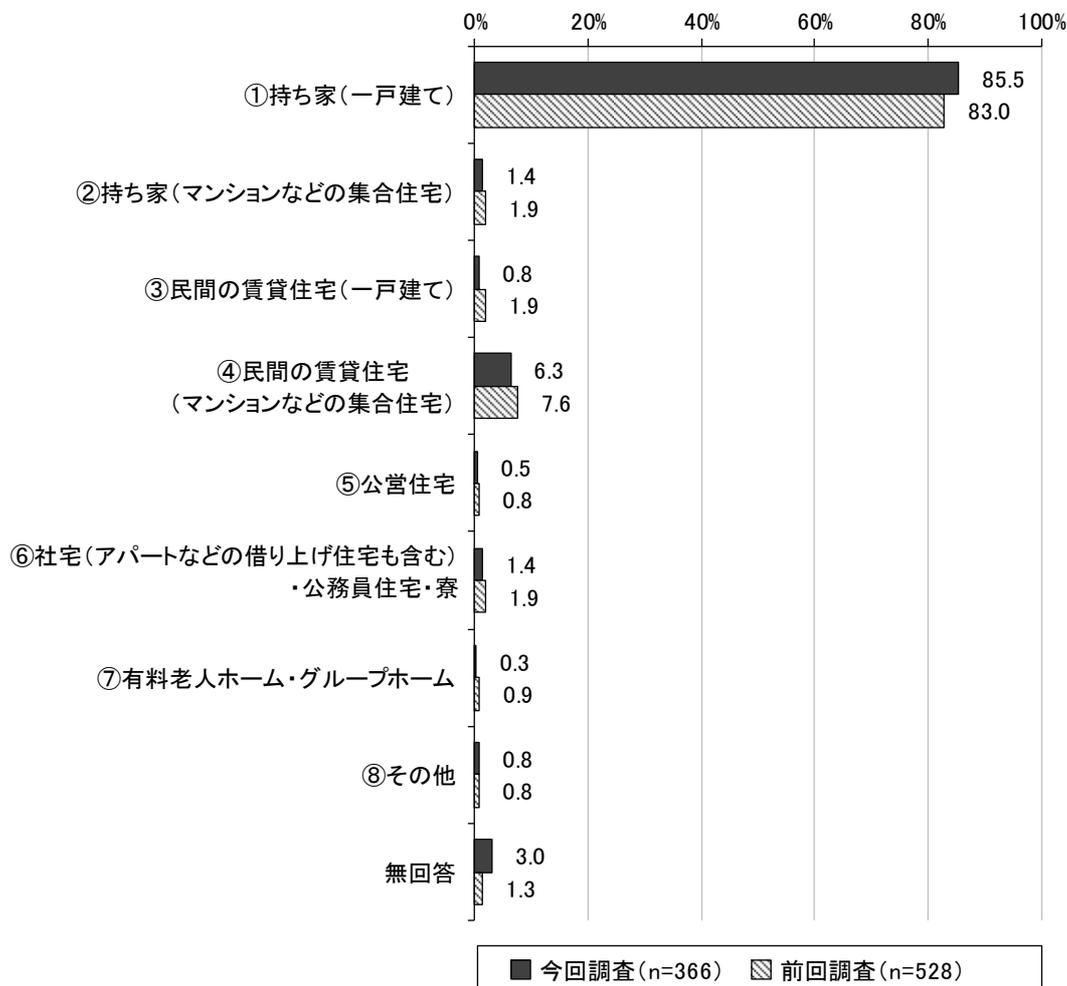
| 単位: % | | 住み続けたい | しばらくは住み続けたい | できれば移りたい | ぜひ移りたい | 無回答 |
|------------|-----------------|--------|-------------|----------|--------|-----|
| 全体 (n=366) | | 69.1 | 23.0 | 3.8 | 1.1 | 3.0 |
| 年齢別 | 18～29歳 (n=25) | 32.0 | 64.0 | 0.0 | 4.0 | 0.0 |
| | 30～39歳 (n=37) | 64.9 | 32.4 | 2.7 | 0.0 | 0.0 |
| | 40～49歳 (n=52) | 53.8 | 36.5 | 7.7 | 1.9 | 0.0 |
| | 50～59歳 (n=55) | 65.5 | 30.9 | 3.6 | 0.0 | 0.0 |
| | 60～64歳 (n=25) | 84.0 | 16.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 65～69歳 (n=31) | 77.4 | 16.1 | 3.2 | 3.2 | 0.0 |
| | 70～74歳 (n=43) | 86.0 | 7.0 | 4.7 | 2.3 | 0.0 |
| | 75～79歳 (n=41) | 82.9 | 9.8 | 7.3 | 0.0 | 0.0 |
| | 80歳以上 (n=46) | 89.1 | 8.7 | 2.2 | 0.0 | 0.0 |
| 居住年数別 | 1年未満 (n=5) | 60.0 | 40.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 1～5年未満 (n=32) | 50.0 | 50.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 5～10年未満 (n=28) | 71.4 | 28.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 10～20年未満 (n=44) | 54.5 | 36.4 | 4.5 | 4.5 | 0.0 |
| | 20年以上 (n=246) | 77.2 | 17.1 | 4.9 | 0.8 | 0.0 |

※n値が25人未満の区分は、人数が少ないので参考として図示し、コメント対象外としている。

問7 あなたのお住まいは、次のうちどれですか。(〇は1つだけ)

「①持ち家(一戸建て)」が85.5%と最も高く、次いで「④民間の賃貸住宅(マンションなどの集合住宅)」が6.3%、「②持ち家(マンションなどの集合住宅)」「⑥社宅(アパートなどの借り上げ住宅も含む)・公務員住宅・寮」が1.4%となっています。

前回調査との比較では、特に大きな違いはみられません。

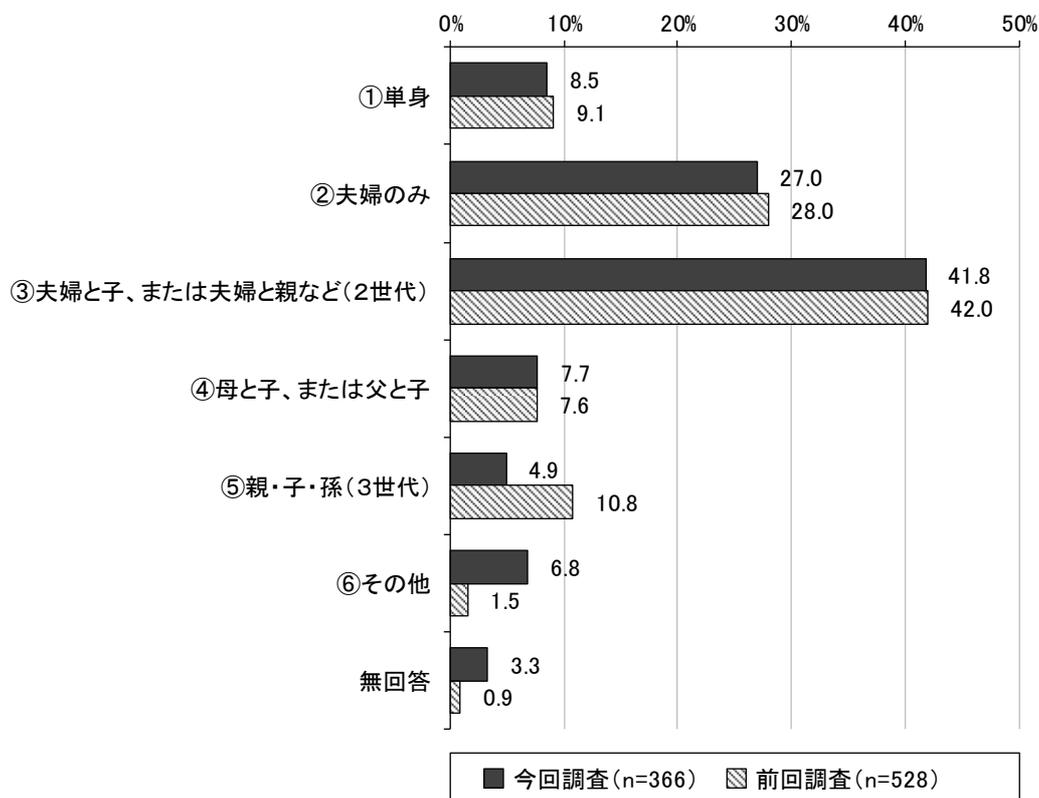


問8 あなたの家族構成は、次のうちどれですか。(〇は1つだけ)

「③夫婦と子、または夫婦と親など(2世代)」が41.8%と最も高く、次いで「②夫婦のみ」が27.0%、「①単身」が8.5%となっています。

前回調査との比較では、「⑤親・子・孫(3世代)」が5.9ポイント減少しています。

年齢別にみると、「18～69歳」では「③夫婦と子、または夫婦と親など(2世代)」、「70歳以上」では「②夫婦のみ」が最も高くなっています。



| 単位: % | | ①単身 | ②夫婦のみ | ③夫婦と子、または夫婦と親など(2世代) | ④母と子、または父と子 | ⑤親・子・孫(3世代) | ⑥その他 | 無回答 |
|-----------|--------------|------|-------|----------------------|-------------|-------------|------|-----|
| 全体(n=366) | | 8.5 | 27.0 | 41.8 | 7.7 | 4.9 | 6.8 | 3.3 |
| 年齢別 | 18～29歳(n=25) | 4.0 | 4.0 | 72.0 | 4.0 | 8.0 | 8.0 | 0.0 |
| | 30～39歳(n=37) | 2.7 | 5.4 | 70.3 | 2.7 | 0.0 | 18.9 | 0.0 |
| | 40～49歳(n=52) | 3.8 | 3.8 | 69.2 | 15.4 | 3.8 | 3.8 | 0.0 |
| | 50～59歳(n=55) | 7.3 | 30.9 | 43.6 | 7.3 | 5.5 | 5.5 | 0.0 |
| | 60～64歳(n=25) | 16.0 | 16.0 | 44.0 | 8.0 | 4.0 | 12.0 | 0.0 |
| | 65～69歳(n=31) | 6.5 | 32.3 | 38.7 | 6.5 | 9.7 | 6.5 | 0.0 |
| | 70～74歳(n=43) | 9.3 | 53.5 | 18.6 | 7.0 | 7.0 | 4.7 | 0.0 |
| | 75～79歳(n=41) | 9.8 | 51.2 | 24.4 | 4.9 | 2.4 | 4.9 | 2.4 |
| | 80歳以上(n=46) | 19.6 | 41.3 | 17.4 | 10.9 | 6.5 | 4.3 | 0.0 |

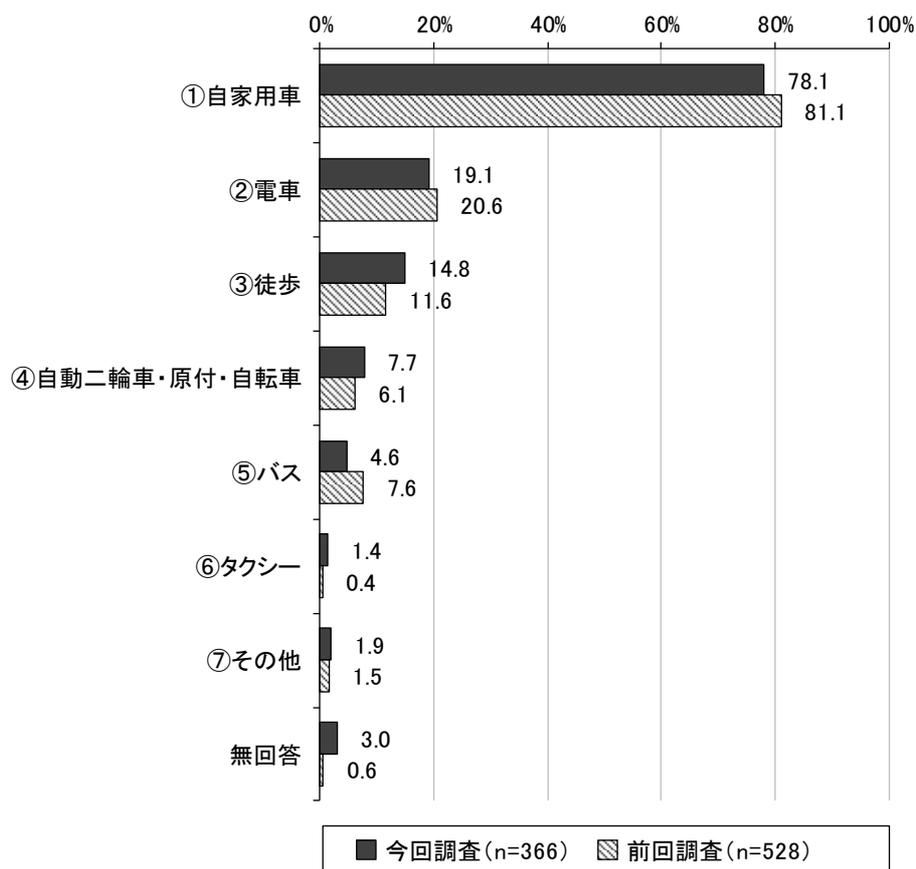
問9 あなたの主な交通手段は、次のうちどれですか。(〇は2つまで)

「①自家用車」が78.1%と最も高く、次いで「②電車」が19.1%、「③徒歩」が14.8%となっています。

前回調査との比較では、特に大きな違いはみられません。

居住地区別にみると、《根形地区》では「①自家用車」が特に高くなっています。

年齢別にみると、《18～29歳》では「①自家用車」「②電車」が最も高くなっています。その他の区分では「①自家用車」が最も高くなっていますが、《80歳以上》の割合は低くなっています。

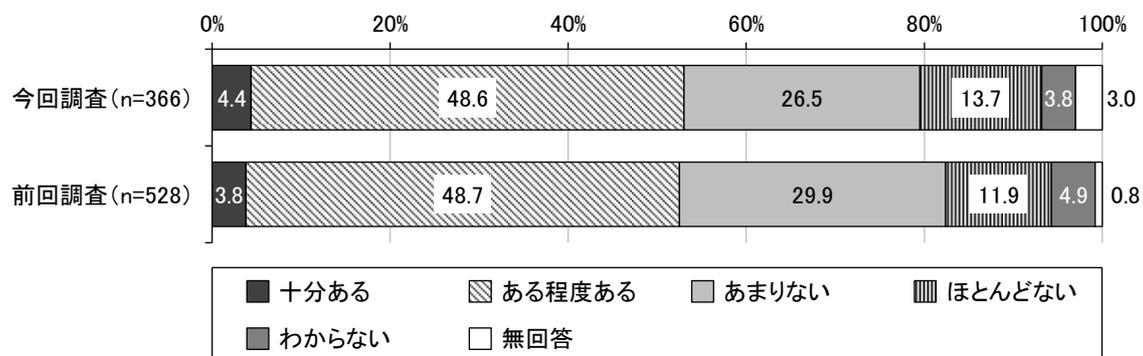


| 単位: % | | ①自家用車 | ②電車 | ③徒歩 | ④自動二輪車・原付・自転車 | ⑤バス | ⑥タクシー |
|-----------|---------------|-------|------|------|---------------|------|-------|
| 全体(n=366) | | 78.1 | 19.1 | 14.8 | 7.7 | 4.6 | 1.4 |
| 居住地区別 | 昭和地区(n=108) | 76.9 | 22.2 | 21.3 | 9.3 | 8.3 | 0.9 |
| | 長浦地区(n=156) | 79.5 | 23.7 | 17.3 | 8.3 | 1.9 | 1.9 |
| | 根形地区(n=31) | 93.5 | 16.1 | 3.2 | 0.0 | 12.9 | 0.0 |
| | 平岡地区(n=31) | 83.9 | 3.2 | 9.7 | 3.2 | 0.0 | 3.2 |
| | 中川・富岡地区(n=29) | 82.8 | 10.3 | 0.0 | 13.8 | 3.4 | 0.0 |
| 年齢別 | 18～29歳(n=25) | 56.0 | 56.0 | 12.0 | 12.0 | 20.0 | 0.0 |
| | 30～39歳(n=37) | 86.5 | 18.9 | 10.8 | 8.1 | 5.4 | 0.0 |
| | 40～49歳(n=52) | 88.5 | 17.3 | 9.6 | 11.5 | 0.0 | 0.0 |
| | 50～59歳(n=55) | 90.9 | 10.9 | 10.9 | 9.1 | 0.0 | 0.0 |
| | 60～64歳(n=25) | 88.0 | 12.0 | 12.0 | 0.0 | 4.0 | 0.0 |
| | 65～69歳(n=31) | 90.3 | 25.8 | 16.1 | 0.0 | 3.2 | 0.0 |
| | 70～74歳(n=43) | 81.4 | 23.3 | 14.0 | 4.7 | 4.7 | 0.0 |
| | 75～79歳(n=41) | 82.9 | 14.6 | 19.5 | 12.2 | 7.3 | 0.0 |
| | 80歳以上(n=46) | 54.3 | 15.2 | 30.4 | 8.7 | 6.5 | 10.9 |

問10 あなたは、日頃の生活の中で、経済的なゆとりがある方だと思いますか。(〇は1つだけ)

「ある程度ある」が48.6%と最も高く、次いで「あまりない」が26.5%、「ほとんどない」が13.7%となっています。

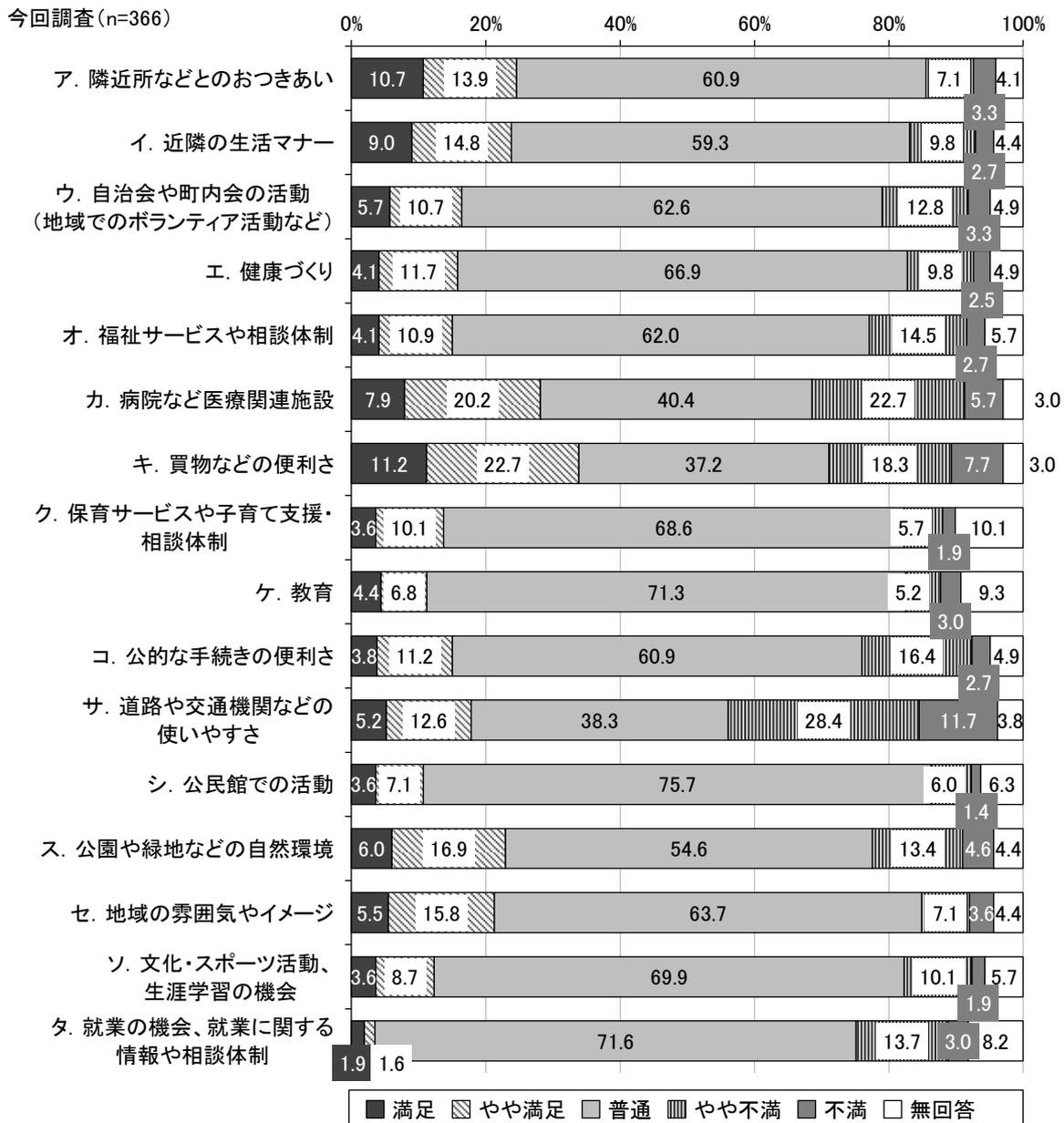
前回調査との比較では、特に大きな違いはみられません。



2 地域での暮らしについて

問11 あなたが現在お住まいの地域の暮らしやすさはいかがですか。(それぞれ〇は1つだけ)

概ねすべての項目で「普通」が最も高く、〔カ. 病院など医療関連施設〕〔キ. 買物などの便利さ〕〔サ. 道路や交通機関などの使いやすさ〕を除いた項目で5割以上となっています。また、『満足』（「満足」と「やや満足」の合計）では〔キ. 買物などの便利さ〕が33.9%と最も高く、次いで〔カ. 病院など医療関連施設〕が28.1%、〔ア. 隣近所などのおつきあい〕が24.6%となっています。一方、『不満』（「やや不満」と「不満」の合計）では〔サ. 道路や交通機関などの使いやすさ〕が40.1%と最も高く、次いで〔カ. 病院など医療関連施設〕が28.4%、〔キ. 買物などの便利さ〕が26.0%となっています。



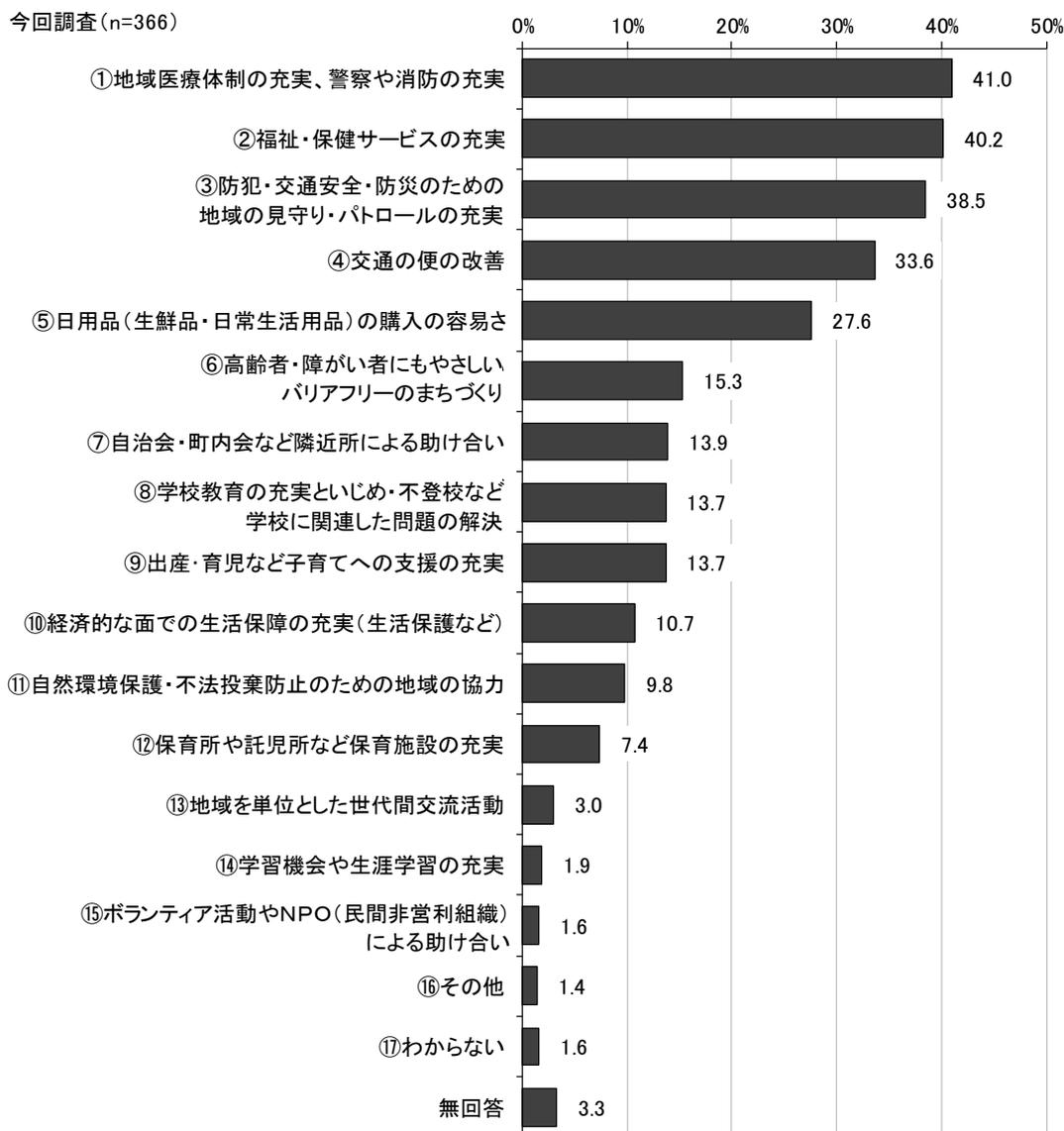
前回調査との比較では、『満足』において〔キ. 買物などの便利さ〕で7.1ポイント増加、〔ス. 公園や緑地などの自然環境〕で5.9ポイント、〔ソ. 文化・スポーツ活動、生涯学習の機会〕で5.2ポイント減少しています。一方、『不満』においては、〔キ. 買物などの便利さ〕で12.8ポイント、〔イ. 近隣の生活マナー〕で5.3ポイント減少しています。

| | 今回調査 | | 前回調査 | | 前回との差 | |
|-------------------------------|------------|------------|------------|------------|-------|-------|
| | 『満足』 合計 | 『不満』 合計 | 『満足』 合計 | 『不満』 合計 | 『満足』 | 『不満』 |
| ア. 隣近所などのおつきあい | 24.6 | 10.4 | 26.1 | 8.5 | -1.5 | 1.9 |
| イ. 近隣の生活マナー | 23.8 | 12.5 | 26.3 | 17.8 | -2.5 | -5.3 |
| ウ. 自治会や町内会の活動(地域でのボランティア活動など) | 16.4 | 16.1 | 15.5 | 11.7 | 0.9 | 4.4 |
| エ. 健康づくり | 15.8 | 12.3 | 15.5 | 10.0 | 0.3 | 2.3 |
| オ. 福祉サービスや相談体制 | 15.0 | 17.2 | 13.1 | 13.8 | 1.9 | 3.4 |
| カ. 病院など医療関連施設 | 28.1 | 28.4 | 26.7 | 26.5 | 1.4 | 1.9 |
| キ. 買物などの便利さ | 33.9 | 26.0 | 26.8 | 38.8 | 7.1 | -12.8 |
| ク. 保育サービスや子育て支援・相談体制 | 13.7 | 7.6 | 14.0 | 10.6 | -0.3 | -3.0 |
| ケ. 教育 | 11.2 | 8.2 | 14.4 | 10.0 | -3.2 | -1.8 |
| コ. 公的な手続きの便利さ | 15.0 | 19.1 | 18.2 | 18.6 | -3.2 | 0.5 |
| サ. 道路や交通機関などの使いやすさ | 17.8 | 40.1 | 17.8 | 36.7 | 0.0 | 3.4 |
| シ. 公民館での活動 | 10.7 | 7.4 | 14.2 | 7.4 | -3.5 | 0.0 |
| ス. 公園や緑地などの自然環境 | 22.9 | 18.0 | 28.8 | 17.2 | -5.9 | 0.8 |
| セ. 地域の雰囲気やイメージ | 21.3 | 10.7 | 23.5 | 12.3 | -2.2 | -1.6 |
| ソ. 文化・スポーツ活動、生涯学習の機会 | 12.3 | 12.0 | 17.5 | 10.1 | -5.2 | 1.9 |
| タ. 就業の機会、就業に関する情報や相談体制 | 3.5 | 16.7 | 3.9 | 17.0 | -0.4 | -0.3 |

問12 地域社会の中で安心して暮らしていくには、どのようなことが大切だと思いますか。

(〇は3つまで)

「①地域医療体制の充実、警察や消防の充実」が41.0%と最も高く、次いで「②福祉・保健サービスの充実」が40.2%、「③防犯・交通安全・防災のための地域の見守り・パトロールの充実」が38.5%となっています。



居住地区別にみると、《長浦地区》では「③防犯・交通安全・防災のための地域の見守り・パトロールの充実」、《平岡地区》では「④交通の便の改善」、その他の区分では「①地域医療体制の充実、警察や消防の充実」が最も高くなっています。

年齢別にみると、《18～29歳》では「④交通の便の改善」、《30～39歳》では「③防犯・交通安全・防災のための地域の見守り・パトロールの充実」、《40～59歳》《75～79歳》では「①地域医療体制の充実、警察や消防の充実」、《60～64歳》《70～74歳》《80歳以上》では「②福祉・保健サービスの充実」、《65～69歳》では「①地域医療体制の充実、警察や消防の充実」「②福祉・保健サービスの充実」「⑤日用品（生鮮品・日常生活用品）の購入の容易さ」が最も高くなっています。

| 単位：% | | ①地域医療体制の充実、警察や消防の充実 | ②福祉・保健サービスの充実 | ③防犯・交通安全・防災のための地域の見守り・パトロールの充実 | ④交通の便の改善 | ⑤日用品（生鮮品・日常生活用品）の購入の容易さ | ⑥高齢者・障がい者にもやさしいバリアフリーのまちづくり | ⑦自治会・町内会など隣近所による助け合い |
|------------|----------------|---------------------|---------------|--------------------------------|----------|-------------------------|-----------------------------|----------------------|
| 全体 (n=366) | | 41.0 | 40.2 | 38.5 | 33.6 | 27.6 | 15.3 | 13.9 |
| 居住地区別 | 昭和地区 (n=108) | 40.7 | 38.0 | 38.0 | 26.9 | 35.2 | 16.7 | 10.2 |
| | 長浦地区 (n=156) | 41.0 | 41.7 | 42.3 | 30.8 | 25.0 | 15.4 | 14.1 |
| | 根形地区 (n=31) | 45.2 | 41.9 | 25.8 | 41.9 | 32.3 | 12.9 | 6.5 |
| | 平岡地区 (n=31) | 32.3 | 41.9 | 38.7 | 48.4 | 29.0 | 9.7 | 22.6 |
| | 中川・富岡地区 (n=29) | 51.7 | 37.9 | 37.9 | 44.8 | 13.8 | 13.8 | 20.7 |
| 年齢別 | 18～29歳 (n=25) | 28.0 | 44.0 | 36.0 | 48.0 | 20.0 | 4.0 | 0.0 |
| | 30～39歳 (n=37) | 37.8 | 24.3 | 51.4 | 35.1 | 40.5 | 8.1 | 0.0 |
| | 40～49歳 (n=52) | 44.2 | 26.9 | 36.5 | 32.7 | 30.8 | 11.5 | 3.8 |
| | 50～59歳 (n=55) | 47.3 | 40.0 | 41.8 | 32.7 | 32.7 | 20.0 | 7.3 |
| | 60～64歳 (n=25) | 36.0 | 60.0 | 56.0 | 40.0 | 16.0 | 20.0 | 12.0 |
| | 65～69歳 (n=31) | 45.2 | 45.2 | 29.0 | 12.9 | 45.2 | 12.9 | 22.6 |
| | 70～74歳 (n=43) | 46.5 | 55.8 | 46.5 | 34.9 | 16.3 | 7.0 | 18.6 |
| | 75～79歳 (n=41) | 46.3 | 41.5 | 36.6 | 31.7 | 29.3 | 17.1 | 19.5 |
| | 80歳以上 (n=46) | 32.6 | 37.0 | 21.7 | 34.8 | 19.6 | 28.3 | 34.8 |

3 地域の助け合いやボランティア活動について

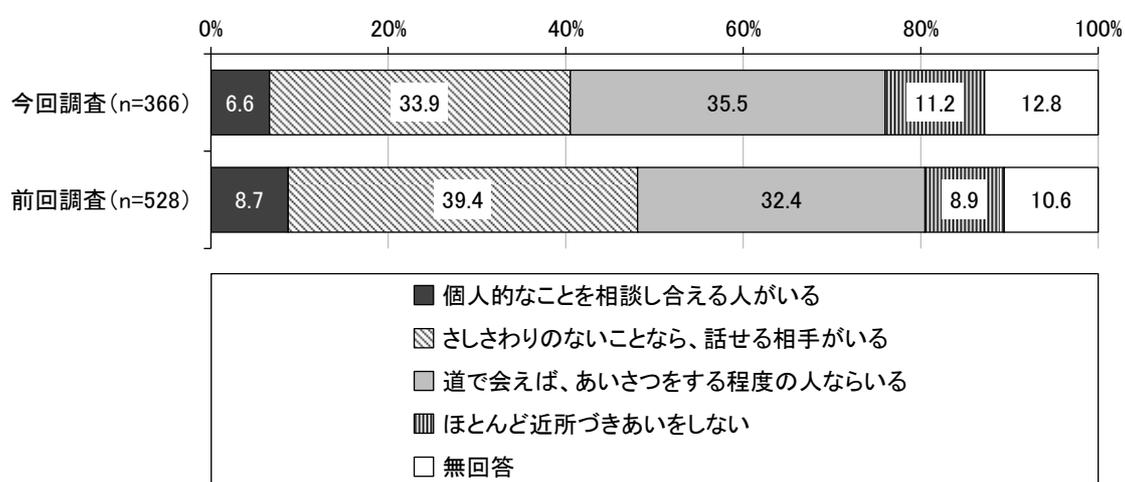
問13 あなたは、隣近所の人とどのようにおつきあいされていますか。(〇は1つだけ)

「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」が35.5%と最も高く、次いで「さしさわりのないことなら、話せる相手がいる」が33.9%、「ほとんど近所づきあいをしない」が11.2%となっています。

前回調査との比較では、「さしさわりのないことなら、話せる相手がいる」が5.5ポイント減少しています。

居住地区別にみると、《昭和地区》《平岡地区》では「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」、その他の区分では「さしさわりのないことなら、話せる相手がいる」が最も高くなっています。

年齢別にみると、《65～79歳》では「さしさわりのないことなら、話せる相手がいる」、その他の区分では「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」が最も高くなっています。



| 単位：% | | 個人的なことを相談し合える人がいる | さしさわりのないことなら、話せる相手がいる | 道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる | ほとんど近所づきあいをしない | 無回答 |
|------------|----------------|-------------------|-----------------------|-----------------------|----------------|------|
| 全体 (n=366) | | 6.6 | 33.9 | 35.5 | 11.2 | 12.8 |
| 居住地区別 | 昭和地区 (n=108) | 7.4 | 30.6 | 40.7 | 8.3 | 13.0 |
| | 長浦地区 (n=156) | 6.4 | 32.1 | 31.4 | 16.0 | 14.1 |
| | 根形地区 (n=31) | 3.2 | 41.9 | 35.5 | 9.7 | 9.7 |
| | 平岡地区 (n=31) | 6.5 | 35.5 | 45.2 | 3.2 | 9.7 |
| | 中川・富岡地区 (n=29) | 10.3 | 41.4 | 34.5 | 3.4 | 10.3 |
| 年齢別 | 18～29歳 (n=25) | 12.0 | 12.0 | 32.0 | 28.0 | 16.0 |
| | 30～39歳 (n=37) | 2.7 | 27.0 | 35.1 | 24.3 | 10.8 |
| | 40～49歳 (n=52) | 7.7 | 25.0 | 32.7 | 15.4 | 19.2 |
| | 50～59歳 (n=55) | 3.6 | 23.6 | 45.5 | 9.1 | 18.2 |
| | 60～64歳 (n=25) | 8.0 | 36.0 | 40.0 | 12.0 | 4.0 |
| | 65～69歳 (n=31) | 0.0 | 48.4 | 41.9 | 3.2 | 6.5 |
| | 70～74歳 (n=43) | 9.3 | 46.5 | 37.2 | 2.3 | 4.7 |
| | 75～79歳 (n=41) | 4.9 | 53.7 | 22.0 | 4.9 | 14.6 |
| | 80歳以上 (n=46) | 13.0 | 30.4 | 37.0 | 6.5 | 13.0 |

居住年数別にみると、《1～5年未満》《10～20年未満》では「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」、《5～10年未満》では「さしさわりのないことなら、話せる相手がいる」「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」、《20年以上》では「さしさわりのないことなら、話せる相手がいる」が最も高くなっています。

地域行事等への参加状況別にみると、《よく参加している》《時々参加している》では「さしさわりのないことなら、話せる相手がいる」、《あまり参加していない》《まったく参加していない》では「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」が最も高くなっています。

| 単位：% | | 個人的なことを相談し合える人がいる | さしさわりのないことなら、話せる相手がいる | 道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる | ほとんど近所づきあいをしない | 無回答 |
|------------|-------------------|-------------------|-----------------------|-----------------------|----------------|------|
| 全体 (n=366) | | 6.6 | 33.9 | 35.5 | 11.2 | 12.8 |
| 居住年数別 | 1年未満 (n=5) | 0.0 | 40.0 | 60.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 1～5年未満 (n=32) | 3.1 | 15.6 | 34.4 | 25.0 | 21.9 |
| | 5～10年未満 (n=28) | 7.1 | 32.1 | 32.1 | 21.4 | 7.1 |
| | 10～20年未満 (n=44) | 6.8 | 29.5 | 36.4 | 13.6 | 13.6 |
| | 20年以上 (n=246) | 7.3 | 36.6 | 36.2 | 7.7 | 12.2 |
| 地域の参加状況等別へ | よく参加している (n=45) | 17.8 | 55.6 | 15.6 | 0.0 | 11.1 |
| | 時々参加している (n=90) | 7.8 | 47.8 | 35.6 | 2.2 | 6.7 |
| | あまり参加していない (n=97) | 4.1 | 33.0 | 45.4 | 6.2 | 11.3 |
| | 全く参加していない (n=99) | 4.0 | 21.2 | 33.3 | 32.3 | 9.1 |

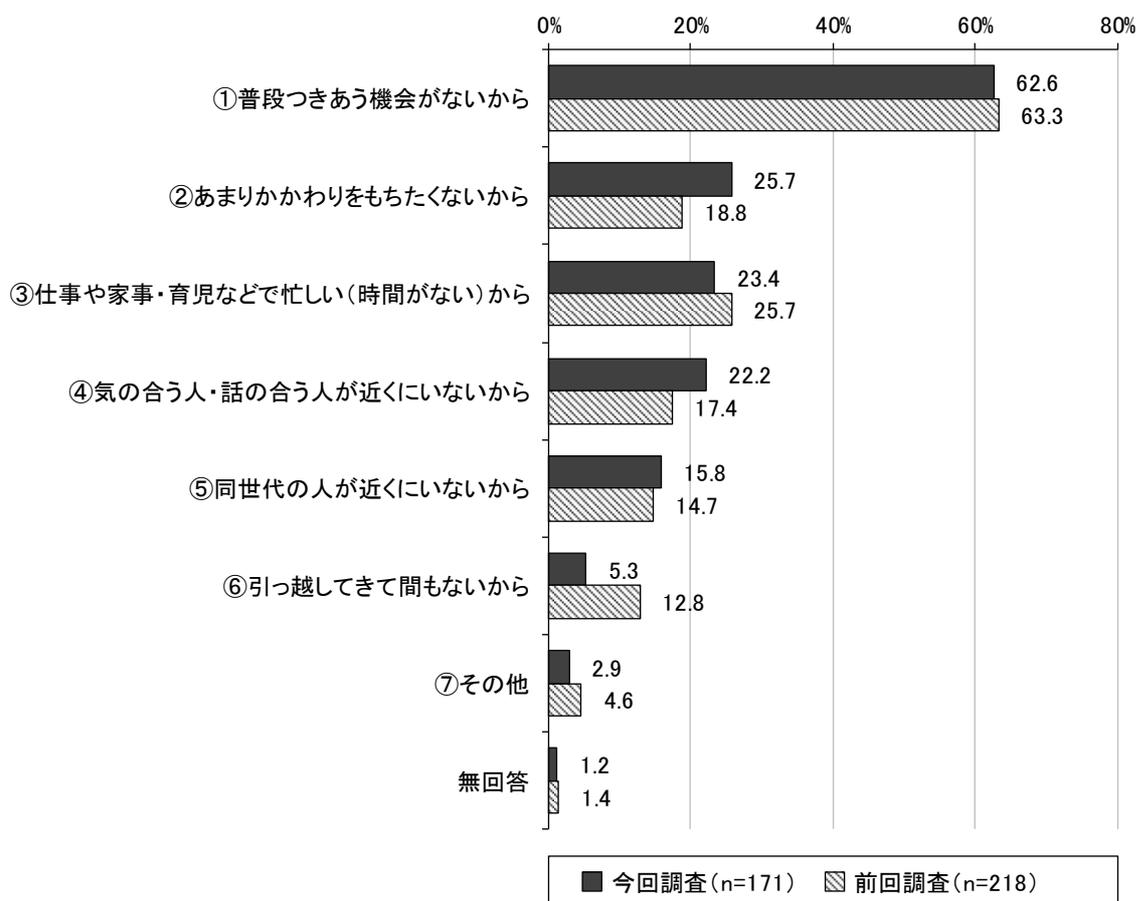
※n値が25人未満の区分は、人数が少ないので参考として図示し、コメント対象外としている。

問13で「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」または「ほとんど近所づきあいをしない」とお答えの方

問13-1 その主な理由を次の中からお答えください。(〇は2つまで)

「①普段つきあう機会がないから」が62.6%と最も高く、次いで「②あまりかかわりを持ちたくないから」が25.7%、「③仕事や家事・育児などで忙しい(時間がない)から」が23.4%となっています。

前回調査との比較では、「②あまりかかわりを持ちたくないから」が6.9ポイント増加し、「⑥引っ越してきて間もないから」が7.5ポイント減少しています。



問14 あなたは、お住まいの地域のいろいろな行事や活動にどの程度参加されていますか。

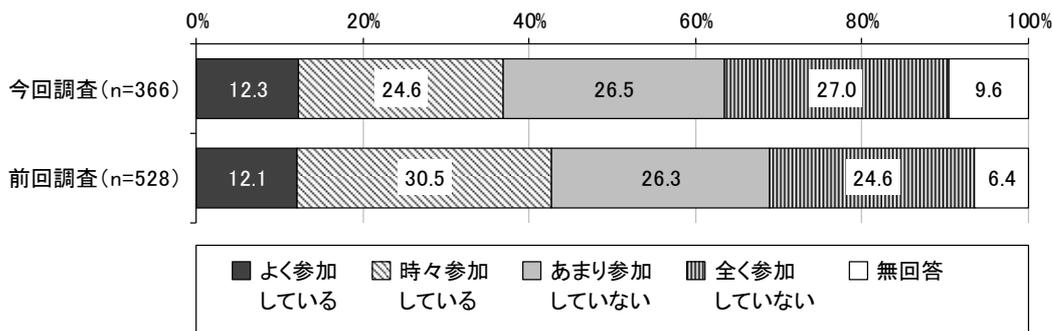
(○は1つだけ)

「全く参加していない」が27.0%と最も高く、次いで「あまり参加していない」が26.5%、「時々参加している」が24.6%となっています。

前回調査との比較では、「時々参加している」が5.9ポイント減少しています。

職業別にみると、《会社員》《無職》では「全く参加していない」、《専業主婦》《パート・アルバイト》では「時々参加している」が最も高くなっています。

居住地区別にみると、《平岡地区》では「よく参加している」が最も高くなっています。



| 単位: % | | よく参加している | 時々参加している | あまり参加していない | 全く参加していない | 無回答 |
|------------|------------------|----------|----------|------------|-----------|------|
| 全体 (n=366) | | 12.3 | 24.6 | 26.5 | 27.0 | 9.6 |
| 職業別 | 会社員 (n=94) | 12.8 | 14.9 | 29.8 | 34.0 | 8.5 |
| | 公務員 (n=16) | 6.3 | 37.5 | 25.0 | 31.3 | 0.0 |
| | 自営業 (n=16) | 25.0 | 37.5 | 31.3 | 6.3 | 0.0 |
| | 専業主婦 (n=57) | 8.8 | 33.3 | 26.3 | 22.8 | 8.8 |
| | 学生 (n=8) | 0.0 | 12.5 | 37.5 | 50.0 | 0.0 |
| | パート・アルバイト (n=42) | 7.1 | 35.7 | 28.6 | 21.4 | 7.1 |
| | 無職 (n=110) | 14.5 | 20.9 | 25.5 | 26.4 | 12.7 |
| | その他 (n=10) | 20.0 | 30.0 | 0.0 | 20.0 | 30.0 |
| 居住地区別 | 昭和地区 (n=108) | 8.3 | 24.1 | 33.3 | 26.9 | 7.4 |
| | 長浦地区 (n=156) | 9.0 | 25.0 | 23.1 | 31.4 | 11.5 |
| | 根形地区 (n=31) | 12.9 | 25.8 | 29.0 | 22.6 | 9.7 |
| | 平岡地区 (n=31) | 29.0 | 22.6 | 16.1 | 22.6 | 9.7 |
| | 中川・富岡地区 (n=29) | 27.6 | 27.6 | 31.0 | 10.3 | 3.4 |

※n値が25人未満の区分は、人数が少ないので参考として図示し、コメント対象外としている。

年齢別にみると、《50～59 歳》《65～69 歳》では「②時々参加している」、《60～64 歳》《70～74 歳》では「③あまり参加していない」、《75～79 歳》では「②時々参加している」「③あまり参加していない」、その他の区分では「④全く参加していない」が最も高くなっています。

居住年数別にみると、《1～10 年未満》では「④全く参加していない」、《10～20 年未満》では「③あまり参加していない」、《20 年以上》では「②時々参加している」が最も高くなっています。

家族構成別にみると、《单身》《母と子、または父と子》《その他》では「④全く参加していない」、《夫婦のみ》《夫婦と子、または夫婦と親など（2 世代）》では「③あまり参加していない」が最も高くなっています。

隣近所とのつきあい方別にみると、《さしさわりのないことなら、話せる相手がいる》では「②時々参加している」、《道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる》では「③あまり参加していない」、《ほとんど近所づきあいをしない》では「④全く参加していない」が最も高くなっています。

| 単位：% | | ①よく参加している | ②時々参加している | ③あまり参加していない | ④全く参加していない | 無回答 |
|-------------|--------------------|-----------|-----------|-------------|------------|------|
| 全体 (n=366) | | 12.3 | 24.6 | 26.5 | 27.0 | 9.6 |
| 年齢別 | 18～29 歳 (n=25) | 0.0 | 8.0 | 28.0 | 56.0 | 8.0 |
| | 30～39 歳 (n=37) | 5.4 | 18.9 | 27.0 | 40.5 | 8.1 |
| | 40～49 歳 (n=52) | 7.7 | 26.9 | 23.1 | 32.7 | 9.6 |
| | 50～59 歳 (n=55) | 9.1 | 30.9 | 27.3 | 18.2 | 14.5 |
| | 60～64 歳 (n=25) | 12.0 | 28.0 | 32.0 | 28.0 | 0.0 |
| | 65～69 歳 (n=31) | 12.9 | 35.5 | 25.8 | 9.7 | 16.1 |
| | 70～74 歳 (n=43) | 18.6 | 25.6 | 32.6 | 16.3 | 7.0 |
| | 75～79 歳 (n=41) | 22.0 | 26.8 | 26.8 | 17.1 | 7.3 |
| | 80 歳以上 (n=46) | 19.6 | 17.4 | 21.7 | 32.6 | 8.7 |
| 居住年数別 | 1 年未満 (n=5) | 0.0 | 0.0 | 40.0 | 60.0 | 0.0 |
| | 1～5 年未満 (n=32) | 0.0 | 9.4 | 28.1 | 53.1 | 9.4 |
| | 5～10 年未満 (n=28) | 7.1 | 28.6 | 25.0 | 32.1 | 7.1 |
| | 10～20 年未満 (n=44) | 4.5 | 22.7 | 36.4 | 27.3 | 9.1 |
| | 20 年以上 (n=246) | 16.3 | 27.2 | 24.8 | 22.0 | 9.8 |
| 隣近所とのつきあい方別 | 個人的なことを相談 (n=24) | 33.3 | 29.2 | 16.7 | 16.7 | 4.2 |
| | さしさわりのないこと (n=124) | 20.2 | 34.7 | 25.8 | 16.9 | 2.4 |
| | あいさつをする程度 (n=130) | 5.4 | 24.6 | 33.8 | 25.4 | 10.8 |
| | ほとんどしない (n=41) | 0.0 | 4.9 | 14.6 | 78.0 | 2.4 |

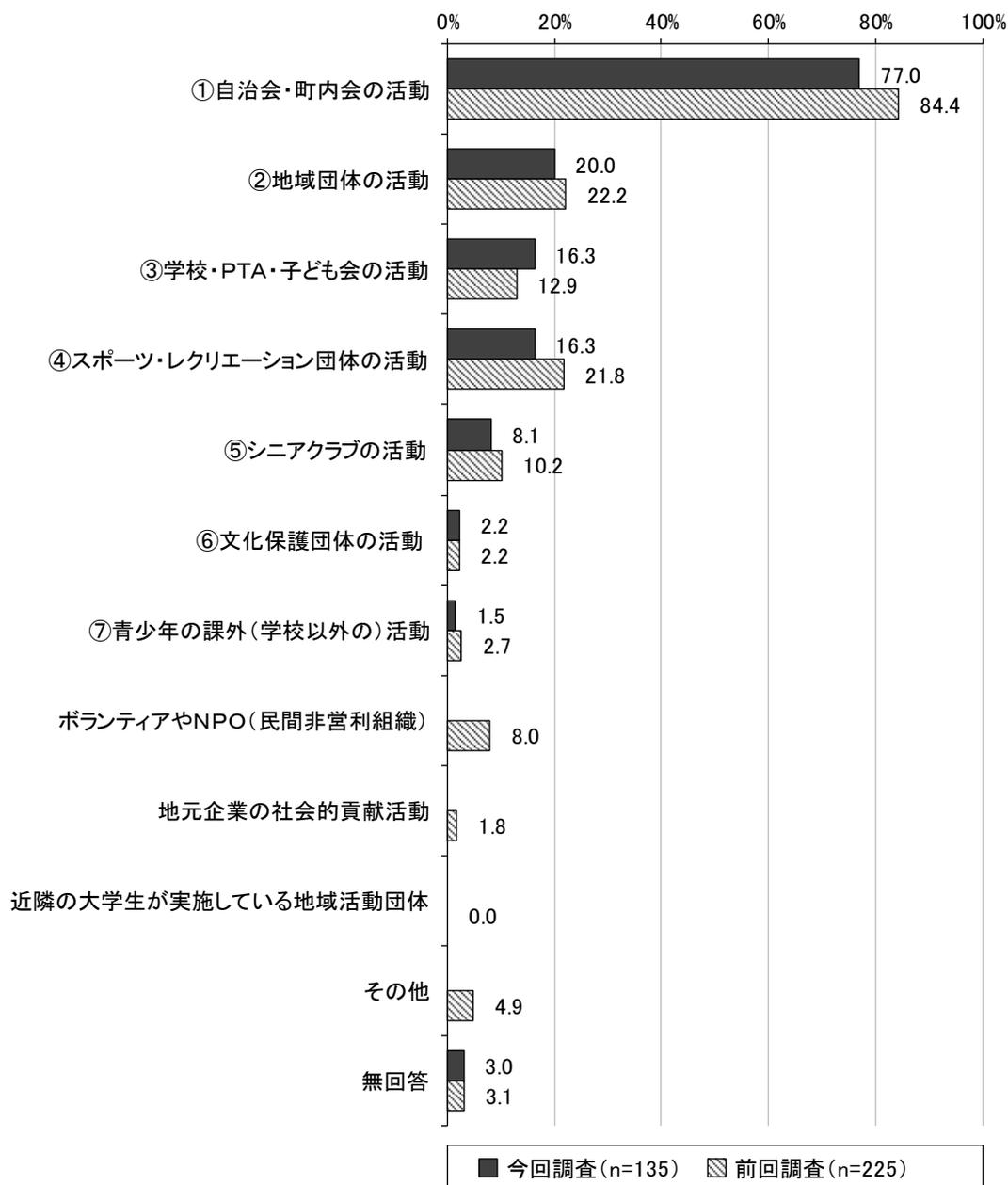
※ n 値が 25 人未満の区分は、人数が少ないので参考として図示し、コメント対象外としている。

問14で「よく参加している」または「時々参加している」とお答えの方

問14-1 どのような行事や活動に参加されていますか。(あてはまるものすべてに○)

「①自治会・町内会の活動」が77.0%と最も高く、次いで「②地域団体の活動」が20.0%、「③学校・PTA・子ども会の活動」「④スポーツ・レクリエーション団体の活動」が16.3%となっています。

前回調査との比較では、選択肢の数に違いがあるため単純に比較できませんが、同一項目でみると、「①自治会・町内会の活動」が7.4ポイント、「④スポーツ・レクリエーション団体の活動」が5.5ポイント減少しています。



※「ボランティアやNPO(民間非営利組織)」「地元企業の社会的貢献活動」「近隣の大学生が実施している地域活動団体」「その他」は前回調査のみ

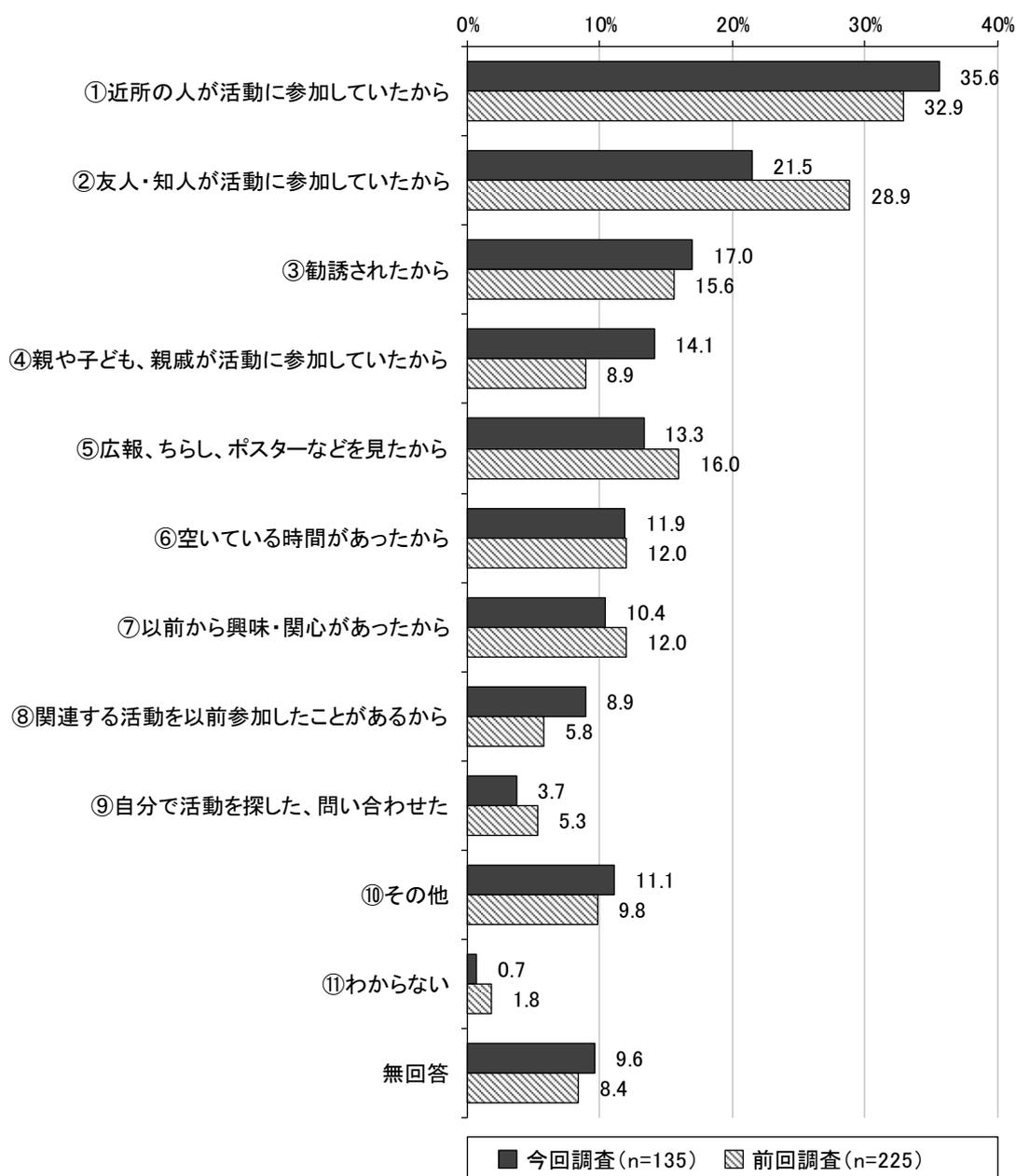
問 14 で「よく参加している」または「時々参加している」とお答えの方

問14-2 あなたがこういった活動に参加したきっかけをお答えください。

(あてはまるものすべてに○)

「①近所の方が活動に参加していたから」が 35.6%と最も高く、次いで「②友人・知人が活動に参加していたから」が 21.5%、「③勧誘されたから」が 17.0%となっています。

前回調査との比較では、「④親や子ども、親戚が活動に参加していたから」が 5.2 ポイント増加し、「②友人・知人が活動に参加していたから」が 7.4 ポイント減少しています。



※前回調査の選択肢：⑧は「関連する活動を以前経験したことがあるから」

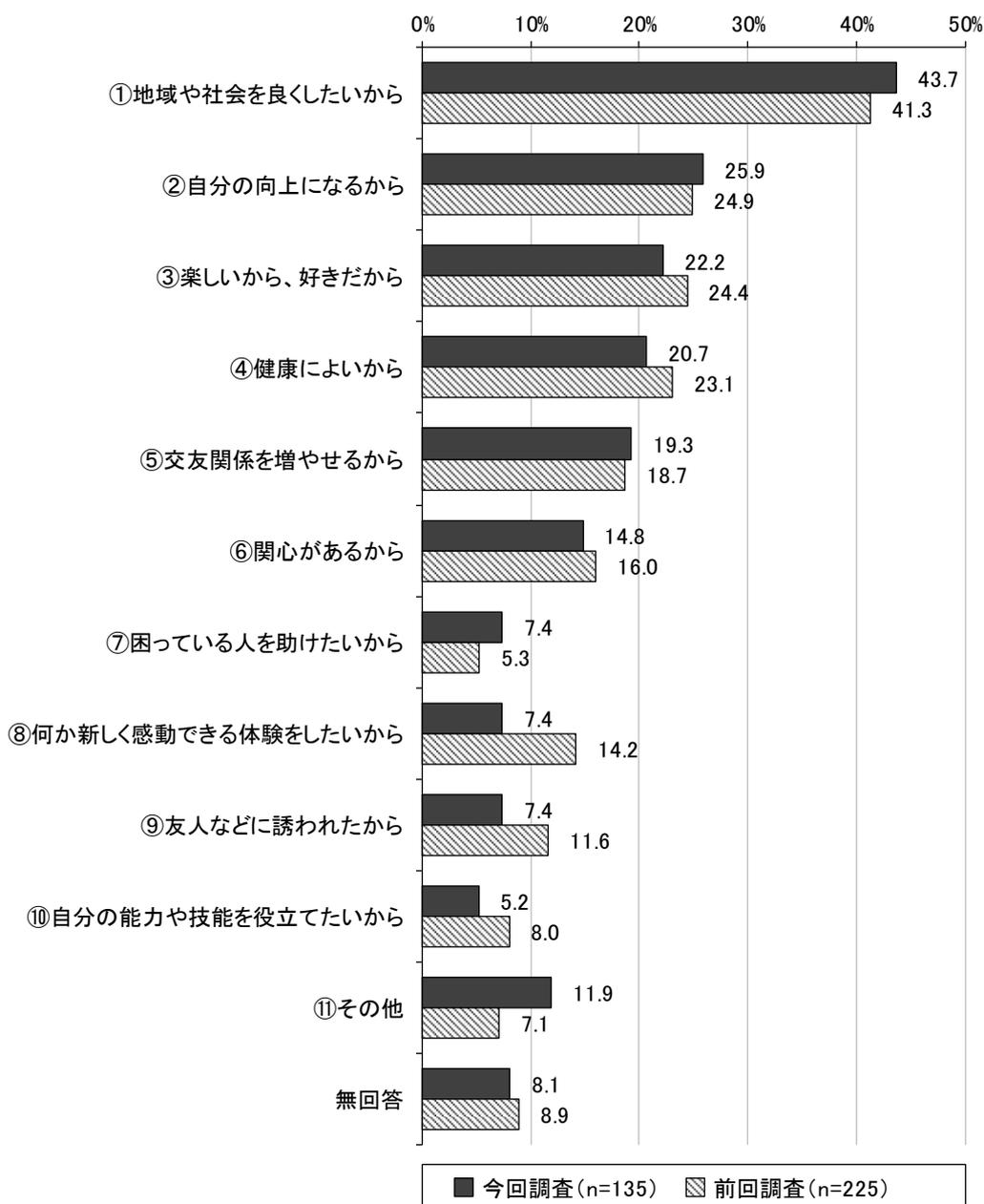
問14で「よく参加している」または「時々参加している」とお答えの方

問14-3 あなたがこういった活動に参加している理由をお答えください。

(あてはまるものすべてに○)

「①地域や社会を良くしたいから」が43.7%と最も高く、次いで「②自分の向上になるから」が25.9%、「③楽しいから、好きだから」が22.2%となっています。

前回調査との比較では、「⑧何か新しく感動できる体験をしたいから」が6.8ポイント減少しています。



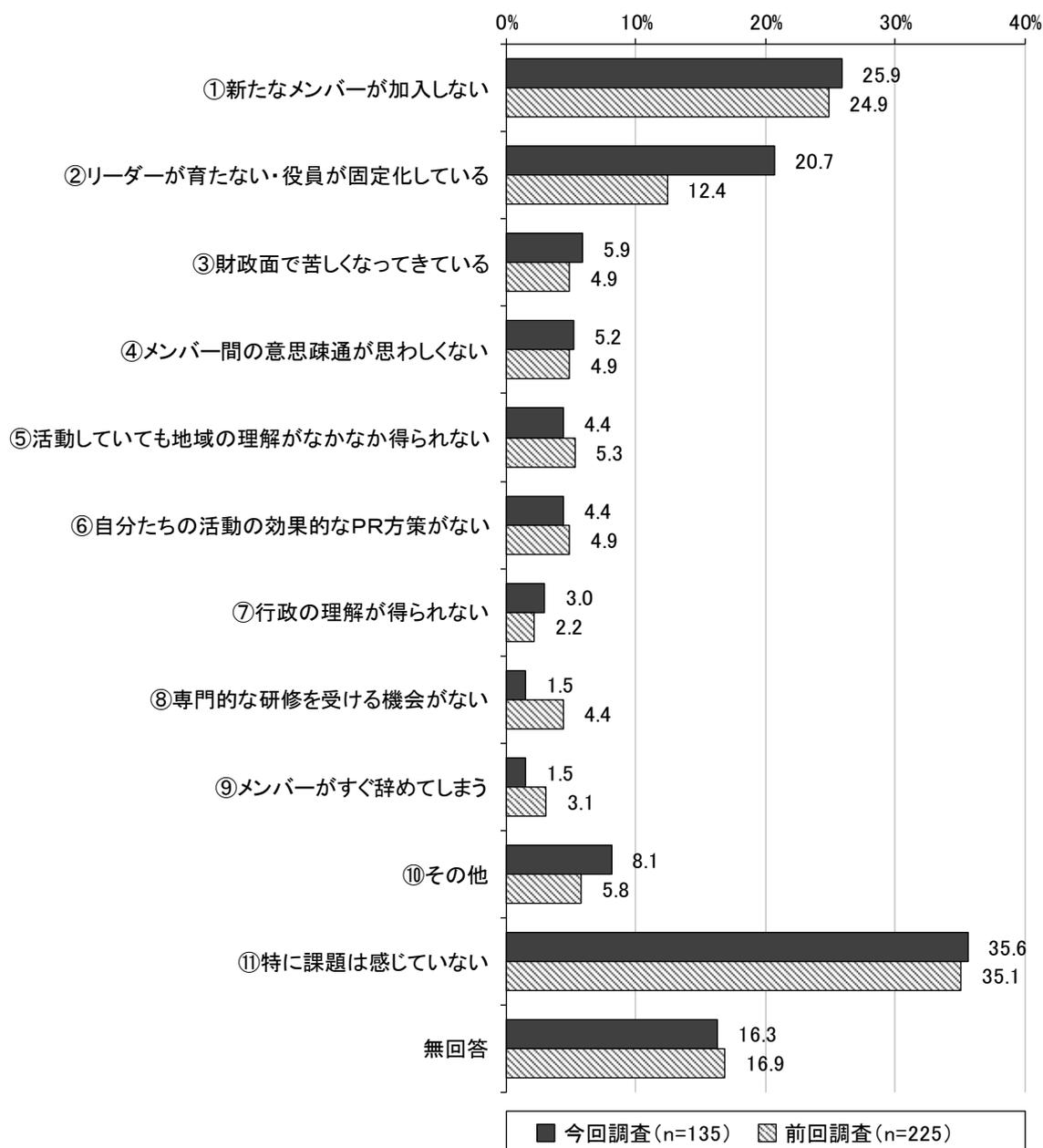
※前回調査の選択肢：⑨は「友人が得られるから」

問14で「よく参加している」または「時々参加している」とお答えの方

問14-4 あなたが参加している活動に課題はありますか。(あてはまるものすべてに○)

「⑪特に課題は感じていない」が35.6%と最も高く、次いで「①新たなメンバーが加入しない」が25.9%、「②リーダーが育たない・役員が固定化している」が20.7%となっています。

前回調査との比較では、「②リーダーが育たない・役員が固定化している」が8.3ポイント増加しています。

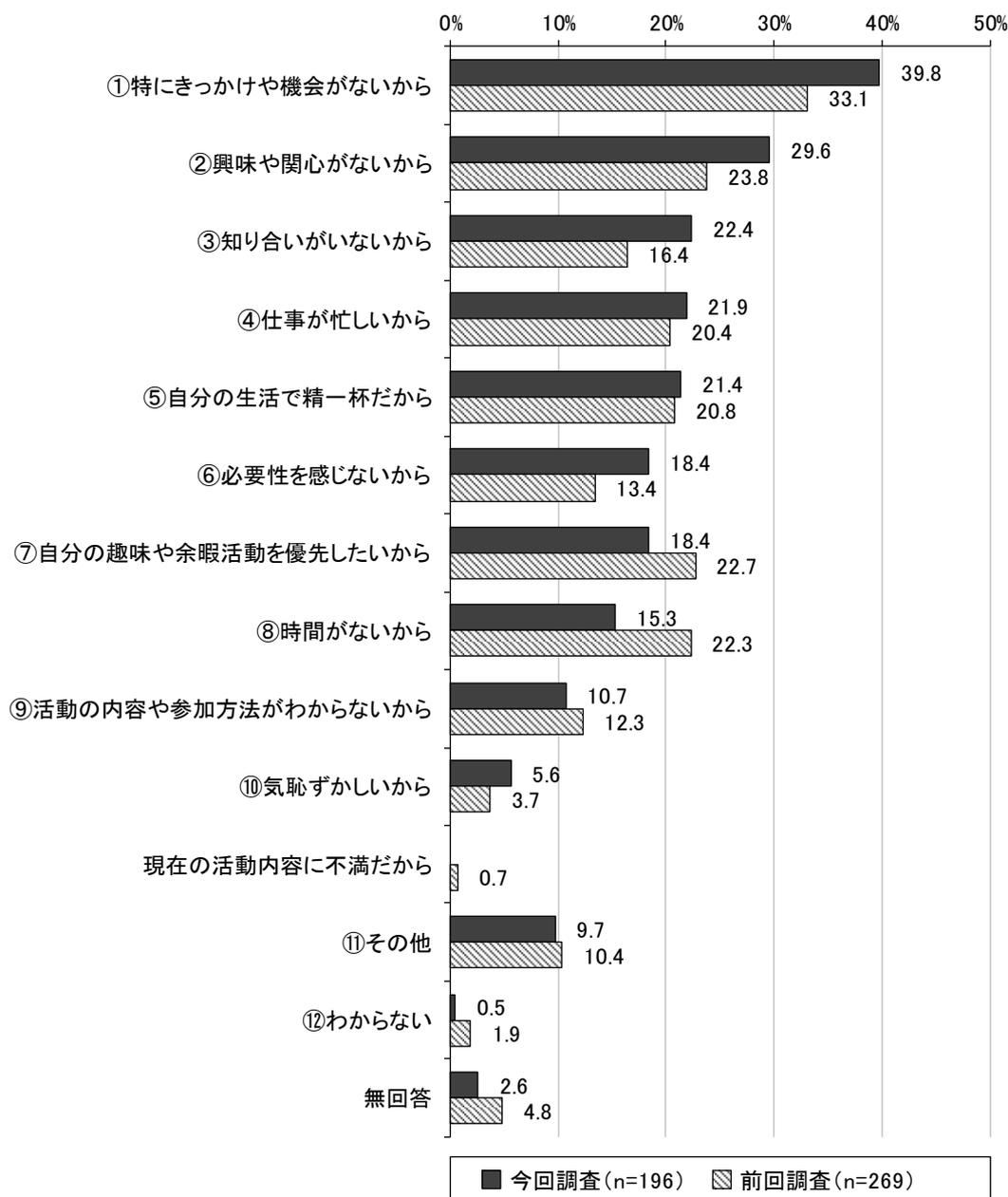


問14で「あまり参加していない」または「全く参加していない」とお答えの方

問14-5 参加されていない理由をお答えください。(〇は3つまで)

「①特にきっかけや機会がないから」が39.8%と最も高く、次いで「②興味や関心がないから」が29.6%、「③知り合いがいないから」が22.4%となっています。

前回調査との比較では、選択肢の数に違いがあるため単純に比較できませんが、同一項目でみると、「①特にきっかけや機会がないから」が6.7ポイント、「③知り合いがいないから」が6.0ポイント、「②興味や関心がないから」が5.8ポイント、「⑥必要性を感じないから」が5.0ポイント増加し、「⑧時間がないから」が7.0ポイント減少しています。



※「現在の活動内容に不満だから」は前回調査のみ

年齢別にみると、《30～39 歳》《50～59 歳》では「①特にきっかけや機会がないから」、《40～49 歳》《80 歳以上》では「②興味や関心がないから」が最も高くなっています。

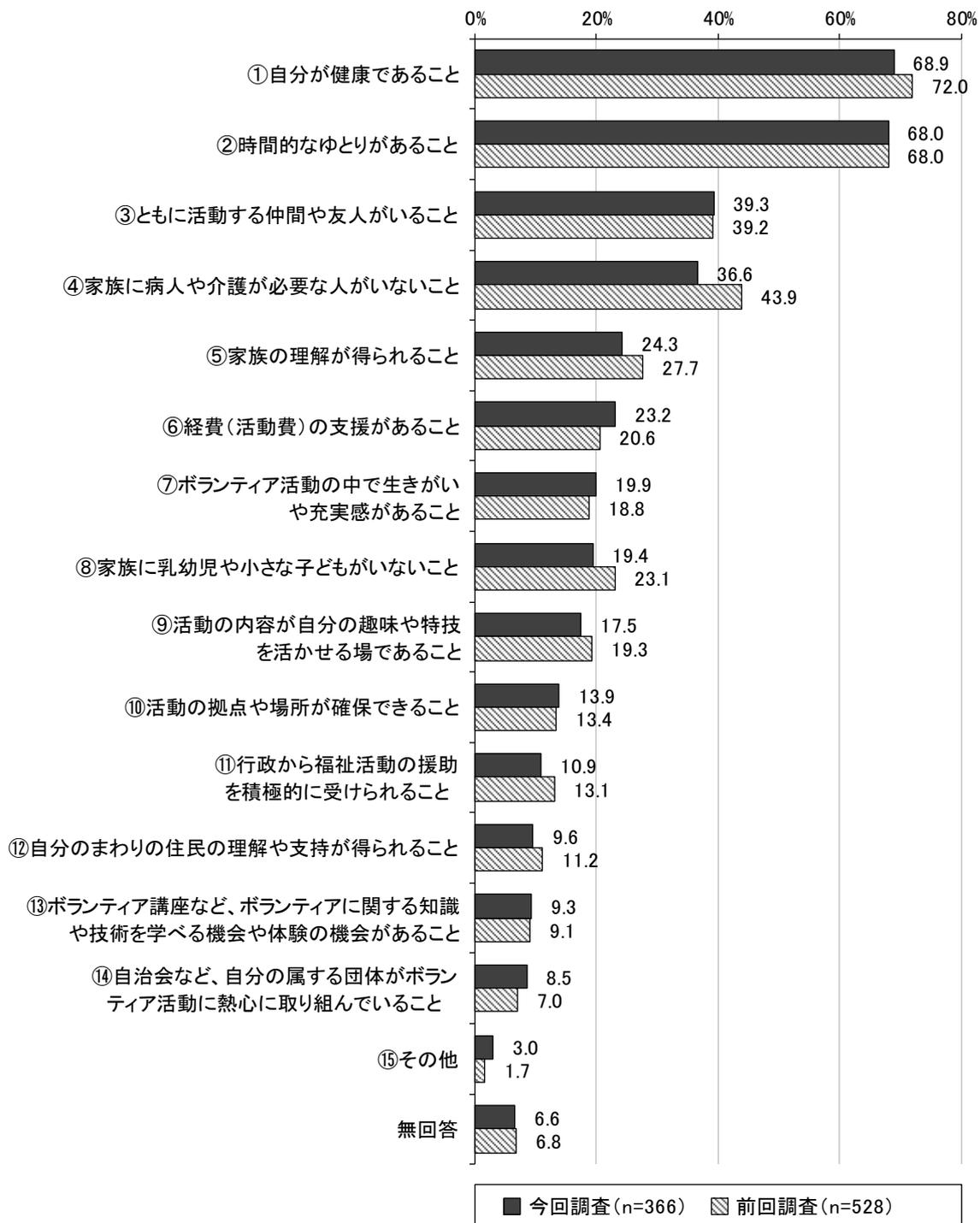
| 単位：% | | ①特にきっかけや機会がないから | ②興味や関心がないから | ③知り合いがないから | ④仕事が忙しいから | ⑤自分の生活で精一杯だから | ⑥必要性を感じないから | ⑦自分の趣味や余暇活動を優先したいから |
|------------|---------------|-----------------|-------------|------------|-----------|---------------|-------------|---------------------|
| 全体 (n=196) | | 39.8 | 29.6 | 22.4 | 21.9 | 21.4 | 18.4 | 18.4 |
| 年齢別 | 18～29歳 (n=21) | 42.9 | 19.0 | 28.6 | 23.8 | 14.3 | 0.0 | 33.3 |
| | 30～39歳 (n=25) | 60.0 | 40.0 | 12.0 | 36.0 | 12.0 | 20.0 | 32.0 |
| | 40～49歳 (n=29) | 34.5 | 37.9 | 20.7 | 31.0 | 17.2 | 6.9 | 17.2 |
| | 50～59歳 (n=25) | 44.0 | 16.0 | 40.0 | 40.0 | 24.0 | 28.0 | 4.0 |
| | 60～64歳 (n=15) | 33.3 | 33.3 | 13.3 | 26.7 | 26.7 | 26.7 | 13.3 |
| | 65～69歳 (n=11) | 72.7 | 36.4 | 0.0 | 9.1 | 27.3 | 18.2 | 27.3 |
| | 70～74歳 (n=21) | 33.3 | 47.6 | 23.8 | 4.8 | 23.8 | 33.3 | 23.8 |
| | 75～79歳 (n=18) | 33.3 | 11.1 | 38.9 | 11.1 | 16.7 | 33.3 | 22.2 |
| | 80歳以上 (n=25) | 24.0 | 32.0 | 16.0 | 0.0 | 20.0 | 12.0 | 4.0 |

※n 値が 25 人未満の区分は、人数が少ないので参考として図示し、コメント対象外としている。

問15 あなたが地域活動やボランティア活動に参加する上で必要な条件は、どのようなことだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

「①自分が健康であること」が 68.9%と最も高く、次いで「②時間的なゆとりがあること」が 68.0%、「③ともに活動する仲間や友人がいること」が 39.3%となっています。

前回調査との比較では、「④家族に病人や介護が必要な人がいないこと」が 7.3 ポイント減少しています。



※前回調査の選択肢：⑧は「乳幼児や小さな子どもがいないこと」
 ⑪は「行政が福祉活動を積極的に援助すること」
 ⑬は「ボランティアに関する知識や技術を学べる機会や体験の機会があること」

年齢別にみると、《18～59歳》では「②時間的なゆとりがあること」、《60歳以上》では「①自分が健康であること」が最も高くなっています。

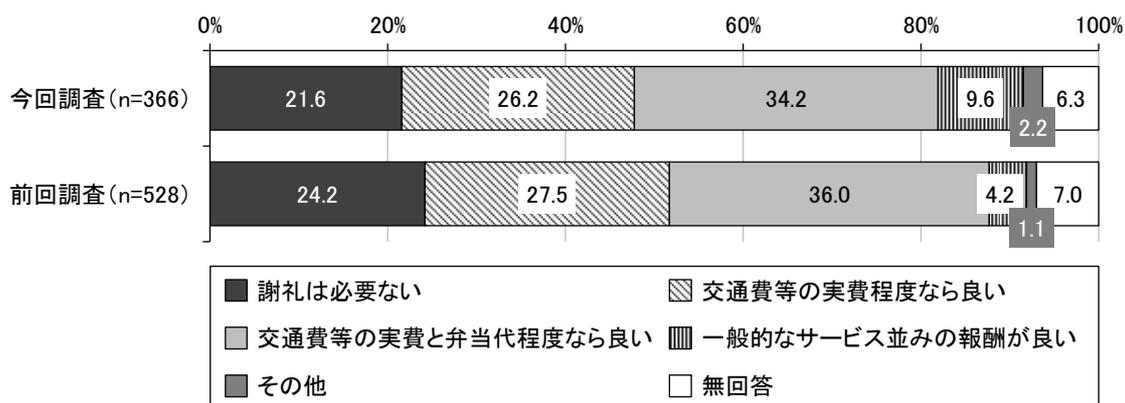
| 単位：% | | ①自分が健康であること | ②時間的なゆとりがあること | ③ともに活動する仲間や友人がいること | ④家族に病人や介護が必要な人がいないこと | ⑤家族の理解が得られること | ⑥経費(活動費)の支援があること | ⑦ボランティア活動の中で生きがいや充実感があること |
|-----------|--------------|-------------|---------------|--------------------|----------------------|---------------|------------------|---------------------------|
| 全体(n=366) | | 68.9 | 68.0 | 39.3 | 36.6 | 24.3 | 23.2 | 19.9 |
| 年齢別 | 18～29歳(n=25) | 36.0 | 88.0 | 64.0 | 16.0 | 12.0 | 28.0 | 36.0 |
| | 30～39歳(n=37) | 43.2 | 86.5 | 32.4 | 40.5 | 29.7 | 29.7 | 18.9 |
| | 40～49歳(n=52) | 57.7 | 80.8 | 36.5 | 40.4 | 28.8 | 32.7 | 17.3 |
| | 50～59歳(n=55) | 67.3 | 76.4 | 45.5 | 38.2 | 23.6 | 21.8 | 27.3 |
| | 60～64歳(n=25) | 100.0 | 88.0 | 44.0 | 48.0 | 28.0 | 48.0 | 28.0 |
| | 65～69歳(n=31) | 77.4 | 64.5 | 41.9 | 35.5 | 29.0 | 19.4 | 32.3 |
| | 70～74歳(n=43) | 86.0 | 62.8 | 39.5 | 41.9 | 27.9 | 16.3 | 18.6 |
| | 75～79歳(n=41) | 85.4 | 41.5 | 36.6 | 26.8 | 24.4 | 12.2 | 7.3 |
| | 80歳以上(n=46) | 69.6 | 39.1 | 30.4 | 39.1 | 17.4 | 10.9 | 10.9 |

問16 ボランティア活動の対価としての謝礼について、あなたはどのようにお考えですか。

(○は1つだけ)

「交通費等の実費と弁当代程度なら良い」が34.2%と最も高く、次いで「交通費等の実費程度なら良い」が26.2%、「謝礼は必要ない」が21.6%となっています。

前回調査との比較では、「一般的なサービス並みの報酬が良い」が5.4ポイント増加しています。



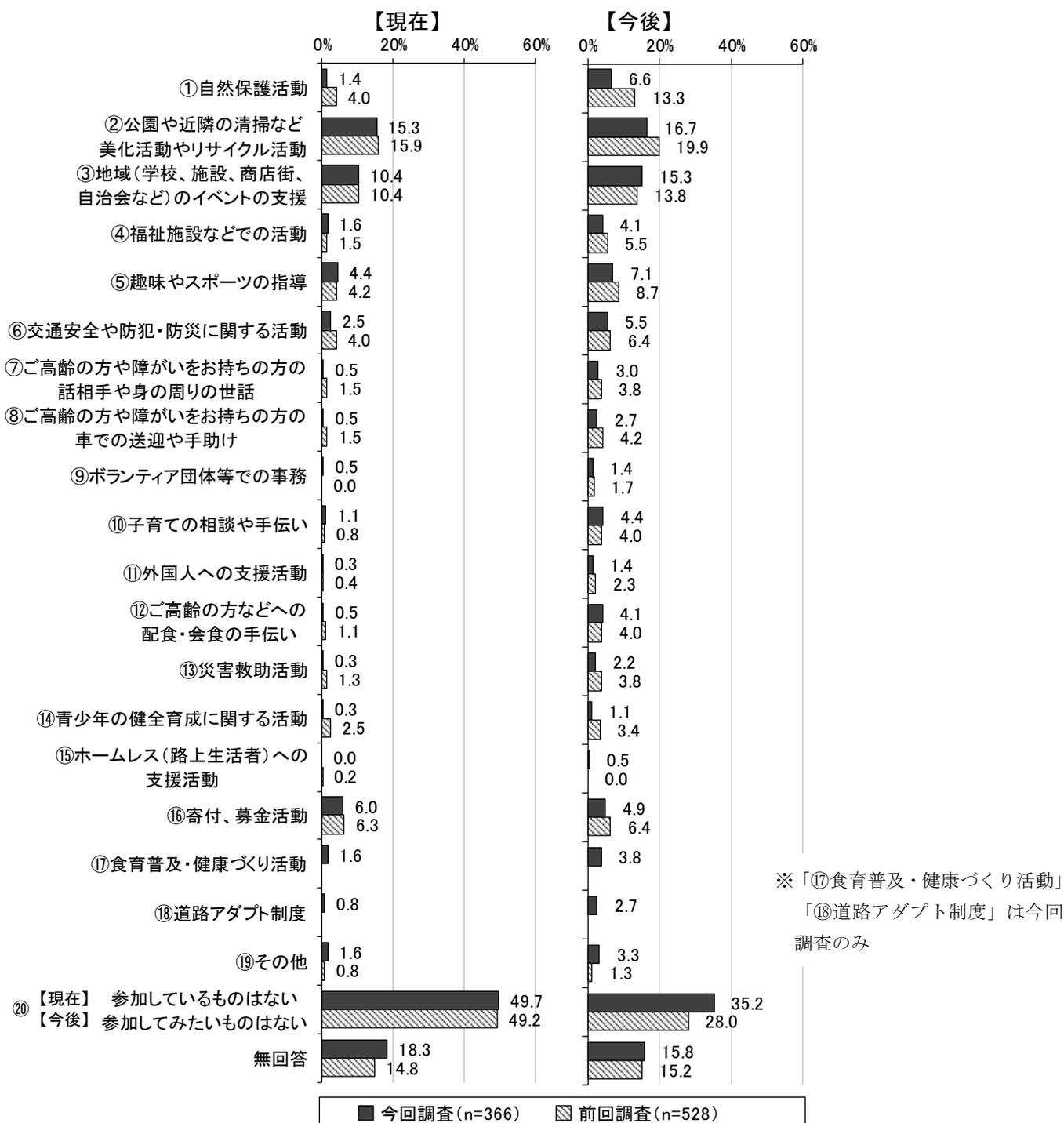
問17 地域活動やボランティア活動の中で、現在参加しているものはありますか。

また、今後参加してみたいものはありますか。(あてはまるものすべてに○)

【現在】では「⑳参加しているものはない」が49.7%と最も高く、次いで「②公園や近隣の清掃など美化活動やリサイクル活動」が15.3%、「③地域（学校、施設、商店街、自治会など）のイベントの支援」が10.4%となっています。

【今後】では「㉑参加してみたいものはない」が35.2%と最も高く、次いで「②公園や近隣の清掃など美化活動やリサイクル活動」が16.7%、「③地域（学校、施設、商店街、自治会など）のイベントの支援」が15.3%となっています。

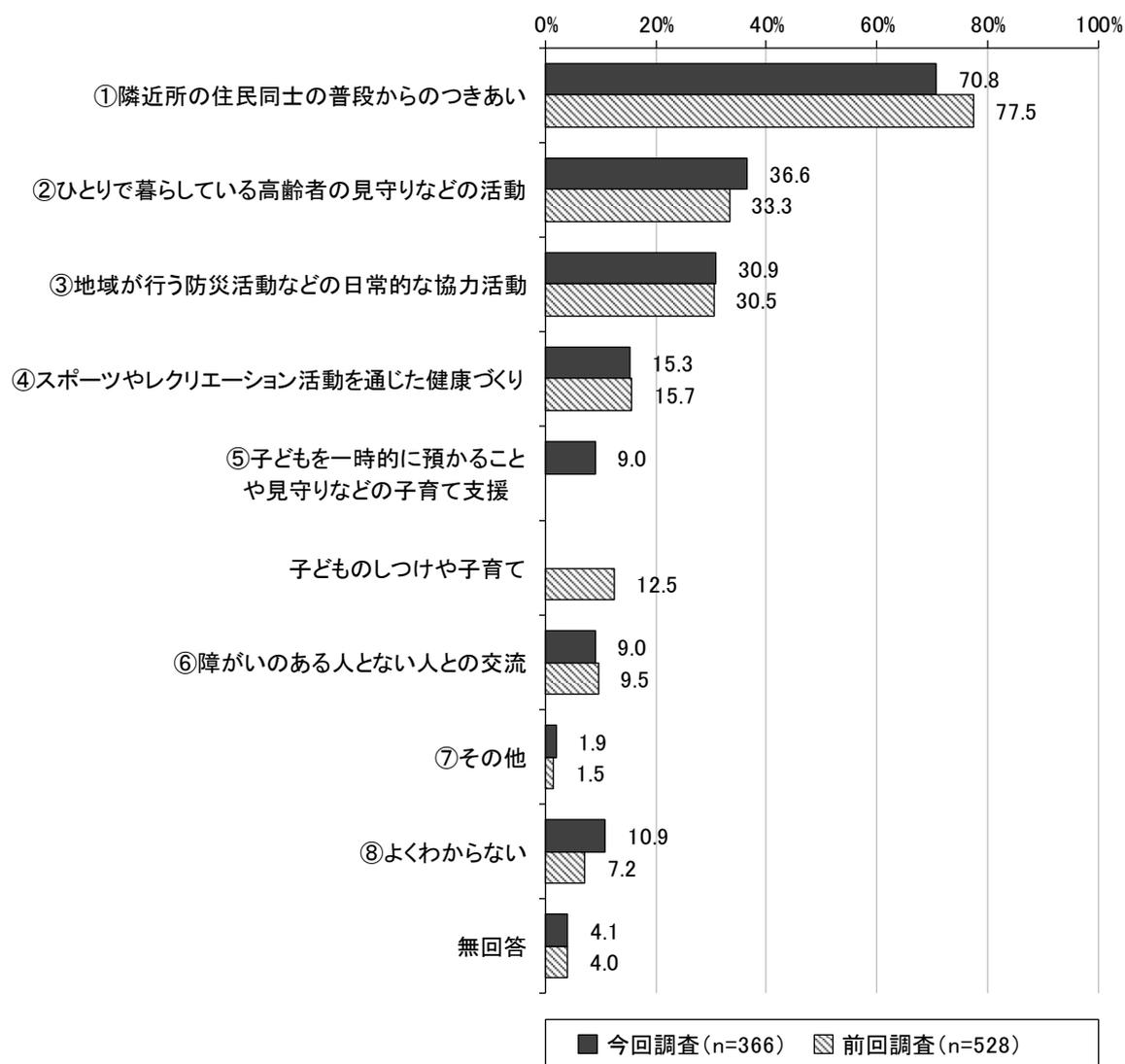
前回調査との比較では、選択肢の数に違いがあるため単純に比較できませんが、同一項目でみると、【現在】では特に大きな違いはみられません。【今後】では「㉑参加してみたいものはない」が7.2ポイント増加し、「①自然保護活動」が6.7ポイント減少しています。



問18 あなたは、地域の人々がお互いに支え合っていくうえで大切なことは、どのようなことだと思いますか。(〇は3つまで)

「①隣近所の住民同士の普段からのつきあい」が70.8%と最も高く、次いで「②ひとりで暮らしている高齢者の見守りなどの活動」が36.6%、「③地域が行う防災活動などの日常的な協力活動」が30.9%となっています。

前回調査との比較では、選択肢に違いがあるため単純に比較できませんが、同一項目でみると、「①隣近所の住民同士の普段からのつきあい」が6.7ポイント減少しています。



※「⑤子どもを一時的に預かることや見守りなどの子育て支援」は今回調査のみ
「子どものしつけや子育て」は前回調査のみ

隣近所とのつきあい方別にみると、《さしさわりのないことなら、話せる相手がいる》《道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる》《ほとんど近所づきあいをしない》で「①隣近所の住民同士の普段からのつきあい」が最も高くなっています。

| 単位：% | | ①隣近所の住民同士の普段からのつきあい | ②ひとりで暮らしている高齢者の見守りなどの活動 | ③地域が行う防災活動などの日常的な協力活動 | ④スポーツやレクリエーション活動を通じた健康づくり | ⑥子どもを一時的に預かることや見守りなどの子育て支援 | ⑦障がいのある人とない人との交流 |
|------------|-------------------|---------------------|-------------------------|-----------------------|---------------------------|----------------------------|------------------|
| 全体(n=366) | | 70.8 | 36.6 | 30.9 | 15.3 | 9.0 | 9.0 |
| つきあい方別の隣近所 | 個人的なことを相談(n=24) | 79.2 | 45.8 | 41.7 | 20.8 | 20.8 | 16.7 |
| | さしさわりのないこと(n=124) | 82.3 | 34.7 | 36.3 | 18.5 | 6.5 | 5.6 |
| | あいさつをする程度(n=130) | 66.9 | 39.2 | 27.7 | 13.8 | 9.2 | 10.8 |
| | ほとんどしない(n=41) | 51.2 | 36.6 | 24.4 | 2.4 | 7.3 | 12.2 |

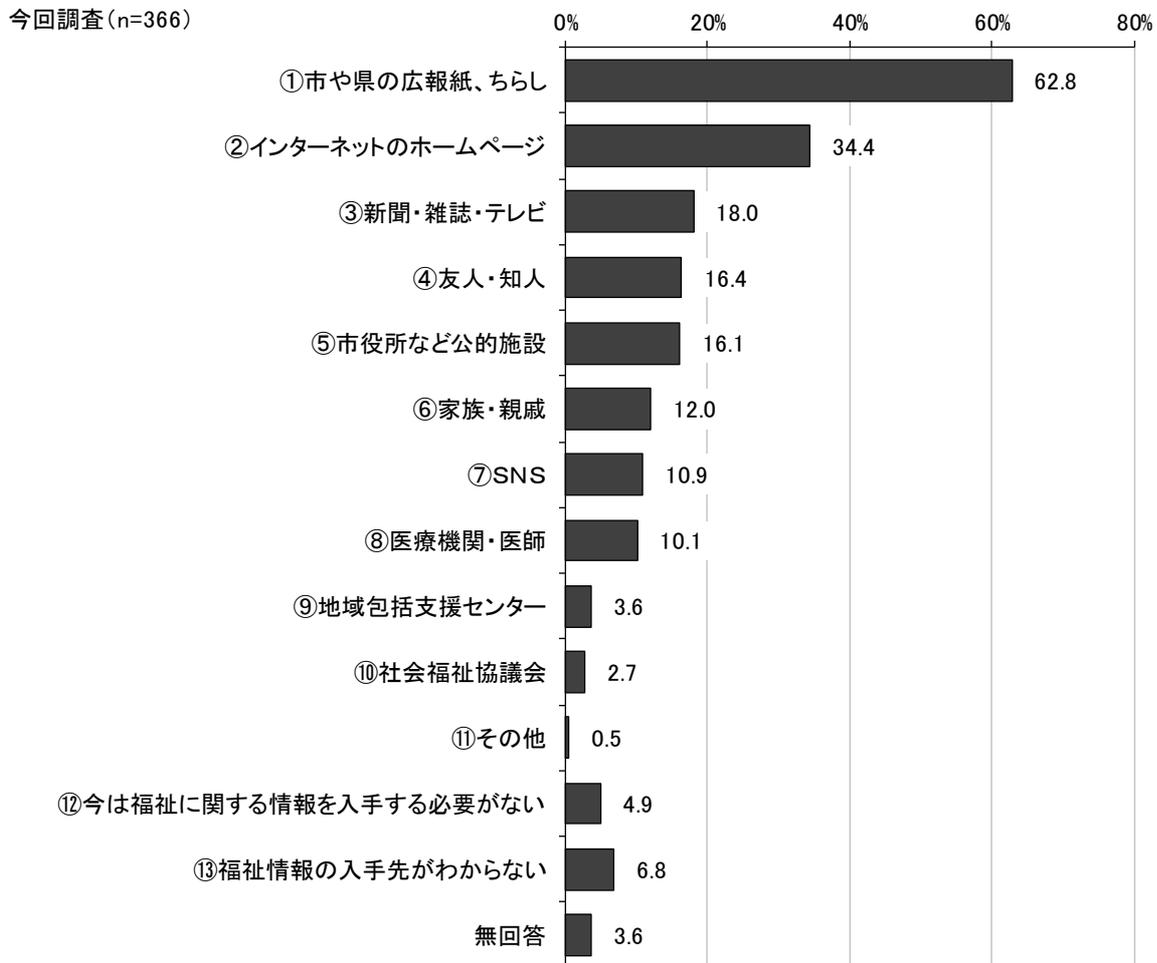
※n値が25人未満の区分は、人数が少ないので参考として図示し、コメント対象外としている。

4 情報入手手段や相談について

問19 あなたは、保健福祉サービスなどの情報をどのように入手しますか。

(あてはまるものすべてに○)

「①市や県の広報紙、ちらし」が62.8%と最も高く、次いで「②インターネットのホームページ」が34.4%、「③新聞・雑誌・テレビ」が18.0%となっています。



年齢別にみると、《30～39歳》では「②インターネットのホームページ」、《40～49歳》では「①市や県の広報紙、ちらし」「②インターネットのホームページ」、その他の区分では「①市や県の広報紙、ちらし」が最も高くなっています。

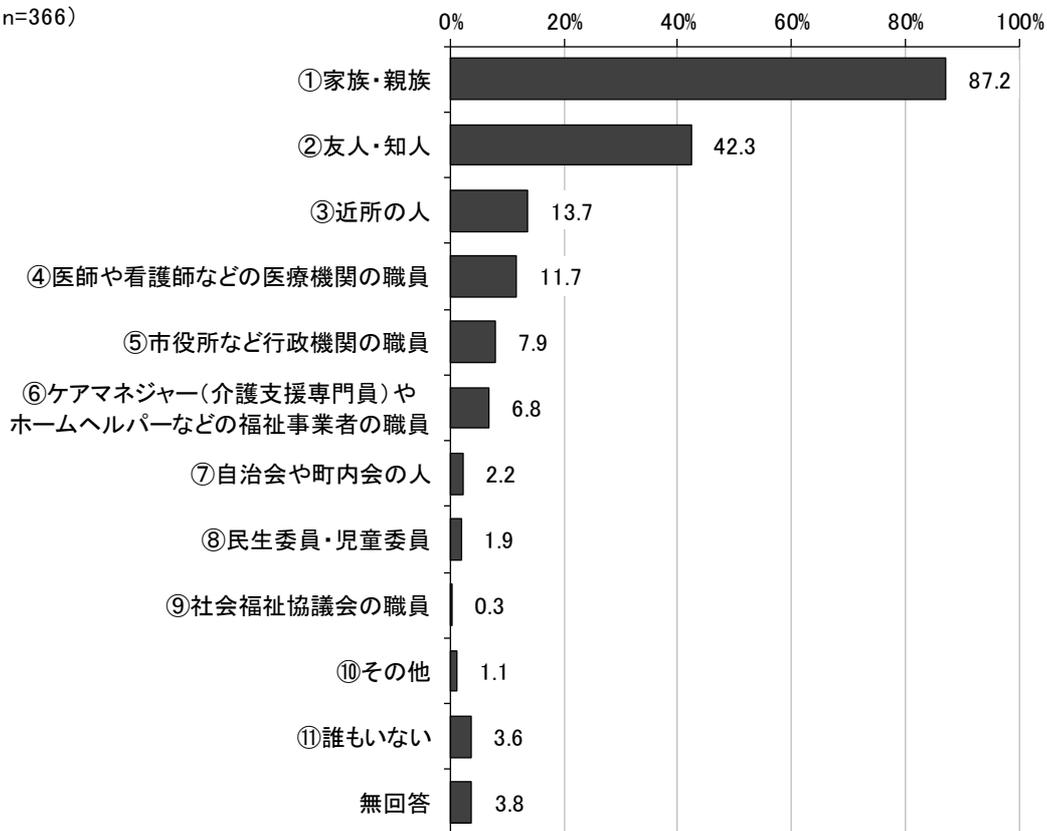
| 単位：% | | ①市や県の 広報紙、ち らし | ②インター ネットの ホームペー ジ | ③新聞・雑 誌・テレビ | ④友人・知 人 | ⑤市役所な ど公的施設 | ⑥家族・親 戚 | ⑦SNS |
|-------------|---------------|----------------------|-----------------------------|----------------|------------|----------------|------------|------|
| 全体 (n=366) | | 62.8 | 34.4 | 18.0 | 16.4 | 16.1 | 12.0 | 10.9 |
| 年 齢 別 | 18～29歳 (n=25) | 36.0 | 32.0 | 4.0 | 8.0 | 8.0 | 24.0 | 32.0 |
| | 30～39歳 (n=37) | 51.4 | 56.8 | 16.2 | 24.3 | 10.8 | 16.2 | 27.0 |
| | 40～49歳 (n=52) | 48.1 | 48.1 | 11.5 | 19.2 | 11.5 | 9.6 | 19.2 |
| | 50～59歳 (n=55) | 60.0 | 43.6 | 7.3 | 9.1 | 7.3 | 9.1 | 7.3 |
| | 60～64歳 (n=25) | 72.0 | 60.0 | 20.0 | 24.0 | 28.0 | 16.0 | 4.0 |
| | 65～69歳 (n=31) | 74.2 | 35.5 | 19.4 | 6.5 | 25.8 | 6.5 | 12.9 |
| | 70～74歳 (n=43) | 81.4 | 34.9 | 23.3 | 11.6 | 20.9 | 7.0 | 2.3 |
| | 75～79歳 (n=41) | 80.5 | 9.8 | 31.7 | 22.0 | 19.5 | 7.3 | 2.4 |
| | 80歳以上 (n=46) | 63.0 | 2.2 | 26.1 | 13.0 | 21.7 | 19.6 | 0.0 |

問20 あなたが困ったときに相談できる身近な相談相手はどなたですか。

(あてはまるものすべてに○)

「①家族・親族」が87.2%と最も高く、次いで「②友人・知人」が42.3%、「③近所の人」が13.7%となっています。

今回調査(n=366)



居住地区別にみると、すべての区分で「①家族・親族」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての区分で「①家族・親族」が最も高くなっています。

| 単位：% | | ①家族・親族 | ②友人・知人 | ③近所の人 | ④医師や看護師などの医療機関の職員 | ⑤市役所など行政機関の職員 | ⑥ケアマネジャー（介護支援専門員）やホームヘルパーなどの福祉事業者の職員 | ⑦自治会や町内会の人 |
|------------|----------------|--------|--------|-------|-------------------|---------------|--------------------------------------|------------|
| 全体 (n=366) | | 87.2 | 42.3 | 13.7 | 11.7 | 7.9 | 6.8 | 2.2 |
| 居住地区別 | 昭和地区 (n=108) | 87.0 | 44.4 | 12.0 | 13.9 | 9.3 | 4.6 | 0.9 |
| | 長浦地区 (n=156) | 86.5 | 40.4 | 13.5 | 9.6 | 6.4 | 9.0 | 2.6 |
| | 根形地区 (n=31) | 90.3 | 48.4 | 25.8 | 16.1 | 3.2 | 3.2 | 0.0 |
| | 平岡地区 (n=31) | 93.5 | 41.9 | 16.1 | 16.1 | 6.5 | 9.7 | 6.5 |
| | 中川・富岡地区 (n=29) | 89.7 | 41.4 | 10.3 | 3.4 | 13.8 | 3.4 | 0.0 |
| 年齢別 | 18～29歳 (n=25) | 92.0 | 64.0 | 12.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 30～39歳 (n=37) | 91.9 | 45.9 | 8.1 | 13.5 | 13.5 | 0.0 | 0.0 |
| | 40～49歳 (n=52) | 88.5 | 53.8 | 11.5 | 0.0 | 0.0 | 1.9 | 0.0 |
| | 50～59歳 (n=55) | 83.6 | 49.1 | 12.7 | 12.7 | 9.1 | 3.6 | 5.5 |
| | 60～64歳 (n=25) | 92.0 | 52.0 | 20.0 | 20.0 | 4.0 | 8.0 | 0.0 |
| | 65～69歳 (n=31) | 90.3 | 48.4 | 9.7 | 6.5 | 6.5 | 6.5 | 0.0 |
| | 70～74歳 (n=43) | 90.7 | 27.9 | 18.6 | 16.3 | 11.6 | 14.0 | 0.0 |
| | 75～79歳 (n=41) | 90.2 | 39.0 | 24.4 | 14.6 | 7.3 | 2.4 | 4.9 |
| | 80歳以上 (n=46) | 78.3 | 15.2 | 10.9 | 19.6 | 13.0 | 21.7 | 4.3 |

問21 あなたは、保健福祉に関する情報発信や相談を行っている、下記の機関をご存知ですか。

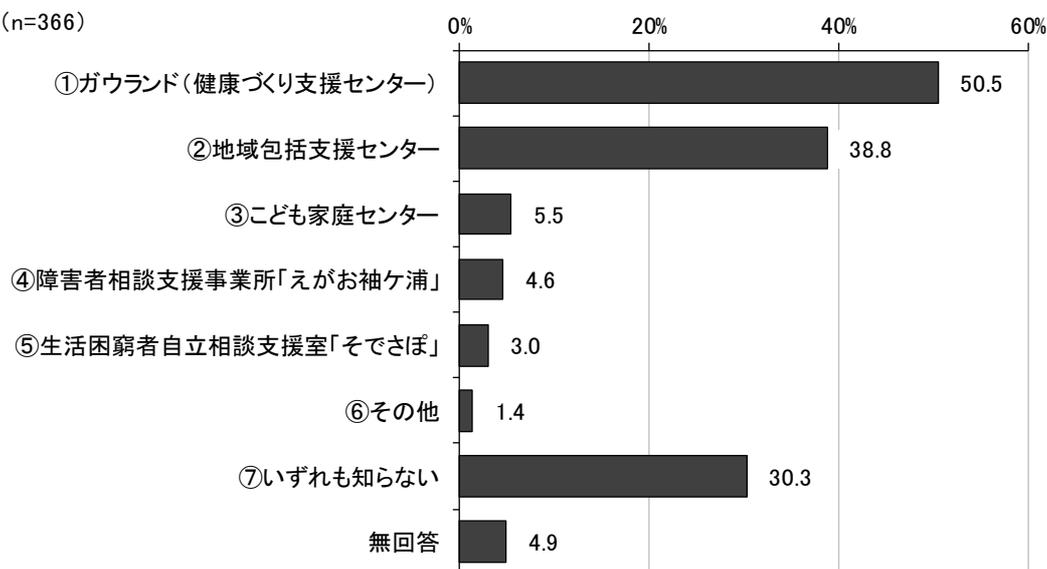
(あてはまるものすべてに○)

「①ガウランド(健康づくり支援センター)」が50.5%と最も高く、次いで「②地域包括支援センター」が38.8%、「⑦いずれも知らない」が30.3%となっています。

居住地区別にみると、《平岡地区》では「⑦いずれも知らない」、《中川・富岡地区》では「①ガウランド(健康づくり支援センター)」「②地域包括支援センター」、その他の区分では「①ガウランド(健康づくり支援センター)」が最も高くなっています。

年齢別にみると、《65～69歳》では「①ガウランド(健康づくり支援センター)」「②地域包括支援センター」、《70～79歳》では「②地域包括支援センター」、その他の区分では「①ガウランド(健康づくり支援センター)」が最も高くなっています。また、《18～29歳》《30～39歳》は「⑦いずれも知らない」が他の年齢階層よりも高くなっています。

今回調査(n=366)



| 単位: % | | ①ガウランド(健康づくり支援センター) | ②地域包括支援センター | ③こども家庭センター | ④障害者相談支援事業所「えがお袖ヶ浦」 | ⑤生活困窮者自立相談支援室「そでさぼ」 | ⑦いずれも知らない |
|-----------|---------------|---------------------|-------------|------------|---------------------|---------------------|-----------|
| 全体(n=366) | | 50.5 | 38.8 | 5.5 | 4.6 | 3.0 | 30.3 |
| 居住地区別 | 昭和地区(n=108) | 56.5 | 33.3 | 5.6 | 3.7 | 0.9 | 32.4 |
| | 長浦地区(n=156) | 50.6 | 42.3 | 7.1 | 5.1 | 3.8 | 25.0 |
| | 根形地区(n=31) | 58.1 | 48.4 | 0.0 | 6.5 | 3.2 | 32.3 |
| | 平岡地区(n=31) | 35.5 | 29.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 41.9 |
| | 中川・富岡地区(n=29) | 51.7 | 51.7 | 10.3 | 10.3 | 10.3 | 27.6 |
| 年齢別 | 18～29歳(n=25) | 52.0 | 28.0 | 12.0 | 0.0 | 0.0 | 44.0 |
| | 30～39歳(n=37) | 51.4 | 13.5 | 13.5 | 0.0 | 0.0 | 37.8 |
| | 40～49歳(n=52) | 55.8 | 32.7 | 11.5 | 7.7 | 3.8 | 30.8 |
| | 50～59歳(n=55) | 50.9 | 30.9 | 5.5 | 7.3 | 5.5 | 30.9 |
| | 60～64歳(n=25) | 72.0 | 48.0 | 0.0 | 8.0 | 4.0 | 24.0 |
| | 65～69歳(n=31) | 48.4 | 48.4 | 0.0 | 9.7 | 0.0 | 22.6 |
| | 70～74歳(n=43) | 55.8 | 60.5 | 4.7 | 4.7 | 7.0 | 25.6 |
| | 75～79歳(n=41) | 43.9 | 58.5 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 22.0 |
| | 80歳以上(n=46) | 43.5 | 39.1 | 2.2 | 4.3 | 4.3 | 30.4 |

5 権利擁護について

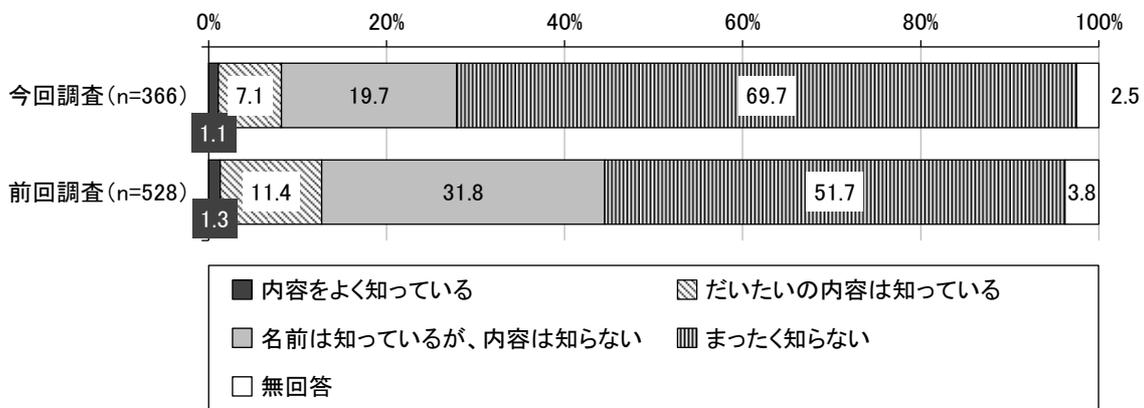
問22 あなたは、福祉サービス利用援助事業（日常生活自立支援事業・愛称「すまいる」）があることを知っていますか。（○は1つだけ）

「まったく知らない」が69.7%と最も高く、次いで「名前は知っているが、内容は知らない」が19.7%、「だいたいの内容は知っている」が7.1%となっています。

前回調査との比較では、「まったく知らない」が18.0ポイント増加し、「名前は知っているが、内容は知らない」が12.1ポイント減少しています。

年齢別にみると、すべての区分で「まったく知らない」が最も高く、《18～29歳》から《50～59歳》は8割台と特に高くなっています。

居住年数別にみると、《1年以上》では「まったく知らない」が最も高くなっています。



| 単位：% | | 内容をよく知っている | だいたいの内容は知っている | 名前は知っているが、内容は知らない | まったく知らない | 無回答 |
|------------|-----------------|------------|---------------|-------------------|----------|-----|
| 全体 (n=366) | | 1.1 | 7.1 | 19.7 | 69.7 | 2.5 |
| 年齢別 | 18～29歳 (n=25) | 4.0 | 4.0 | 12.0 | 80.0 | 0.0 |
| | 30～39歳 (n=37) | 0.0 | 2.7 | 8.1 | 83.8 | 5.4 |
| | 40～49歳 (n=52) | 0.0 | 9.6 | 7.7 | 80.8 | 1.9 |
| | 50～59歳 (n=55) | 1.8 | 7.3 | 9.1 | 81.8 | 0.0 |
| | 60～64歳 (n=25) | 0.0 | 8.0 | 20.0 | 72.0 | 0.0 |
| | 65～69歳 (n=31) | 0.0 | 6.5 | 38.7 | 54.8 | 0.0 |
| | 70～74歳 (n=43) | 2.3 | 7.0 | 27.9 | 60.5 | 2.3 |
| | 75～79歳 (n=41) | 0.0 | 2.4 | 36.6 | 58.5 | 2.4 |
| | 80歳以上 (n=46) | 2.2 | 15.2 | 21.7 | 56.5 | 4.3 |
| 居住年数別 | 1年未満 (n=5) | 0.0 | 20.0 | 20.0 | 60.0 | 0.0 |
| | 1～5年未満 (n=32) | 3.1 | 0.0 | 9.4 | 84.4 | 3.1 |
| | 5～10年未満 (n=28) | 0.0 | 7.1 | 10.7 | 78.6 | 3.6 |
| | 10～20年未満 (n=44) | 2.3 | 2.3 | 11.4 | 79.5 | 4.5 |
| | 20年以上 (n=246) | 0.8 | 8.9 | 23.2 | 65.9 | 1.2 |

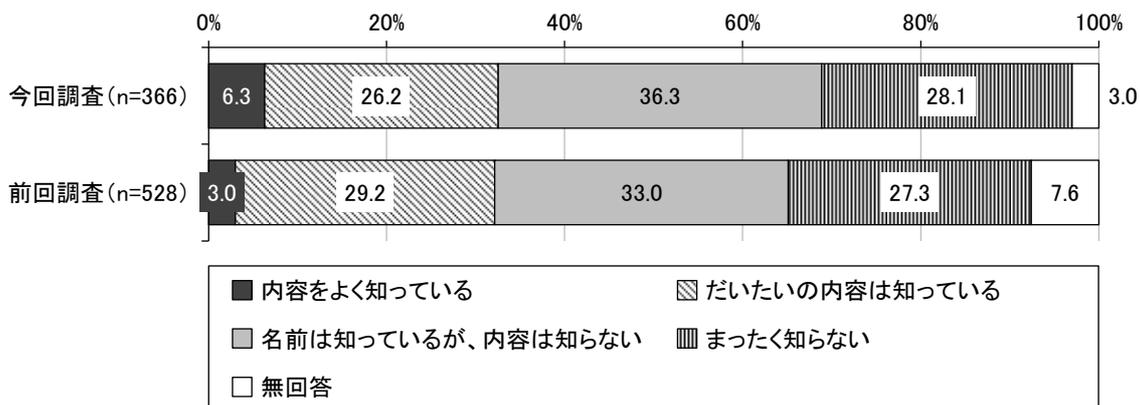
※n値が25人未満の区分は、人数が少ないので参考として図示し、コメント対象外としている。

問23 あなたは、成年後見制度があることを知っていますか。(〇は1つだけ)

「名前は知っているが、内容は知らない」が36.3%と最も高く、次いで「まったく知らない」が28.1%、「だいたいの内容は知っている」が26.2%となっています。

前回調査との比較では、特に大きな違いはみられません。

年齢別にみると、《18～29歳》では「まったく知らない」、《40～49歳》では「名前は知っているが、内容は知らない」「まったく知らない」、《70～79歳》では「だいたいの内容は知っている」、その他の区分では「名前は知っているが、内容は知らない」が最も高くなっています。



| 単位: % | | 内容をよく知っている | だいたいの内容は知っている | 名前は知っているが、内容は知らない | まったく知らない | 無回答 |
|--------------|---------------|------------|---------------|-------------------|----------|-----|
| 全体 (n=366) | | 6.3 | 26.2 | 36.3 | 28.1 | 3.0 |
| 年齢別 | 18～29歳 (n=25) | 12.0 | 20.0 | 28.0 | 40.0 | 0.0 |
| | 30～39歳 (n=37) | 5.4 | 8.1 | 43.2 | 37.8 | 5.4 |
| | 40～49歳 (n=52) | 5.8 | 23.1 | 34.6 | 34.6 | 1.9 |
| | 50～59歳 (n=55) | 10.9 | 20.0 | 38.2 | 30.9 | 0.0 |
| | 60～64歳 (n=25) | 0.0 | 24.0 | 60.0 | 16.0 | 0.0 |
| | 65～69歳 (n=31) | 6.5 | 32.3 | 35.5 | 25.8 | 0.0 |
| | 70～74歳 (n=43) | 11.6 | 37.2 | 32.6 | 16.3 | 2.3 |
| | 75～79歳 (n=41) | 0.0 | 43.9 | 31.7 | 19.5 | 4.9 |
| 80歳以上 (n=46) | 4.3 | 26.1 | 37.0 | 26.1 | 6.5 | |

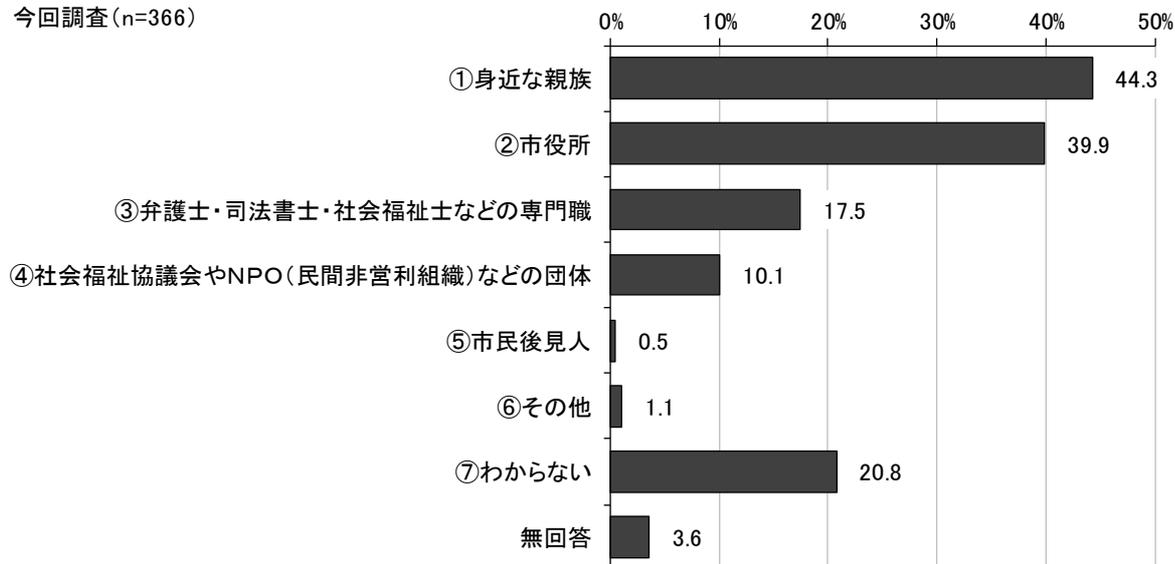
問24 あなたが成年後見制度について相談したい場合、どこに相談しますか。

(あてはまるものすべてに○)

「①身近な親族」が44.3%と最も高く、次いで「②市役所」が39.9%、「⑦わからない」が20.8%となっています。

年齢別にみると、《40～69歳》では「②市役所」、その他の区分では「①身近な親族」が最も高くなっています。

今回調査(n=366)



| 単位: % | | ①身近な親族 | ②市役所 | ③弁護士・司法書士・社会福祉士などの専門職 | ④社会福祉協議会やNPO(民間非営利組織)などの団体 | ⑤市民後見人 | ⑦わからない |
|-----------|--------------|--------|------|-----------------------|----------------------------|--------|--------|
| 全体(n=366) | | 44.3 | 39.9 | 17.5 | 10.1 | 0.5 | 20.8 |
| 年齢別 | 18～29歳(n=25) | 56.0 | 16.0 | 32.0 | 8.0 | 0.0 | 36.0 |
| | 30～39歳(n=37) | 43.2 | 32.4 | 24.3 | 8.1 | 0.0 | 24.3 |
| | 40～49歳(n=52) | 42.3 | 46.2 | 15.4 | 3.8 | 0.0 | 21.2 |
| | 50～59歳(n=55) | 29.1 | 40.0 | 12.7 | 7.3 | 0.0 | 32.7 |
| | 60～64歳(n=25) | 40.0 | 56.0 | 36.0 | 16.0 | 0.0 | 16.0 |
| | 65～69歳(n=31) | 45.2 | 54.8 | 19.4 | 19.4 | 0.0 | 9.7 |
| | 70～74歳(n=43) | 60.5 | 32.6 | 16.3 | 20.9 | 2.3 | 14.0 |
| | 75～79歳(n=41) | 48.8 | 36.6 | 12.2 | 7.3 | 2.4 | 19.5 |
| | 80歳以上(n=46) | 50.0 | 43.5 | 10.9 | 8.7 | 0.0 | 8.7 |

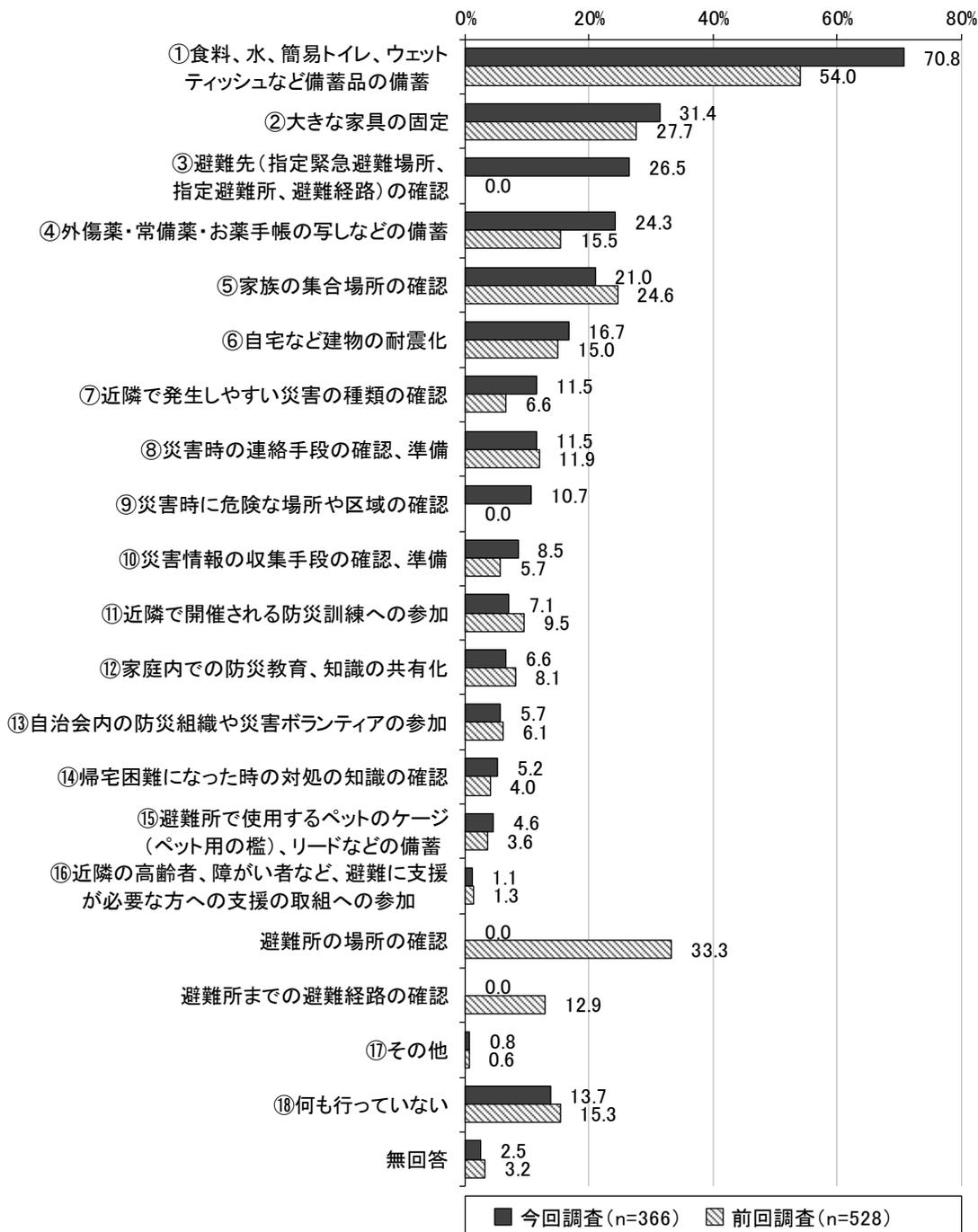
6 防災対策について

問25 あなたは、どのような防災対策を普段から行っていますか。

(あてはまるものすべてに○)

「①食料、水、簡易トイレ、ウェットティッシュなど備蓄品の備蓄」が70.8%と最も高く、次いで「②大きな家具の固定」が31.4%、「③避難先（指定緊急避難場所、指定避難所、避難経路）の確認」が26.5%となっています。

前回調査との比較では、選択肢の数に違いがあるため単純に比較できませんが、同一項目で見ると、「①食料、水、簡易トイレ、ウェットティッシュなど備蓄品の備蓄」が16.8ポイント、「④外傷薬・常備薬・お薬手帳の写しなどの備蓄」が8.8ポイント増加しています。



※今回調査のみ：「③避難先（指定緊急避難場所、指定避難所、避難経路）の確認」「⑨災害時に危険な場所や区域の確認」
 前回調査のみ：「避難所の場所の確認」「避難所までの避難経路の確認」

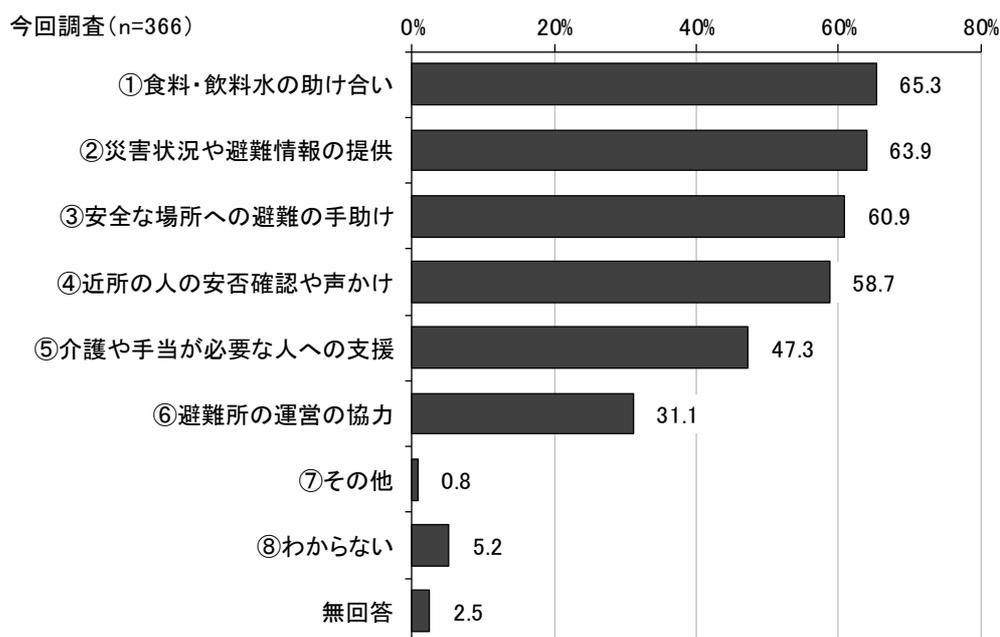
年齢別にみると、すべての区分で「①食料、水、簡易トイレ、ウェットティッシュなど備蓄品の備蓄」が最も高くなっています。

| 単位：% | | ①食料、水、簡易トイレ、ウェットティッシュなど備蓄品の備蓄 | ②大きな家具の固定 | ③避難先（指定緊急避難場所、指定避難所、避難経路）の確認 | ④外傷薬・常備薬・お薬手帳の写しなどの備蓄 | ⑤家族の集合場所の確認 | ⑥自宅など建物の耐震化 | ⑦近隣で発生しやすい災害の種類の確認 | ⑧災害時の連絡手段の確認、準備 |
|-----------|--------------|-------------------------------|-----------|------------------------------|-----------------------|-------------|-------------|--------------------|-----------------|
| 全体(n=366) | | 70.8 | 31.4 | 26.5 | 24.3 | 21.0 | 16.7 | 11.5 | 11.5 |
| 年齢別 | 18～29歳(n=25) | 56.0 | 24.0 | 20.0 | 8.0 | 8.0 | 12.0 | 8.0 | 16.0 |
| | 30～39歳(n=37) | 75.7 | 24.3 | 16.2 | 21.6 | 16.2 | 24.3 | 8.1 | 8.1 |
| | 40～49歳(n=52) | 78.8 | 32.7 | 25.0 | 25.0 | 38.5 | 23.1 | 11.5 | 15.4 |
| | 50～59歳(n=55) | 80.0 | 30.9 | 20.0 | 18.2 | 16.4 | 20.0 | 14.5 | 7.3 |
| | 60～64歳(n=25) | 80.0 | 20.0 | 32.0 | 28.0 | 28.0 | 8.0 | 16.0 | 4.0 |
| | 65～69歳(n=31) | 87.1 | 38.7 | 35.5 | 22.6 | 12.9 | 19.4 | 25.8 | 22.6 |
| | 70～74歳(n=43) | 72.1 | 34.9 | 37.2 | 32.6 | 25.6 | 11.6 | 9.3 | 11.6 |
| | 75～79歳(n=41) | 65.9 | 43.9 | 29.3 | 31.7 | 26.8 | 14.6 | 14.6 | 9.8 |
| | 80歳以上(n=46) | 52.2 | 32.6 | 26.1 | 28.3 | 13.0 | 13.0 | 2.2 | 10.9 |

問26 あなたは災害が起こった場合に、住民がお互いにどのような支援をすることが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

「①食料・飲料水の助け合い」が65.3%と最も高く、次いで「②災害状況や避難情報の提供」が63.9%、「③安全な場所への避難の手助け」が60.9%となっています。

居住地区別にみると、《昭和地区》では「②災害状況や避難情報の提供」、《長浦地区》では「①食料・飲料水の助け合い」「③安全な場所への避難の手助け」、《根形地区》では「①食料・飲料水の助け合い」「④近所の人への安否確認や声かけ」、《根形地区》では「①食料・飲料水の助け合い」、《中川・富岡地区》では「④近所の人への安否確認や声かけ」が最も高くなっています。



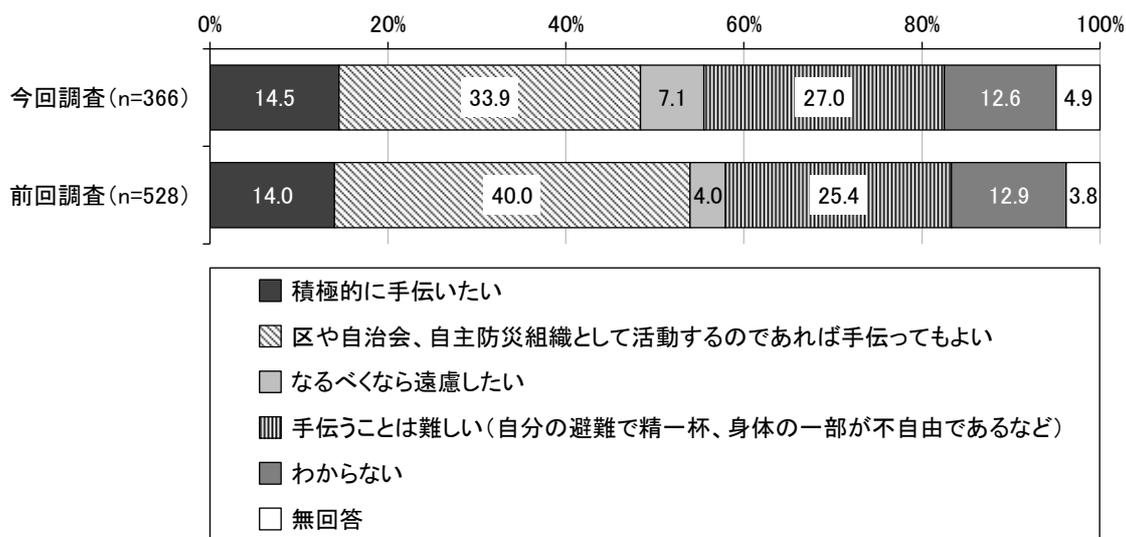
| 単位: % | | ①食料・飲料水の助け合い | ②災害状況や避難情報の提供 | ③安全な場所への避難の手助け | ④近所の人への安否確認や声かけ | ⑤介護や手当が必要な人への支援 | ⑥避難所の運営の協力 |
|------------|----------------|--------------|---------------|----------------|-----------------|-----------------|------------|
| 全体 (n=366) | | 65.3 | 63.9 | 60.9 | 58.7 | 47.3 | 31.1 |
| 居住地区別 | 昭和地区 (n=108) | 63.0 | 71.3 | 59.3 | 61.1 | 48.1 | 32.4 |
| | 長浦地区 (n=156) | 67.3 | 66.0 | 67.3 | 53.8 | 50.6 | 34.0 |
| | 根形地区 (n=31) | 67.7 | 61.3 | 58.1 | 67.7 | 45.2 | 32.3 |
| | 平岡地区 (n=31) | 74.2 | 51.6 | 45.2 | 64.5 | 41.9 | 19.4 |
| | 中川・富岡地区 (n=29) | 65.5 | 51.7 | 55.2 | 69.0 | 41.4 | 31.0 |

問27 現在、災害のときに一人では避難できない方の避難を支援する人が不足しています。地域における避難支援について、どのように思いますか。(〇は1つだけ)

「区や自治会、自主防災組織として活動するのであれば手伝ってもよい」が33.9%と最も高く、次いで「手伝うことは難しい(自分の避難で精一杯、身体の一部が不自由であるなど)」が27.0%、「積極的に手伝いたい」が14.5%となっています。

前回調査との比較では、「区や自治会、自主防災組織として活動するのであれば手伝ってもよい」が6.1ポイント減少しています。

居住地区別にみると、《昭和地区》《根形地区》では「手伝うことは難しい(自分の避難で精一杯、身体の一部が不自由であるなど)」が最も高くなっています。



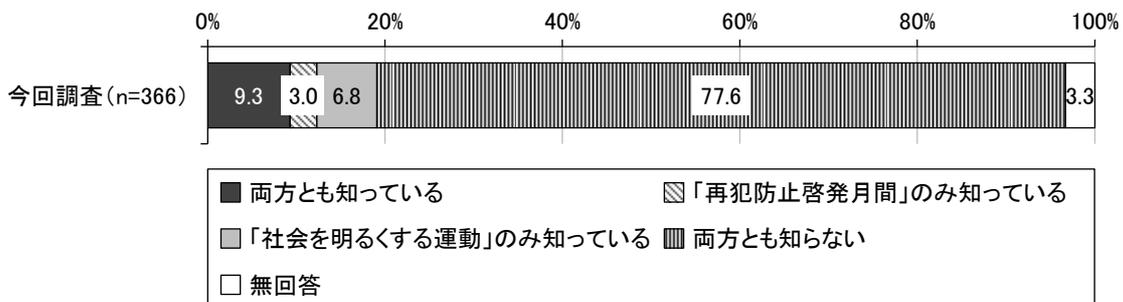
| 単位: % | | 積極的に手伝いたい | 区や自治会、自主防災組織として活動するのであれば手伝ってもよい | なるべくなら遠慮したい | 手伝うことは難しい(自分の避難で精一杯、身体の一部が不自由であるなど) | わからない | 無回答 |
|------------|----------------|-----------|---------------------------------|-------------|-------------------------------------|-------|------|
| 全体 (n=366) | | 14.5 | 33.9 | 7.1 | 27.0 | 12.6 | 4.9 |
| 居住地区別 | 昭和地区 (n=108) | 16.7 | 28.7 | 10.2 | 32.4 | 7.4 | 4.6 |
| | 長浦地区 (n=156) | 16.0 | 36.5 | 8.3 | 21.8 | 14.7 | 2.6 |
| | 根形地区 (n=31) | 9.7 | 29.0 | 3.2 | 35.5 | 19.4 | 3.2 |
| | 平岡地区 (n=31) | 6.5 | 45.2 | 0.0 | 19.4 | 16.1 | 12.9 |
| | 中川・富岡地区 (n=29) | 17.2 | 34.5 | 3.4 | 31.0 | 10.3 | 3.4 |

7 再犯防止対策について

問28 犯罪や非行のない安全で安心な明るい地域社会を築くための全国的な運動である「社会を明るくする運動」や「再犯防止啓発月間」を知っていますか。(〇は1つだけ)

「両方とも知らない」が77.6%と最も高く、次いで「両方とも知っている」が9.3%、「『社会を明るくする運動』のみ知っている」が6.8%となっています。

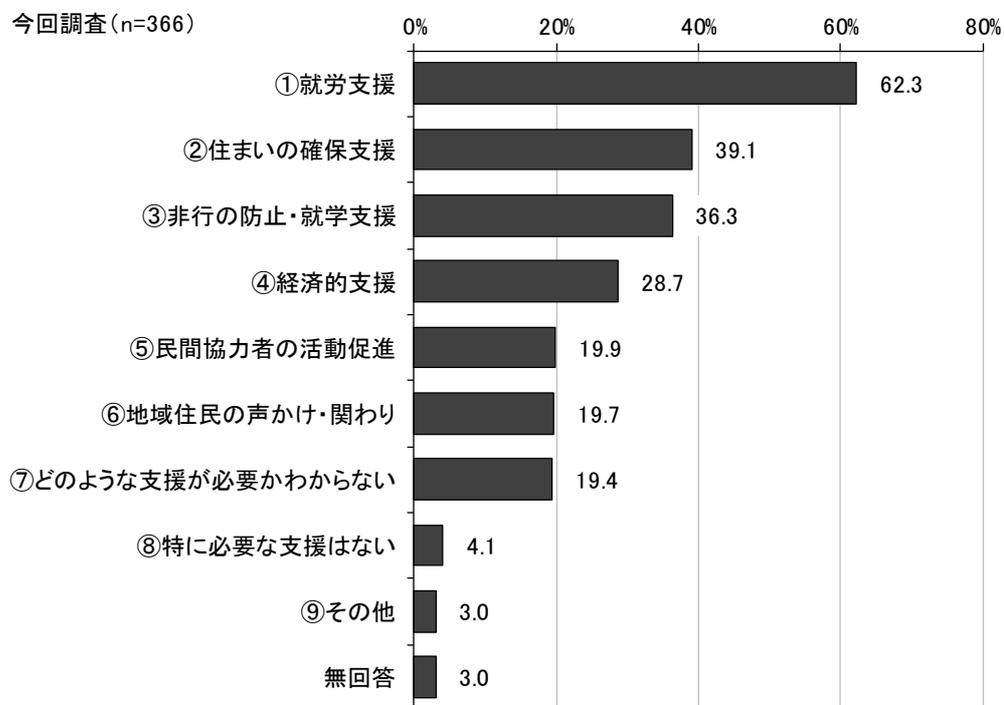
年齢別にみると、すべての区分で「両方とも知らない」が最も高くなっています。



| 単位: % | | 両方とも知っている | 「再犯防止啓発月間」のみ知っている | 「社会を明るくする運動」のみ知っている | 両方とも知らない | 無回答 |
|------------|---------------|-----------|-------------------|---------------------|----------|-----|
| 全体 (n=366) | | 9.3 | 3.0 | 6.8 | 77.6 | 3.3 |
| 年齢別 | 18～29歳 (n=25) | 8.0 | 0.0 | 8.0 | 80.0 | 4.0 |
| | 30～39歳 (n=37) | 8.1 | 0.0 | 5.4 | 86.5 | 0.0 |
| | 40～49歳 (n=52) | 3.8 | 3.8 | 3.8 | 88.5 | 0.0 |
| | 50～59歳 (n=55) | 5.5 | 3.6 | 5.5 | 83.6 | 1.8 |
| | 60～64歳 (n=25) | 16.0 | 0.0 | 8.0 | 72.0 | 4.0 |
| | 65～69歳 (n=31) | 12.9 | 6.5 | 12.9 | 67.7 | 0.0 |
| | 70～74歳 (n=43) | 4.7 | 2.3 | 7.0 | 81.4 | 4.7 |
| | 75～79歳 (n=41) | 14.6 | 0.0 | 9.8 | 70.7 | 4.9 |
| | 80歳以上 (n=46) | 15.2 | 6.5 | 6.5 | 65.2 | 6.5 |

問29 犯罪や非行の防止、犯罪や非行をした人たちの立ち直りを応援し、社会復帰を果たすために、市が行う支援として何が重要だと考えますか。(あてはまるものすべてに○)

「①就労支援」が62.3%と最も高く、次いで「②住まいの確保支援」が39.1%、「③非行の防止・就学支援」が36.3%となっています。



8 地域共生社会について

問30 あなたは、これまでに、地域共生社会という言葉や意味を聞いたことがありますか。

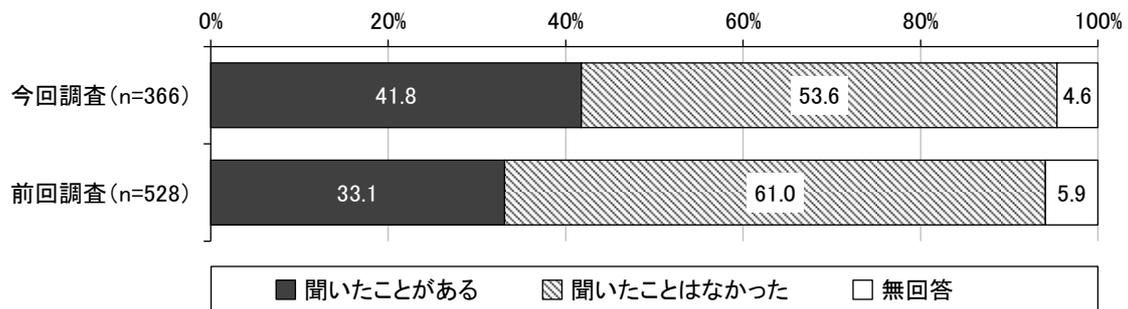
(〇は1つだけ)

「聞いたことがある」が41.8%、「聞いたことはなかった」が53.6%となっています。

前回調査との比較では、「聞いたことがある」が8.7ポイント増加し、「聞いたことはなかった」が7.4ポイント減少しています。

年齢別にみると、《65～79歳》では「聞いたことがある」「聞いたことはなかった」が同率で、《65～79歳》では聞いたことがあるが高くなっています。

居住地区別にみると、《昭和地区》では「聞いたことがある」が高くなっています。

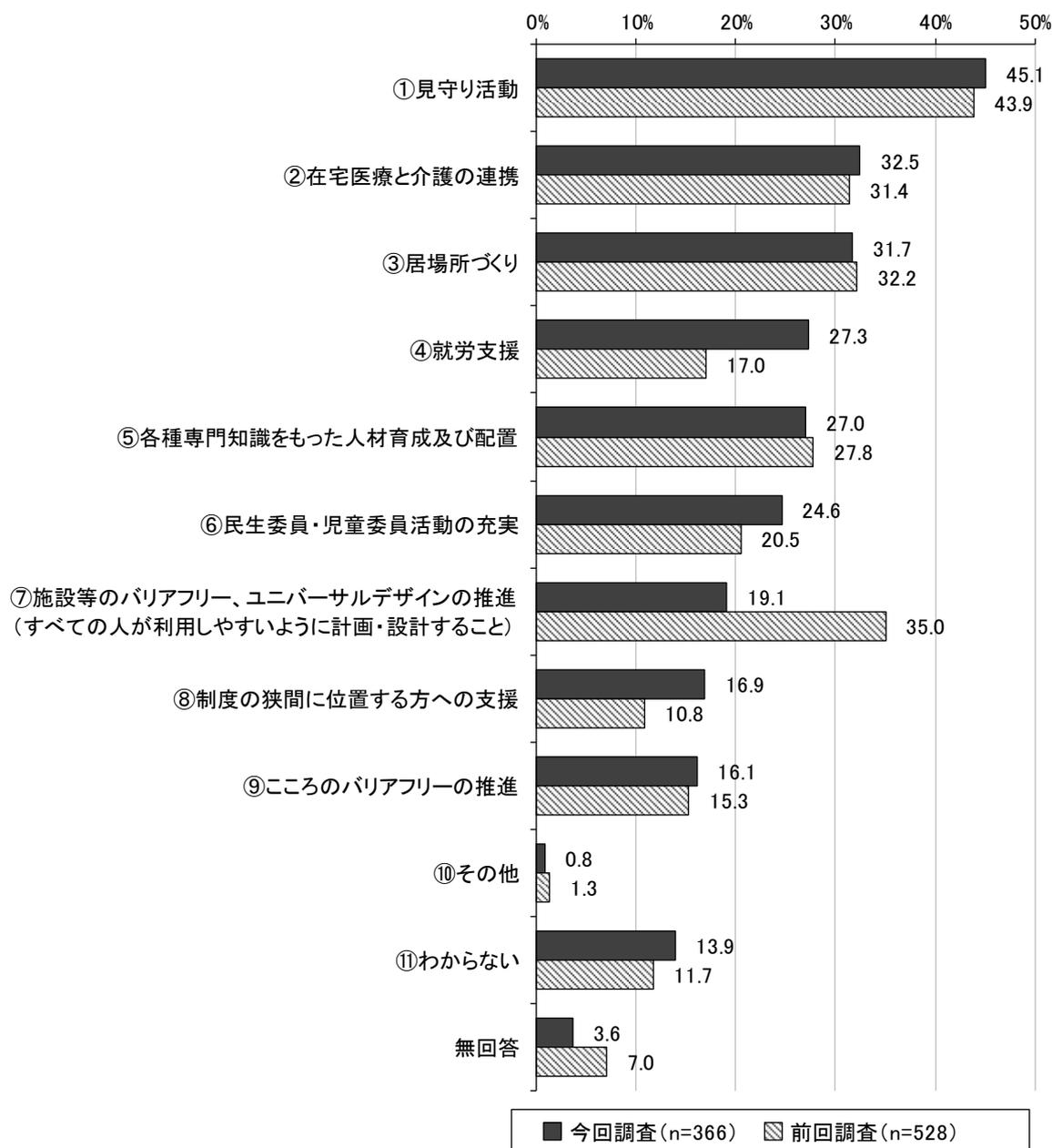


| 単位: % | | 聞いたことがある | 聞いたことはなかった | 無回答 |
|------------|----------------|----------|------------|-----|
| 全体 (n=366) | | 41.8 | 53.6 | 4.6 |
| 年齢別 | 18～29歳 (n=25) | 48.0 | 52.0 | 0.0 |
| | 30～39歳 (n=37) | 35.1 | 62.2 | 2.7 |
| | 40～49歳 (n=52) | 38.5 | 61.5 | 0.0 |
| | 50～59歳 (n=55) | 49.1 | 50.9 | 0.0 |
| | 60～64歳 (n=25) | 48.0 | 48.0 | 4.0 |
| | 65～69歳 (n=31) | 58.1 | 35.5 | 6.5 |
| | 70～74歳 (n=43) | 34.9 | 58.1 | 7.0 |
| | 75～79歳 (n=41) | 41.5 | 48.8 | 9.8 |
| | 80歳以上 (n=46) | 39.1 | 52.2 | 8.7 |
| 居住地区別 | 昭和地区 (n=108) | 52.8 | 45.4 | 1.9 |
| | 長浦地区 (n=156) | 39.1 | 56.4 | 4.5 |
| | 根形地区 (n=31) | 32.3 | 61.3 | 6.5 |
| | 平岡地区 (n=31) | 35.5 | 58.1 | 6.5 |
| | 中川・富岡地区 (n=29) | 44.8 | 48.3 | 6.9 |

問31 地域共生社会の実現に向けて、市や社会福祉協議会が力を入れて取り組むべきものはどのような活動だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

「①見守り活動」が45.1%と最も高く、次いで「②在宅医療と介護の連携」が32.5%、「③居場所づくり」が31.7%となっています。

前回調査との比較では、「④就労支援」が10.3ポイント、「⑧制度の狭間に位置する方への支援」が6.1ポイント増加し、「⑦施設等のバリアフリー、ユニバーサルデザインの推進（すべての人が利用しやすいように計画・設計すること）」が15.9ポイント減少しています。



※前回調査の選択肢：⑥は「民生委員活動の充実」

⑦は「施設等を、すべての人が利用しやすいように計画・設計すること」

居住地区別にみると、《平岡地区》では「③居場所づくり」「④就労支援」、《中川・富岡地区》では「①見守り活動」「③居場所づくり」、その他の区分では「①見守り活動」が最も高くなっています。

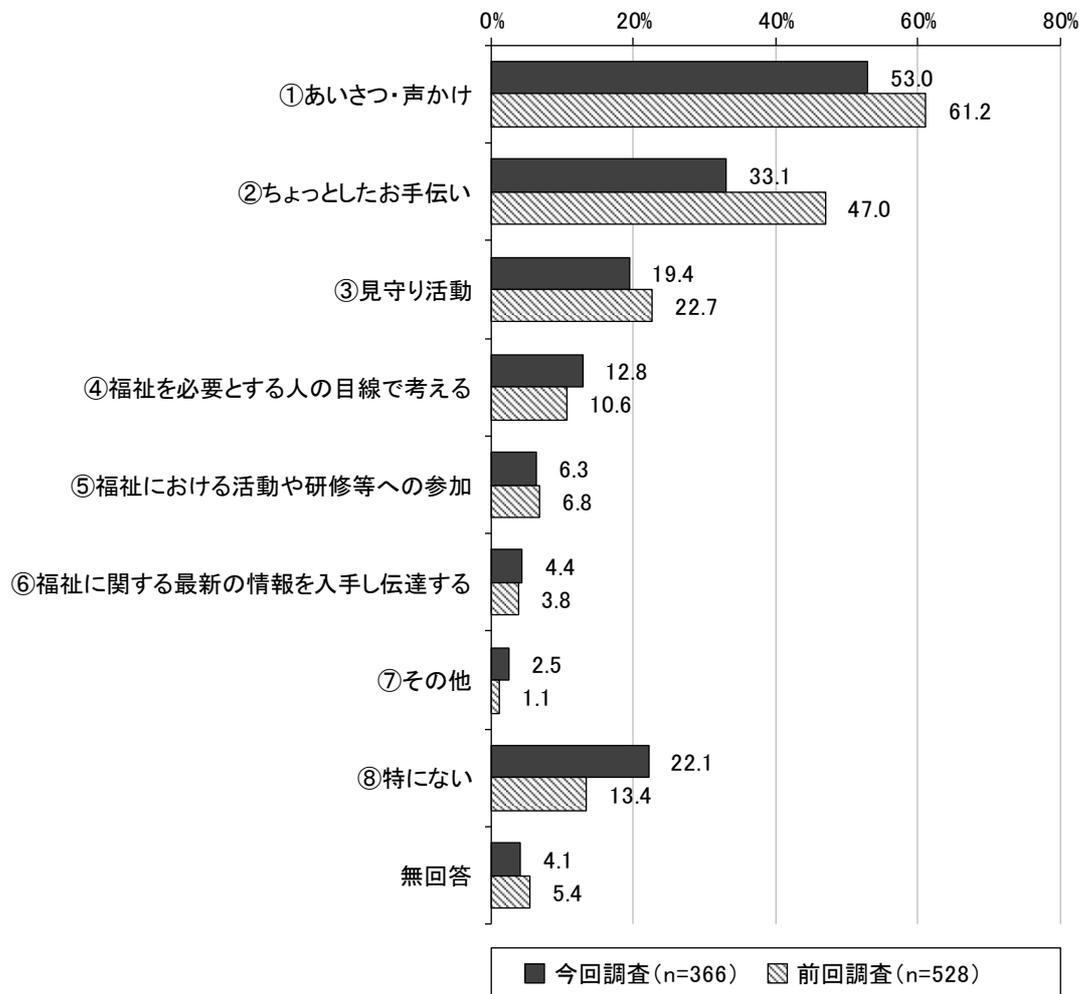
年齢別にみると、《50～64歳》では「②在宅医療と介護の連携」、《80歳以上》では「①見守り活動」「⑥民生委員・児童委員活動の充実」、その他の区分では「①見守り活動」が最も高くなっています。

| 単位：% | | ①見守り活動 | ②在宅医療と介護の連携 | ③居場所づくり | ④就労支援 | ⑤各種専門知識をもった人材育成及び配置 | ⑥民生委員・児童委員活動の充実 | ⑦施設等のバリアフリー、ユニバーサルデザインの推進 |
|-----------|---------------|--------|-------------|---------|-------|---------------------|-----------------|---------------------------|
| 全体(n=366) | | 45.1 | 32.5 | 31.7 | 27.3 | 27.0 | 24.6 | 19.1 |
| 居住地区別 | 昭和地区(n=108) | 47.2 | 35.2 | 29.6 | 25.9 | 26.9 | 20.4 | 26.9 |
| | 長浦地区(n=156) | 43.6 | 30.8 | 31.4 | 26.9 | 30.1 | 26.3 | 16.7 |
| | 根形地区(n=31) | 61.3 | 35.5 | 32.3 | 32.3 | 32.3 | 32.3 | 16.1 |
| | 平岡地区(n=31) | 32.3 | 32.3 | 35.5 | 35.5 | 22.6 | 22.6 | 9.7 |
| | 中川・富岡地区(n=29) | 37.9 | 27.6 | 37.9 | 20.7 | 17.2 | 20.7 | 10.3 |
| 年齢別 | 18～29歳(n=25) | 44.0 | 28.0 | 36.0 | 28.0 | 16.0 | 20.0 | 20.0 |
| | 30～39歳(n=37) | 35.1 | 27.0 | 29.7 | 18.9 | 10.8 | 8.1 | 16.2 |
| | 40～49歳(n=52) | 44.2 | 30.8 | 38.5 | 34.6 | 23.1 | 19.2 | 26.9 |
| | 50～59歳(n=55) | 36.4 | 41.8 | 34.5 | 30.9 | 32.7 | 18.2 | 10.9 |
| | 60～64歳(n=25) | 40.0 | 44.0 | 28.0 | 32.0 | 32.0 | 28.0 | 16.0 |
| | 65～69歳(n=31) | 64.5 | 35.5 | 25.8 | 32.3 | 41.9 | 25.8 | 22.6 |
| | 70～74歳(n=43) | 62.8 | 41.9 | 37.2 | 14.0 | 44.2 | 32.6 | 18.6 |
| | 75～79歳(n=41) | 43.9 | 24.4 | 24.4 | 22.0 | 26.8 | 29.3 | 19.5 |
| | 80歳以上(n=46) | 37.0 | 19.6 | 28.3 | 32.6 | 19.6 | 37.0 | 17.4 |

問32 あなた自身が取り組みそうな活動はありますか。(あてはまるものすべてに○)

「①あいさつ・声かけ」が 53.0%と最も高く、次いで「②ちょっとしたお手伝い」が 33.1%、「⑨特にない」が 22.1%となっています。

前回調査との比較では、「⑨特にない」が 8.7ポイント増加し、「②ちょっとしたお手伝い」が 13.9ポイント、「①あいさつ・声かけ」が 8.2ポイント減少しています。



居住地区別にみると、すべての区分で「①あいさつ・声かけ」が最も高くなっています。

年齢別にみると、「18～29歳」「50～59歳」では「②ちょっとしたお手伝い」、その他の区分では「①あいさつ・声かけ」が最も高くなっています。

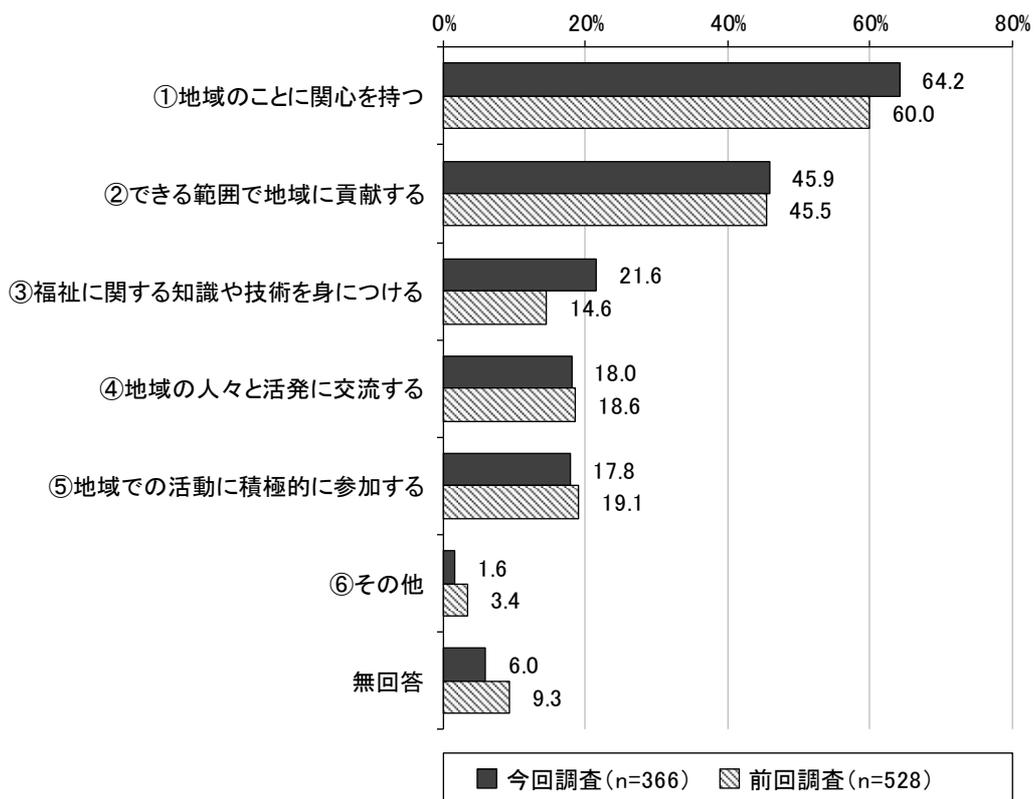
| 単位：% | | ①あいさつ・声かけ | ②ちょっとしたお手伝い | ③見守り活動 | ④福祉を必要とする人の目線で考える | ⑤福祉における活動や研修等への参加 | ⑥福祉に関する最新の情報を入手し伝達する | ⑧特にない |
|------------|----------------|-----------|-------------|--------|-------------------|-------------------|----------------------|-------|
| 全体 (n=366) | | 53.0 | 33.1 | 19.4 | 12.8 | 6.3 | 4.4 | 22.1 |
| 居住地区別 | 昭和地区 (n=108) | 50.9 | 39.8 | 17.6 | 17.6 | 3.7 | 5.6 | 22.2 |
| | 長浦地区 (n=156) | 51.3 | 30.1 | 19.9 | 12.2 | 9.6 | 5.1 | 20.5 |
| | 根形地区 (n=31) | 61.3 | 35.5 | 19.4 | 12.9 | 3.2 | 3.2 | 19.4 |
| | 平岡地区 (n=31) | 64.5 | 22.6 | 12.9 | 3.2 | 3.2 | 3.2 | 22.6 |
| | 中川・富岡地区 (n=29) | 58.6 | 37.9 | 31.0 | 10.3 | 6.9 | 0.0 | 27.6 |
| 年齢別 | 18～29歳 (n=25) | 44.0 | 48.0 | 20.0 | 12.0 | 4.0 | 12.0 | 20.0 |
| | 30～39歳 (n=37) | 59.5 | 16.2 | 8.1 | 16.2 | 2.7 | 0.0 | 29.7 |
| | 40～49歳 (n=52) | 55.8 | 34.6 | 19.2 | 11.5 | 7.7 | 5.8 | 21.2 |
| | 50～59歳 (n=55) | 41.8 | 45.5 | 12.7 | 16.4 | 12.7 | 3.6 | 14.5 |
| | 60～64歳 (n=25) | 52.0 | 20.0 | 20.0 | 20.0 | 4.0 | 4.0 | 16.0 |
| | 65～69歳 (n=31) | 64.5 | 25.8 | 25.8 | 12.9 | 9.7 | 3.2 | 12.9 |
| | 70～74歳 (n=43) | 60.5 | 44.2 | 25.6 | 11.6 | 7.0 | 4.7 | 20.9 |
| | 75～79歳 (n=41) | 65.9 | 34.1 | 26.8 | 14.6 | 4.9 | 4.9 | 19.5 |
| | 80歳以上 (n=46) | 43.5 | 26.1 | 19.6 | 4.3 | 2.2 | 4.3 | 37.0 |

問33 地域福祉の推進のためには、自助（一人ひとりの取組）、共助（周囲や地域のサポート）、公助（国や自治体などによる公的な支援）の連携が重要だと考えられます。あなたは地域福祉の推進のため、（1）自助、（2）共助、（3）公助において、どのようなことが重要だと考えますか。

（1）自助（あてはまるものすべてに○）

「①地域のことに興味を持つ」が64.2%と最も高く、次いで「②できる範囲で地域に貢献する」が45.9%、「③福祉に関する知識や技術を身につける」が21.6%となっています。

前回調査との比較では、「③福祉に関する知識や技術を身につける」が7.0ポイント増加しています。



年齢別にみると、《50～59歳》では「②できる範囲で地域に貢献する」、その他の区分では「①地域のことに興味を持つ」が最も高くなっています。

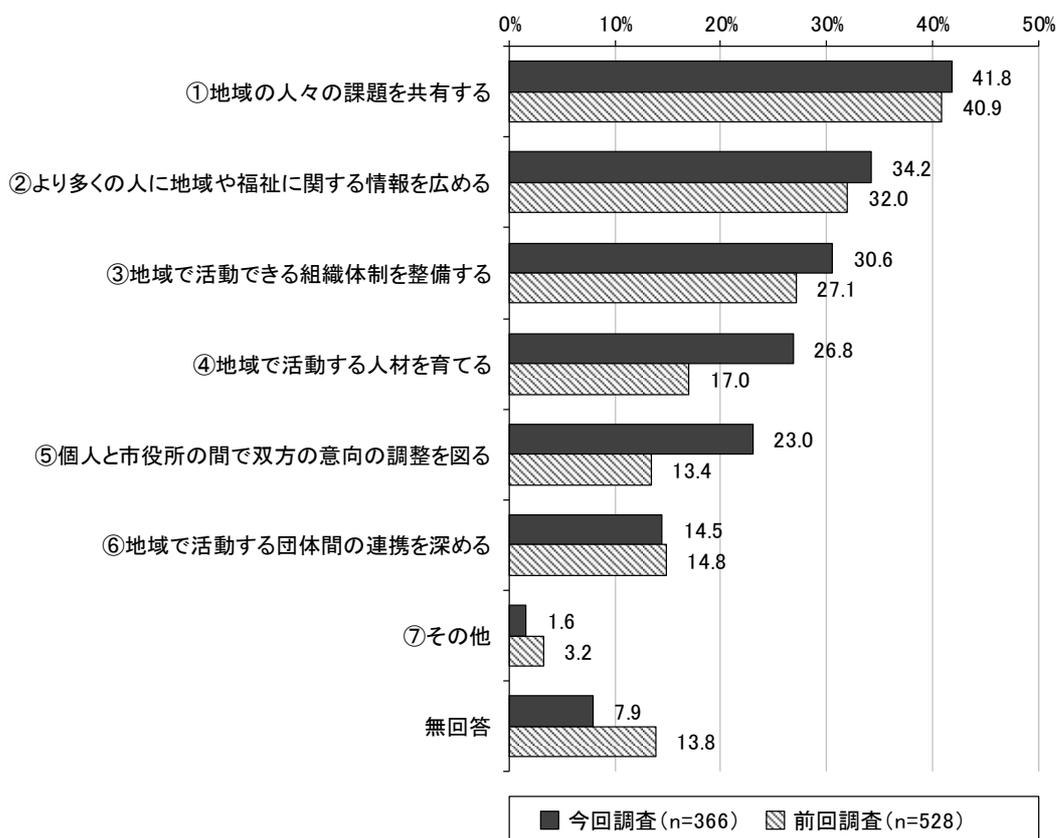
地域行事等への参加状況別にみると、すべての区分で「①地域のことに興味を持つ」が最も高くなっています。

| 単位：% | | ①地域のことに興味を持つ | ②できる範囲で地域に貢献する | ③福祉に関する知識や技術を身につける | ④地域の人々と活発に交流する | ⑤地域での活動に積極的に参加する | ⑥その他 | 無回答 |
|--------------|-------------------|--------------|----------------|--------------------|----------------|------------------|------|------|
| 全体 (n=366) | | 64.2 | 45.9 | 21.6 | 18.0 | 17.8 | 1.6 | 6.0 |
| 年齢別 | 18～29歳 (n=25) | 76.0 | 36.0 | 24.0 | 12.0 | 12.0 | 4.0 | 4.0 |
| | 30～39歳 (n=37) | 62.2 | 35.1 | 21.6 | 16.2 | 21.6 | 0.0 | 10.8 |
| | 40～49歳 (n=52) | 65.4 | 42.3 | 19.2 | 25.0 | 13.5 | 3.8 | 0.0 |
| | 50～59歳 (n=55) | 47.3 | 49.1 | 32.7 | 12.7 | 10.9 | 0.0 | 1.8 |
| | 60～64歳 (n=25) | 76.0 | 56.0 | 28.0 | 8.0 | 20.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 65～69歳 (n=31) | 74.2 | 54.8 | 22.6 | 9.7 | 9.7 | 0.0 | 3.2 |
| | 70～74歳 (n=43) | 69.8 | 60.5 | 20.9 | 20.9 | 30.2 | 2.3 | 0.0 |
| | 75～79歳 (n=41) | 65.9 | 29.3 | 12.2 | 31.7 | 19.5 | 0.0 | 9.8 |
| 80歳以上 (n=46) | | 60.9 | 50.0 | 13.0 | 17.4 | 23.9 | 2.2 | 19.6 |
| の地域参加行事等へ | よく参加している (n=45) | 68.9 | 51.1 | 15.6 | 33.3 | 51.1 | 2.2 | 2.2 |
| | 時々参加している (n=90) | 60.0 | 50.0 | 24.4 | 21.1 | 15.6 | 2.2 | 3.3 |
| | あまり参加していない (n=97) | 68.0 | 48.5 | 18.6 | 14.4 | 14.4 | 1.0 | 5.2 |
| | 全く参加していない (n=99) | 62.6 | 40.4 | 20.2 | 14.1 | 8.1 | 2.0 | 11.1 |

(2) 共助（あてはまるものすべてに○）

「①地域の人々の課題を共有する」が41.8%と最も高く、次いで「②より多くの人に地域や福祉に関する情報を広める」が34.2%、「③地域で活動できる組織体制を整備する」が30.6%となっています。

前回調査との比較では、「③地域で活動する人材を育てる」が9.8ポイント、「⑤個人と市役所の間で双方の意向の調整を図る」が9.6ポイント増加しています。



※前回調査の選択肢：⑥は「地域で活動する団体間の連携を深める」

年齢別にみると、《18～29歳》では「①地域の人々の課題を共有する」「②より多くの人に地域や福祉に関する情報を広める」、《40～49歳》では「②より多くの人に地域や福祉に関する情報を広める」、《60～64歳》では「①地域の人々の課題を共有する」「②より多くの人に地域や福祉に関する情報を広める」「③地域で活動できる組織体制を整備する」「⑤個人と市役所の間で双方の意向の調整を図る」、その他の区分では「①地域の人々の課題を共有する」が最も高くなっています。

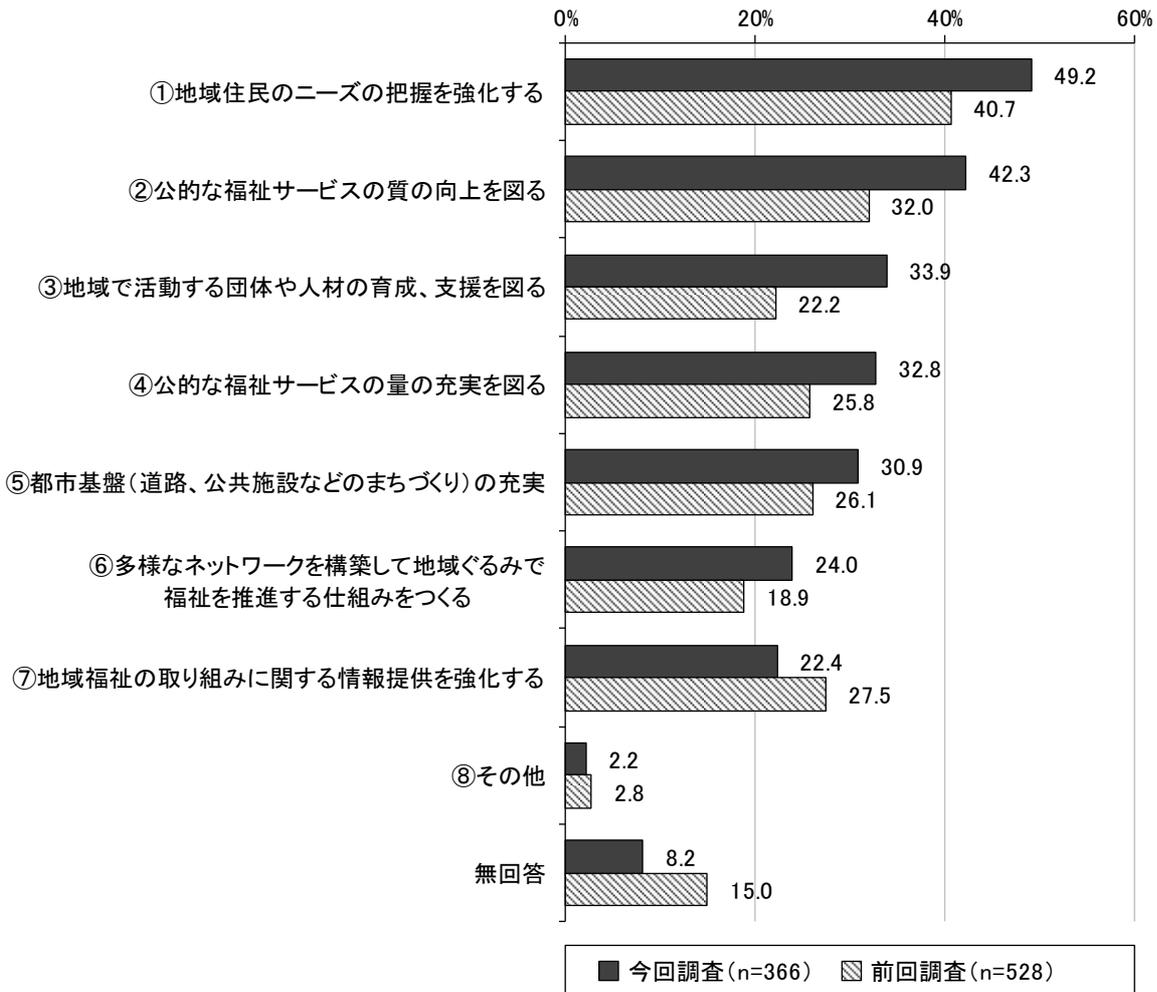
地域行事等への参加状況別にみると、すべての区分で「①地域の人々の課題を共有する」が最も高くなっています。

| 単位：% | | ①地域の人々の課題を共有する | ②より多くの人に地域や福祉に関する情報を広める | ③地域で活動できる組織体制を整備する | ④地域で活動する人材を育てる | ⑤個人と市役所の間で双方の意向の調整を図る | ⑥地域で活動する団体間の連携を深める | ⑦その他 |
|------------|-------------------|----------------|-------------------------|--------------------|----------------|-----------------------|--------------------|------|
| 全体 (n=366) | | 41.8 | 34.2 | 30.6 | 26.8 | 23.0 | 14.5 | 1.6 |
| 年齢別 | 18～29歳 (n=25) | 40.0 | 40.0 | 20.0 | 20.0 | 24.0 | 32.0 | 8.0 |
| | 30～39歳 (n=37) | 40.5 | 32.4 | 27.0 | 32.4 | 18.9 | 8.1 | 0.0 |
| | 40～49歳 (n=52) | 34.6 | 36.5 | 32.7 | 28.8 | 25.0 | 21.2 | 1.9 |
| | 50～59歳 (n=55) | 41.8 | 38.2 | 34.5 | 27.3 | 14.5 | 12.7 | 0.0 |
| | 60～64歳 (n=25) | 40.0 | 40.0 | 40.0 | 24.0 | 40.0 | 12.0 | 0.0 |
| | 65～69歳 (n=31) | 41.9 | 19.4 | 29.0 | 25.8 | 12.9 | 9.7 | 3.2 |
| | 70～74歳 (n=43) | 58.1 | 34.9 | 41.9 | 32.6 | 20.9 | 11.6 | 2.3 |
| | 75～79歳 (n=41) | 43.9 | 29.3 | 24.4 | 22.0 | 19.5 | 12.2 | 0.0 |
| | 80歳以上 (n=46) | 37.0 | 34.8 | 23.9 | 23.9 | 32.6 | 13.0 | 0.0 |
| の地域参加状況等別へ | よく参加している (n=45) | 53.3 | 40.0 | 33.3 | 20.0 | 33.3 | 22.2 | 0.0 |
| | 時々参加している (n=90) | 44.4 | 27.8 | 38.9 | 23.3 | 21.1 | 14.4 | 2.2 |
| | あまり参加していない (n=97) | 41.2 | 37.1 | 32.0 | 35.1 | 19.6 | 13.4 | 2.1 |
| | 全く参加していない (n=99) | 37.4 | 36.4 | 20.2 | 26.3 | 26.3 | 12.1 | 2.0 |

(3) 公助（あてはまるものすべてに○）

「①地域住民のニーズの把握を強化する」が49.2%と最も高く、次いで「②公的な福祉サービスの質の向上を図る」が42.3%、「③地域で活動する団体や人材の育成、支援を図る」が33.9%となっています。

前回調査との比較では、「⑦地域福祉の取り組みに関する情報提供を強化する」が5.1ポイント減少しています。また、「⑤都市基盤（道路、公共施設などのまちづくり）の充実」を除く項目で5.0ポイント以上増加しており、特に「②公的な福祉サービスの質の向上を図る」「③地域で活動する団体や人材の育成、支援を図る」で10.0ポイント以上となっています。



※前回調査の選択肢：⑤は「都市基盤（道路、公共施設などのまちづくり）やサービス提供基盤の充実」

年齢別にみると、《40～49歳》では「①地域住民のニーズの把握を強化する」「②公的な福祉サービスの質の向上を図る」、《60～64歳》では「②公的な福祉サービスの質の向上を図る」、《80歳以上》では「②公的な福祉サービスの質の向上を図る」「③地域で活動する団体や人材の育成、支援を図る」、その他の区分では「①地域住民のニーズの把握を強化する」が最も高くなっています。

地域行事等への参加状況別にみると、《全く参加していない》では「①地域住民のニーズの把握を強化する」「②公的な福祉サービスの質の向上を図る」、その他の区分では「①地域住民のニーズの把握を強化する」が最も高くなっています。

| 単位：% | | ①地域住民のニーズの把握を強化する | ②公的な福祉サービスの質の向上を図る | ③地域で活動する団体や人材の育成、支援を図る | ④公的な福祉サービスの量の充実に図る | ⑤都市基盤（道路、公共施設などのまちづくり）の充実 | ⑥多様なネットワークを構築して地域ぐるみで福祉を推進する仕組みをつくる | ⑦地域福祉の取り組みに関する情報提供を強化する |
|------------|-------------------|-------------------|--------------------|------------------------|--------------------|---------------------------|-------------------------------------|-------------------------|
| 全体 (n=366) | | 49.2 | 42.3 | 33.9 | 32.8 | 30.9 | 24.0 | 22.4 |
| 年齢別 | 18～29歳 (n=25) | 48.0 | 40.0 | 12.0 | 36.0 | 40.0 | 24.0 | 16.0 |
| | 30～39歳 (n=37) | 59.5 | 37.8 | 32.4 | 35.1 | 37.8 | 21.6 | 18.9 |
| | 40～49歳 (n=52) | 44.2 | 44.2 | 36.5 | 36.5 | 38.5 | 26.9 | 19.2 |
| | 50～59歳 (n=55) | 49.1 | 43.6 | 36.4 | 40.0 | 41.8 | 36.4 | 32.7 |
| | 60～64歳 (n=25) | 56.0 | 76.0 | 32.0 | 56.0 | 44.0 | 28.0 | 32.0 |
| | 65～69歳 (n=31) | 54.8 | 51.6 | 35.5 | 35.5 | 22.6 | 9.7 | 19.4 |
| | 70～74歳 (n=43) | 65.1 | 37.2 | 39.5 | 25.6 | 20.9 | 27.9 | 27.9 |
| | 75～79歳 (n=41) | 46.3 | 31.7 | 34.1 | 19.5 | 22.0 | 19.5 | 17.1 |
| | 80歳以上 (n=46) | 28.3 | 34.8 | 34.8 | 23.9 | 17.4 | 10.9 | 15.2 |
| 地域の参加状況等別 | よく参加している (n=45) | 51.1 | 37.8 | 48.9 | 31.1 | 26.7 | 20.0 | 28.9 |
| | 時々参加している (n=90) | 48.9 | 45.6 | 42.2 | 38.9 | 28.9 | 28.9 | 17.8 |
| | あまり参加していない (n=97) | 57.7 | 46.4 | 30.9 | 28.9 | 28.9 | 24.7 | 23.7 |
| | 全く参加していない (n=99) | 40.4 | 40.4 | 26.3 | 32.3 | 37.4 | 21.2 | 25.3 |

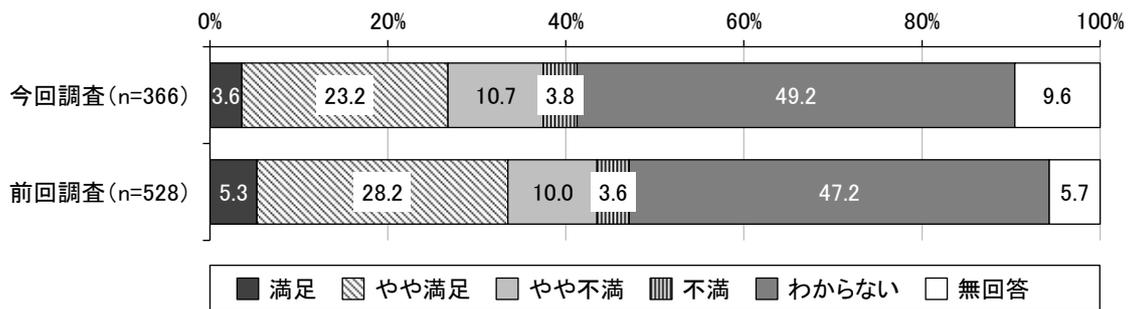
9 袖ヶ浦市の地域福祉の取組について

問34 あなたは、これまでの袖ヶ浦市における福祉施策の取り組みについて、総合的にみるとどの程度満足されていますか。(〇は1つだけ)

「わからない」が49.2%と最も高く、次いで「やや満足」が23.2%、「やや不満」が10.7%となっています。

前回調査との比較では、『満足』（「満足」と「やや満足」の合計）が6.7ポイント減少しています。

年齢別にみると、すべての区分で「わからない」が最も高くなっています。

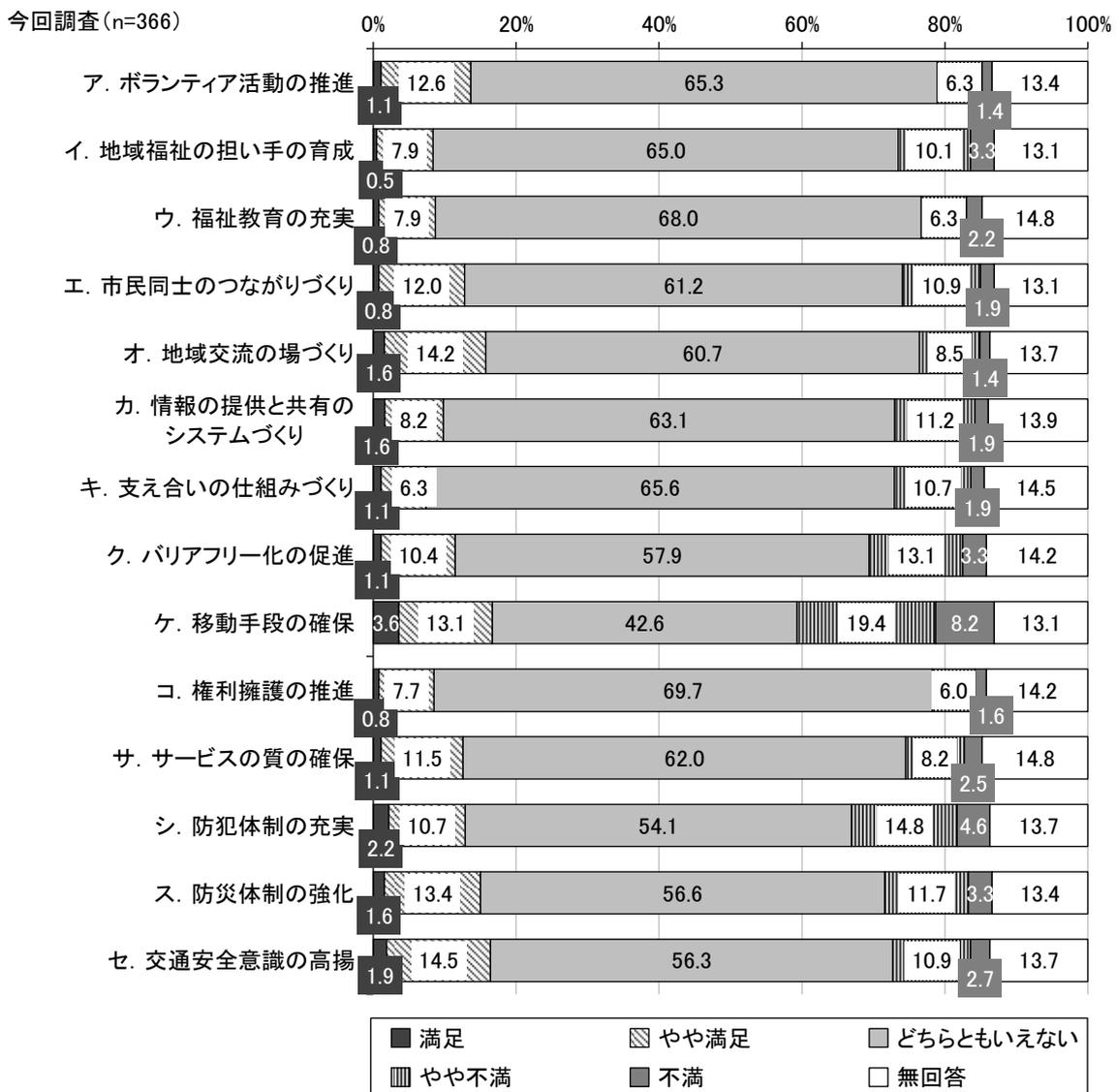


| 単位: % | | 満足 | やや満足 | やや不満 | 不満 | わからない | 無回答 |
|------------|---------------|-----|------|------|-----|-------|------|
| 全体 (n=366) | | 3.6 | 23.2 | 10.7 | 3.8 | 49.2 | 9.6 |
| 年齢別 | 18～29歳 (n=25) | 8.0 | 16.0 | 8.0 | 0.0 | 52.0 | 16.0 |
| | 30～39歳 (n=37) | 5.4 | 27.0 | 5.4 | 2.7 | 48.6 | 10.8 |
| | 40～49歳 (n=52) | 1.9 | 15.4 | 9.6 | 7.7 | 55.8 | 9.6 |
| | 50～59歳 (n=55) | 1.8 | 18.2 | 10.9 | 5.5 | 54.5 | 9.1 |
| | 60～64歳 (n=25) | 0.0 | 16.0 | 28.0 | 4.0 | 52.0 | 0.0 |
| | 65～69歳 (n=31) | 0.0 | 32.3 | 12.9 | 3.2 | 45.2 | 6.5 |
| | 70～74歳 (n=43) | 4.7 | 25.6 | 9.3 | 2.3 | 51.2 | 7.0 |
| | 75～79歳 (n=41) | 2.4 | 29.3 | 14.6 | 0.0 | 39.0 | 14.6 |
| | 80歳以上 (n=46) | 6.5 | 30.4 | 4.3 | 2.2 | 45.7 | 10.9 |

問35 現行の「袖ヶ浦市地域福祉計画」における主要施策（以下のア～セ）に対する、①現状の満足度と②今後の地域福祉推進における重要度について、5段階の評価をおうかがいします。
 （それぞれ〇は1つだけ）

① 満足度

すべての項目で「どちらともいえない」が最も高く、〔ケ. 移動手段の確保〕を除いた項目で5割以上となっています。また、『満足』（「満足」と「やや満足」の合計）、『不満』（「やや不満」と「不満」の合計）では〔ケ. 移動手段の確保〕がそれぞれ16.7%、27.6%と最も高くなっています。次いで、『満足』では〔セ. 交通安全意識の高揚〕が16.4%、〔オ. 地域交流の場づくり〕が15.8%、『不満』では〔シ. 防犯体制の充実〕が19.4%、〔ク. バリアフリー化の促進〕が16.4%となっています。

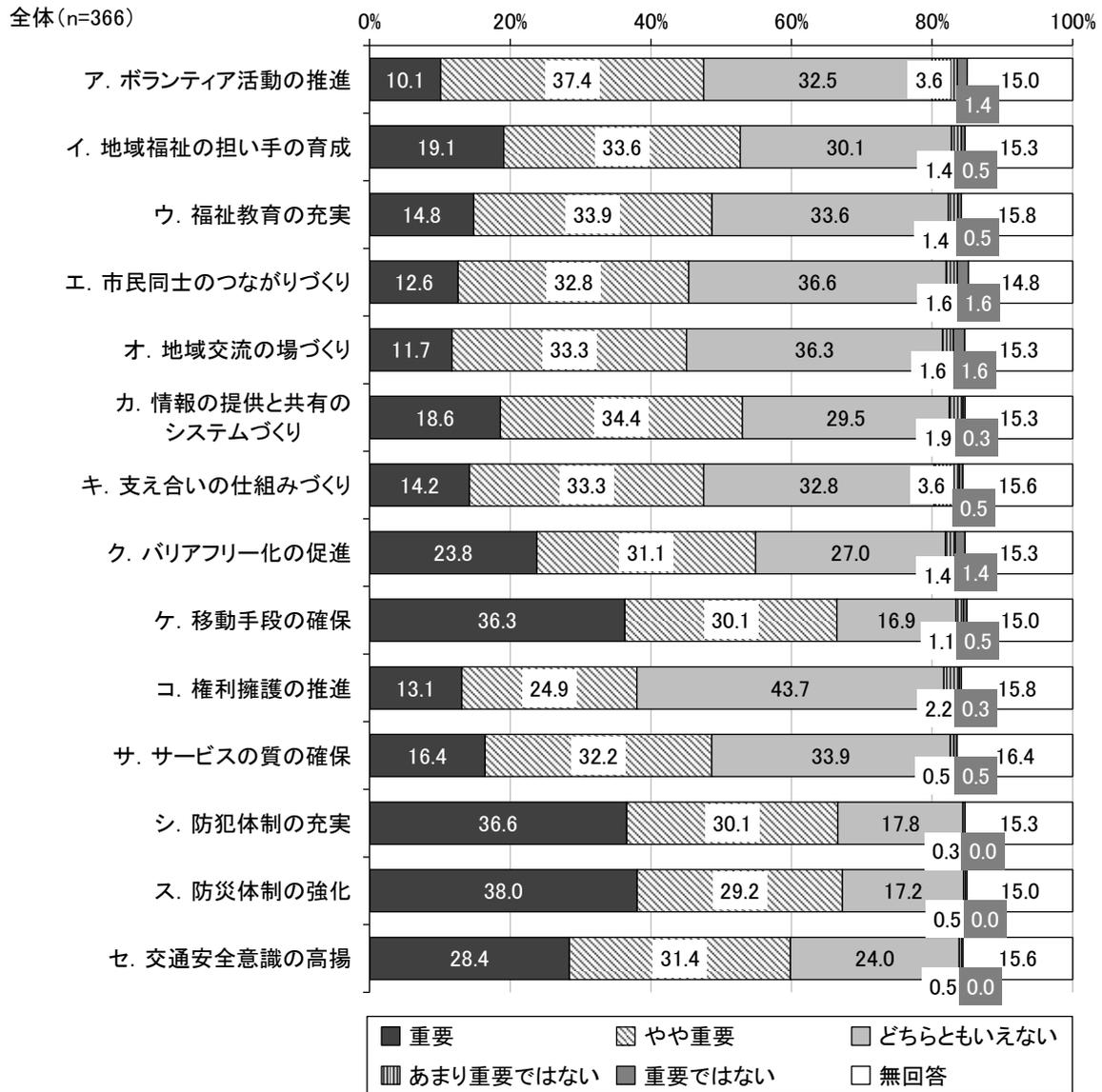


前回調査との比較では、『満足』において〔ケ. 移動手段の確保〕が 5.9 ポイント増加しています。一方、『不満』においては、特に大きな違いはみられません。

| | 今回調査 | | 前回調査 | | 前回との差 | |
|---------------------|------------|------------|------------|------------|-------|------|
| | 『満足』 合計 | 『不満』 合計 | 『満足』 合計 | 『不満』 合計 | 『満足』 | 『不満』 |
| ア. ボランティア活動の推進 | 13.7 | 7.7 | 12.1 | 6.1 | 1.6 | 1.6 |
| イ. 地域福祉の担い手の育成 | 8.4 | 13.4 | 7.6 | 10.0 | 0.8 | 3.4 |
| ウ. 福祉教育の充実 | 8.7 | 8.5 | 10.8 | 7.0 | -2.1 | 1.5 |
| エ. 市民同士のつながりづくり | 12.8 | 12.8 | 10.6 | 13.1 | 2.2 | -0.3 |
| オ. 地域交流の場づくり | 15.8 | 9.9 | 12.5 | 10.2 | 3.3 | -0.3 |
| カ. 情報の提供と共有のシステムづくり | 9.8 | 13.1 | 10.4 | 11.3 | -0.6 | 1.8 |
| キ. 支え合いの仕組みづくり | 7.4 | 12.6 | 7.2 | 9.8 | 0.2 | 2.8 |
| ク. バリアフリー化の促進 | 11.5 | 16.4 | 13.8 | 17.4 | -2.3 | -1.0 |
| ケ. 移動手段の確保 | 16.7 | 27.6 | 10.8 | 31.6 | 5.9 | -4.0 |
| コ. 権利擁護の推進 | 8.5 | 7.6 | 4.6 | 7.7 | 3.9 | -0.1 |
| サ. サービスの質の確保 | 12.6 | 10.7 | 9.8 | 10.2 | 2.8 | 0.5 |
| シ. 防犯体制の充実 | 12.9 | 19.4 | 12.7 | 15.5 | 0.2 | 3.9 |
| ス. 防災体制の強化 | 15.0 | 15.0 | 13.2 | 14.6 | 1.8 | 0.4 |
| セ. 交通安全意識の高揚 | 16.4 | 13.6 | 15.1 | 13.1 | 1.3 | 0.5 |

② 重要度

概ねすべての項目で、『重要』（「重要」と「やや重要」の合計）が高く、〔コ. 権利擁護の推進〕を除いた項目で4割以上となっています。また、『重要』では〔ス. 防災体制の強化〕が67.2%と最も高く、次いで〔シ. 防犯体制の充実〕が66.7%、〔ケ. 移動手段の確保〕が66.4%となっています。一方、『重要ではない』（「あまり重要ではない」と「重要ではない」の合計）ではすべての項目で1割未満となっています。



前回調査との比較では、『重要』において〔ク. バリアフリー化の促進〕を除くすべての項目で増加しており、14項目中9項目で5ポイント以上の増加となっています。特に〔コ. 権利擁護の推進〕で10.0ポイント高くなっています。一方、『重要でない』においては、特に大きな違いはみられません。

| | 今回調査 | | 前回調査 | | 前回との差 | |
|---------------------|------------|---------------|------------|---------------|-------|---------|
| | 『重要』 合計 | 『重要でない』 合計 | 『重要』 合計 | 『重要でない』 合計 | 『重要』 | 『重要でない』 |
| ア. ボランティア活動の推進 | 47.5 | 5.0 | 42.5 | 3.4 | 5.0 | 1.6 |
| イ. 地域福祉の担い手の育成 | 52.7 | 1.9 | 49.5 | 1.4 | 3.2 | 0.5 |
| ウ. 福祉教育の充実 | 48.7 | 1.9 | 46.1 | 1.2 | 2.6 | 0.7 |
| エ. 市民同士のつながりづくり | 45.4 | 3.2 | 41.3 | 3.3 | 4.1 | -0.1 |
| オ. 地域交流の場づくり | 45.0 | 3.2 | 39.4 | 3.2 | 5.6 | 0.0 |
| カ. 情報の提供と共有のシステムづくり | 53.0 | 2.2 | 47.2 | 1.5 | 5.8 | 0.7 |
| キ. 支え合いの仕組みづくり | 47.5 | 4.1 | 41.5 | 2.9 | 6.0 | 1.2 |
| ク. バリアフリー化の促進 | 54.9 | 2.8 | 55.1 | 2.5 | -0.2 | 0.3 |
| ケ. 移動手段の確保 | 66.4 | 1.6 | 59.3 | 2.3 | 7.1 | -0.7 |
| コ. 権利擁護の推進 | 38.0 | 2.5 | 28.0 | 3.8 | 10.0 | -1.3 |
| サ. サービスの質の確保 | 48.6 | 1.0 | 43.6 | 1.7 | 5.0 | -0.7 |
| シ. 防犯体制の充実 | 66.7 | 0.3 | 60.6 | 1.1 | 6.1 | -0.8 |
| ス. 防災体制の強化 | 67.2 | 0.5 | 63.4 | 0.8 | 3.8 | -0.3 |
| セ. 交通安全意識の高揚 | 59.8 | 0.5 | 54.5 | 1.3 | 5.3 | -0.8 |

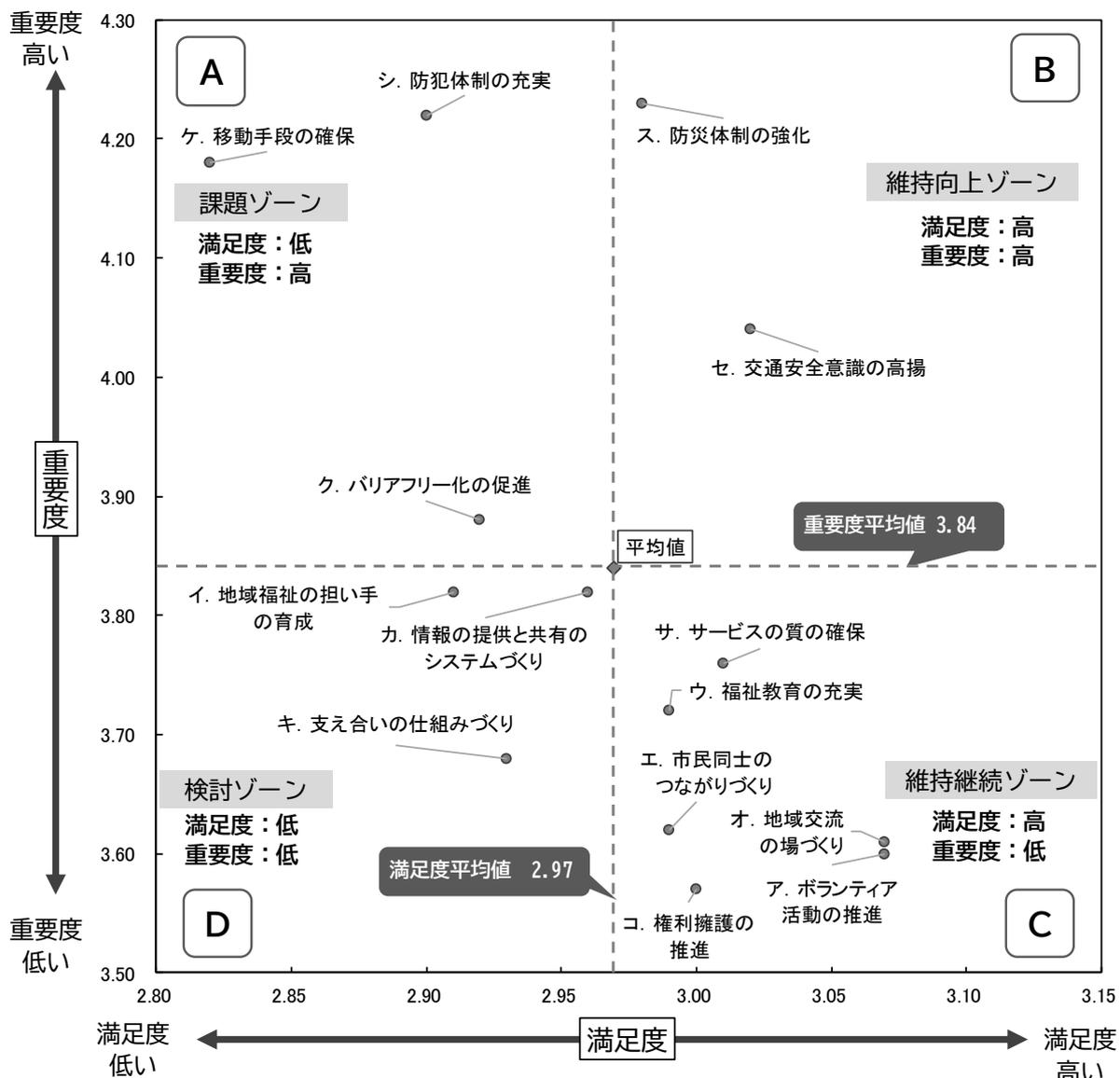
■主要施策のプロット図

地域福祉計画の主要施策の満足度と重要度について、前述しているような割合でみるのとは別に、主要施策の位置関係を明確にするため、評価点の算出を行いました。評価点の算出は、以下の計算式にあるように、回答へそれぞれ点数を与えて算出するものです。

$$\text{評価点} = \frac{\begin{array}{l} \text{「満足」/「重要」の回答者数} \quad \times 5 \text{点} \\ + \text{「やや満足」/「やや重要」の回答者数} \quad \times 4 \text{点} \\ + \text{「どちらともいえない」の回答者数} \quad \times 3 \text{点} \\ + \text{「やや不満」/「あまり重要ではない」の回答者数} \quad \times 2 \text{点} \\ + \text{「不満」/「重要ではない」の回答者数} \quad \times 1 \text{点} \end{array}}{\text{回答者数} - \text{無回答者数}}$$

この算出方法では、評価点は5.00点～1.00点の間に分布し、点数が高いほど満足度又は重要度は高く、逆に、点数が低いほど満足度又は重要度は低くなります。

満足度・重要度の評価点の関係性を、縦軸と横軸にプロットした結果が以下の図となります。



満足度・重要度それぞれの平均値を基準にして、相対的に4つのゾーンにゾーニングしました。

- (A) 課題ゾーン・・・満足度は平均値以下だが、重要度が平均値以上の施策
- (B) 維持向上ゾーン・・・満足度・重要度ともに平均値以上の施策
- (C) 維持継続ゾーン・・・満足度は平均値以上だが、重要度が平均値以下の施策
- (D) 検討ゾーン・・・満足度・重要度ともに平均値以下の施策

それぞれのゾーンに当てはまる施策は、以下のとおりです。

| ゾーン名 | 施 策 |
|-------------------------------|---|
| (A) 課題ゾーン 満足度：低 重要度：高 | ク．バリアフリー化の促進 ケ．移動手段の確保 シ．防犯体制の充実 |
| (B) 維持向上ゾーン 満足度：高 重要度：高 | ス．防災体制の強化 セ．交通安全意識の高揚 |
| (C) 維持継続ゾーン 満足度：高 重要度：低 | ア．ボランティア活動の推進 ウ．福祉教育の充実 エ．市民同士のつながりづくり オ．地域交流の場づくり コ．権利擁護の推進 サ．サービスの質の確保 |
| (D) 検討ゾーン 満足度：低 重要度：低 | イ．地域福祉の担い手の育成 カ．情報の提供と共有のシステムづくり キ．支え合いの仕組みづくり |

(A) 課題ゾーンに該当する3つの施策については、重要度が高い一方で、満足度が低いことから、今後はより力を入れていくべき施策となります。特に〔ケ．移動手段の確保〕は満足度の評価点が低く、満足度の向上に向けた取組が必要と考えられます。

(B) 維持向上ゾーン、及び(C) 維持検討ゾーンに該当する8つの施策については、今後も引き続き満足度の向上を目指していくべき施策となります。特に、(B) 維持向上ゾーンに該当する〔ス．防災体制の強化〕と〔セ．交通安全意識の高揚〕は、市民が重要だと思える施策に対して、一定の評価が得られていると考えられます。ただし、2施策とも満足度の評価点としては5段階評価の中間である3.00点付近であることから、満足度がより向上するよう市民のニーズに応じていく必要があります。

(D) 検討ゾーンの3施策のうち〔カ．情報の提供と共有のシステムづくり〕については、満足度がわずかに平均値を下回っていることから、(C) 維持継続ゾーンに近いとも考えられますが、〔イ．地域福祉の担い手の育成〕〔キ．支え合いの仕組みづくり〕の施策も含め、今後の地域福祉を推し進めていくにあたっては重要な取組となるため、満足度の向上のみならず、市民にとって重要であると感じてもらえるよう取り組む必要があると考えられます。

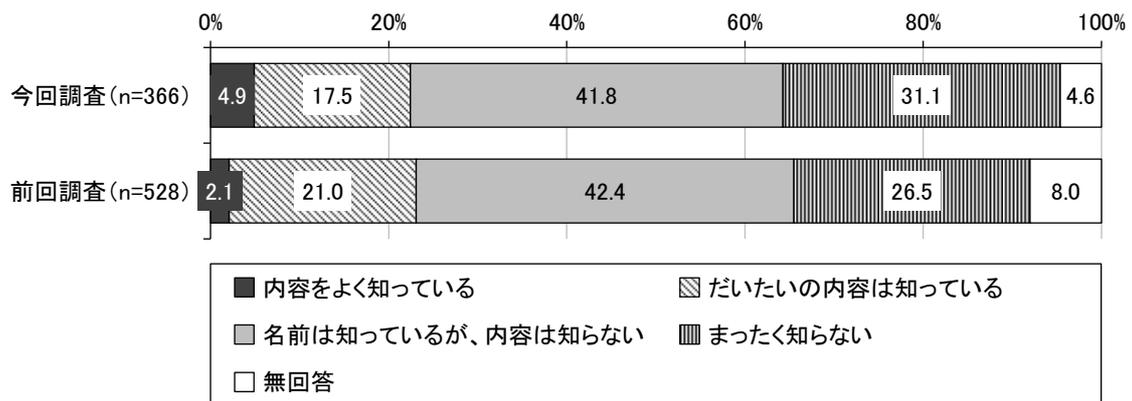
10 地域福祉の推進について

問36 地域福祉の推進において、中心的役割を担っている社会福祉協議会の活動を知っていますか。(〇は1つだけ)

「名前は知っているが、内容は知らない」が41.8%と最も高く、次いで「まったく知らない」が31.1%、「だいたいの内容は知っている」が17.5%となっています。

前回調査との比較では、特に大きな違いはみられません。

居住地区別にみると、《中川・富岡地区》では「まったく知らない」、その他の区分では「名前は知っているが、内容は知らない」が最も高くなっています。



| 単位: % | | 内容をよく知っている | だいたいの内容は知っている | 名前は知っているが、内容は知らない | まったく知らない | 無回答 |
|------------|----------------|------------|---------------|-------------------|----------|-----|
| 全体 (n=366) | | 4.9 | 17.5 | 41.8 | 31.1 | 4.6 |
| 居住地区別 | 昭和地区 (n=108) | 4.6 | 23.1 | 38.0 | 29.6 | 4.6 |
| | 長浦地区 (n=156) | 4.5 | 15.4 | 39.7 | 35.9 | 4.5 |
| | 根形地区 (n=31) | 3.2 | 12.9 | 58.1 | 19.4 | 6.5 |
| | 平岡地区 (n=31) | 3.2 | 9.7 | 58.1 | 19.4 | 9.7 |
| | 中川・富岡地区 (n=29) | 10.3 | 24.1 | 31.0 | 34.5 | 0.0 |

年齢別にみると、《18～49歳》では「まったく知らない」、《50歳以上》では「名前は知っているが、内容は知らない」が最も高くなっています。

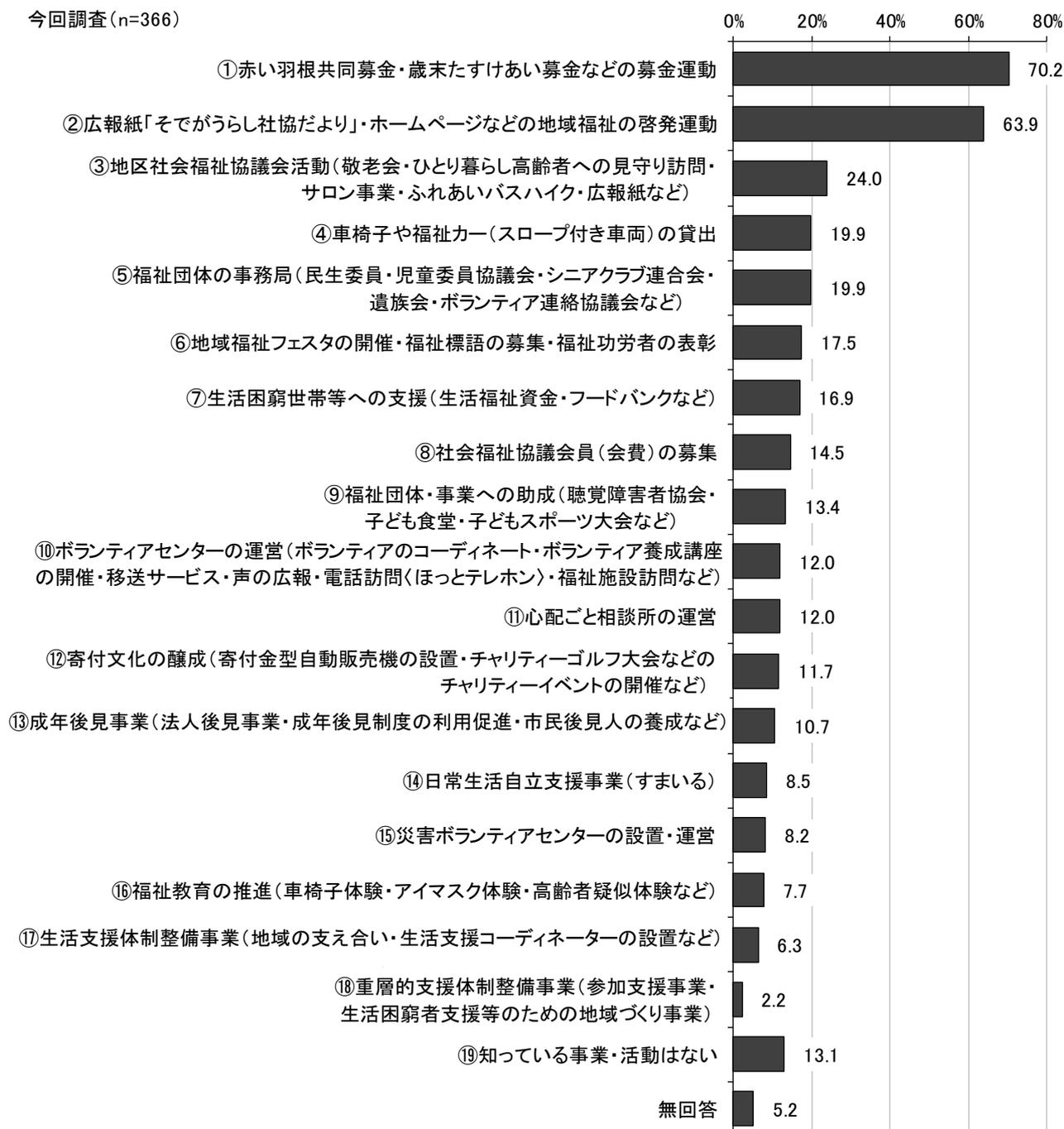
隣近所とのつきあい方別にみると、《さしさわりのないことなら、話せる相手がいる》《道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる》では「名前は知っているが、内容は知らない」、《ほとんど近所づきあいをしない》では「まったく知らない」が最も高くなっています。

| 単位：% | | 内容をよく知っている | だいたいの内容は知っている | 名前は知っているが、内容は知らない | まったく知らない | 無回答 |
|-------------|--------------------|------------|---------------|-------------------|----------|------|
| 全体 (n=366) | | 4.9 | 17.5 | 41.8 | 31.1 | 4.6 |
| 年齢別 | 18～29歳 (n=25) | 4.0 | 0.0 | 28.0 | 64.0 | 4.0 |
| | 30～39歳 (n=37) | 0.0 | 8.1 | 37.8 | 54.1 | 0.0 |
| | 40～49歳 (n=52) | 1.9 | 17.3 | 32.7 | 48.1 | 0.0 |
| | 50～59歳 (n=55) | 7.3 | 12.7 | 45.5 | 30.9 | 3.6 |
| | 60～64歳 (n=25) | 0.0 | 32.0 | 40.0 | 28.0 | 0.0 |
| | 65～69歳 (n=31) | 3.2 | 22.6 | 54.8 | 16.1 | 3.2 |
| | 70～74歳 (n=43) | 4.7 | 25.6 | 51.2 | 14.0 | 4.7 |
| | 75～79歳 (n=41) | 7.3 | 24.4 | 51.2 | 12.2 | 4.9 |
| | 80歳以上 (n=46) | 10.9 | 17.4 | 32.6 | 19.6 | 19.6 |
| 隣近所とのつきあい方別 | 個人的なことを相談 (n=24) | 16.7 | 8.3 | 33.3 | 37.5 | 4.2 |
| | さしさわりのないこと (n=124) | 6.5 | 27.4 | 37.9 | 21.8 | 6.5 |
| | あいさつをする程度 (n=130) | 3.1 | 14.6 | 45.4 | 33.8 | 3.1 |
| | ほとんどしない (n=41) | 0.0 | 7.3 | 41.5 | 48.8 | 2.4 |

※n値が25人未満の区分は、人数が少ないので参考として図示し、コメント対象外としている。

問37 社会福祉協議会の主な事業・活動には、以下のようなものがあります。これらのうち、あなたが知っているものはありますか。(あてはまるものすべてに○)

「①赤い羽根共同募金・歳末たすけあい募金などの募金運動」が70.2%と最も高く、次いで「②広報紙『そでがうらし社協だより』・ホームページなどの地域福祉の啓発運動」が63.9%、「③地区社会福祉協議会活動(敬老会・ひとり暮らし高齢者への見守り訪問・サロン事業・ふれあいバスハイク・広報紙など)」が24.0%となっています。



居住地区別にみると、《中川・富岡地区》では「②広報紙『そでがうらし社協だより』・ホームページなどの地域福祉の啓発運動」、その他の区分では「①赤い羽根共同募金・歳末たすけあい募金などの募金運動」が最も高くなっています。

年齢別にみると、《50～59歳》では「①赤い羽根共同募金・歳末たすけあい募金などの募金運動」「②広報紙『そでがうらし社協だより』・ホームページなどの地域福祉の啓発運動」、《80歳以上》では「②広報紙『そでがうらし社協だより』・ホームページなどの地域福祉の啓発運動」、その他の区分では「①赤い羽根共同募金・歳末たすけあい募金などの募金運動」が最も高くなっています。

隣近所とのつきあい方別にみると、《さしさわりのないことなら、話せる相手がいる》《道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる》《ほとんど近所づきあいをしない》では「①赤い羽根共同募金・歳末たすけあい募金などの募金運動」が最も高くなっています。

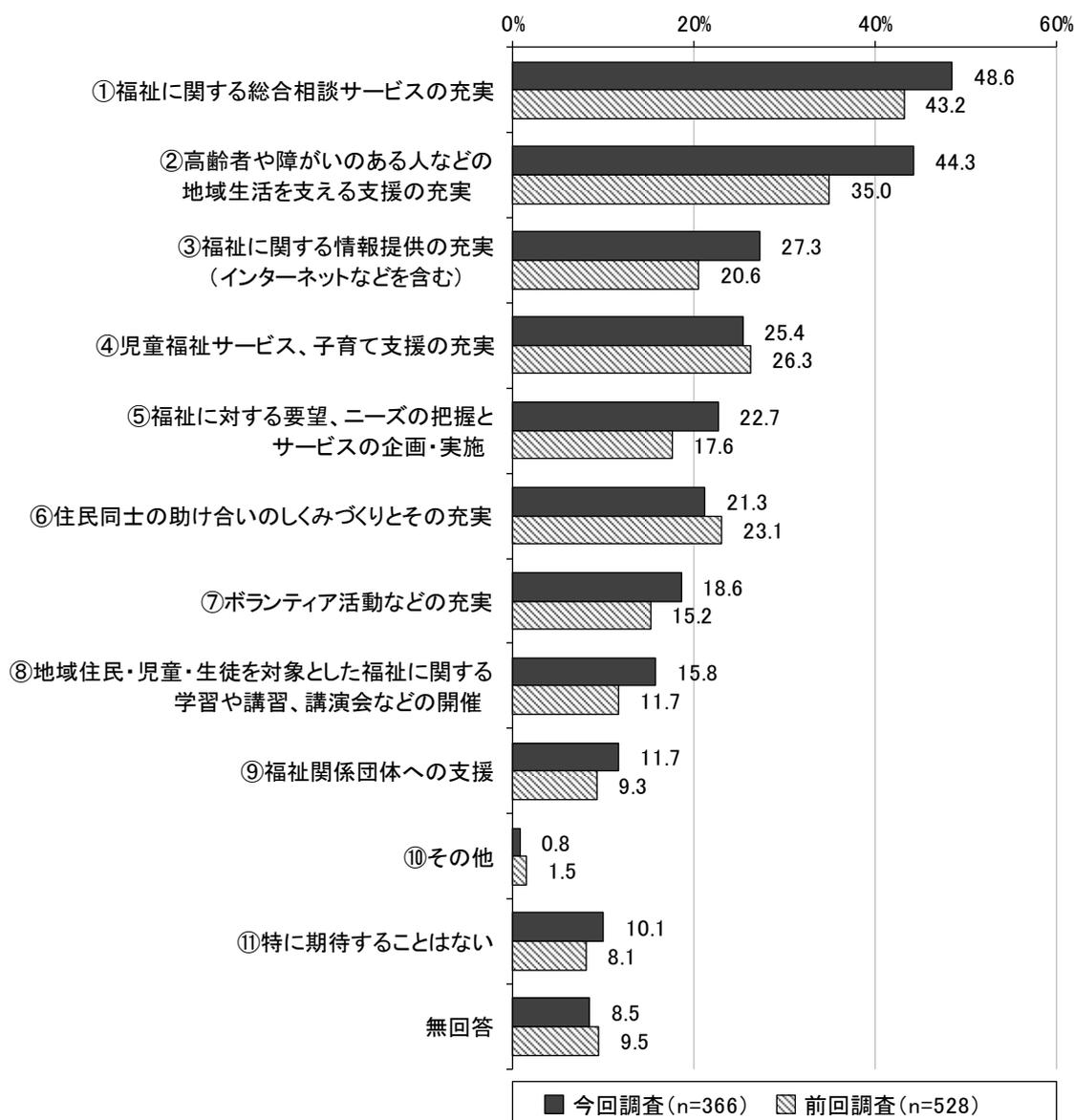
| 単位：% | | ①赤い羽根共同募金・歳末たすけあい募金などの募金運動 | ②広報紙「そでがうらし社協だより」・ホームページなどの地域福祉の啓発運動 | ③地区社会福祉協議会活動 | ④車椅子や福祉カー（スロープ付き車両）の貸出 | ⑤福祉団体の事務局 | ⑥地域福祉フェスタの開催・福祉標語の募集・福祉功労者の表彰 | ⑦生活困窮世帯等への支援 |
|-------------|--------------------|----------------------------|--------------------------------------|--------------|------------------------|-----------|-------------------------------|--------------|
| 全体 (n=366) | | 70.2 | 63.9 | 24.0 | 19.9 | 19.9 | 17.5 | 16.9 |
| 居住地区別 | 昭和地区 (n=108) | 62.0 | 59.3 | 17.6 | 20.4 | 19.4 | 14.8 | 14.8 |
| | 長浦地区 (n=156) | 71.2 | 62.8 | 25.6 | 19.9 | 16.7 | 14.7 | 18.6 |
| | 根形地区 (n=31) | 80.6 | 77.4 | 29.0 | 16.1 | 19.4 | 29.0 | 19.4 |
| | 平岡地区 (n=31) | 77.4 | 61.3 | 22.6 | 19.4 | 16.1 | 16.1 | 9.7 |
| | 中川・富岡地区 (n=29) | 75.9 | 79.3 | 37.9 | 27.6 | 41.4 | 27.6 | 24.1 |
| 年齢別 | 18～29歳 (n=25) | 60.0 | 28.0 | 4.0 | 16.0 | 8.0 | 0.0 | 8.0 |
| | 30～39歳 (n=37) | 45.9 | 37.8 | 0.0 | 13.5 | 5.4 | 10.8 | 13.5 |
| | 40～49歳 (n=52) | 57.7 | 50.0 | 9.6 | 13.5 | 17.3 | 9.6 | 17.3 |
| | 50～59歳 (n=55) | 70.9 | 70.9 | 20.0 | 16.4 | 14.5 | 18.2 | 14.5 |
| | 60～64歳 (n=25) | 92.0 | 80.0 | 32.0 | 40.0 | 28.0 | 24.0 | 28.0 |
| | 65～69歳 (n=31) | 80.6 | 74.2 | 32.3 | 22.6 | 25.8 | 29.0 | 16.1 |
| | 70～74歳 (n=43) | 83.7 | 76.7 | 44.2 | 18.6 | 37.2 | 30.2 | 27.9 |
| | 75～79歳 (n=41) | 85.4 | 82.9 | 36.6 | 31.7 | 24.4 | 22.0 | 14.6 |
| | 80歳以上 (n=46) | 63.0 | 69.6 | 37.0 | 19.6 | 17.4 | 10.9 | 15.2 |
| 隣近所とのつきあい方別 | 個人的なことを相談 (n=24) | 79.2 | 83.3 | 29.2 | 25.0 | 25.0 | 25.0 | 20.8 |
| | さしさわりのないこと (n=124) | 78.2 | 76.6 | 31.5 | 17.7 | 25.8 | 22.6 | 21.0 |
| | あいさつをする程度 (n=130) | 70.0 | 57.7 | 20.0 | 23.8 | 15.4 | 13.8 | 16.2 |
| | ほとんどしない (n=41) | 48.8 | 43.9 | 12.2 | 9.8 | 12.2 | 14.6 | 7.3 |

※n値が25人未満の区分は、人数が少ないので参考として図示し、コメント対象外としている。

問38 社会福祉協議会にどのようなことを期待しますか。(あてはまるものすべてに○)

「①福祉に関する総合相談サービスの充実」が48.6%と最も高く、次いで「②高齢者や障がいのある人などの地域生活を支える支援の充実」が44.3%、「③福祉に関する情報提供の充実（インターネットなどを含む）」が27.3%となっています。

前回調査との比較では、選択肢の数に違いがあるため単純に比較できませんが、同一項目で見ると、「②高齢者や障がいのある人などの地域生活を支える支援の充実」が9.3ポイント、「③福祉に関する情報提供の充実（インターネットなどを含む）」が6.7ポイント、「①福祉に関する総合相談サービスの充実」が5.4ポイント、「⑤福祉に対する要望、ニーズの把握とサービスの企画・実施」が5.1ポイント増加しています。



※前回調査の選択肢：②は「高齢者や障がいのある人などが、地域で生活するための自立支援」
 ⑦は「地域住民・児童・生徒を対象とした福祉教育、ボランティア活動などの充実」
 ⑧は「福祉に関する学習や講習、講演会などの開催」

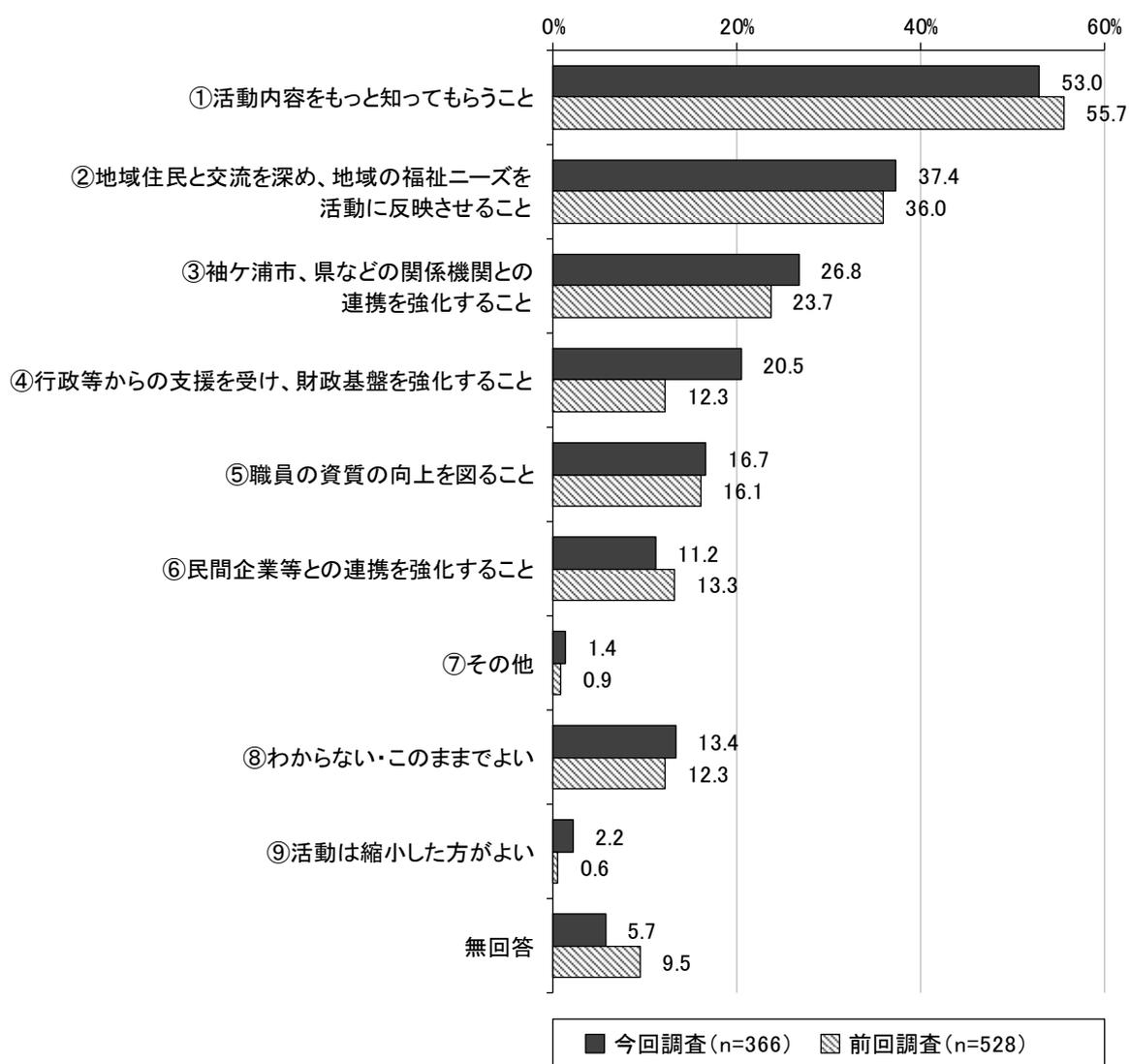
居住地区別にみると、《長浦地区》では「②高齢者や障がいのある人などの地域生活を支える支援の充実」、その他の区分では「①福祉に関する総合相談サービスの充実」が最も高くなっています。

| 単位：% | | ①福祉に関する総合相談サービスの充実 | ②高齢者や障がいのある人などの地域生活を支える支援の充実 | ③福祉に関する情報提供の充実（インターネットなどを含む） | ④児童福祉サービス、子育て支援の充実 | ⑤福祉に対する要望、ニーズの把握とサービスの企画・実施 | ⑥住民同士の助け合いのしくみづくりとその充実 | ⑦ボランティア活動などの充実 |
|-----------|---------------|--------------------|------------------------------|------------------------------|--------------------|-----------------------------|------------------------|----------------|
| 全体(n=366) | | 48.6 | 44.3 | 27.3 | 25.4 | 22.7 | 21.3 | 18.6 |
| 居住地区別 | 昭和地区(n=108) | 55.6 | 43.5 | 30.6 | 28.7 | 25.0 | 23.1 | 17.6 |
| | 長浦地区(n=156) | 47.4 | 50.0 | 29.5 | 26.9 | 25.0 | 21.2 | 17.9 |
| | 根形地区(n=31) | 45.2 | 29.0 | 19.4 | 19.4 | 19.4 | 25.8 | 29.0 |
| | 平岡地区(n=31) | 35.5 | 29.0 | 16.1 | 19.4 | 9.7 | 6.5 | 9.7 |
| | 中川・富岡地区(n=29) | 48.3 | 41.4 | 17.2 | 20.7 | 17.2 | 20.7 | 17.2 |

問39 社会福祉協議会の活動の充実を図る上で、あなたが重要と思われることはどのようなことですか。(〇は3つまで)

「①活動内容をもっと知ってもらうこと」が53.0%と最も高く、次いで「②地域住民と交流を深め、地域の福祉ニーズを活動に反映させること」が37.4%、「③袖ヶ浦市、県などの関係機関との連携を強化すること」が26.8%となっています。

前回調査との比較では、「④行政等からの支援を受け、財政基盤を強化すること」が8.2ポイント増加しています。



※前回調査の選択肢：②は「地域の人々と交わり、的確に地域の福祉ニーズを汲み上げて活動に反映させること」
④は「財政基盤を強化すること」

11 民生委員・児童委員について

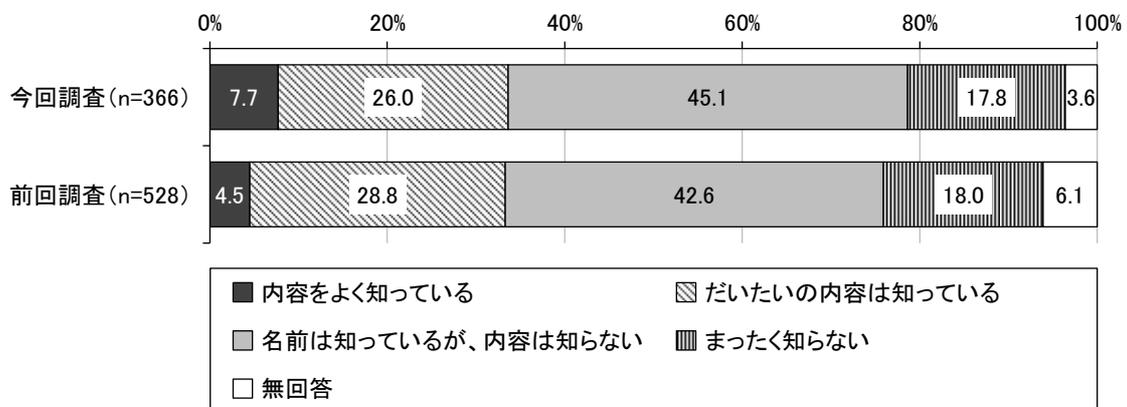
問40 あなたは民生委員・児童委員の活動を知っていますか。(〇は1つだけ)

「名前は知っているが、内容は知らない」が45.1%と最も高く、次いで「だいたいの内容は知っている」が26.0%、「まったく知らない」が17.8%となっています。

前回調査との比較では、特に大きな違いはみられません。

年齢別にみると、《18～29歳》では「まったく知らない」、《70～74歳》では「だいたいの内容は知っている」、その他の区分では「名前は知っているが、内容は知らない」が最も高くなっています。

居住年数別にみると、《1～5年未満》では「まったく知らない」、《5年以上》では「名前は知っているが、内容は知らない」が最も高くなっています。



| 単位：% | | 内容をよく知っている | だいたいの内容は知っている | 名前は知っているが、内容は知らない | まったく知らない | 無回答 |
|------------|-----------------|------------|---------------|-------------------|----------|------|
| 全体 (n=366) | | 7.7 | 26.0 | 45.1 | 17.8 | 3.6 |
| 年齢別 | 18～29歳 (n=25) | 4.0 | 4.0 | 28.0 | 60.0 | 4.0 |
| | 30～39歳 (n=37) | 2.7 | 10.8 | 43.2 | 40.5 | 2.7 |
| | 40～49歳 (n=52) | 3.8 | 23.1 | 51.9 | 21.2 | 0.0 |
| | 50～59歳 (n=55) | 7.3 | 18.2 | 56.4 | 16.4 | 1.8 |
| | 60～64歳 (n=25) | 8.0 | 44.0 | 48.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 65～69歳 (n=31) | 6.5 | 35.5 | 48.4 | 6.5 | 3.2 |
| | 70～74歳 (n=43) | 11.6 | 44.2 | 34.9 | 7.0 | 2.3 |
| | 75～79歳 (n=41) | 12.2 | 22.0 | 58.5 | 4.9 | 2.4 |
| | 80歳以上 (n=46) | 8.7 | 30.4 | 32.6 | 13.0 | 15.2 |
| 居住年数別 | 1年未満 (n=5) | 0.0 | 0.0 | 80.0 | 20.0 | 0.0 |
| | 1～5年未満 (n=32) | 3.1 | 15.6 | 28.1 | 50.0 | 3.1 |
| | 5～10年未満 (n=28) | 0.0 | 28.6 | 39.3 | 32.1 | 0.0 |
| | 10～20年未満 (n=44) | 4.5 | 9.1 | 56.8 | 27.3 | 2.3 |
| | 20年以上 (n=246) | 9.3 | 30.1 | 45.9 | 10.2 | 4.5 |

※n値が25人未満の区分は、人数が少ないので参考として図示し、コメント対象外としている。

隣近所とのつきあい方別にみると、《さしさわりのないことなら、話せる相手がいる》《道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる》《ほとんど近所づきあいをしない》では「名前は知っているが、内容は知らない」が最も高くなっています。

地域行事等への参加状況別にみると、すべての区分で「名前は知っているが、内容は知らない」が最も高くなっています。

| 単位：% | | 内容をよく知っている | だいたいの内容は知っている | 名前は知っているが、内容は知らない | まったく知らない | 無回答 |
|-------------|--------------------|------------|---------------|-------------------|----------|-----|
| 全体 (n=366) | | 7.7 | 26.0 | 45.1 | 17.8 | 3.6 |
| つきあいの方別の隣近所 | 個人的なことを相談 (n=24) | 20.8 | 12.5 | 37.5 | 25.0 | 4.2 |
| | さしさわりのないこと (n=124) | 9.7 | 34.7 | 39.5 | 12.1 | 4.0 |
| | あいさつをする程度 (n=130) | 5.4 | 25.4 | 53.1 | 13.8 | 2.3 |
| | ほとんどしない (n=41) | 0.0 | 17.1 | 41.5 | 39.0 | 2.4 |
| 地域参加状況等別へ | よく参加している (n=45) | 17.8 | 33.3 | 35.6 | 4.4 | 8.9 |
| | 時々参加している (n=90) | 13.3 | 31.1 | 43.3 | 8.9 | 3.3 |
| | あまり参加していない (n=97) | 3.1 | 30.9 | 48.5 | 17.5 | 0.0 |
| | 全く参加していない (n=99) | 3.0 | 14.1 | 45.5 | 34.3 | 3.0 |

※ n 値が 25 人未満の区分は、人数が少ないので参考として図示し、コメント対象外としている。

問41 あなたの住んでいる地域の担当の民生委員・児童委員がだれか、知っていますか。

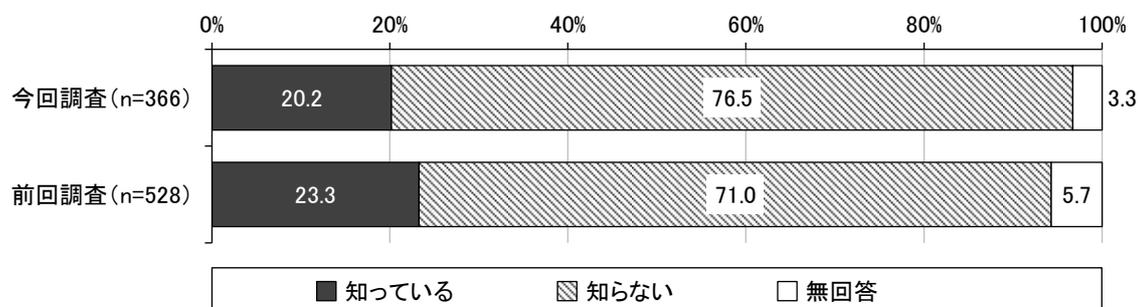
(○は1つだけ)

「知っている」が20.2%、「知らない」が76.5%となっています。

前回調査との比較では、「知らない」が5.5ポイント増加しています。

居住地区別にみると、すべての区分で「知らない」が高くなっています。

年齢別にみると、すべての区分で「知らない」が高くなっています。



| 単位: % | | 知っている | 知らない | 無回答 |
|--------------|----------------|-------|------|-----|
| 全体 (n=366) | | 20.2 | 76.5 | 3.3 |
| 居住地区別 | 昭和地区 (n=108) | 17.6 | 77.8 | 4.6 |
| | 長浦地区 (n=156) | 20.5 | 76.3 | 3.2 |
| | 根形地区 (n=31) | 6.5 | 90.3 | 3.2 |
| | 平岡地区 (n=31) | 32.3 | 64.5 | 3.2 |
| | 中川・富岡地区 (n=29) | 24.1 | 75.9 | 0.0 |
| 年齢別 | 18～29歳 (n=25) | 0.0 | 96.0 | 4.0 |
| | 30～39歳 (n=37) | 2.7 | 94.6 | 2.7 |
| | 40～49歳 (n=52) | 3.8 | 96.2 | 0.0 |
| | 50～59歳 (n=55) | 18.2 | 80.0 | 1.8 |
| | 60～64歳 (n=25) | 24.0 | 76.0 | 0.0 |
| | 65～69歳 (n=31) | 19.4 | 77.4 | 3.2 |
| | 70～74歳 (n=43) | 39.5 | 58.1 | 2.3 |
| | 75～79歳 (n=41) | 26.8 | 70.7 | 2.4 |
| 80歳以上 (n=46) | 37.0 | 50.0 | 13.0 | |

隣近所とのつきあい方別にみると、《さしさわりのないことなら、話せる相手がいる》《道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる》《ほとんど近所づきあいをしない》では「知らない」が高くなっています。

地域行事等への参加状況別にみると、《よく参加している》では「知っている」、その他の区分では「知らない」が高くなっています。

| 単位：% | | 知っている | 知らない | 無回答 |
|---|-------------------|-------|------|-----|
| 全体(n=366) | | 20.2 | 76.5 | 3.3 |
| つき 近 所 と の 方 別 | 個人的なことを相談(n=24) | 29.2 | 66.7 | 4.2 |
| | さしさわりのないこと(n=124) | 33.9 | 62.1 | 4.0 |
| | あいさつをする程度(n=130) | 13.1 | 84.6 | 2.3 |
| | ほとんどしない(n=41) | 4.9 | 92.7 | 2.4 |
| の 地 域 参 加 行 事 状 況 等 別 | よく参加している(n=45) | 48.9 | 44.4 | 6.7 |
| | 時々参加している(n=90) | 32.2 | 64.4 | 3.3 |
| | あまり参加していない(n=97) | 10.3 | 89.7 | 0.0 |
| | 全く参加していない(n=99) | 9.1 | 87.9 | 3.0 |

※n値が25人未満の区分は、人数が少ないので参考として図示し、コメント対象外としている。

12 市へのご要望・ご意見

問42 地域の支え合い、助け合い、地域福祉について、袖ヶ浦市へのご要望・ご意見等がございましたら、自由にお書きください。

自由回答は、65名の方から、合わせて70件のご要望・ご意見をいただきました。

内容の内訳は以下のとおりとなっており、「情報提供に関すること」と「市政や職員の対応などに関すること」（ともに11件）が最も多くなっています。次いで「福祉全般に関すること」（9件）、「地域インフラに関すること」と「災害・防犯対策に関すること」（ともに7件）、「高齢者福祉に関すること」と「市の財政に関すること」（ともに4件）となっており、ご要望・ご意見は様々な分野にわたっています。

| 分類項目 | 件数 |
|-------------------|-----|
| 情報提供に関すること | 11件 |
| 市政や職員の対応などに関すること | 11件 |
| 福祉全般に関すること | 9件 |
| 地域インフラに関すること | 7件 |
| 災害・防犯対策に関すること | 7件 |
| 高齢者福祉に関すること | 4件 |
| 市の財政に関すること | 4件 |
| 児童福祉・子育てに関すること | 3件 |
| 地域活動やボランティアに関すること | 2件 |
| 交通に関すること | 2件 |
| 相談に関すること | 1件 |
| 福祉をよく知らない・わからない | 3件 |
| その他 | 6件 |

以下に、各分野のご要望・ご意見を掲載します。

●情報提供に関すること

| 地域福祉について、袖ヶ浦市へのご要望・ご意見 | 性別 | 年齢 | 居住地区 |
|--|----|---------|---------|
| この調査の結果はどのように発表されますか？皆さんの意見も見てみたいです。 | 女性 | 40～49 歳 | 長浦地区 |
| 地域活動や支援活動など沢山ある事を知りませんでした。こちらの区域は比較的新しい街で若い人が多く、少しジェネレーションギャップを感じます。核家族であり近隣との接点をひかえてきました。緊急時には近隣との近所づきあいにおいて、良き方法があればご教示ください。 | 女性 | 50～59 歳 | 昭和地区 |
| 子育てのサポートや支援などの活動をもう少し分りやすく、誰でも活用できるように情報を広めてほしいです。物価高騰によるサポートなどがあると嬉しいです。 | 女性 | 20～29 歳 | 長浦地区 |
| 情報を手に入れやすくしてほしいです。 | 女性 | 40～49 歳 | 長浦地区 |
| 今後、高齢化が進むと言われていますが、実際数値を出し、皆にこれがどれくらい必要だと開示して分かる所から必要な気がします。今いちピンときません。防災に関しても想定した訓練がもっと必要だと思います。 | 女性 | 40～49 歳 | 長浦地区 |
| 地域の住民の支えあいや地域にある相談場所を増やし皆が必要などところにつながるよう情報を皆に伝える。 | 女性 | 50～59 歳 | 中川・富岡地区 |
| 1. 燃やせないゴミが出していいのかわからない。2. 新型コロナワクチン接種がどこでも受けられる様にして欲しい。3. 歩いて行ける店が閉まらないように思っています。後、病院とか医院も。 | 女性 | 50～59 歳 | 昭和地区 |
| 身内が横浜に住んでいて、「フードバンクが 365 日受け付けている」と聞いて、良いと思いました。「賞味期限が 1 ヶ月以上の物」と決まりがあるのですが、私が知らないだけで袖ヶ浦もあるのでしょうか。需要はないですか？フードロスには気になっています。子ども食堂もあるのか知りません。そういった所と連携し、大切な食料が無駄にならずに済むかと思えます。また、子ども食堂で、おひとり住まいの年配者も対象にしてはどうでしょう。毎日は大変なので、週に何日か若しくは月に何日かから始めてみるのは。 | 女性 | 50～59 歳 | 長浦地区 |
| 各種助成金の対象かどうか不明です。対象者には必要な書類が届くかどうか分かりません。生活にゆとりがありません。給付金とかある場合は連絡が欲しいです。 | 女性 | 70～74 歳 | 長浦地区 |
| 市の地域区分が分かりません。ゴミ収集にも細かい区分があるそうですが、自分の住所を入力し、どの区分に所属になるのか。その地域の福祉施設、受けられる支援等が分かる様なツールが欲しい。 | 女性 | 40～49 歳 | 昭和地区 |
| 互助の為の情報基盤があると良いのでは。何らか困った時に、まずは見る為の INDEX ページを作る等。 | 男性 | 40～49 歳 | 昭和地区 |

●市政や職員の対応などに関すること

| 地域福祉について、袖ヶ浦市へのご要望・ご意見 | 性別 | 年齢 | 居住地区 |
|--|----|---------|---------|
| 外国人が増えてきて治安が心配なので、袖ヶ浦市の全体に防犯カメラを設置してほしい。生活の相談、悩みで市役所に電話をした時、担当者の対応が冷たかった。物ではないので、人として接してほしい。 | 女性 | 80 歳以上 | 中川・富岡地区 |
| 市としての福祉施策の実施、方針が具体的に分りやすく示されていないと思われまます。今後数年先の福祉施策を具体的に示し、実現に向けた対応をお願いしたい。 | 男性 | 70～74 歳 | 長浦地区 |
| 新たに知る事が沢山ありました。大変だという事が理解できました。頑張ってください。 | 男性 | 80 歳以上 | 長浦地区 |

| 地域福祉について、袖ヶ浦市へのご要望・ご意見 | 性別 | 年齢 | 居住地区 |
|--|------------|---------|---------|
| 市役所の課の名に障害者とあるのは改めて頂きたいです。 | 女性 | 50～59 歳 | 長浦地区 |
| 福祉とは関係ないですが市のゴミ袋が1枚ずつ取り出せないの で1枚ずつ取り出せるようにしてほしいです。木更津市のゴミ袋 は1枚ずつ取り出せました。ちょっと使用しづらいです。 | 女性 | 50～59 歳 | 昭和地区 |
| 今の袖ヶ浦市にはビジョンがない(県、国も同様なのだが)。こ んな袖ヶ浦市になったのに教育、福祉へのビジョンが見えてこな い。やはり、国や県の方針が市民のため、住民のために、何をする かを考えるべきだ。(考えてない！) | 男性 | 75～79 歳 | 長浦地区 |
| 年に数回でもよろしいですが近くの公会堂や集会所等に出張し てもっと身近な話し合い等をしていただきたい。(現状は公民館 等遠い場所にある為。) | 男性 | 75～79 歳 | 中川・富岡地区 |
| 支え合い・助け合いは美しい言葉であるが、いつも支える人や 助ける人は決まっておられ今の時代にそういう方は大変貴重な存在 である。ボランティアと言わず、そういう方にはしっかり手当が 支給される仕組みが求められていると思われます。より良い市に なる事を願います。 | 男性 | 40～49 歳 | 昭和地区 |
| 高齢者が多くて近所の田畑も荒れ放題、草だらけで道路も通り 辛くて気持ちが沈みます。空き家も多くて防犯も不安。農業をす る人が減少しない様に、地産地消で食べ物に困らない様な袖ヶ浦 市にして欲しい。農家のボランティアも取り入れ、地域の支え合 い、助け合い、安否確認と。収穫された米や野菜は安く売るか、生 活保護の人々にお弁当として提供するとか考えて欲しいと思いま す。 | 女性 | 60～64 歳 | 平岡地区 |
| 袖ヶ浦市の福祉について、知識のある人が担当して欲しい。市 の歩道が汚な過ぎる(草や木が生い茂っていて、危ない)。このよ うな意見書を書いた所で何も変わらない。警察署や火葬場の無い 袖ヶ浦市を作って頂きたい。 | 答えた くない | 50～59 歳 | 昭和地区 |
| 福祉は個人や年齢層によって必要となる内容が年々異なって来 ると思いますので、課題等を細やかに対応頂けると有難いです。 地域の公園は夏場は雑草が生い茂り、安心して子供を遊ばせられ ないので、定期的に清掃の日が設けられると有難いです。個人で 草抜きは大変ですが、地域住民の有志の方で集まれば負担も少 ないと思っています。 | 女性 | 30～39 歳 | 昭和地区 |

●福祉全般に関すること

| 地域福祉について、袖ヶ浦市へのご要望・ご意見 | 性別 | 年齢 | 居住地区 |
|---|----|---------|------|
| バリアフリーを推進してほしい。 | 男性 | 60～64 歳 | 長浦地区 |
| 障がい者が暮らしやすい社会にしてください。就労支援B型作 業所で、いじめられる人がなくなるようにお願いします。いつま でも住みやすい袖ヶ浦を守ってください。 | 女性 | 30～39 歳 | 根形地区 |
| 若い頃は地域の支え合いや福祉について深く考えなかったが、 現在は役所の対応など心強く嬉しく思っています。更に独自の少 子化対策、クリーンアップ対策にも力を入れていただきたいです。 少々ズレますが道路の隅々に吸い殻、雑芥物が目立つのが心配で す。道徳心がこれほど低下したのか？対策はないのでしょうか？(余 談すみません)。 | 女性 | 70～74 歳 | 長浦地区 |
| 福祉関連の制度は十分だと思います。 | 女性 | 30～39 歳 | 昭和地区 |
| その時だけでなく、普段から交流を持ち、コミュニケーション を取る事が大事である。見て見ぬふりが一番良くない。皆で地域 を良くしていかなければ良くならない。誰かがやるだろうは良く ない。協力し合う。 | 男性 | 40～49 歳 | 長浦地区 |

| 地域福祉について、袖ヶ浦市へのご要望・ご意見 | 性別 | 年齢 | 居住地区 |
|--|----|--------|---------|
| 1. 農家の減少、共働き世帯が増えている昨今、平日はもとより休日さえも余裕がない。子育てしていればなおさらのこと、家族でいっぱいいっぱいの中、地域にあてられる時間は少ない。そんな中、明文化されておらず不明確な地域活動に時間とお金を費やす気には中々ならない。そこで育った人や高齢者は「参加してあたり前」と思っているため、新しく住み始めた人たちと「溝」ができる。助け合えなくなる。地域活動を明文化し、ムダを省くよう各地域に指導しては。活動が明確で、充実したものならば、忙しい中でも参加しようと思う人は増えると思う。また、高齢者のために若者が活躍するようにしたいのであれば、子どもにメリットのある活動を増やすべきだと思う。子どもの時に良くしてくれた地域に恩がえししたいと自然と思うのでは。また、子どもにメリットがある活動なら、忙しい親世代も、子どものためなら参加したいと思うと考えます。2. 子どもが参加しやすいボランティア活動を企画して欲しい。3. 市の運動会を企画して、優勝地域への賞品を豪華にしては？ | 女性 | 30～39歳 | 中川・富岡地区 |
| 袖ヶ浦市に移り住んで5年強。とても良い地域だとは思いますが。ただ、前述の様に、引越して間もなくコロナ騒動で「3密」は避ける事となり、また、年代も我が家だけ非常に高い為、交流が無くて隣家でさえ顔も分からない状態で不安を感じています。これが大きな課題です。 | 女性 | 65～69歳 | 昭和地区 |
| 機会があり、袖ヶ浦市の福祉・高齢者への支援やサービスが充実している事を知りました。今の時代、近所付き合いや地域と密に関わる事は減ってきてしまっていると思いますが、イベントや活動に足を運ぶ事等から少しずつでも関わりたいと感じました。 | 女性 | 20～29歳 | 昭和地区 |
| 市の事業。活動についてよく知らない事が多いと思います。興味を持った事から始められたらと思います。 | 女性 | 60～64歳 | 昭和地区 |

●地域インフラに関すること

| 地域福祉について、袖ヶ浦市へのご要望・ご意見 | 性別 | 年齢 | 居住地区 |
|---|----|--------|---------|
| 病院が無くなったり、縮小したりしているので、病院の充実をお願いしたいです。食料品の買い物も、近くのお店が無くなってしまい、歩いて行くには大変な距離にしかお店かないので困っています。 | 女性 | 40～49歳 | 中川・富岡地区 |
| 袖ヶ浦市に本屋を作ってください。休日当番医なのに子供は診られないという病院があります。困っています。小児科を増やしてください。予防接種協力医療機関一覧に載っていた病院に電話したら、小児科で受けた方がいいと言われました。だったら一覧から外してください。 | 女性 | 40～49歳 | 昭和地区 |
| 歩道などの雑草の処理で公共のバリアフリーなどを掲げるのであれば、歩道の確保など進めていただければ（雑草などで通行できなくて車道に出てくる人々も…。交通事故になりかねないので、車椅子の方々だとなおさらだと）。 | 男性 | 50～59歳 | 昭和地区 |
| もうかれこれ何十年もこのアンケートに記入していますが1つも良いと感じたことがない。（袖ヶ浦）子育てもしにくい、買い物も不便、何より生きにくい。早く、一日も早く袖ヶ浦から出たいです。（子供が学校卒業するまでガマンです。） | 女性 | 40～49歳 | 長浦地区 |
| 小児科の病院をもう少し増やしてほしい。数が少なく予約が取りづらく、待ち時間も長い。 | 女性 | 30～39歳 | 長浦地区 |
| 1. 燃やせないゴミが出しているのか分からない。2. 新型コロナワクチン接種がどこでも受けられる様にして欲しい。3. 歩いて行ける店が閉まらないように思っています。後、病院とか医院も。【再掲】 | 女性 | 50～59歳 | 昭和地区 |

| 地域福祉について、袖ヶ浦市へのご要望・ご意見 | 性別 | 年齢 | 居住地区 |
|--|--------|--------|------|
| 袖ヶ浦市の福祉について、知識のある人が担当して欲しい。市の歩道が汚な過ぎる（草や木が生い茂っていて、危ない）。このような意見書を書いた所で何も変わらない。警察署や火葬場の無い袖ヶ浦市を作って頂きたい。【再掲】 | 答えたくない | 50～59歳 | 昭和地区 |

●災害・防犯対策に関すること

| 地域福祉について、袖ヶ浦市へのご要望・ご意見 | 性別 | 年齢 | 居住地区 |
|---|----|--------|---------|
| 自然災害が多発する中、避難所の整備が急務と思います。特に夏の時期での避難所に空調設備が必要と思います。また、福祉への強化だけでなく、教育施設も強化してほしい。例えば、熱中症を気にしないで運動できる施設を。 | 男性 | 50～59歳 | 中川・富岡地区 |
| 最近、外国人（アラブ人、ベトナム人）に怯えて暮らしています。夜は出歩いて（犬の散歩）集団で日本語は喋らないし、アラブ系に車で（プリウス）轢かれかけて文句を言いたかったのですが、相手に激高されるのが怖くて…治安の悪化が目立ちます。 | 男性 | 30～39歳 | 長浦地区 |
| 地域での取り組みは、大切だと思うが、緊急時に自分がどのように動けば良いか？少々不安が残ります。自然災害が多いため、災害訓練等・具体的に何が必要かを考えないといけないと思いました。（市役所の皆様は大変かと思いますが。） | 女性 | 40～49歳 | 長浦地区 |
| 災害時の避難所の仕切り等のプライバシー確保とトイレ等の衛生面の充実。 | 女性 | 60～64歳 | 根形地区 |
| 地震時などに避難所で性被害を受ける事があると聞きました。有事の時は大変かもしれないけど、あらかじめ避難所運営を考える時に男女別にするとかしてほしい。あと私は薬が無いと普通の精神状態を保てないので、そういう人の場所（精神障害の人の場所）もあるといいと思います。他の人を攻撃したり、自分を傷つける可能性があります。 | — | — | — |
| 今後、高齢化が進むと言われていますが、実際数値を出し、皆にこれがどれくらい必要だと開示して分かる所から必要な気がします。今いちピンときません。防災に関しても想定した訓練がもっと必要だと思います。【再掲】 | 女性 | 40～49歳 | 長浦地区 |
| 外国人が増えてきて治安が心配なので、袖ヶ浦市の全体に防犯カメラを設置してほしい。生活の相談、悩みで市役所に電話をした時、担当者の対応が冷たかった。物ではないので、人として接してほしい。【再掲】 | 女性 | 80歳以上 | 中川・富岡地区 |

●高齢者福祉に関すること

| 地域福祉について、袖ヶ浦市へのご要望・ご意見 | 性別 | 年齢 | 居住地区 |
|--|----|--------|---------|
| 今後、高齢者用タクシーの利便性を、上げてほしいです。 | 女性 | 65～69歳 | 長浦地区 |
| ボランティアにたよるのではなく、業務に見合う報酬を支払う仕組みが必要です。国や市で支払い、充実した高齢者支援をお願いしたいです。 | 女性 | 60～64歳 | 昭和地区 |
| 高齢者障害者は既に手厚いサポートがある。健常者をないがしろにしている。結局、社会福祉協議会は何をしているか分からない。無駄遣いはしないで欲しい。 | 女性 | 50～59歳 | 昭和地区 |
| これから訪れる超高齢化社会に対する対応と対策を願います。 | 男性 | 60～64歳 | 中川・富岡地区 |

●市の財政に関すること

| 地域福祉について、袖ヶ浦市へのご要望・ご意見 | 性別 | 年齢 | 居住地区 |
|---|--------|--------|---------|
| この調査で初めて袖ヶ浦市が様々な政策を行なっていることを知りました。市の政策やサービスの周知を頑張っていただきたいです。困った事があった時に「とりあえずここに相談すれば大丈夫！」という窓口があるといいなと思いました。私が無知でもう設置してありましたら申し訳ないです。あと自治体への補助があると嬉しいです。 | 女性 | 20歳未満 | 長浦地区 |
| 地域の支え合いが必要無いとは言わないが、民生委員なども含むボランティアや募金ありきでの活動は、正直先がないと思います。安くない住民税を支払っているのもっと社会福祉協議会よりも市にしっかりしてほしい。税金ばかりが上がって（地域の）ボランティアなどに割く時間的余裕がない人も、少なくないと感じる（特に40歳代以下）。自治会も不要です（何年か入りましたが活動内容がなかった）。ごみ収集場の管理だけなら他の方法を考えたほうがよい。 | 答えたくない | 50～59歳 | 昭和地区 |
| 市民税を安くしてほしい。 | 男性 | 50～59歳 | 中川・富岡地区 |
| 住宅地では高齢化や単身化が進み、若い人が増加していない。共助を期待するには若い人が少ない事が問題と思っている。ボランティアやNPOによる福祉に参加する人は減少するので公助を充実して欲しい。そのためには市財政の適切な配分と無駄を省く。住民が増える様に市の魅力を上げる活動等の市として行動を期待する。6万人の市に市議会議員が多過ぎる。議員の定年制が必要。 | 男性 | 50～59歳 | 長浦地区 |

●児童福祉・子育てに関すること

| 地域福祉について、袖ヶ浦市へのご要望・ご意見 | 性別 | 年齢 | 居住地区 |
|---|----|--------|------|
| 発達障がいなどの療育の充実を図ってください。 | 男性 | 75～79歳 | 長浦地区 |
| 広報にのっている公民館のイベント情報を見て子どもと参加し、とても楽しませて頂いています。ガウランドのプール解放の時間に親子で行くと、利用者の方が声をかけてくれたり、笑いかけてくれ、高齢の世代の方と話す機会がもて、子育てに力をぬく事が出来たり、安心します。 | 女性 | 30～39歳 | 長浦地区 |
| 子供が発達障がいのため、袖ヶ浦市からは日頃から多大なご支援をして頂いており、大変感謝致しております。ただ、近隣の市と比較すると、障がい児の日中一時支援等の施設が少なく利用しにくく、また、利用日の許可日数もやや少ないという現実もございます。可能でしたらそのような点につきまして調査・改善をお願い致します。 | 男性 | 30～39歳 | 昭和地区 |

●地域活動やボランティアに関すること

| 地域福祉について、袖ヶ浦市へのご要望・ご意見 | 性別 | 年齢 | 居住地区 |
|--|----|--------|---------|
| 毎日の生活に忙しく、落ちついて地域福祉やボランティア活動についてじっくり考える機会がなく残念です。興味はあるのですがどう発信、行動していいのかわからないまま、日々が過ぎていきます。 | 女性 | 65～69歳 | 中川・富岡地区 |
| いつも地域住民の方々を支えて下さり、ありがとうございます。子育てが一段落したらボランティアにも参加させて頂きたいと思っております。 | 女性 | 40～49歳 | 昭和地区 |

●交通に関すること

| 地域福祉について、袖ヶ浦市へのご要望・ご意見 | 性別 | 年齢 | 居住地区 |
|--|----|-------|---------|
| 移動手段について。いきいきサポにしても袖ヶ浦市内だけです。せめて君津中央病院だけでも行けるようお願いできたら…皆さんとてもお困りのお話を耳にします。 | 女性 | 80歳以上 | 中川・富岡地区 |
| 高齢によりシルバーカーを使うようになって感じた事は、道路上の段差やポール、傾斜が思ったより多くてとても怖く感じています。特に交差点の周辺が怖いです。 | 女性 | 80歳以上 | 長浦地区 |

●相談に関すること

| 地域福祉について、袖ヶ浦市へのご要望・ご意見 | 性別 | 年齢 | 居住地区 |
|--|----|-------|------|
| この調査で初めて袖ヶ浦市が様々な政策を行なっていることを知りました。市の政策やサービスの周知を頑張っていただきたいです。困った事があった時に「とりあえずここに相談すれば大丈夫！」という窓口があるといいなと思いました。私が無知でもう設置してありましたら申し訳ないです。あと自治体への補助があると嬉しいです。【再掲】 | 女性 | 20歳未満 | 長浦地区 |

●福祉をよく知らない・わからない

| 地域福祉について、袖ヶ浦市へのご要望・ご意見 | 性別 | 年齢 | 居住地区 |
|--|----|--------|------|
| 知らない事ばかりで、勉強になりました。 | 男性 | 65～69歳 | 昭和地区 |
| 高齢のため知らない事がある。 | 男性 | 80歳以上 | 根形地区 |
| 地域の支え合い、助け合いが重要なのはわかるが、そういった活動かかわり合いが苦手なのでどうしてよいのかわからない。 | 女性 | 30～39歳 | 根形地区 |

●その他

| 地域福祉について、袖ヶ浦市へのご要望・ご意見 | 性別 | 年齢 | 居住地区 |
|--|----|--------|------|
| このアンケートは91歳の高齢者には不適切。介護を受けている高齢の人間なので言葉の意味も不明な事ばかり。このアンケートは資料として使えません。アンケート対象者として考えてほしい。いちおう〇を付けました。 | 女性 | 80歳以上 | 平岡地区 |
| アンケートの内容がわからない事が多く、答えられないものがあります。 | 女性 | 30～39歳 | 長浦地区 |
| 昔の様に道路で井戸端会議等をしている人を見掛けなくなりましたね。時代の流れでしょうか。 | 女性 | 80歳以上 | 長浦地区 |
| いつもありがとうございます。 | 男性 | 40～49歳 | 昭和地区 |
| ありがとうございます。 | 女性 | 80歳以上 | 長浦地区 |
| 妻は植物状態の為、代筆しました。 | 女性 | 60～64歳 | 平岡地区 |

Ⅲ 調査結果からみえる課題

1 地域生活のインフラ整備（地域の暮らしについて）

居住地区の暮らしやすさ（問 11, P10）では、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』は「キ. 買物などの便利さ（33.9%）」が最も高く、前回（26.8%）よりも上昇しています。一方、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満』は、「サ. 道路や交通機関などの使いやすさ（40.1%）」が最も高く、前回（36.7%）よりも若干上昇しています。「袖ヶ浦市地域福祉計画」の主要施策に対する満足度・重要度（問 35, P56）の位置づけを示すゾーニングでは、移動手段の確保は「課題ゾーン」にあることも踏まえ、道路や交通機関の利便性のさらなる向上が求められています。

地域社会の中で安心して暮らしていくために大切だと思うこと（問 12, P12）では、「①地域医療体制の充実、警察や消防の充実（41.0%）」及び「②福祉・保健サービスの充実（40.2%）」が4割台と高く、次いで「③防犯・交通安全・防災のための地域の見守り・パトロールの充実（38.5%）」、「④交通の便の改善（33.6%）」が3割台となっています。居住地区別でみると、「①地域医療体制の充実、警察や消防の充実」は中川・富岡地区が、「③防犯・交通安全・防災のための地域の見守り・パトロールの充実」は長浦地区が、「④交通の便の改善」は平岡地区の割合が高く、地域の特性を踏まえたインフラ整備が求められています。

2 近所づきあいの促進

隣近所の人とのつきあい方（問 13, P14）では、「個人的なことを相談し合える人がいる（6.6%）」と「さしさわりのないことなら、話せる相手がいる（33.9%）」を合わせた『ある程度親密な近所づきあいはできている（40.5%）』は、前回（48.1%）よりも低下しています。近所づきあいをあまりしていない理由（問 13-1, P16）は、「①普段つきあう機会がないから（62.6%）」が最も高く、続く「②あまりかかわりをもたたくないから（25.7%）」については、前回（18.8%）よりも上昇し、近隣の住民の暮らしにかかわり合うことに慎重な人が増えている傾向がみられます。

しかし、地域の人々がお互いに支え合っていくうえで大切だと思うこと（問 18, P28）では、「①隣近所の住民同士の普段からのつきあい（70.8%）」が突出して高く、近所づきあいの重要性について認識している人が多くいる様子もうかがえます。

地域の行事等への参加状況（問 14, P17）では、「よく参加している（12.3%）」と「時々参加している（24.5%）」を合わせた『参加している（36.9%）』は、前回（42.6%）よりも低下しています。地域での行事や活動に参加したきっかけ（問 14-2, P20）では、「①近所の人や活動に参加していたから（35.6%）」が最も高く、続く「②友人・知人が活動に参加していたから（21.5%）」は、前回（28.9%）から最も低下しています。一方、「④親や子ども、親戚が活動に参加していたから（14.1%）」は前回（8.9%）からの上昇が最も大きくなっています。親族の誰か一人が参加することで、他の親族の参加につながる可能性があるため、学校や地域の団体、企業など、多様な主体を巻き込みながら、参加を働きかけていく必要があります。

また、近所づきあいと地域行事の参加状況には相関性がみられますが、地域行事等に参加していない理由（問 14-5, P23）は、「①特にきっかけや機会がないから（39.8%）」が最も高く、前回

(33.1%)よりも上昇している一方、「⑧時間がないから(15.3%)」は前回(22.3%)よりも低下しています。地域行事等への参加のきっかけや機会につながるように、分かりやすいテーマを設定したり、参加してほしいターゲットへの参加メリットを端的に整理したり、デジタル技術を活用して各活動主体の情報を共有化したりするなど、環境整備についても検討していく必要があります、こうした取組を通じて地域のつながりを深めていくことも大切です。

3 地域活動やボランティア活動の参加促進

地域活動やボランティア活動の参加状況・今後の参加意向(問17, P27)では、現在「⑩参加しているものはない(49.7%)」が半数程度となっていますが、今後の参加意向では、多くの活動は現時点での参加の割合に対して、将来の参加意向の割合が高くなっているため、市民の参加意向を実践に結びつけていくことが大切です。具体的な活動としては「②公園や近隣の清掃など美化活動やリサイクル活動(16.7%)」や「③地域(学校、施設、商店街、自治会など)のイベントの支援(15.3%)」の割合の高くなっています。

地域活動やボランティア活動に参加する上で必要な条件(問15, P25)では、「①自分が健康であること(68.9%)」、「②時間的なゆとりがあること(68.0%)」といった自分自身に関する条件が6割台と高く、「③ともに活動する仲間や友人がいること(39.3%)」や「④家族に病人や介護が必要な人がいないこと(36.6%)」といった周囲の状況に関する条件は3割台となっています。なお、「②時間的なゆとりがあること」は64歳以下で高い傾向にあり、仕事や子育てなどの働き盛りの世代が参加しやすい機会の創出や活動メニューの充実を図る必要があります。

より暮らしやすい生活環境を築いていくためには、地域の課題に早期に気づき、対応していくことが重要であり、そのためにも地域活動やボランティア活動への市民参加が進むことが期待されます。市民のそれぞれのライフスタイルを尊重しながら、無理のない形で各種活動に参加できるように、ワークライフバランスの取組などと連動した参加しやすい環境づくりに取り組んでいく必要があります。

4 情報提供・相談機能の充実

保健福祉サービスなどの情報入手手段(問19, P30)では、「①市や県の広報紙、ちらし(62.8%)」が最も高く、次いで「②インターネットのホームページ(34.4%)」となっています。ただし、それぞれの入手先は、年齢層によって活用度が異なり、49歳以下は「②インターネットのホームページ」が、50歳以上は「①市や県の広報紙、ちらし」が比較的多く、また、39歳以下は「SNS」の利用も3割前後みられます。ICT等のデジタル技術の活用も含めて多様な手段により、必要としている市民に適切に情報が届くように情報提供体制の充実を図る必要があります。

保健福祉に関する情報発信や相談を行っている機関の認知度(問21, P34)では、「①ガウランド(健康づくり支援センター)(50.5%)」が最も高く、次いで「②地域包括支援センター(38.8%)」となっています。また、「⑦いずれも知らない(30.3%)」は、39歳以下の若い世代は4割前後と高くなっています。近年は相談内容も複雑化した困難事例等も増えており、早期の支援につながるような、様々な相談窓口があることを周知するとともに、市民が安心して自立した日常生

活を送れるように、各支援の関係者が連携しながら包括的に課題を解決するための分野横断的な体制を整えていくことも大切です。

5 権利擁護の普及啓発

日常生活自立支援事業の認知度（問 22, P35）では、「まったく知らない（69.7%）」が最も高く、前回（51.7%）よりも大きく上昇し、「内容を知っている（1.1%）」と「だいたいの内容を知っている（7.1%）」を合わせた『内容を知っている（8.2%）』は1割以下となり、前回（12.7%）よりも認知度は低下し、年齢別にみると、59歳以下の認知度が低くなっています。

成年後見制度の認知度（問 23, P36）は、「内容を知っている（6.3%）」と「だいたいの内容を知っている（26.2%）」を合わせた『内容を知っている（32.5%）』は、日常生活自立支援事業よりも認知度が高いものの、前回（32.2%）からの改善がみられない状況です。

「袖ヶ浦市地域福祉計画」の主要施策に対する重要度（問 35, P58）では、「コ. 権利擁護の推進」の重要性に対する認識が他の施策に比べて低いため、権利擁護の重要性について普及啓発し、制度の利用が必要な方やその関係者に認知されるような環境をつくっていく必要があります。

6 災害などに備えた、地域での支え合いの仕組みづくり

普段から行っている防災対策（問 25, P38）では、「①食料、水、簡易トイレ、ウェットティッシュなど備蓄品の備蓄（70.8%）」が最も高く、前回（54.0%）よりも大きく上昇しています。近年の相次ぐ大規模災害の発生に伴い、防災意識が高まっている様子がうかがえますが、その一方で、「⑪近隣で開催される防災訓練への参加（7.1%）」、「⑬自治会内の防災組織や災害ボランティアの参加（5.7%）」、「⑯近隣の高齢者、障がい者など、避難に支援が必要な方への支援の取組への参加（1.1%）」などは相対的に低くなっています。

また、災害時に一人では避難できない避難行動要支援者の支援（問 27, P41）では、「積極的に手伝いたい（14.5%）」と「区や自治会、自主防災組織として活動するのであれば手伝ってもよい（33.9%）」を合わせた『支援の意識の高い方（48.4%）』は前回（54.0%）よりも低下しており、いざという時のための支え合いの仕組みづくりについては課題があると考えられます。

一方、災害時の住民の相互支援の必要性（問 26, P40）では、「①食料・飲料水の助け合い（65.3%）」、「②災害状況や避難情報の提供（63.9%）」、「③安全な場所への避難の手助け（60.9%）」などは6割台と高く、支え合いの必要性を認識している方は多くいるため、実際に災害時の支え合い活動につながるように、防災訓練等への参加促進や、「自分達の地域は自分達で守る」という意識の醸成、防災に関する情報提供など、災害時に自助・共助につながるような仕組みづくりが必要です。

7 再犯防止対策の推進

「社会を明るくする運動」や「再犯防止啓発月間」の認知度（問 28, P42）では、「両方とも知らない（77.6%）」が多数を占めています。

社会復帰を果たすために重要な市が行う支援（問 29, P43）では、「①就労支援（62.3%）」が最も高く、「②住まいの確保支援（39.1%）」及び「③非行の防止・就学支援（36.3%）」が3割台で続いています。

仕事や住まいを確保できないなど、様々な困難に直面することが再犯にもつながるため、再犯防止についての関心と理解を深め、立ち直りを社会全体で応援していけるように、「社会を明るくする運動」や「再犯防止啓発月間」の普及啓発を図る必要があります。

8 地域共生社会に向けた地域福祉活動の推進

地域共生社会という言葉や意味の認知度（問 30, P44）では、「聞いたことがある（41.8%）」が前回（33.1%）よりも上昇しています。

地域共生社会への認知度が上昇している一方で、自身が取り組みそうな活動（問 32, P47）では、「①あいさつ・声かけ（53.0%）」が半数を超えているものの前回（61.2%）より低下し、続く「②ちょっとしたお手伝い（33.1%）」も前回（47.0%）よりも低下しており、主体的な取組への展開が進んでいない状況がうかがえます。

また、地域福祉の推進に向けて“（1）自助”で重要だと思うこと（問 33, P49）では、「①地域のことに興味を持つ（64.2%）」及び「②できる範囲で地域に貢献する（45.9%）」が高い一方、「④地域の人々と活発に交流する（18.0%）」及び「⑤地域での活動に積極的に参加する（17.8%）」は1割台にとどまり、地域福祉の大切さを認識しつつも、その基盤となる身近な人間関係を築こうとする自発性が弱い傾向もみられます。

“（2）共助”で重要だと思うこと（問 33, P51）では、「①地域の人々の課題を共有する（41.8%）」、「②より多くの人に地域や福祉に関する情報を広める（34.2%）」が高く、“（3）公助”で重要だと思うこと（問 33, P53）では、「①地域住民のニーズの把握を強化する（49.2%）」及び「②公的な福祉サービスの質の向上を図る（42.3%）」が高くなっています。“共助”及び“公助”は、ほとんどの項目が前回よりも上昇しており、中でも“共助”は「④地域で活動する人材を育てる（26.8%）」前回（17.0%）」及び「⑤個人と市役所の間で双方の意向の調整を図る（23.0%）」前回（13.4%）」が、“公助”では「③地域で活動する団体や人材の育成、支援を図る（33.9%）」前回（22.2%）」が大きく上昇しています。人材不足に関する項目が増加しており、民間企業など多様な主体を巻き込んだ人材育成の取組を進めていく必要があります。また、行政と住民は、それぞれの立場や役割があるため、生活支援コーディネーターのような人材の確保・育成はもとより、ICTなどのデジタル技術も活用し、意見の調整を図りやすい環境を整えていくことも必要です。

9 社会福祉協議会の活動の充実

社会福祉協議会の認知度（問 36, P62）では、「内容をよく知っている（4.9%）」と「だいたいの内容は知っている（17.5%）」を合わせた『内容を知っている（22.4%）』は、前回（23.1%）と同程度となっています。年齢別では、39歳以下の認知度が特に低くなっています。

社会福祉協議会の主な事業・活動で知っているもの（問 37, P64）では、「①赤い羽根共同募金・歳末たすけあい募金などの募金活動（70.2%）」が最も高く、次いで「②広報紙「そでがうらし社協

だより」・ホームページなどの地域福祉の啓発活動（63.9%）」となっていますが、これらの項目以外は認知度が3割を下回っているため、社会福祉協議会が取り組む各種地域福祉活動について周知し、理解と協力が得られるように取り組む必要があります。

社会福祉協議会に期待すること（問 38, P66）では、「①福祉に関する総合相談サービスの充実（48.6%）」が最も高く、続く「②高齢者や障がいのある人などの地域生活を支える支援の充実（44.3%）」は、前回（35.0%）よりも大きく上昇しています。また、「③福祉に関する情報提供の充実（インターネットなどを含む）（27.3%）」も前回（20.6%）よりも上昇しています。前回と選択肢の数に違いがあるため単純に比較はできないものの、全般に前回は上回るものが多く、地域福祉の推進の中心的役割を担う社会福祉協議会の取組に対する期待が高くなっている様子がうかがえます。

社会福祉協議会の活動の充実を図る上で重要と思われること（問 39, P68）でみられるように、「①活動内容をもっと知ってもらうこと（53.0%）」や「②地域住民と交流を深め、地域の福祉ニーズを活動に反映させること（37.4%）」を通じて、地域とのつながりを深め、社会福祉協議会への期待に添うことができるように、地域福祉活動の充実を図っていく必要があります。

10 民生委員・児童委員の周知

民生委員・児童委員の活動の認知度（問 40, P69）では、「名前は知っているが、内容は知らない（45.1%）」が最も高く、「内容をよく知っている（7.7%）」と「だいたいの内容は知っている（26.0%）」を合わせた『内容を知っている（33.7%）』は3分の1程度で、社会福祉協議会の認知度と同様に、39歳以下の認知度が低くなっています。

また、居住地区の民生委員・児童委員の認知度（問 41, P71）では、「知っている（20.2%）」にとどまり、年齢別にみると49歳以下は1割以下となっています。居住地区別では、平岡地区は「知っている」が32.3%と高い一方、根形地区は1割以下となっているなど、地区による違いもみられます。身近な地域の相談員である民生委員・児童委員の活動について、様々な機会を通じて周知を進めていく必要があります。

11 地域福祉計画（第3期）の施策満足度・重要度

「袖ヶ浦市地域福祉計画」の主要施策に対する満足度（問 35, P56）では、ほとんどの施策で「どちらともいえない」が半数以上を占めています。「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』では、「ケ. 移動手段の確保（16.7%）」が最も高くなっていますが、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満』においても「ケ. 移動手段の確保（27.6%）」が最も高くなっています。ただし、「ケ. 移動手段の確保」の『満足』は前回（10.8%）よりも上昇し、『不満』は前回（31.6%）よりも低下していることから、改善されていると感じている市民が増加している様子がうかがえます。

主要施策の重要度（問 35, P58）では、「重要」と「やや重要」を合わせた『重要』がほとんどの項目で高く、中でも「ス. 防災体制の強化（67.2%）」、「シ. 防犯体制の充実（66.7%）」、「ケ. 移動手段の確保（66.4%）」は6割台と高くなっています。

満足度・重要度については、主要施策の位置関係を明確にするために評価点の算出を行い、満足度・重要度それぞれの平均値を基準にしてプロット図（P60）を作成し、相対的に4つのゾーンにゾーニングしました。ゾーンの概略は以下のとおりです。

- (A) 課題ゾーン・・・満足度は平均値以下だが、重要度が平均値以上の施策
- (B) 維持向上ゾーン・・・満足度・重要度ともに平均値以上の施策
- (C) 継続維持ゾーン・・・満足度は平均値以上だが、重要度が平均値以下の施策
- (D) 検討ゾーン・・・満足度・重要度ともに平均値以下の施策

ポイントとなるのは、重要度が高く、満足度が低い（A）課題ゾーンへの取組となり、該当する施策については、今後より力を入れていく必要があります。

また、（B）維持向上ゾーンに該当する施策は、一定の評価が得られていると考えられますが、今後は、満足度がより向上するよう市民のニーズに応じていく必要があります。

| | |
|-------------|----------------------------|
| (A) 課題ゾーン | バリアフリー化の促進、移動手段の確保、防犯体制の充実 |
| (B) 維持向上ゾーン | 防犯体制の強化、交通安全意識の高揚 |

袖ヶ浦市
地域福祉に関する住民意識調査
結果報告書

発行：袖ヶ浦市福祉部地域福祉課（地域福祉班）
TEL 0438-62-3157

袖ヶ浦市社会福祉協議会
TEL 0438-63-3888

発行年月：令和7年1月

袖ヶ浦市
地域福祉に関する事業所・団体調査
結果報告書

令和7年1月

袖ヶ浦市

袖ヶ浦市社会福祉協議会

目次

| | |
|---|----|
| I アンケート調査の概要 | 1 |
| 1 調査の目的 | 1 |
| 2 調査概要 | 1 |
| 3 回収結果 | 1 |
| 4 報告書の見方 | 1 |
| II 事業所調査結果 | 2 |
| 1 事業所の概要 | 2 |
| 問1 貴事業所の法人組織は、次のどれにあてはまりますか。 | 2 |
| 問2 貴事業所の活動分野は、どのようなものですか。 | 2 |
| 問3 貴事業所の活動年数をお答えください。 | 3 |
| 問4 貴事業所の規模と従業員・構成員のおおよその平均年齢をお答えください。 | 3 |
| 問5 貴事業所の主な活動範囲又は利用者の範囲としては、 どこまでの地区を対象にしていますか。 | 5 |
| 2 事業所の運営について | 6 |
| 問6 貴事業所の運営上の課題や困っていることは何ですか。 | 6 |
| 問7 運営上の課題や困っていることの原因として考えられることは何ですか。 また、その解決策としてどのような方法が考えられますか。具体的にご記入ください。 | 8 |
| 問8 貴事業所では次のような支援を必要としていますか。 | 10 |
| 問9 貴事業所では職員等が地域のボランティア活動に参加しやすくなる取組を 実施していますか。 | 10 |
| 問10 その取組はどういったものですか。具体的にご記入ください。 | 11 |
| 問11 今後、貴事業所においてICTを導入もしくは拡充していく予定はありますか。 | 11 |
| 問12 ICTを導入もしくは拡充するうえで課題となることは何ですか。 | 11 |
| 3 他機関等との連携について | 12 |
| 問13 貴事業所では、活動を行ううえで、他の団体や機関と連携の必要性を感じますか。 | 12 |
| 問14 連携の必要性を感じるのはどのようなときですか。 | 12 |
| 問15 貴事業所が活動するうえで、現在、連携・協働関係にある機関等はどこですか。 また、今後の活動において、連携・協働関係を築きたいと考える機関等はどこですか。 | 13 |
| 問16 貴事業所はボランティア団体との連携や協働の一環として、 どのようなことを実施していますか。 | 17 |
| 問17 貴事業所でボランティアを受け入れて良いと感じたことは何ですか。 | 17 |
| 問18 他機関等との連携・協働関係を築く際、課題となることは、どういったことですか。 | 18 |
| 問19 その課題はどういった内容のものですか。具体的にご記入ください。 | 19 |
| 4 地域福祉について | 19 |
| 問20 貴事業所では施設やイベント等を地域住民に開放したり、 事業所として地域行事へ参加するなど、地域や地域住民との交流を行っていますか。 | 19 |
| 問21 貴事業所は地域や地域住民とどういった交流を行っていますか。 具体的にご記入ください。 | 20 |

| | | |
|----------|--|-----------|
| 問22 | 貴事業所を利用している地域の人から聞く、日常生活での困りごとや地域の問題・課題 などはありますか。また、それに対して貴事業所として取り組める ことはありますか。ありましたら具体的にご記入ください。 | 21 |
| 問23 | 貴事業所では、今後、地域や地域住民との交流を行っていきたいとお考えですか。 | 22 |
| 問24 | お互いが支え合えるまちづくりを進めるにあたっては、地域の様々な課題に対して 市民と連携・協働していくことが重要です。貴事業所が市民と連携・協働する際に 必要だと思ふことは何ですか。具体的にご記入ください。 | 23 |
| 問25 | 地域連携ネットワークの中核を担う「中核機関」は、本市では令和4年度に整備し、 市及び社会福祉協議会によって運営しておりますが、「中核機関」を知っていますか。 . . | 23 |
| 問26 | 袖ヶ浦市では、複合化・複雑化する市民からの相談に対し、分野ごとまたは福祉の 既存の制度を超えた対応が行えるように、「袖ヶ浦市重層的支援体制整備事業」に 取り組んでいることを知っていますか。 | 24 |
| 問27 | 袖ヶ浦市において、今後、地域での福祉活動をさらに活性化させるためには、 どのような取組が必要とお考えですか。 | 25 |
| 5 | 市が策定する計画に対する意見・要望 | 26 |
| 問28 | 袖ヶ浦市が策定する「地域福祉計画」、袖ヶ浦市社会福祉協議会が策定する 「地域福祉活動計画」に対するご意見・ご要望がありましたら、ご自由に お書きください | 26 |
| Ⅲ | 福祉関係団体調査結果 | 27 |
| 1 | 団体の概要 | 27 |
| 問1 | 貴団体の組織形態は、次のどれにあてはまりますか。 | 27 |
| 問2 | 貴団体の活動分野は、どのようなものですか。 | 28 |
| 問3 | 貴事業所の活動年数をお答えください。 | 29 |
| 問4 | 貴団体の規模と構成員のおおよその平均年齢をお答えください。 | 29 |
| 問5 | 貴団体の主な活動範囲としては、どこまでの地区を対象にしていますか。 | 30 |
| 2 | 団体等の活動について | 31 |
| 問6 | 貴団体の活動を行う中で、今困っていることは何ですか。 | 31 |
| 問7 | 活動を行う中で困っていることの原因として考えられることは何ですか。 また、その解決策としてどのような方法が考えられますか。具体的にご記入ください。 | 33 |
| 問8 | 貴団体では次のような支援を必要としていますか。 | 35 |
| 問9 | 貴団体は、今後どのように活動していく予定ですか。 | 35 |
| 問10 | 問9で回答した理由は何ですか。具体的にご記入ください。 | 36 |
| 3 | 他機関との連携について | 38 |
| 問11 | 貴団体では、活動を行ううえで、他の団体や機関と連携の必要性を感じますか。 | 38 |
| 問12 | 連携の必要性を感じるのはどのようなときですか。 | 38 |
| 問13 | 貴団体が活動するうえで、現在、連携・協働関係にある機関等はどこですか。 また、今後の活動において、連携・協働関係を築きたいと考える機関等はどこですか。 | 39 |
| 問14 | 他機関等との連携・協働関係を築く際、課題となることは、どういったことですか。 . . | 43 |
| 問15 | その課題はどういった内容のものですか。具体的にご記入ください。 | 44 |
| 4 | 地域福祉について | 45 |
| 問16 | 貴団体では、団体として地域行事へ参加するなど、 地域や地域住民との交流を行っていますか。 | 45 |

| | | |
|-----|---|----|
| 問17 | 貴団体は地域や地域住民とどういった交流を行っていますか。 具体的にご記入ください。 | 46 |
| 問18 | 貴団体を利用している地域の人から聞く、日常生活での困りごとや地域の問題・課題 などがありますか。また、それに対して貴団体として取り組めることはありますか。 ありましたら具体的にご記入ください。 | 48 |
| 問19 | 貴団体では、今後、地域や地域住民との交流を行っていきたいとお考えですか。 | 49 |
| 問20 | お互いが支え合えるまちづくりを進めるにあたっては、地域の様々な課題に対して 市民と連携・協働していくことが重要です。貴団体が市民と連携・協働する際に 必要だと思うことは何ですか。具体的にご記入ください。 | 50 |
| 問21 | 袖ヶ浦市では、複合化・複雑化した地域の課題が増加する中で、制度・分野ごとの 「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民・地域団体・行政 などの様々な主体が地域の課題を「我が事」として捉え、住民一人ひとりの暮らしと 生きがいを大切に、地域をともに創っていく「地域共生社会」を目指しています。 この地域共生社会の実現に向けて、ご意見やご要望などがありましたら、具体的に ご記入ください。 | 51 |
| 問22 | 袖ヶ浦市において、今後、地域での福祉活動をさらに活性化させるためには、 どのような取組が必要とお考えですか。 | 52 |
| 5 | 市が策定する計画に対する意見・要望 | 53 |
| 問23 | 袖ヶ浦市が策定する「地域福祉計画」、袖ヶ浦市社会福祉協議会が策定する「地域福祉 活動計画」に対するご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。 | 53 |
| IV | ヒアリング調査結果 | 54 |
| 1 | ヒアリング調査の概要 | 54 |
| | (1) 調査の目的 | 54 |
| | (2) ヒアリング調査の実施状況 | 54 |
| 2 | 事業所ヒアリング調査 | 55 |
| | (1) 事業所の運営状況について | 55 |
| | (2) 地域や他機関との連携について | 56 |
| | (3) 地域福祉に関する現状や課題について | 57 |
| 3 | 団体ヒアリング調査 | 59 |
| | (1) 団体の活動状況について | 59 |
| | (2) 他機関等との連携について | 60 |
| | (3) 地域福祉に関する現状や課題について | 61 |
| V | 調査結果からみえる課題 | 63 |
| 1 | 事業所の継続的・安定的な成長 | 63 |
| 2 | 事業所における地域や他機関との連携 | 63 |
| 3 | 事業所が指摘する地域福祉の課題 | 64 |
| 4 | 団体活動の持続性と活性化 | 64 |
| 5 | 団体における他機関等との連携 | 65 |
| 6 | 団体が指摘する地域福祉の課題 | 65 |

I アンケート調査の概要

1 調査の目的

本調査は、袖ヶ浦市の「地域福祉計画（第4期）」及び、袖ヶ浦市社会福祉協議会の「地域福祉活動計画（第5期）」の策定のための基礎資料とすることを目的として実施しました。

2 調査概要

- ◇調査対象：令和6年8月時点で袖ヶ浦市において福祉関連事業を展開している事業所及び福祉関連活動を実施している団体
- ◇抽出方法：福祉事業所については、高齢者、障がい者、子育て等の分野を考慮して抽出
福祉関係団体等については、民生委員・児童委員協議会、ボランティア連絡協議会のほか、福祉・子育て関係のNPO、青少年健全育成、地域スポーツを展開している生涯学習及び生涯スポーツ活動を実施している団体を抽出
- ◇調査期間：令和6年10月1日（火）～10月22日（火）
- ◇調査方法：郵送配布・郵送回収による本人記入方式

3 回収結果

| | 対象者数（件） | 回収数（件） | 回収率（%） |
|--------|---------|--------|--------|
| 事業所 | 50 | 28 | 56.0 |
| 福祉関係団体 | 50 | 38 | 76.0 |

4 報告書の見方

- ◇回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- ◇複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- ◇図表中において「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- ◇図表中の「n（number of case）」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- ◇本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。

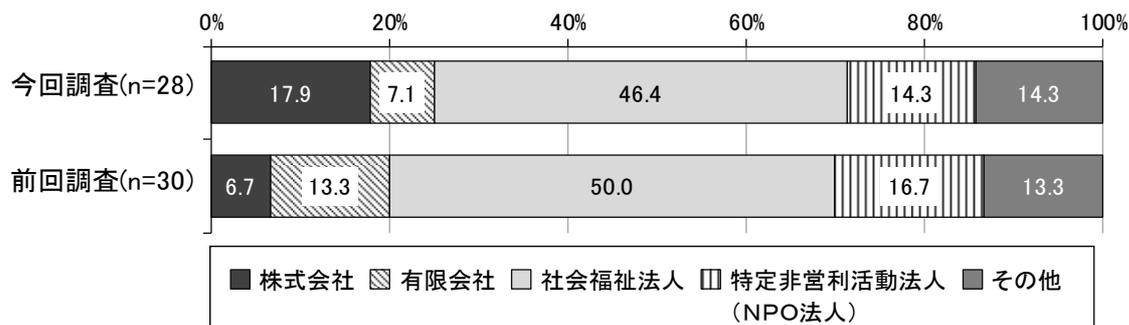
Ⅱ 事業所調査結果

1 事業所の概要

問1 貴事業所の法人組織は、次のどれにあてはまりますか。(○は1つだけ)

「社会福祉法人」が46.4%と最も高く、次いで「株式会社」が17.9%、「特定非営利活動法人(NPO法人)」が14.3%となっています。

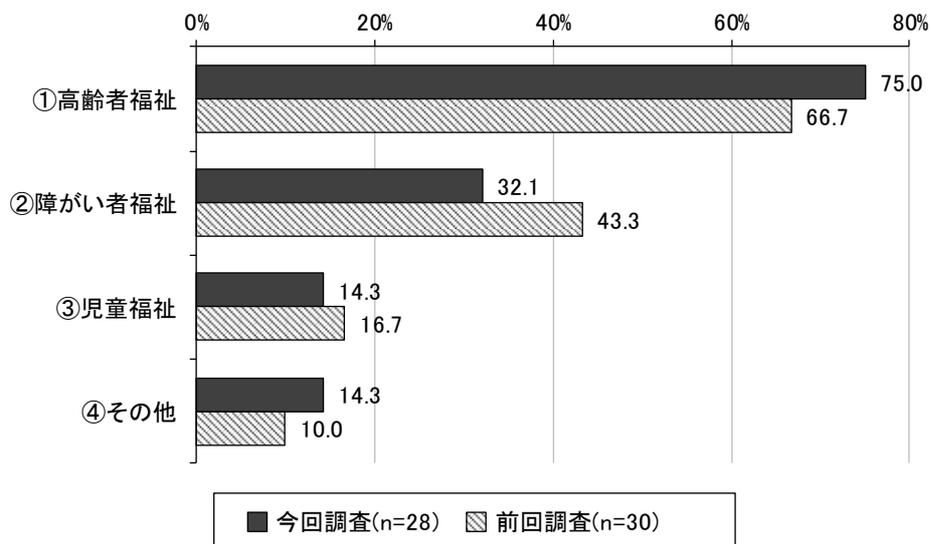
前回調査との比較では、「株式会社」が11.2ポイント増加しています。



問2 貴事業所の活動分野は、どのようなものですか。(○はいくつでも)

「①高齢者福祉」が75.0%と最も高く、次いで「②障がい者福祉」が32.1%、「③児童福祉」が14.3%となっています。

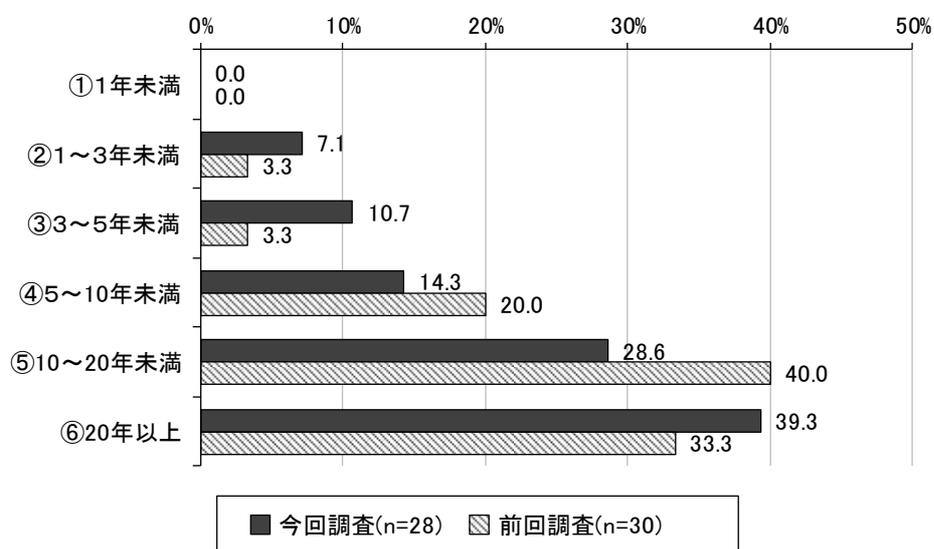
前回調査との比較では、「①高齢者福祉」が8.3ポイント増加し、「②障がい者福祉」が11.2ポイント減少しています。



問3 貴事業所の活動年数をお答えください。(〇は1つだけ)

「⑥20年以上」が39.3%と最も高く、次いで「⑤10～20年未満」が28.6%、「④5～10年未満」が14.3%となっています。

前回調査との比較では、「⑤10～20年未満」が11.4ポイント減少しています。

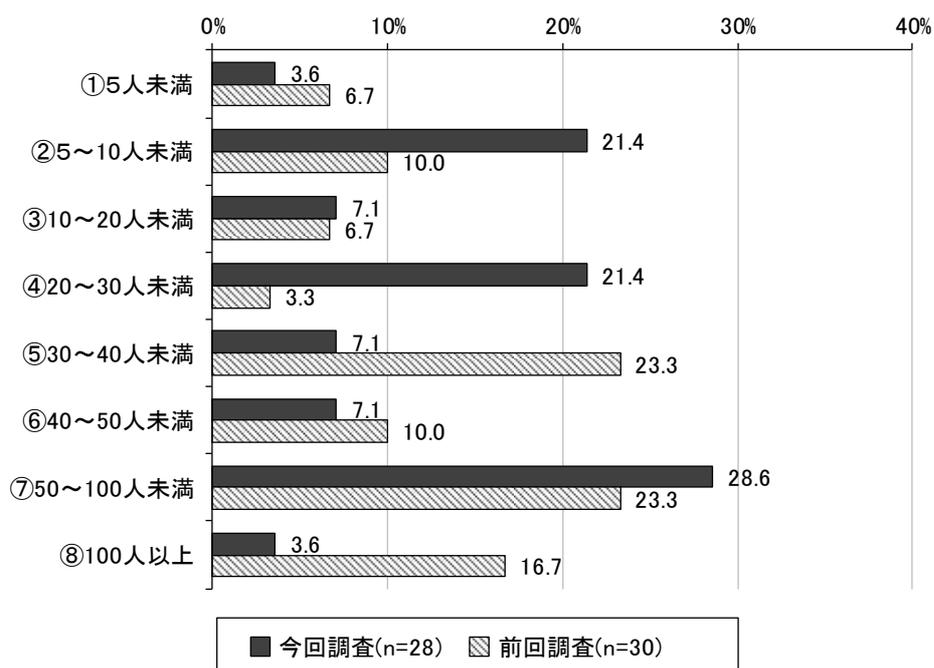


問4 貴事業所の規模（従業員数・構成員数など）と従業員・構成員のおおよその平均年齢をお答えください。(それぞれ〇は1つだけ)

① 従業員数

「⑦50～100人未満」が28.6%と最も高く、次いで「②5～10人未満」「④20～30人未満」が21.4%となっています。

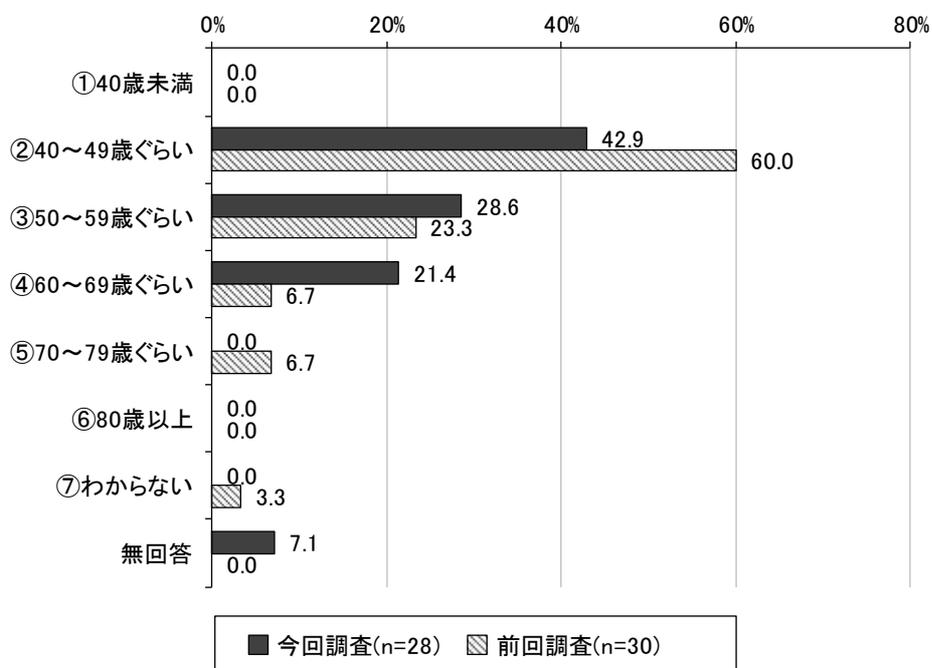
前回調査との比較では、「④20～30人未満」が18.1ポイント、「②5～10人未満」が11.4ポイント増加し、「⑤30～40人未満」が16.2ポイント、「⑧100人以上」が13.1ポイント減少しています。



② 平均年齢

「②40～49 歳ぐらい」が 42.9%と最も高く、次いで「③50～59 歳ぐらい」が 28.6%、「④60～69 歳ぐらい」が 21.4%となっています。

前回調査との比較では、「④60～69 歳ぐらい」が 14.7 ポイント増加し、「②40～49 歳ぐらい」が 17.1 ポイント減少しています。

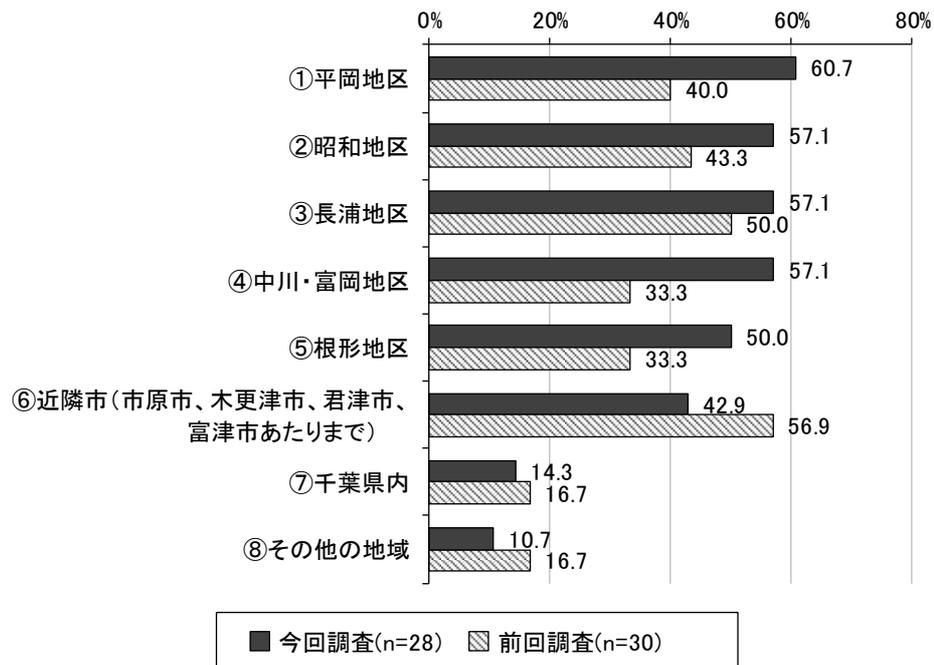


問5 貴事業所の主な活動範囲又は利用者の範囲としては、どこまでの地区を対象にしていますか。

(〇はいくつでも)

「①平岡地区」が60.7%と最も高く、次いで「②昭和地区」「③長浦地区」「④中川・富岡地区」が57.1%となっています。

前回調査との比較では、「④中川・富岡地区」が23.8ポイント、「①平岡地区」が20.7ポイント、「⑤根形地区」が16.7ポイント、「②昭和地区」が13.8ポイント増加し、「⑥近隣市（市原市、木更津市、君津市、富津市あたりまで）」が14.0ポイント減少しています。

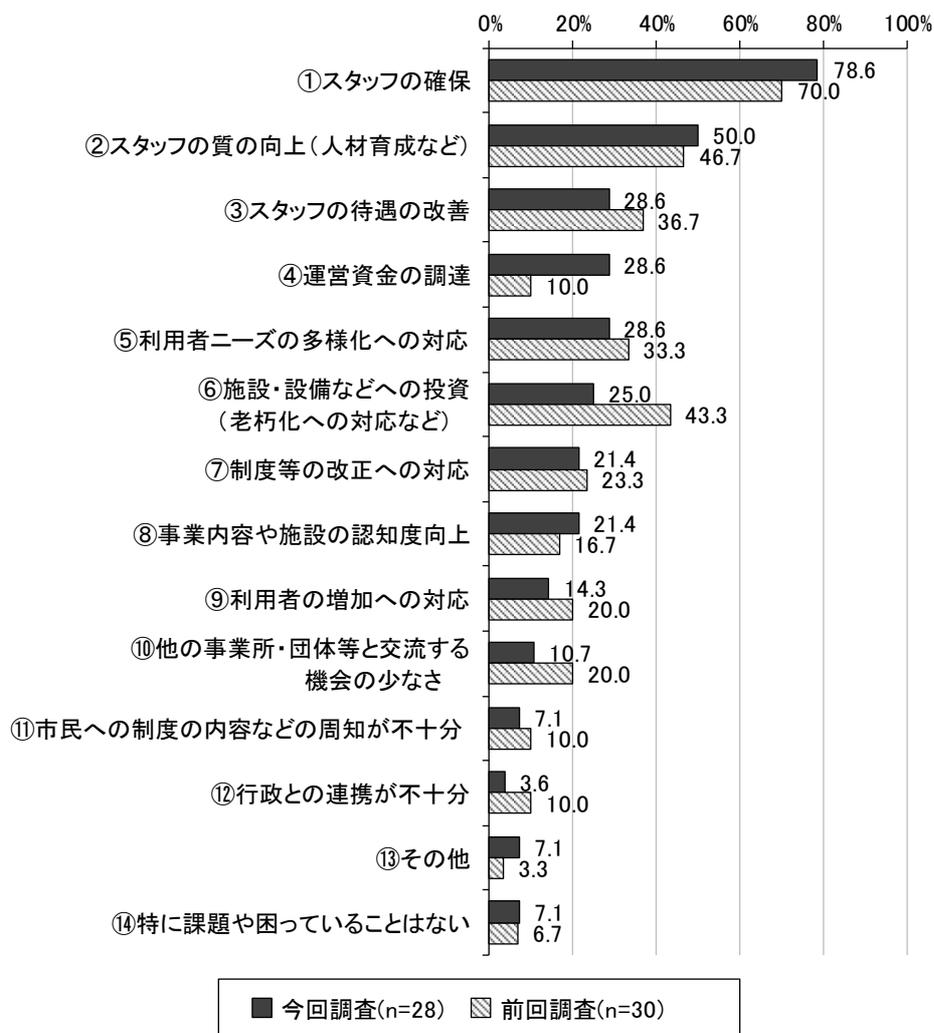


2 事業所の運営について

問6 貴事業所の運営上の課題や困っていることは何ですか。(〇は5つまで)

「①スタッフの確保」が78.6%と最も高く、次いで「②スタッフの質の向上(人材育成など)」が50.0%、「③スタッフの待遇の改善」「④運営資金の調達」が28.6%となっています。

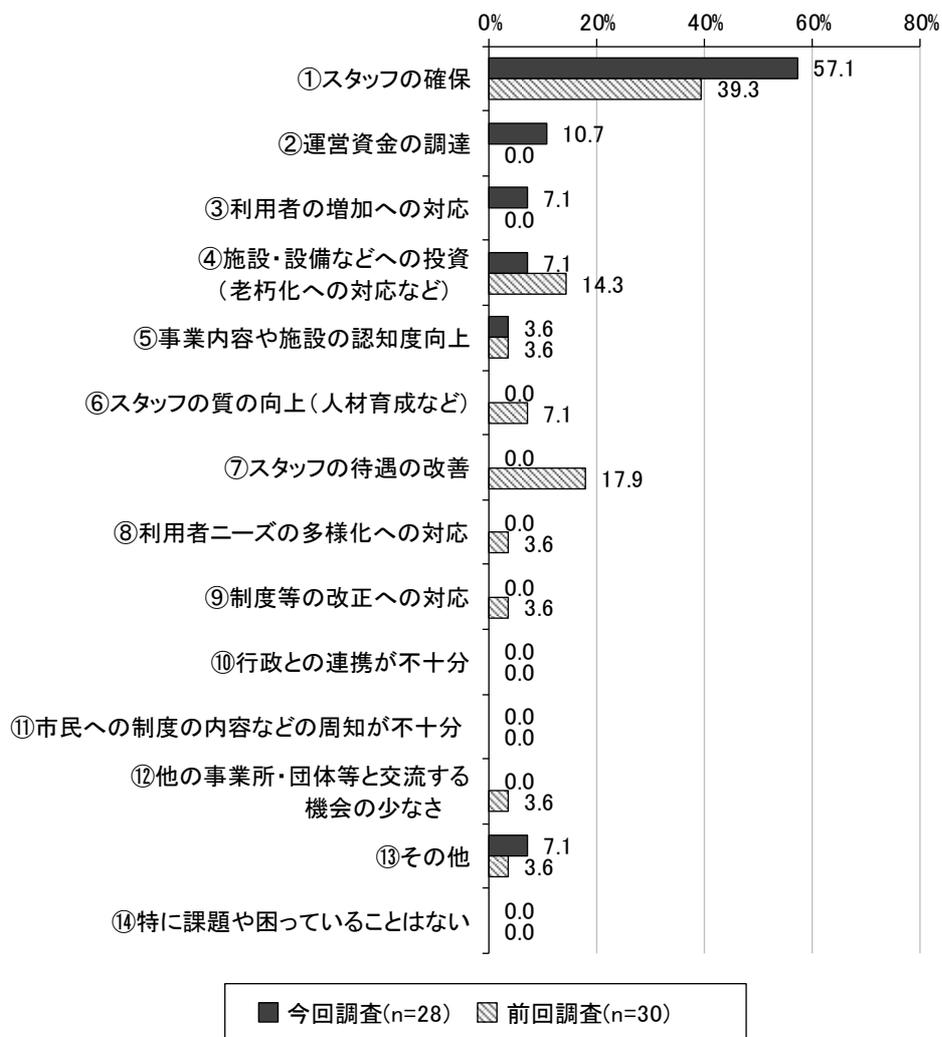
前回調査との比較では、「④運営資金の調達」が18.6ポイント増加しています。



問6で○をつけた項目のうち、最も運営上の課題と感じていたり、困っていることはどれですか。その番号を1つだけご記入ください。

「①スタッフの確保」が57.1%と最も高く、次いで「②運営資金の調達」が10.7%となっています。

前回調査との比較では、「①スタッフの確保」が17.8ポイント、「②運営資金の調達」が10.7ポイント増加し、「⑦スタッフの待遇の改善」が17.9ポイント減少しています。



問7 運営上の課題や困っていることの原因として考えられることは何ですか。また、その解決策としてどのような方法が考えられますか。具体的にご記入ください。

「スタッフの確保」としている事業所では、給与や勤務時間、業務の負荷などの労働環境を原因とするものをあげており、こうした状況が福祉の仕事に対するイメージの低下につながり、人員の確保・育成・定着を難しくしているという指摘もあります。さらに、昨今の物価の上昇なども相まって経営環境も厳しく、人員の確保や育成等にも影響している様子がうかがえます。

スタッフの確保等の解決策としては、給与等の待遇改善や業務の見直し・効率化など労働環境の改善、福祉の仕事に関する魅力の発信、未経験者の採用・育成などがあげられています。また、法人単位では難しいとの意見もみられます。

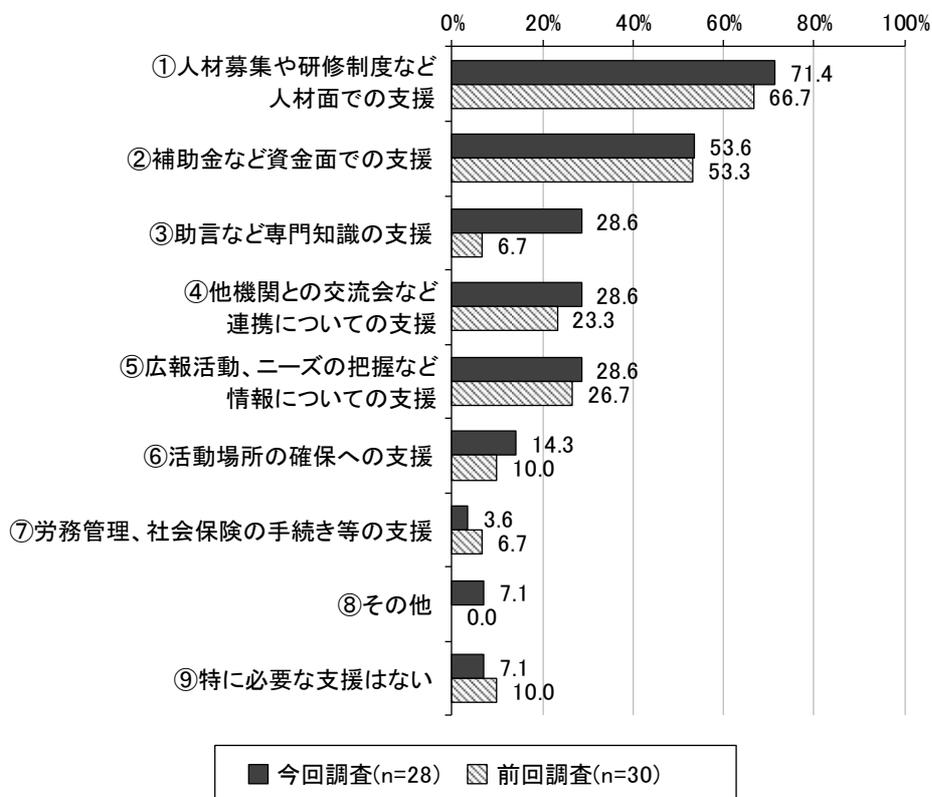
| 問6の回答 | 原因として考えられること | 解決策として考えられること |
|---------|---|--|
| スタッフの確保 | <ul style="list-style-type: none"> 特に若年層の確保が難しい。年配者は体力的に厳しく離職率が増加。職の多様化により福祉への魅力が低下し、志を持つ者の減少が感じられる。 | <ul style="list-style-type: none"> 賃金面も懸念するが、魅力のある仕事への発信が必要かと思う。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 生命に関わる仕事であるが、他の職種と比べて賃金が安いと感じている。勤務時間も様々で大変。 | <ul style="list-style-type: none"> 時給のアップと処遇の改善、仕事のやりがいについてアピールが必要、仕事内容に見合った賃金とする為の専門職としての地位向上。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 介護業界全体の人員不足、介護をやりたがる人数も減っている。業界イメージが良くないのは賃金の問題もあると思う。 | <ul style="list-style-type: none"> 介護をもっと身近に体験、知る事のできる場、法人単位では限界がある。待遇改善。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 情報発信の場が少ない。福祉に対する職場環境イメージが悪い。 | <ul style="list-style-type: none"> 仕事の魅力の発信、知名度の向上。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化が進んでいるため、少ない労働者を多くの企業が取り合う状況で、特に福祉関連業界の人材確保は困難。 | <ul style="list-style-type: none"> 求人募集方法の見直し、労働環境の改善で特に ICT の導入業務効率化を推進するために具体的な取組が必要。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化、働き手の不足減少など。 | <ul style="list-style-type: none"> 働きやすい職場環境づくり。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 勤務時間が平日は短く、長期休みは長くなる事の不規則性等。 | <ul style="list-style-type: none"> 仕事内容を理解して頂き、生きがいや楽しみを得られると感じて貰える方に出会うこと。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 業務の複雑化、精神衛生上の悪化。 | <ul style="list-style-type: none"> 待遇の改善、業務の簡素化。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 募集しても入って来ない。 | <ul style="list-style-type: none"> 賃金を上げたいけど上げれない。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 給与 | <ul style="list-style-type: none"> 給与の改善。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ハローワークを通じて応募する方が無くなった。 | <ul style="list-style-type: none"> 仲介業者、斡旋業者に委ねない。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ヘルパー希望者が少ない。 | <ul style="list-style-type: none"> 募集、口コミ。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 非常勤職員を必要としていますが業務内容が多岐にわたるため、オールラウンドに就労できる人材が困難。 | <ul style="list-style-type: none"> 経験者以外でも良い人柄を持ち合わせた方を採用し未経験者を育成して行く。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 未経験者も多く採用している中で退職された方も多く、スタッフ確保が難しい。 | <ul style="list-style-type: none"> 未経験者、経験者を問わず教育担当を置き動いている。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 必要な資格を持っている人がそもそも少ない。資格を持っていれば転職が容易にできてしまう。法人の管理体制が悪い。 | <ul style="list-style-type: none"> 何かあれば教えて頂きたいです。 |

| 問6の回答 | 原因として考えられること | 解決策として考えられること |
|---------------------|--|---|
| 運営資金の調達 | • 人件費、物価高に依る費用の増加。 | • 事業量拡大、運営費補助の増加。 |
| | • 物価、人件費の高騰。 | • 報酬改定での反映。 |
| | • 補助金等の確保。 | • 本会認知度の向上。 |
| 利用者の増加への対応(人員が足りない) | • 新規で依頼の電話があった際に対応できるケアマネジャーがいない。 | • ケアマネジャーを増やす。 |
| | • 委託料が決まっている為に人員が必要でも増員できない。更に介護認定を受ける方も増えている。 | • 介護予防支援、介護予防ケアマネジメント業務を包括から切り離す。 |
| 施設・設備などへの投資(修繕の必要) | • 開設から12年経過したので設備の不具合や修理が発生している。 | • 修理するしかない。 |
| | • 材料費、人件費、残業規制等の影響で費用が増大する可能性が高い。 | • 老朽化の修繕費建て替え、移転新築に対する補助金の支給。 |
| 事業内容や施設の認知度向上 | • サービス事業所の増加。 | • 特徴を活かしたサービス提供の実施。 |
| その他 | • 収入以上の人件費と資料作成、居宅支援の更新費用や期間が掛かりすぎる。 | • ケアマネジャー研修の削減、提出資料の簡素化と削減、サービス料値上げは必要。 |
| | • 市内在住の待機者がいない。 | • 広報活動等の実施。 |

問8 貴事業所では次のような支援を必要としていますか。(〇はいくつでも)

「①人材募集や研修制度など人材面での支援」が71.4%と最も高く、次いで「②補助金など資金面での支援」が53.6%となっています。

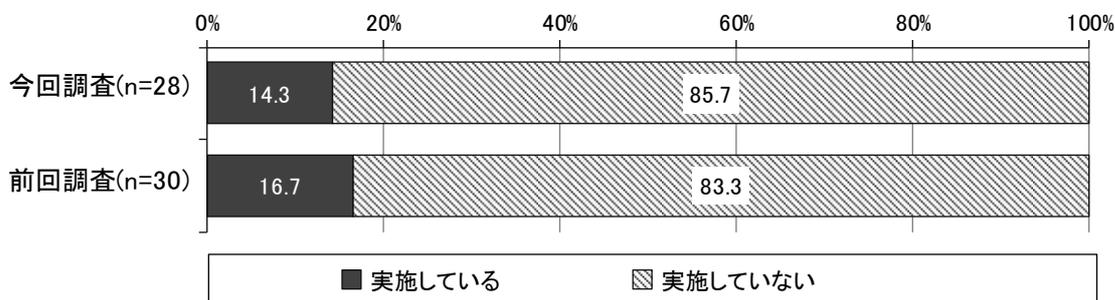
前回調査との比較では、「③助言など専門知識の支援」が21.9ポイント増加しています。



問9 貴事業所では職員等が地域のボランティア活動に参加しやすくなる取組（ボランティア休暇など）を実施していますか。(〇は1つだけ)

「実施していない」が85.7%と多数を占め、「実施している」が14.3%となっています。

前回調査との比較では、特に大きな違いはみられません。



問9で「実施している」とお答えの方

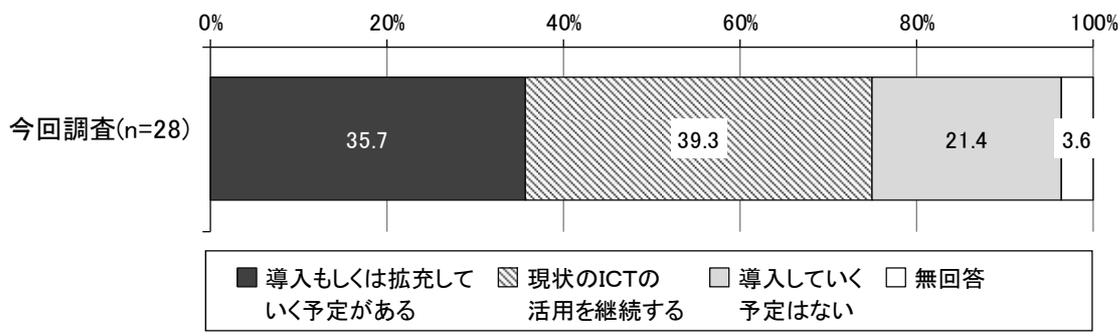
問10 その取組はどういったものですか。具体的にご記入ください。

ボランティア休暇の設定や、地域との連携を通じたボランティア活動を推進しているケースがあげられています。

| 取組の内容 |
|--|
| • 年間5日の範囲でボランティア休暇。 |
| • ボランティア休暇を認めている。 |
| • 地域のお弁当サービス。 |
| • 自治会、地域住民への声掛けにてゴミ拾い、小学校プール掃除、廃品回収、小学校下校時の見守りステッカーを送迎車に貼付け。 |

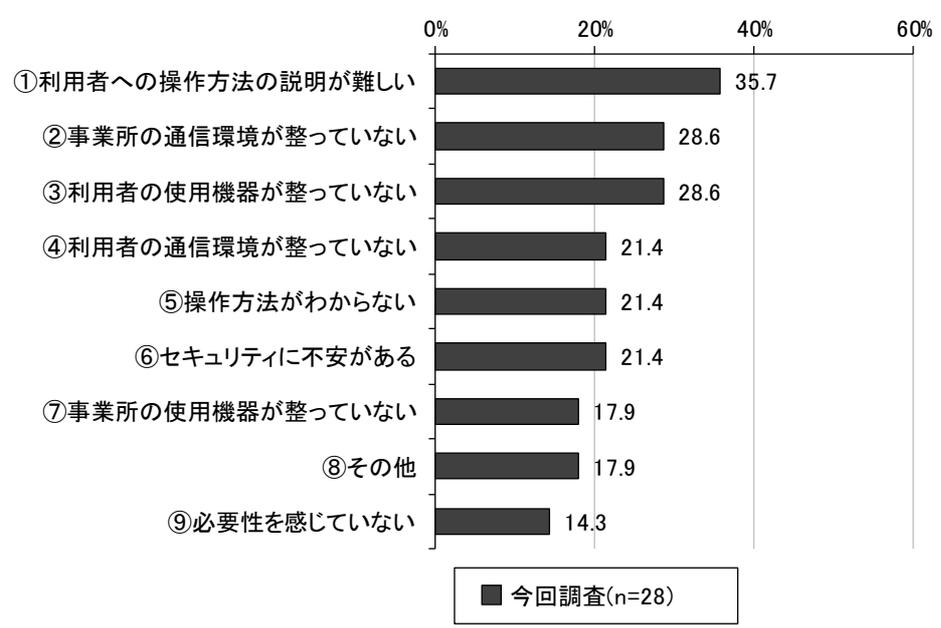
問11 今後、貴事業所においてICTを導入もしくは拡充していく予定はありますか。(〇は1つだけ)

「現状のICTの活用を継続する」が39.3%と最も高く、次いで「導入もしくは拡充していく予定がある」が35.7%ととなっています。



問12 ICTを導入もしくは拡充するうえで課題となることは何ですか。(〇はいくつでも)

「①利用者への操作方法の説明が難しい」が35.7%と最も高く、次いで「②事業所の通信環境が整っていない」「③利用者の使用機器が整っていない」が28.6%となっています。



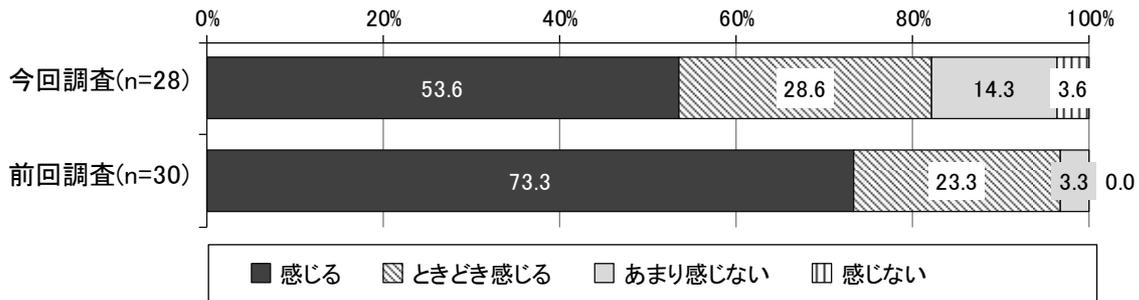
3 他機関との連携について

問13 貴事業所では、活動を行ううえで、他の団体や機関と連携の必要性を感じますか。

(○は1つだけ)

「感じる」が53.6%と最も高く、次いで「ときどき感じる」が28.6%となり、合計すると『感じる』は82.2%と多数を占めています。

前回調査との比較では、「感じる」と「ときどき感じる」を合計した『感じる』が14.4ポイント減少しています。

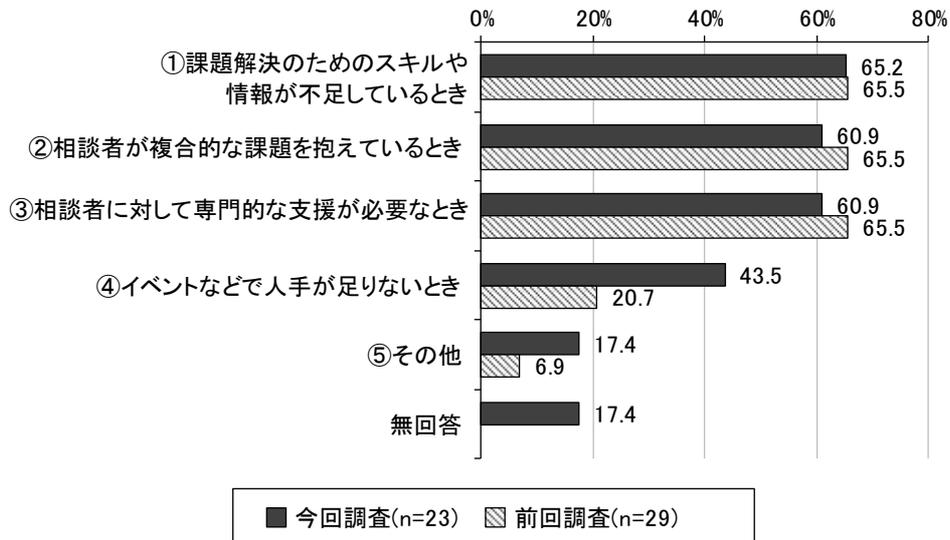


問13で「感じる」「ときどき感じる」をお答えの方

問14 連携の必要性を感じるのはどのようなときですか。(○はいくつでも)

「①課題解決のためのスキルや情報が不足しているとき」が65.2%と最も高く、次いで「②相談者が複合的な課題を抱えているとき」「③相談者に対して専門的な支援が必要なとき」が60.9%となっています。

前回調査との比較では、「④イベントなどで人手が足りないとき」が22.8ポイント増加しています。

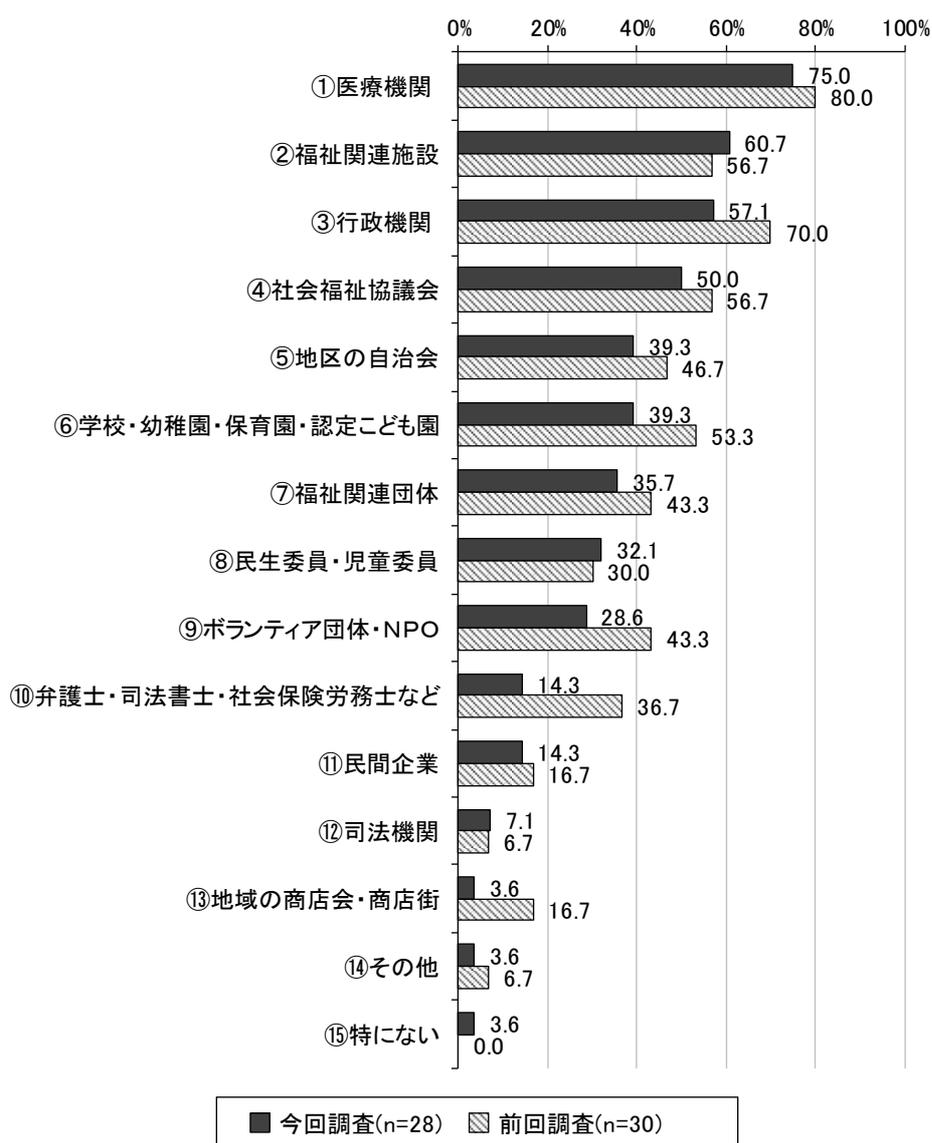


問15 貴事業所が活動するうえで、現在、連携・協働関係にある機関等はどこですか。また、今後の活動において、連携・協働関係を築きたいと考える機関等はどこですか。

① 【現在】(〇はいくつでも)

「①医療機関」が75.0%と最も高く、次いで「②福祉関連施設」が60.7%、「③行政機関」が57.1%となっています。

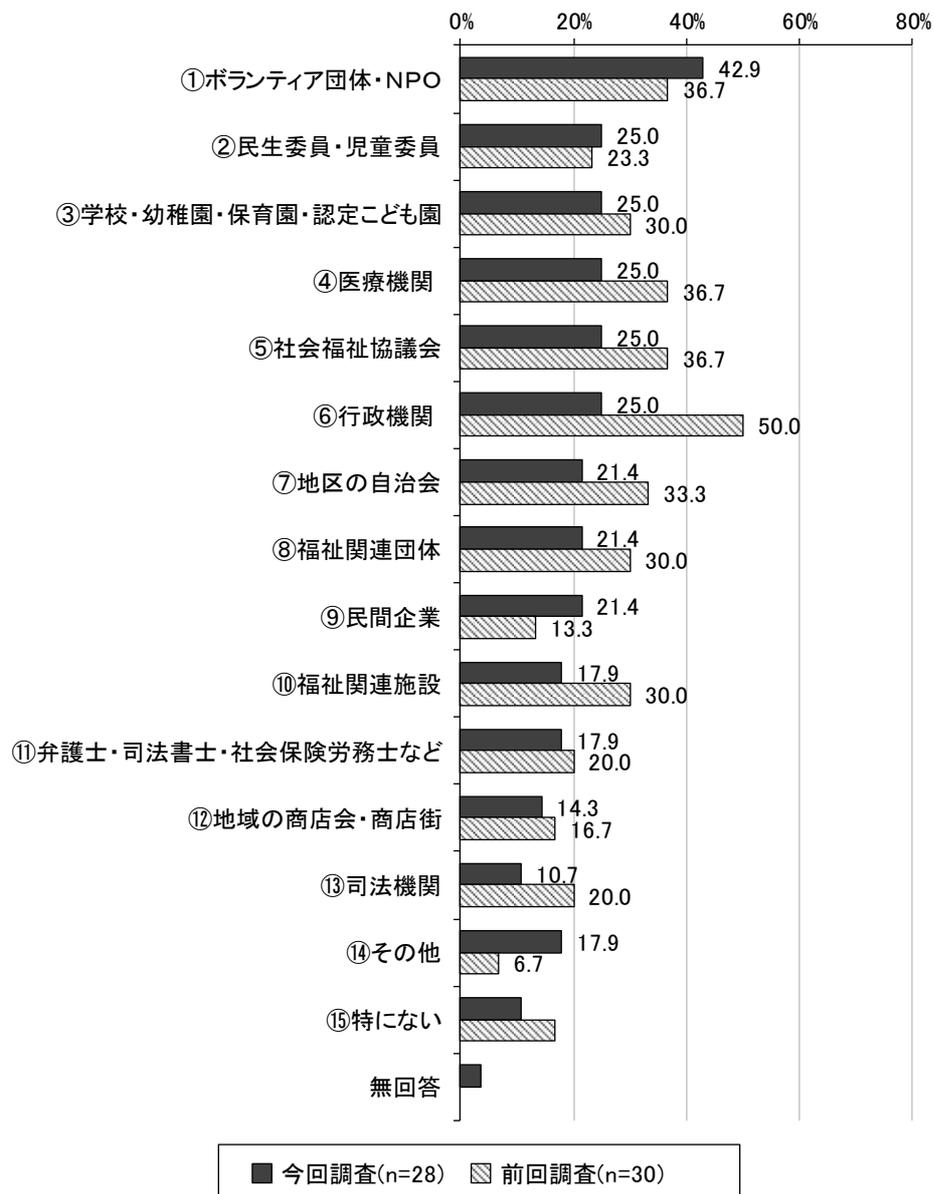
前回調査との比較では、「⑩弁護士・司法書士・社会保険労務士など」が22.4ポイント、「⑨ボランティア団体・NPO」が14.7ポイント、「⑥学校・幼稚園・保育園・認定こども園」が14.0ポイント、「⑬地域の商店会・商店街」が13.1ポイント、「③行政機関」が12.9ポイント減少しています。



② 【今後】(〇はいくつでも)

「①ボランティア団体・NPO」が42.9%と最も高く、次いで「②民生委員・児童委員」「③学校・幼稚園・保育園・認定こども園」「④医療機関」「⑤社会福祉協議会」「⑥行政機関」が25.0%となっています。

前回調査との比較では、「⑥行政機関」が25.0ポイント、「⑩福祉関連施設」が12.1ポイント、「⑦地区の自治会」が11.9ポイント、「④医療機関」「⑤社会福祉協議会」が11.7ポイント減少しています。



問 15①で「現在、他の機関等と連携・協働関係がある」とお答えの方

問15（1）現在行っている連携・協働関係の内容は、どのようなものですか。具体的にご記入ください。

問 15②で「今後、他の機関等と連携・協働関係を築きたい」とお答えの方

問15（2）今後行いたい連携・協働関係の内容は、どのようなものですか。具体的にご記入ください。

現在行っている連携・協働関係の内容は、業務を通じた関係機関との連携協力や情報共有などが多く、地域行事への参加協力などの内容もあげられています。

今後行いたい連携・協働関係の内容は、情報の共有・交換など関係機関との連携を深めるとともに、情報の共有・交換、利用者の支援充実のためにも他分野との協力も含めた多職種連携を求める意見があげられています。また、地域との交流、連携を深めていきたいという意見もあげられています。

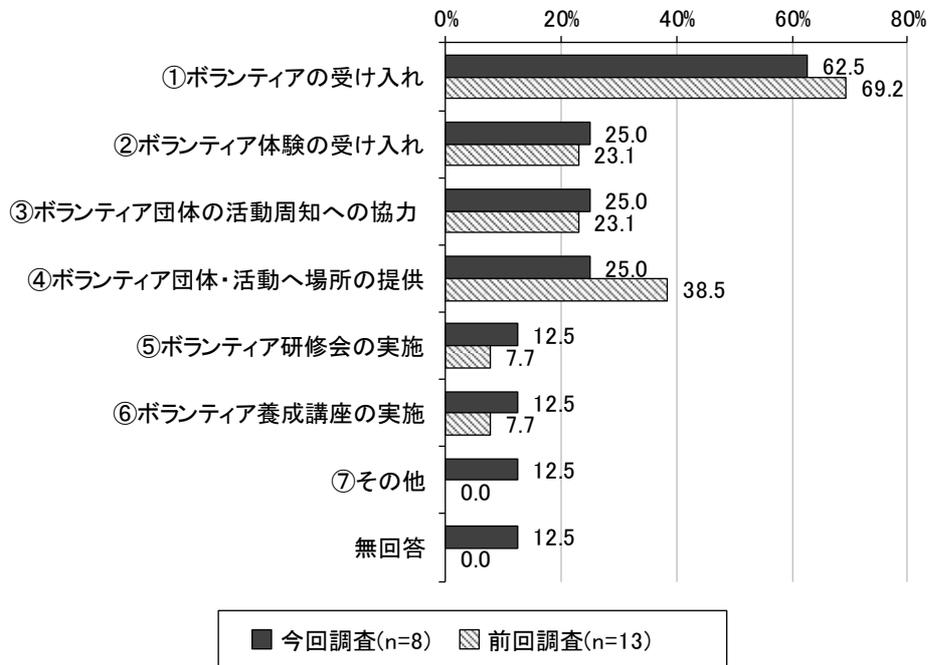
| (1) 現在行っている連携・協働関係の内容 | (2) 今後行いたい連携・協働関係の内容 |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 各関連機関との報・連・相を積極的に行い問題解決に向かって動いている。 | <ul style="list-style-type: none"> あまり関わりの無かった機関とも今後連携を図って行きたい。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 情報等の提供。 | <ul style="list-style-type: none"> 情報等の提供。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 更生保護女性会、凧の会、袖ヶ浦市聴覚障害者協会等多数の団体と連携しており、活動内容は各団体の得意とする分野での協力。 | <ul style="list-style-type: none"> 子供の成長に必要であると考えた活動に対して最適な支援者を求めていきたいと思ひますし、今もそのように動いています。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 訪問医療の先生との連携、訪問看護との連携。 | <p>—</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> 利用者の必要性に応じて共有。 | <ul style="list-style-type: none"> 議員に本当に必要な政策に繋げて貰えるように、現場訪問を沢山して貰いたい。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 業務上必要となる内容全般。 | <ul style="list-style-type: none"> 運営上におけるリスクマネジメント関連。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 以前は演芸ボランティアを行ってましたがコロナになって今現在は行っていません。 | <ul style="list-style-type: none"> その関係等の色々な情報を知りたい。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 民児協の事務局等。 | <ul style="list-style-type: none"> 民間企業から重層事業利用者の受入れ。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 業務上で関係しています。 | <ul style="list-style-type: none"> 業務上で関係しています。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 電話等による医療的な相談、福祉関連施設との情報共有等、後見人制度、行政機関との情報共有等、弁護士・司法書士・社会保険労務士との経営法律相談。 | <ul style="list-style-type: none"> 地域連携推進会議への参加、地域の福祉ニーズの掘り起こし。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 社会福祉協議会との日常生活自立支援事業。 | <ul style="list-style-type: none"> 利用者の後見人。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 防災訓練や行事等への参加。 | <ul style="list-style-type: none"> 見守りや洗濯、行事等のお手伝い。災害時等の連携。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 受診したくても受入れ先が見つからない。救急要請しても1～2時間近く病院が決まらない事もある。どこも受入れ先が無かったらもう一度電話をするように言われる事が多い。 | <ul style="list-style-type: none"> 在宅で介護困難となっている方々の受入れ施設でありたいと考えてます。医療機関、社会福祉協議会、行政機関との連携を深めて行ければと思います。 |
| <ul style="list-style-type: none"> お祭り等のイベント開催、協力医療機関、研修会への参加。 | <ul style="list-style-type: none"> 地域ニーズの情報収集と把握、ボランティアの受入れ、福祉の魅力を伝える職場体験、ICTの活用。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 蔵波台自治会館内で運営している。 | <p>—</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> 認知症のある独居の方、成年後見人の方や社会福祉協議会の権利擁護の担当者への相談。困難な事例へのお客様ご家族への対応について地域包括に相談など。 | <ul style="list-style-type: none"> 多世代交流する機会の確保。今後住みやすい町づくりを考える上で交通や商店の在り方等の買物手段などが必要と思う。 |

| (1) 現在行っている連携・協働関係の内容 | (2) 今後行いたい連携・協働関係の内容 |
|--|--|
| — | <ul style="list-style-type: none"> • 無理難題をいう利用者への対応。 |
| <ul style="list-style-type: none"> • 支援に関する会議等での連携、情報交換。 | <ul style="list-style-type: none"> • 事業所の活動や支援の中にレクリエーションを取入れていきたい。 |
| <ul style="list-style-type: none"> • 法人内ケース連携会議 | <ul style="list-style-type: none"> • 防災対策の訓練、交流会等。 |
| <ul style="list-style-type: none"> • 地域を見守っている人達との情報共有。 | <ul style="list-style-type: none"> • 銀行、郵便局、スーパー等の職員に認知症の知識をつけていただき、地域で見守りが行えるように情報共有したい。未だ地域生活の場から排除したいと考えている人が多いため。 |
| <ul style="list-style-type: none"> • 在宅診療所と契約をしている利用者様は予防接種や健診も施設で行って貰えるようにしている。 | <ul style="list-style-type: none"> • ご家族がご本人を受診や外出に行く際に車イス対応の車があると便利と言われるので、貸出をスムーズに行えたら助かります。 |
| <ul style="list-style-type: none"> • 医療機関、福祉関連施設に関し同法人、他法人との入退院、入退所の連携。民生委員・児童委員、行政機関とは運営推進会議等での情報共有。学校・幼稚園等との職場体験、地域行事での繋がり。 | <ul style="list-style-type: none"> • コロナ前までは行っていた施設の活用の援助、百歳体操など。警察に認知症の方の援助、情報共有。 |
| <ul style="list-style-type: none"> • 研修依頼。福祉施設の見学。 | <ul style="list-style-type: none"> • 介護実習、認知症サポーター講座。 |
| <ul style="list-style-type: none"> • 地元の幼稚園とのサツマイモ掘り開催、小学校とのほたるを通じた交流。 | — |
| <ul style="list-style-type: none"> • ボランティアとの行事等、社会福祉協議会、後見人。 | <ul style="list-style-type: none"> • 利用者様を含めて地域交流。 |
| <ul style="list-style-type: none"> • 民間企業との共催による講習会。 | <ul style="list-style-type: none"> • 会員や市民が参加できる共催事業。 |
| <ul style="list-style-type: none"> • 災害時等の避難場所、行事等の交流。協力医療機関としての連携。 | <ul style="list-style-type: none"> • 行事等の参加や畑や庭の管理。 |

問 15 (1) 【現在】で「ボランティア団体・NPO」とお答えの方

問16 貴事業所はボランティア団体との連携や協働の一環として、どのようなことを実施していますか
 (協働での実施なども含めてご回答ください)。(〇はいくつでも)

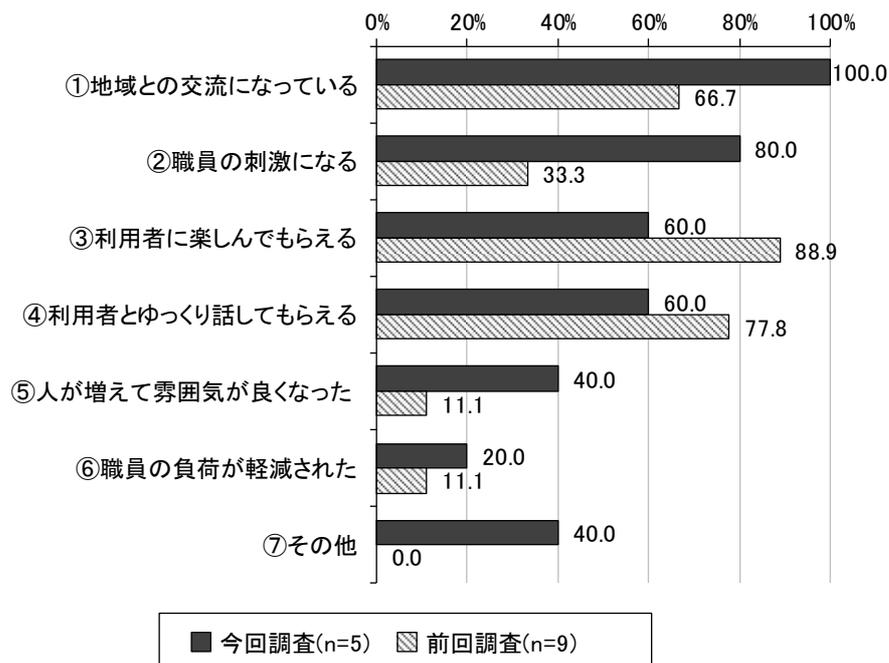
回答数が少ないものの、「①ボランティアの受け入れ」が62.5%と最も高くなっています。



問 16 で「ボランティアの受け入れ」とお答えの方

問17 貴事業所でボランティアを受け入れて良いと感じたことは何ですか。(〇はいくつでも)

回答数が少ないものの、「①地域との交流になっている」が100.0%と最も高く、次いで「③利用者に楽しんでもらえる」が88.9%となっています。

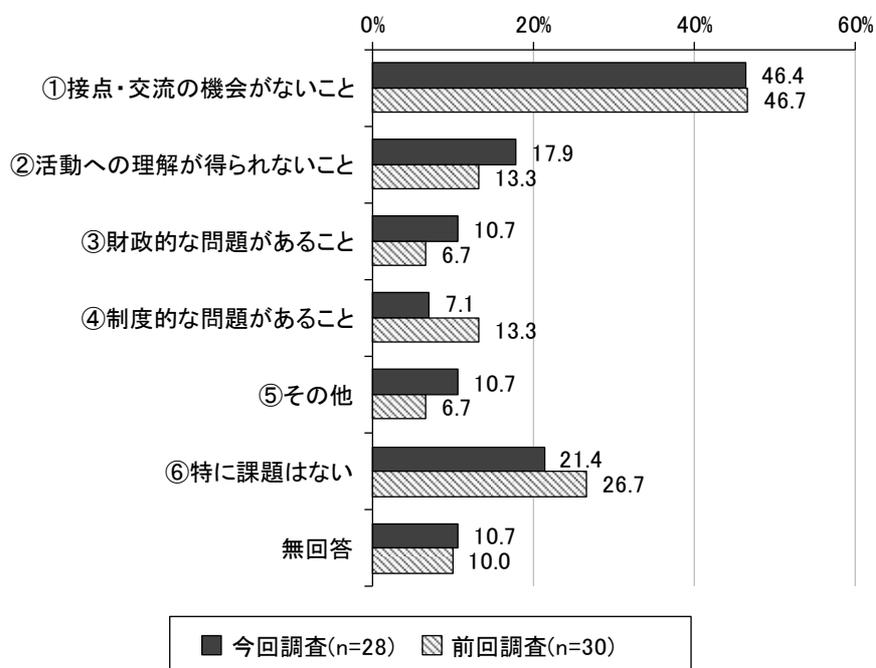


問18 他機関等との連携・協働関係を築く際、課題となることは、どういったことですか。

(〇はいくつでも)

「①接点・交流の機会がないこと」が46.4%と最も高く、「②活動への理解が得られないこと」が17.9%となっています。また、「⑥特に課題はない」が21.4%となっています。

前回調査との比較では、特に大きな違いはみられません。



問 18 で「①～⑤の課題がある」とお答えの方

問19 その課題はどういった内容のものですか。具体的にご記入ください。

人手不足や業務多忙などの問題があげられています。また、個人情報に関する守秘義務の問題や新型コロナウイルス感染症をきっかけに外部との交流がなくなり、その状態が続いていることなどがあげられています。

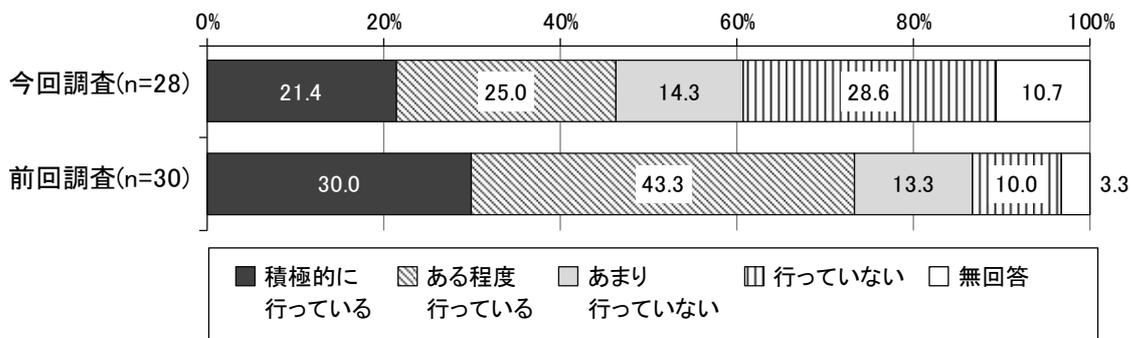
| 課題の具体的な内容 |
|--|
| • 日々の法定業務に追われてしまっている。 |
| • 業務が多忙のために接点を連携協働までに発展させる事が困難。 |
| • 参加する意義も必要性も感じているが人員不足状態である。 |
| • 近隣の方やボランティアに個人情報をどこまで伝えて良いか悩む事が多い。独居で相談できる家族がなく困っているのに、医療機関に相談すると身内の委任状を要求され、問題解決に無駄な時間がかかる。 |
| • 守秘義務 |
| • 情報不足から交流や接点を持つ機会が持てない。 |
| • 窓口や相談方法、機会がわからない。 |
| • 地域おこし等のイベントがあれば協力できると思います。その際に接点や交流の機会が持てるといい。そういったイベントを希望したい。 |
| • 業界の性質マッチング。 |
| • 新型コロナ以降は外部との接触がゼロになった。 |
| • 本会の認知不足。 |
| • 中々ボランティアがいない。 |
| • 外部よりも法人内での連携を重視する傾向にある。 |
| • 運営費充当金の不足。 |

4 地域福祉について

問20 貴事業所では施設やイベント等を地域住民に開放したり、事業所として地域行事へ参加するなど、地域や地域住民との交流を行っていますか。(〇は1つだけ)

「行っていない」が 28.6%と最も高く、次いで「ある程度行っている」が 25.0%となっています。『行っている』（「積極的に行っている」と「ある程度行っている」の合計）は 46.4%となっています。

前回調査との比較では、『行っている』は 26.9 ポイント減少しています。



問 20 で「積極的にやっている」「ある程度行っている」とお答えの方

問21 貴事業所は地域や地域住民とどういった交流を行っていますか。具体的にご記入ください。

交流の内容としては、祭りや運動大会、避難訓練など、各種行事への参加や、安否確認や清掃活動など地域活動への参加があげられています。課題としては、人員不足や参加者確保の難しさなどがあげられています。

| 問 20 | 対象・目的 | 内容 | 課題・問題点 |
|---------------|---|--|--|
| 積極的に 行っている | • 地域住民や利用者に人が集う場所を提供して余暇を楽しむ。 | • 非日常を体験したり昔の事を思い出したりする。 | • 人員不足で遠くから観覧はできるが傍で触れ合う事が困難。 |
| | • 地域交流、利用者の社会参加。 | • 公民館祭り、マラソン大会参加、サツマイモ掘りの開催。 | - |
| | • 地域住民 | • 年1回の地域交流会、年1回のグラウンドゴルフ大会、健康例大会への参加、場所の提供等。 | - |
| | • 福祉意識の醸成。 | • お祭り、表彰式。 | • 参加者の確保。 |
| | • 独居老人 | • お弁当を配布して安否確認。 | - |
| | • 地域の児童及び一般。 | • 芸術、舞台鑑賞の公開で一般参加を認める。 | • 一般参加が少ない事。 |
| ある程度 行っている | • 地域や地域住民との関わり。 | • 祭礼、防災行事活動等の地域行事への参加。橘西分区との定期的な交流。 | - |
| | • 地域の方へ認知症カフェふらっとのお知らせ。蔵波自治会の御園公園清掃活動に月1回位の参加で地域貢献。 | • 毎月1回予約なしで1時間程度の心配な事などの気軽なおしゃべり。地域の皆様との交流、顔合わせ。 | • 予約なしなので多く来られる時とゼロ人の時がある。事業所側として人員確保がいつもギリギリなので担当スタッフかケアマネジャーか所長のみになってしまっている。 |
| | • 地域住民 | • 地域の清掃活動への参加。 | • 参加できる人数に限りがある。 |
| | • 高齢者への介護予防。 | • サロンでの講義、百歳体操での測定会。 | • 出席している方しか講義の内容が伝わらない。その時間内のみでの関りで終わってしまう。 |
| | • 地域の避難訓練に参加。 | • 地域の避難訓練に参加。 | - |
| | • 利用者 | • 地域の祭り。 | - |
| | • 事業のPR。 | • 公民館まつりに参加。 | - |

問22 貴事業所を利用している地域の人から聞く、日常生活での困りごとや地域の問題・課題など
 はありますか。また、それに対して貴事業所として取り組めることはありますか。ありまし
 たら具体的にご記入ください。

日常生活での困りごと等は、介護の問題、移動の問題、災害への対応、経済的な不安などがあげ
 られています。また、家族や地域のつながりの希薄化による支援不足を指摘する意見もみられます。

これらの困りごとに対する取組としては、交流活動や関係者間の連携、情報収集の他、施設や職
 員など地域資源の活用に関する取組などがあげられています。また、課題として、人員不足や個人
 情報の取扱い、行政の支援を求める意見などもみられます。

| 日常生活での困りごとや 地域の問題・課題 | 取り組める内容 | その際の課題・問題点など |
|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 買物に行けない、支店が無い、足が無い、介護タクシーも予約できず外出ができない。 | <ul style="list-style-type: none"> 送迎車両 | <ul style="list-style-type: none"> 袖ヶ浦市で行っているチョイソコがうらの周知はされているようだが、高齢者が新規に手続きするにはハードルが高い。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 高齢者の独居、生活困窮者が多い。 | <ul style="list-style-type: none"> 民生委員や近所の方からの通報時に迅速な情報収集と実態把握訪問。 | <ul style="list-style-type: none"> 守秘義務の観点からどこまでどの程度の情報を伝えて行けば良いか。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 買物、通院等の移動問題。 | <ul style="list-style-type: none"> チョイソコがうらの案内はしています。 | <ul style="list-style-type: none"> 施設も人員の課題はあるので直接的な支援は困難です。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 介護の事。 | <ul style="list-style-type: none"> 介護支援の相談。 | <ul style="list-style-type: none"> 個人情報の取り扱い、対応について。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 介護保険の使い勝手の悪さ。 | <ul style="list-style-type: none"> 制度外の事にボランティアで対応。 | <ul style="list-style-type: none"> — |
| <ul style="list-style-type: none"> 認知症あり介護度が支援1、2～介護1くらいの方が限度額の中で思うようにサービス量が確保できない。 | <ul style="list-style-type: none"> 介護度によらず必要なサービスを調整する事が可能。アセスメントや月々のモニタリングを通してその都度の調整をして行くために細かい情報が必要で聞き取りに時間を要しケアマネジャーが1人では難しい。 | <ul style="list-style-type: none"> 多機能型サービスでは回数制限はないが、29名登録者全員がデイサービスを毎日受ける事はできないので調整が難しい。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 具体的に聞いていないが地域の高齢化に伴う地域を支える人材の不足。一方近隣では地域が開発され急激な人口増加。 | <ul style="list-style-type: none"> — | <ul style="list-style-type: none"> — |
| <ul style="list-style-type: none"> 近所付き合いが少ない。 | <ul style="list-style-type: none"> ふれあいで行っているサロンに参加して頂く。 | <ul style="list-style-type: none"> 送迎の人手不足。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 健康や病気に関する不安。生活意欲の低下。自然災害への対応。外出同行時の送迎、公共交通の充実。買物、薬の受取通院。生活の利便性の低下等。 | <ul style="list-style-type: none"> 社会的な活動に参加できるよう住民同士の繋がりや関係者間の連携、近隣の助け合い、地域で実施する活動やイベントへの参加と協力。幼少期から高齢期に至るまで幅広い交流活動に参加し必要なサービスなど情報提供「繋がり作り」を行っていく。 | <ul style="list-style-type: none"> 実現したい目標と現状との間に生じる差異。 |

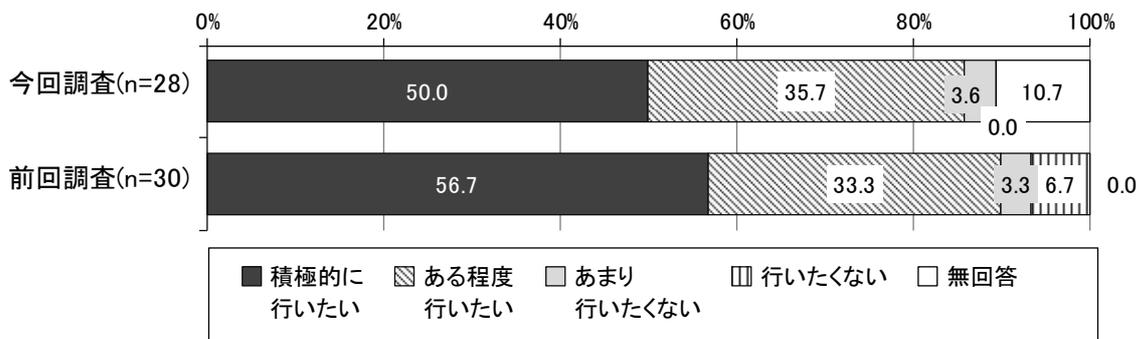
| 日常生活での困りごとや 地域の問題・課題 | 取り組める内容 | その際の課題・問題点など |
|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 核家族化により大人の支援が不足しがちである事。 | <ul style="list-style-type: none"> 親を巻き込んだ活動を行い親同士の交流を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> 特に無し。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 親子関係、親族関係の希薄さ。 | <ul style="list-style-type: none"> 最善かは微妙だが利用者家族を巻き込む会議を行っている。しかし余り効果は無い。 | <ul style="list-style-type: none"> 無関心家族を巻き込み説得する手立てとして行政の出番になると思っているが大きな壁があるようです。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 身体障がい者の方々から入浴サービスの不足や入浴が可能な事業所が増えて欲しいとの要望。 | <ul style="list-style-type: none"> 現在ご利用頂いている利用者様への入浴サービスの提供を継続して行くこと。 | <ul style="list-style-type: none"> 入浴機器の維持費等の確保。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 物価高、賃金の上昇で小学以降の子育て支援に金銭面での負担が大きい。 | <ul style="list-style-type: none"> わからない。 | <ul style="list-style-type: none"> わからない。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 大雨による氾濫が発生した際の対応。 | <ul style="list-style-type: none"> 避難所として開放する。 | <ul style="list-style-type: none"> 近隣住民への周知。 |
| — | <ul style="list-style-type: none"> 会場の提供、職員の派遣。 | — |
| <ul style="list-style-type: none"> 植木、除草、修理等。 | <ul style="list-style-type: none"> 高齢者に無理のない仕事。 | <ul style="list-style-type: none"> 人員不足、仕事を希望する人がいない。 |

問23 貴事業所では、今後、地域や地域住民との交流を行っていきたいとお考えですか。

(○は1つだけ)

「積極的に行いたい」が50.0%と最も高く、次いで「ある程度行いたい」が35.7%となり、合計した『行いたい』は85.7%となっています。

前回調査との比較では、『行いたい』は4.3ポイント減少しています。



問24 お互いが支え合えるまちづくりを進めるにあたっては、地域の様々な課題に対して市民と連携・協働していくことが重要です。貴事業所が市民と連携・協働する際に必要だと思うことは何ですか。具体的にご記入ください。

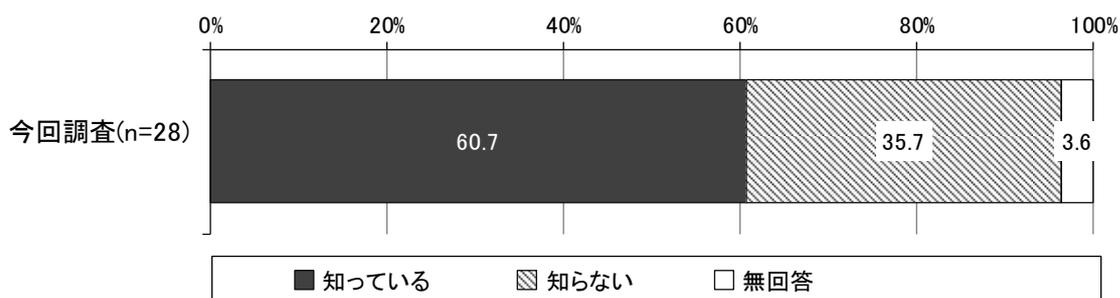
市民と連携・協働する際に必要だと思うことについては、相互理解やお互いを尊重し合うこと、信頼関係を築くことが大切であり、そのために情報交換や協働の機会を増やすようにしていく必要であるという趣旨の意見が多くみられました。

| 市民と連携・協働する際に必要だと思うこと |
|--|
| • お互いの主体性と自発性を尊重して共通の目的を達成するために協力する。信頼関係の構築、立場や特性の違いを理解し尊重し合う。役割や責任分担を明確にして情報交換をして行く。 |
| • 共通の目的を持つ者が互いに連絡を取り合い協力しあう事が基本だと思う。地域資源を活用するだけでなく新たな社会資源の開発も重要だと思う。 |
| • 災害発生時の協力と支援体制の構築。 |
| • 私達法人の活動は地域の理解の上に成り立っているので近隣の方へ配慮する事を心掛け、又活動を理解して頂くために多くの連携をしている。 |
| • 対話 |
| • 信頼関係 |
| • 協働の機会が増えれば信頼が持て、地域のニーズが把握できるので接点を増やすこと。 |
| • 常に顔の見える関係。行政と違い人事異動がないために職員を固定化できる事は大きな強みであると考えます。 |
| • 障がいの事業所を行っていますが市民の方々にも理解ある方、一方では関心がなかったりお互いを知らない事で起きる距離間を感じています。地域との距離感を小さくしていきたいです。 |
| • 認知症の現実についての理解が進むようにする。 |
| • スタッフの充足と人力的余裕が必要、その上で市民との連携協働できる。スタッフや時間を作り出す必要がある。認知症の方が地域で起こしてしまう行動について早く施設に入れると言うような声をきく事がある。自分事として考える必要があるが。 |
| • 開かれた施設、組織であること。 |
| • 介護事業なので介護に関わる案件には関わって行きたい。 |
| • 日々の業務に追われているので地域まではなかなか。 |

問25 地域連携ネットワークの中核を担う「中核機関」は、本市では令和4年度に整備し、市及び社会福祉協議会によって運営しておりますが、「中核機関」を知っていますか。

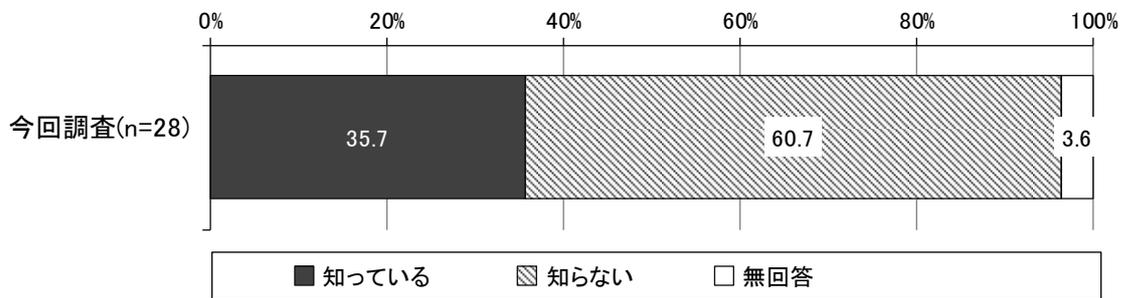
(○は1つだけ)

「知っている」が60.7%と過半数を占めるものの、「知らない」が35.7%と3分の1程度を占めています。



問26 袖ヶ浦市では、複合化・複雑化する市民からの相談に対し、分野ごとまたは福祉の既存の制度を超えた対応が行えるように、「袖ヶ浦市重層的支援体制整備事業」に取り組んでいることを知っていますか。(〇は1つだけ)

「知らない」が60.7%と過半数を占め、「知っている」は35.7%と3分の1程度となっています。



「袖ヶ浦市重層的支援体制整備事業」についての意見や要望

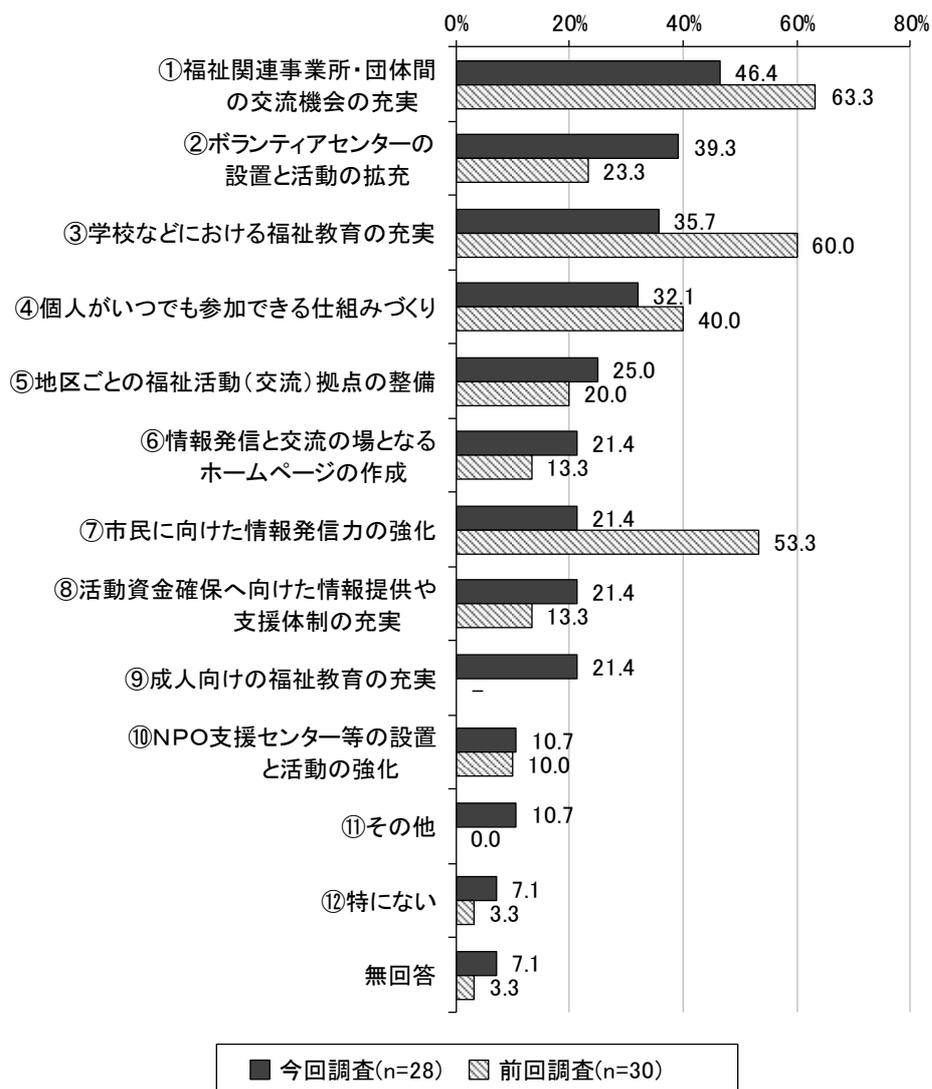
「袖ヶ浦市重層的支援体制整備事業についての意見や要望

- 今回の意識調査で知る事ができて良かった。私たちも相談支援や地域づくり等で一助になればと考えています。
- 具体的にどのような活動をしているのか良くわからないので勉強会の機会を作って欲しい。
- 1年以上前に難題を持ちかける高齢者について市に相談しましたが何もできずに終わりました。

問27 袖ヶ浦市において、今後、地域での福祉活動（ボランティア活動や助け合い活動等を含む）をさらに活性化させるためには、どのような取組が必要とお考えですか。（〇はいくつでも）

「①福祉関連事業所・団体間の交流機会の充実」が46.4%と最も高く、次いで「②ボランティアセンターの設置と活動の拡充」が39.3%、「③学校などにおける福祉教育の充実」が35.7%となっています。

前回調査との比較では、「⑦市民に向けた情報発信力の強化」が31.9ポイント、「③学校などにおける福祉教育の充実」が24.3ポイント、「①福祉関連事業所・団体間の交流機会の充実」が16.9ポイント減少しています。



※「⑨成人向けの福祉教育の充実」は今回調査のみ

5 市が策定する計画に対する意見・要望

問28 袖ヶ浦市が策定する「地域福祉計画」、袖ヶ浦市社会福祉協議会が策定する「地域福祉活動計画」に対するご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください

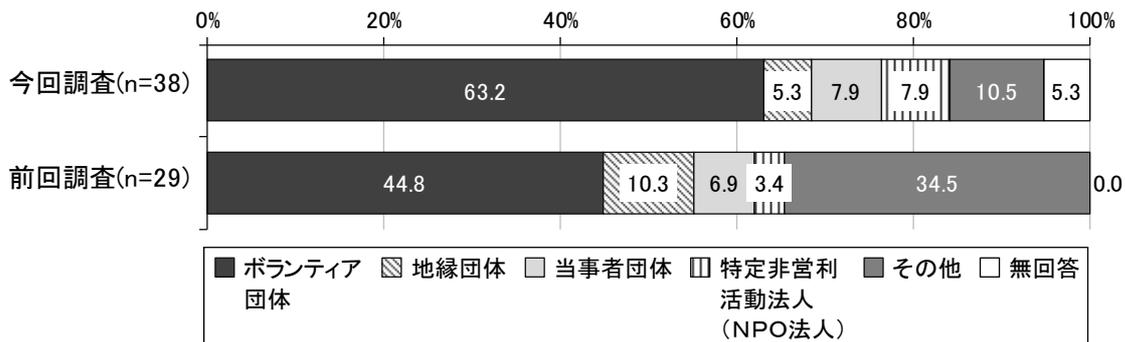
| 意見・要望 |
|--|
| • 人材不足が大きな課題となっています。地域の繋がりや充実や地域福祉に関わる人材づくりが必要だと考えています。交流の場づくりや担い手の育成などに貢献できればと思います。 |
| • こういう活動は絶えず続けて貰いたい。今は参加できてない当社も人員に余裕ができれば参加したいと思っている。参加できない事情を解決して一緒に活動したい。 |
| • チョイソコがうらが専用走り各地点まで乗せて頂ける活動が素晴らしいと思います。当法人や福祉施設が市から借用できる中型バスがあるとさらに活動を深める事ができるために切に希望いたします。 |
| • 人口減少の局面になっているためどうやって絞り込んで行くかを考えて行く必要があると思います。 |
| • 計画の進捗評価などもお知らせしたほうが良いです。 |
| • できる事が有れば協力していくのでよろしくお願いします。 |
| • 今後ともよろしくお願いします。 |

Ⅲ 福祉関係団体調査結果

1 団体の概要

問1 貴団体の組織形態は、次のどれにあてはまりますか。(○は1つだけ)

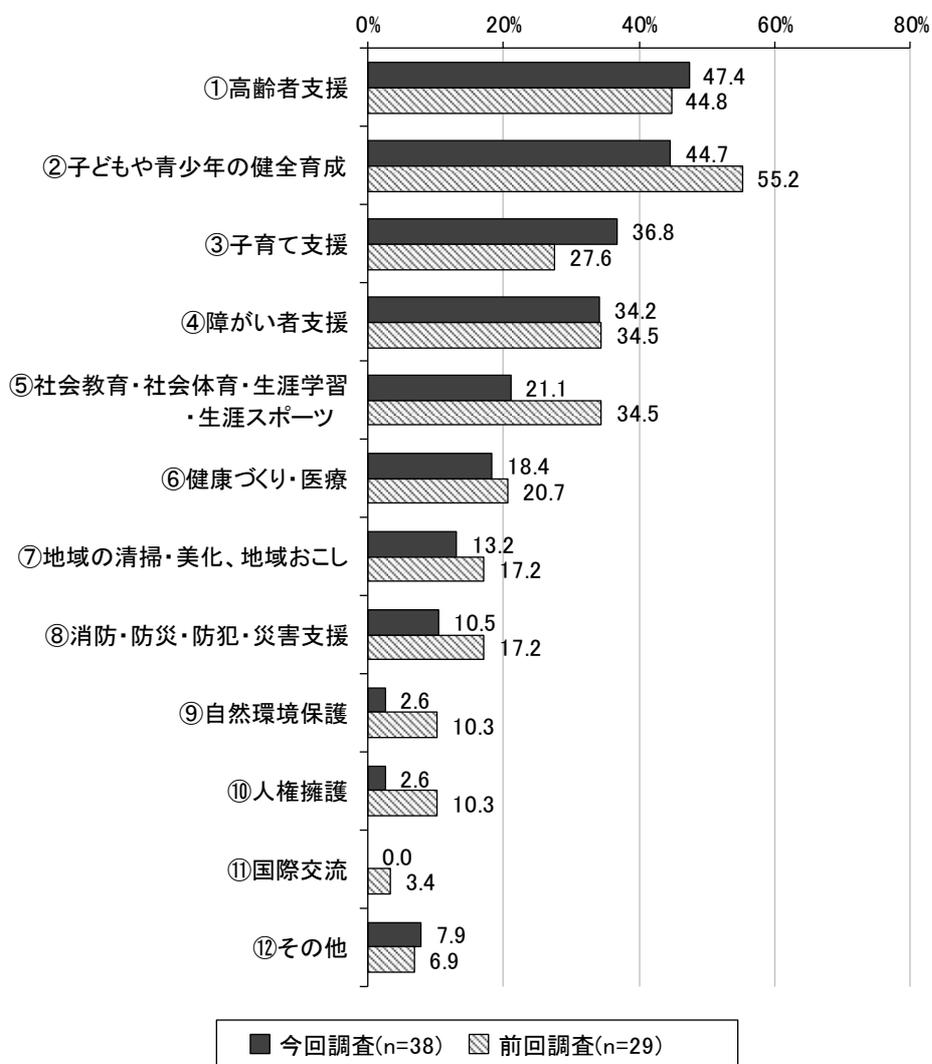
「ボランティア団体」が63.2%と最も高く、次いで「当事者団体」「特定非営利活動法人（NPO法人）」が7.9%、「地縁団体」が5.3%となっています。また、「その他」が10.5%となっています。前回調査との比較では、「ボランティア団体」が18.4ポイント増加しています。



問2 貴団体の活動分野は、どのようなものですか。(〇はいくつでも)

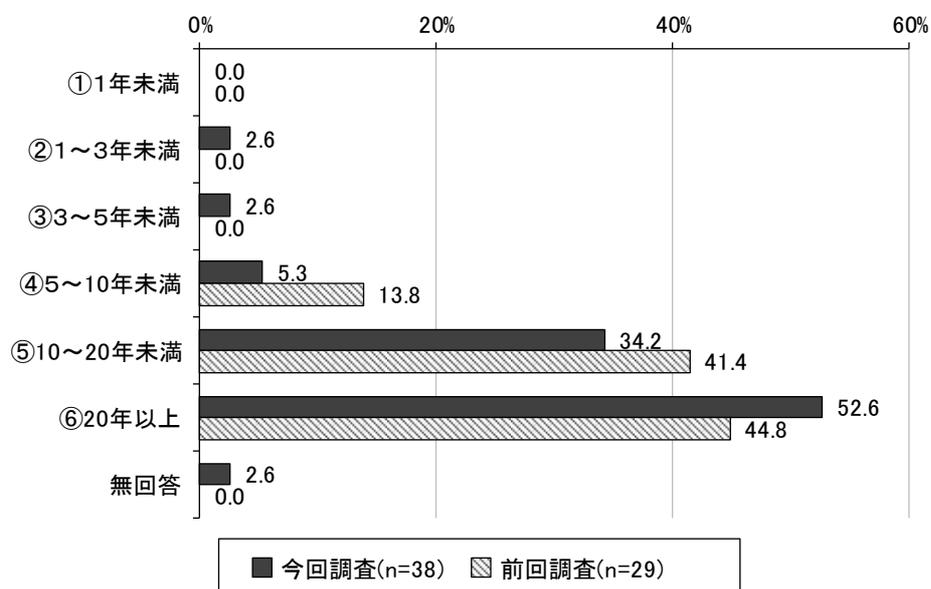
「①高齢者支援」が47.4%と最も高く、次いで「②子どもや青少年の健全育成」が44.7%、「③子育て支援」が36.8%となっています。

前回調査との比較では、「⑤社会教育・社会体育・生涯学習・生涯スポーツ」が13.4ポイント、「②子どもや青少年の健全育成」が10.5ポイント減少しています。



問3 貴団体の活動年数をお答えください。(〇は1つだけ)

「⑥20年以上」が52.6%と最も高く、次いで「⑤10～20年未満」が34.2%となっています。前回調査との比較では、特に大きな違いはみられません。



問4は、民生委員・児童委員以外とお答えの方

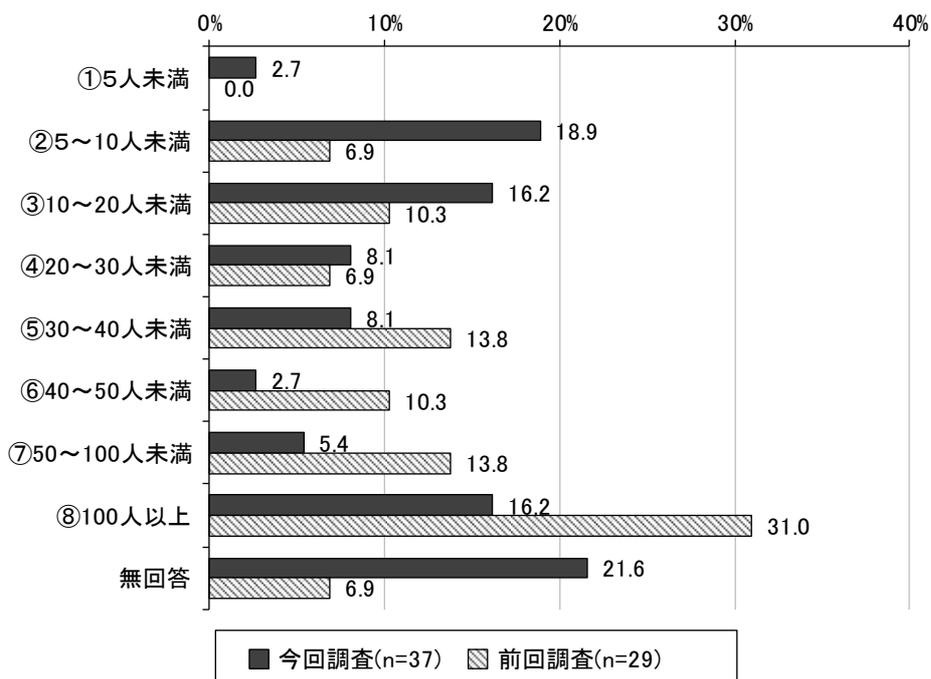
問4 貴団体の規模（構成員数）と構成員のおおよその平均年齢をお答えください。

(それぞれ〇は1つだけ)

① 構成員数

「②5～10人未満」が18.9%と最も高く、次いで「③10～20人未満」「⑧100人以上」が16.2%となっています。

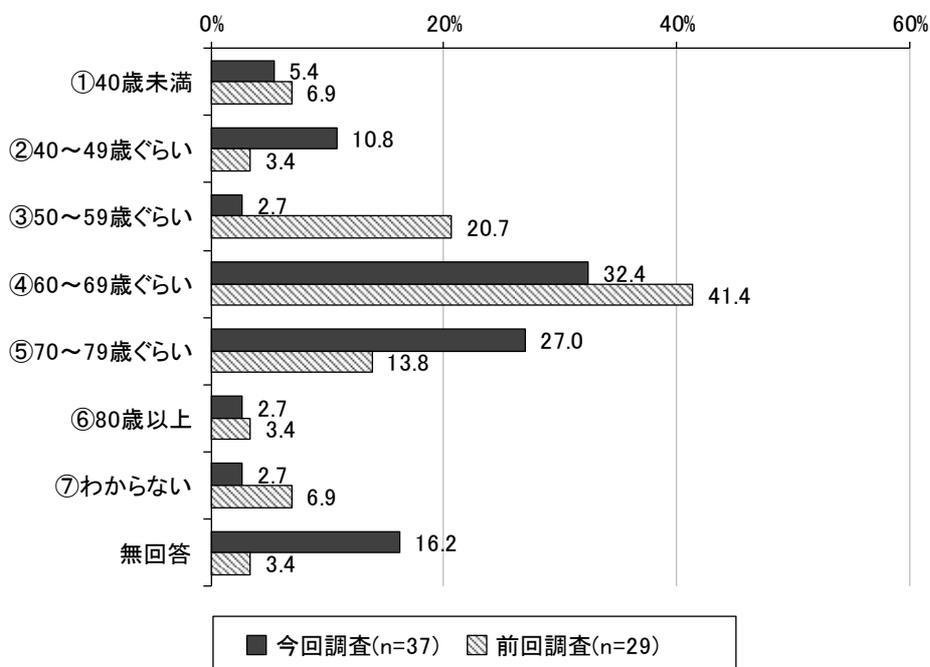
前回調査との比較では、「②5～10人未満」が12.0ポイント増加し、「⑧100人以上」が14.8ポイント減少しています。



② 平均年齢

「④60～69歳ぐらい」が32.4%と最も高く、次いで「⑤70～79歳ぐらい」が27.0%となっています。

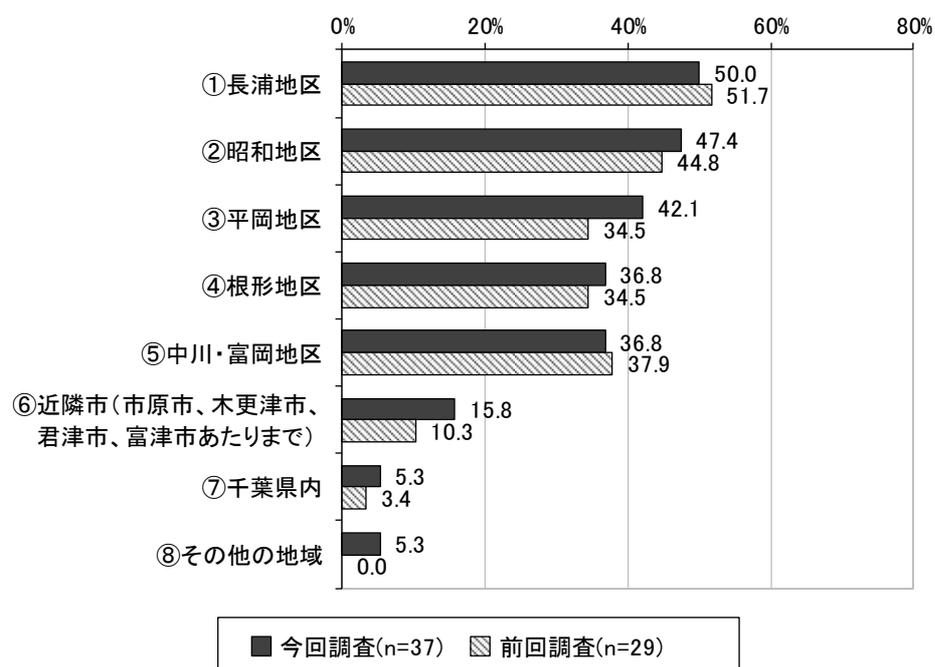
前回調査との比較では、「③50～59歳ぐらい」が18.0ポイント減少し、「⑤70～79歳ぐらい」が13.2ポイント増加しています。



問5 貴団体の主な活動範囲としては、どこまでの地区を対象にしていますか。(〇はいくつでも)

「①長浦地区」が50.0%と最も高く、次いで「②昭和地区」が47.4%、「③平岡地区」が42.1%となっています。

前回調査との比較では、特に大きな違いはみられません。

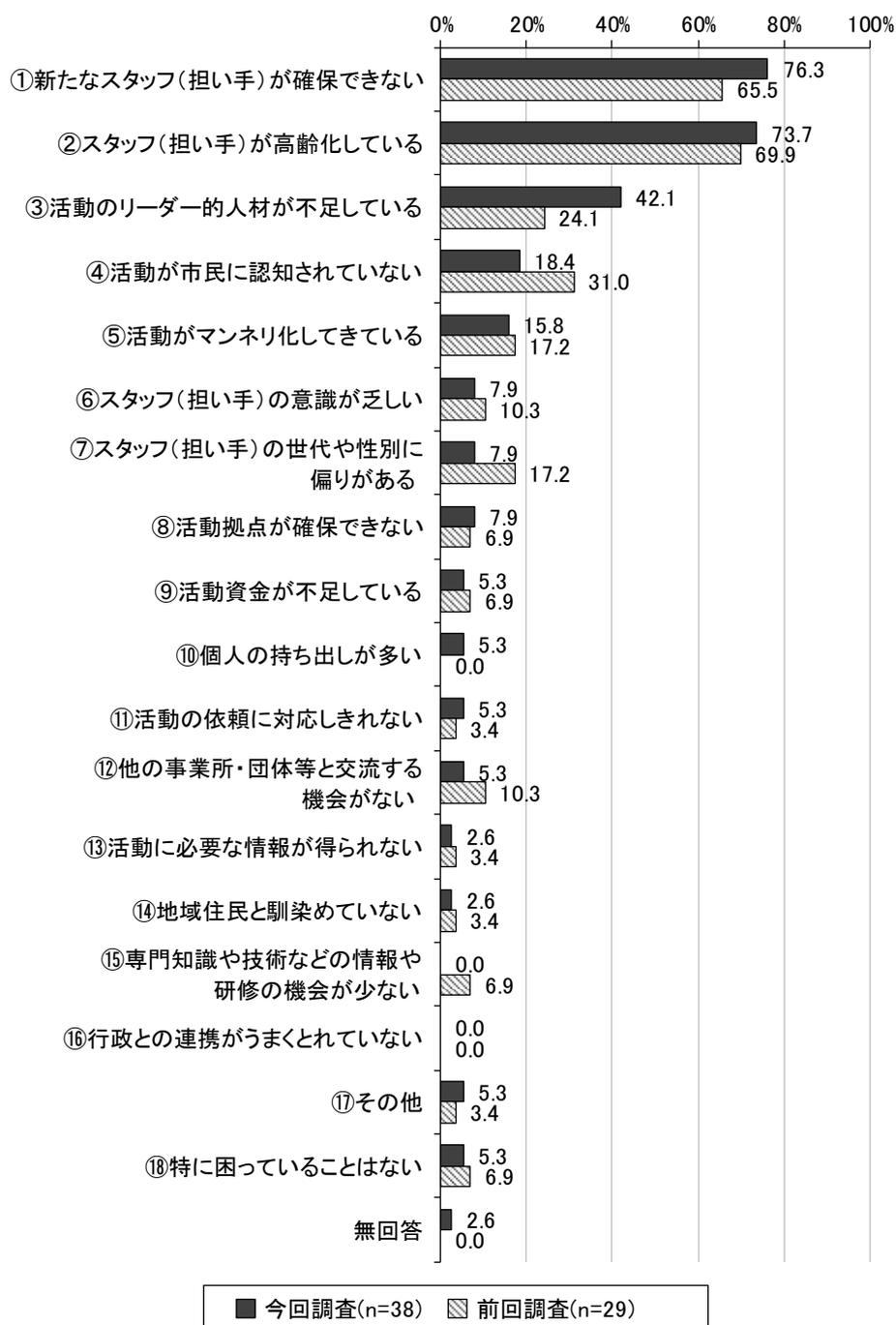


2 団体等の活動について

問6 貴団体の活動を行う中で、今困っていることは何ですか。(〇は5つまで)

「①新たなスタッフ（担い手）が確保できない」が76.3%と最も高く、次いで「②スタッフ（担い手）が高齢化している」が73.7%、「③活動のリーダー的人材が不足している」が42.1%となっています。

前回調査との比較では、「③活動のリーダー的人材が不足している」が18.0ポイント増加し、「④活動が市民に認知されていない」が12.6ポイント減少しています。



問6で○をつけた項目のうち、最も運営上の課題と感じていたり、困っていることはどれですか。その番号を1つだけ<記入欄>へご記入ください。

「①新たなスタッフ（担い手）が確保できない」が42.1%と最も高く、次いで「②スタッフ（担い手）が高齢化している」が31.6%、「③活動のリーダー的人材が不足している」が7.9%となっています。

前回調査との比較では、特に大きな違いはみられません。



問6で最も困っていることの内容について

問7 活動を行う中で困っていることの原因として考えられることは何ですか。また、その解決策としてどのような方法が考えられますか。具体的にご記入ください。

「スタッフの高齢化」「新たなスタッフの確保が困難」としている団体では、高齢化が進んでいることや、就労している高齢者が多いことなどを原因としてあげられており、仕事と団体の活動の調整が難しいという指摘もみられます。解決策としては、空いている時間に参加できるような仕組みや業務の負担軽減、活動周知などがあげられています。

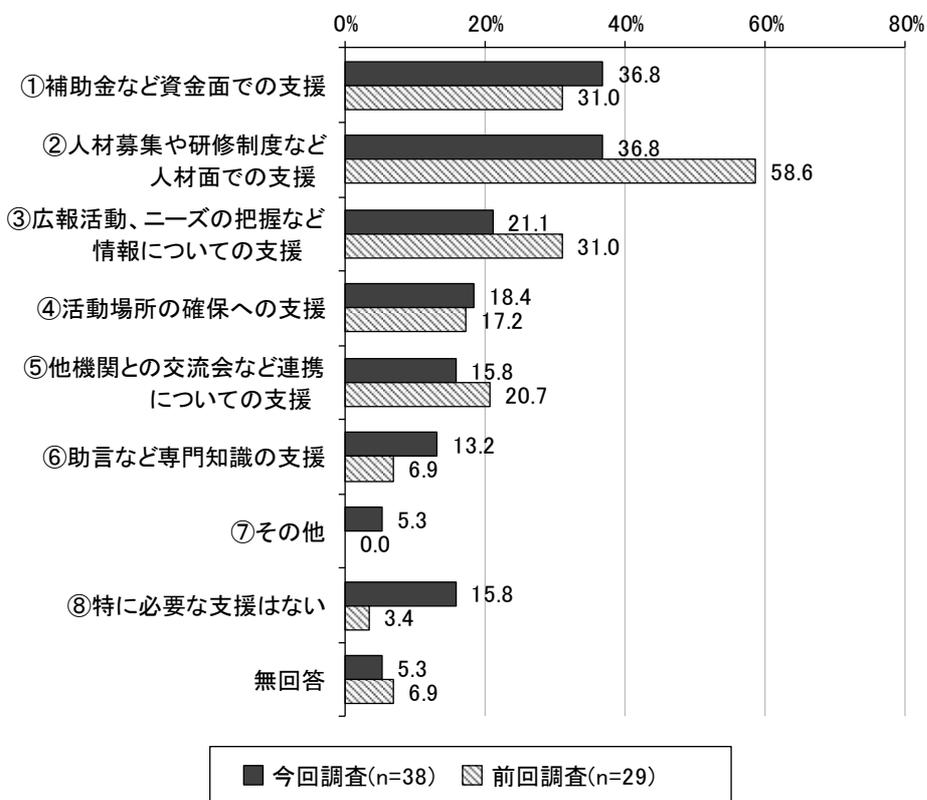
| 問6の回答 | 原因として考えられること | 解決策として考えられること |
|---------------|---|--|
| スタッフの高齢化 | • 地域全体が高齢化している。 | • リタイヤしてもアルバイト等をして働ける人や体力的にも元気な人を誘う。 |
| | • 人口の高齢化に伴う減少。 | • 国が対応する問題である。 |
| | • 高齢者の就労が増えている事。車の免許返納者は活動に参加しづらい。腰膝の不調で支援の制限がある。 | • 就労中でも「スキマ時間」の協力が得られるような人材募集の方法を知る。 |
| | • 各企業の定年年齢が65才となっていて70才近くまで仕事される人も増えている為ボランティア活動に参加不可。 | • 任期3年で退任される方が半分程度であるために高齢化している。最低2期は継続して貰えるように現役者と前役者とが半々ぐらいでコンビ活動体制で対策を狙う。 |
| | • 新しい会員が増えないため。 | • 新しい会員を募集する。 |
| | • 平日の参加者が限られている。 | — |
| | • 活動日は平日に限定されてしまうので働き盛りの方に参加して貰えない。 | — |
| | • 平日に会議等があるために若い世代が参加できない。 | • 半分ぐらいは土日に会議を行う。 |
| | • 新たな担い手が確保できない。 | • いろいろな手段で募集しているが効果が出ない。 |
| 新たなスタッフの確保が困難 | • 新たな担い手の確保が難しい。担い手が高齢化している。 | • プライベートな付き合いのある方に声掛けをする。 |
| | • 地区住民の高齢化により民生委員の担い手候補者を選出する事が難しい。自治会調べによれば70才以上の割合が47%になってしまった。 | • 民生委員の「協力員」を創設して共々教育で活動していただく。(その際には現在の民生委員に対する活動費の1/2を支給する。) |
| | • 以前は退職後に民生委員になる人が多かったが高齢まで働く人が多くなりなる人が少なくなった。 | • 答えは無い。 |
| | • 50才以下の会員が少ない。小学生の会員が少ない。 | • 行政、企業、学校、自治会等と連携してPR等により会員を募集し市民のニーズを知る。 |
| | • 会員の減少が進んでいる。 | • 口コミや声掛けで新会員を増やす。 |
| | • 忙しすぎて役員スタッフになりたがらない。 | • 分かっていたら対応している。 |

| 問6の回答 | 原因として考えられること | 解決策として考えられること |
|-------------|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> 活動の曜日、時間が固定ではないために調整が難しいのではないかとと思われる。(2件) | <ul style="list-style-type: none"> 多くの方にボランティアとして登録して貰い都合のつく時に参加して貰うような形。(2件) |
| | <ul style="list-style-type: none"> 新しいメンバーの加入が無い。 | <ul style="list-style-type: none"> 新競技への案内。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 新しい人とのふれあいが無い。 | <ul style="list-style-type: none"> 人材派遣 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 宣伝不足。 | <ul style="list-style-type: none"> 宣伝する。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 赤十字活動のPR不足と勧誘が組織的に上手くできていない。 | <ul style="list-style-type: none"> 現在の活動の充実、知人近隣住民への声掛け、自治連を通じての勧誘。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 認知度の低さと魅力的なコンテンツの不足。 | <ul style="list-style-type: none"> PRの強化と新たな指導者スタッフの確保。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 活動内容の特殊性。 | — |
| リーダー的人材の不足 | <ul style="list-style-type: none"> 新任人(若手)増に伴い、地域の事が良く理解できていない事と、自治会等ができていないためと考えられる。 | <ul style="list-style-type: none"> 早急に自治会を形成し、活動して頂く(駅北口)。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 現役で仕事をしながらリーダーを行う事は負担が大きく人材に限られる。リーダーの負担がそもそも大きい。 | <ul style="list-style-type: none"> 業務自体の分担や会長職の年数を設けるなど、リーダーの負担を分散する。リーダーの人選を地域全体に広げる。リーダーの選任をシステム化する。例えば会長職を見据えた副会長の選任を行い、リーダーになる年数を定める等。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> スタッフが子育て中や仕事を持っているなど多忙な時期で、毎回参加する事が不可能であったり準備などに時間が取れないため。 | <ul style="list-style-type: none"> 子育てが落ち着いた年齢のスタッフを増やす。 |
| 活動資金の不足 | <ul style="list-style-type: none"> 手話の技術的問題や家庭、仕事、学業との両立。 | — |
| | <ul style="list-style-type: none"> おもちゃ修理資材器材の調達にお金が掛かる。現在個人の支出となっている。 | <ul style="list-style-type: none"> お客さんに支払って貰う。 |
| 活動が認知されていない | <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で途切れてしまった事で認知されていない。 | <ul style="list-style-type: none"> イベントを周知し、地域との繋がりを戻していく。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 活動実績の周知不足、情報共有の場の不足。 | <ul style="list-style-type: none"> 情報共有媒体の検討、活用。 |
| その他 | <ul style="list-style-type: none"> うちの協会との話し合いが無く、壁になっている。 | <ul style="list-style-type: none"> 直接に話し合う事が大事。 |

問8 貴団体では次のような支援を必要としていますか。(〇はいくつでも)

「①補助金など資金面での支援」「②人材募集や研修制度など人材面での支援」が36.8%と高く、次いで「③広報活動、ニーズの把握など情報についての支援」が21.1%となっています。

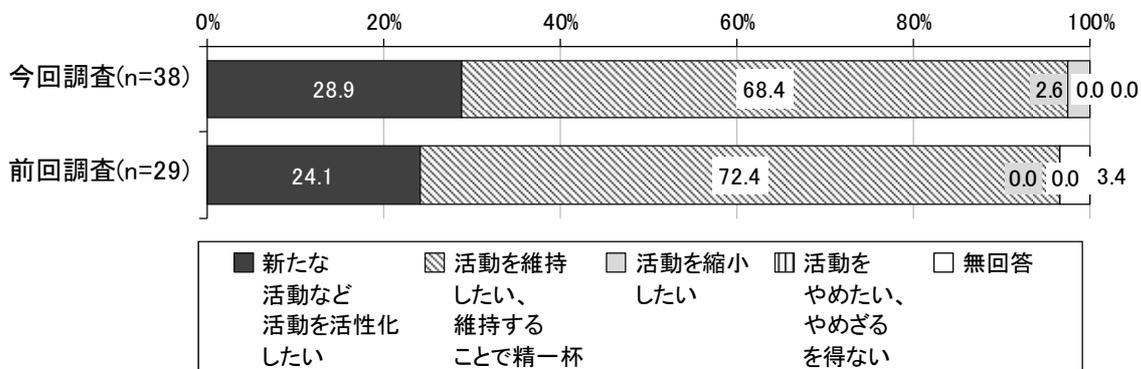
前回調査との比較では、「②人材募集や研修制度など人材面での支援」が21.8ポイント減少し、「⑧特に必要な支援はない」が12.4ポイント増加しています。



問9 貴団体は、今後どのように活動していく予定ですか。(〇は1つだけ)

「活動を維持したい、維持することで精一杯」が68.4%と最も高く、次いで「新たな活動など活動を活性化していきたい」が28.9%となっています。

前回調査との比較では、特に大きな違いはみられません。



問10 問9で回答した理由は何ですか。具体的にご記入ください。

「活動を活性化したい」理由は、地域の方のため、地域の繋がりや交流を図るためなどの理由があげられています。

「維持することで精一杯」という理由は、担い手の高齢化や、担い手及び参加者の減少、活動の負担の大きさなどが理由としてあげられています。

| 問9の回答 | 具体的な理由 |
|------------|--|
| 活動を活性化したい | • 地域との繋がりを戻すために事業への参加者を増やす必要がある。時代に合った活動を取り入れて参加者増に努めたい。 |
| | • 市民のニーズを知り対応した種目や新種目をユニバーサルスポーツ等に取り入れる。 |
| | • 子どもの貧困問題のためでもあるこども食堂だが、居場所的存在となっており、工作コーナー等子どもが楽しめるコーナーやイベントを企画してきた。予約受付は数時間で定員を越してしまう。さらに子どもも大人も安心して楽しめる企画を考えて実行していきたい。 |
| | • 手話を啓蒙して市民との交流を図って共生社会で暮らせるのが狙い。 |
| | • 地域には必要な組織である。 |
| | • 活動を活性化し楽しく活動したい。 |
| | • 新競技への移行。 |
| | • 会員それぞれが趣味、あるいは自分なりにできる手仕事を持っての方々がいて、月一度、手仕事をできる方を中心に学び、一つ一つのものが完成してできるまでを目指しています。福祉施設のバザー等に声をかけていただき楽しみです。 |
| 維持することで精一杯 | • ボランティア連絡協議会の依頼、神納一区の行事参加。神納一区シニアクラブの行事参加で会員が高齢化しているので、今の活動を維持する事で精一杯です。 |
| | • メンバー不足のため。 |
| | • 団員の高齢化により活動にも格差が見られ、中心的に活動する団員は重複するようになっていきます。せめて現在の活動は維持して行ければと思っています。 |
| | • 民生委員の必要性は理解するが体力、気力とも精一杯と感じる。自身の高齢による勘違い、思い違い等の判断ミスへの不安。運転免許証返納した場合の活動の足、交通事故への不安。 |
| | • 会員の高齢化で減少方向にありますが、活動自体は未だ必要とされているようなので。 |
| | • 会員の減少と高齢化のため。 |
| | • スタッフの人数が少なく、スタッフが高齢化して来ているため。 |
| | • スタッフの高齢化、当日スタッフの参加人数が少ない日は行えない活動もある。 |
| | • 担い手が高齢化して新しい事への取組が難しい。 |
| | • 活動内容は理解してくれるのですがリーダーになる人が少ない。 |
| | • 新たな担い手が確保できないので活性化したいが現状維持が手一杯である。 |
| | • 担い手の不足と役割の多さ。新たに担い手となる人材の不足と一つの役割をもっとあて職で他団体でも役割を持たないといけない状況であるため。 |
| | • 参加者数は横ばいか減少傾向でスタッフ数も増えない。 |
| | • メンバーの入れ替わりが3年毎に半数以下であり、現活動内容を新メンバーに伝えて行くだけで体力を使ってしまう。ゆっくり長い目でニーズ掘り起こしの余裕がない。 |
| | • 支援依頼は増えているが支援者の限界がある。 |
| | • 社会が困っている人が多くなっている。困っている人の相談相手として地道に活動を続けていきたい。 |
| | • 今の活動をより活性化すると新たな問題点も出て来ると思います。例えば衛生面や駐車場、人手、活動場所等でもっと賃金が必要になります。お弁当の質も下げなくてはならなくなってしまうと私自身が楽しく活動できなくなるので、現状を維持して行きたいです。 |

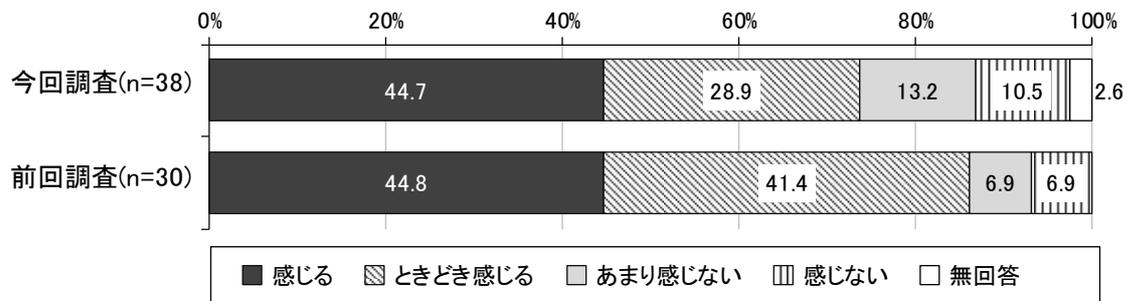
| 問9の回答 | 具体的な理由 |
|----------|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> • 活動を維持するためには父兄、自治会、各種団体からの積極的な分担、支援が必須であり一部のボランティアや善意の人におかし頼るだけではなく、大事な活動なので地域全般の活動として捉え、力を合わせる事が大切である。 • 活動範囲が広いため、いくつかの課題をかかえた時、つなぐために時間を必要とし、大変さを感じる。 • 新たにやるには活動場所が少ない。他地区には体育施設があり多目的ホールもあるが昭和地区にはない。 • 手話の普及や聴覚障がい者に対する理解。 • 生徒たちに一定の要望があるため。 • 一つの活動でも年に 20～23 回ほどあり、それ以外に各部会での活動や全体で取り組む活動があり、大きなイベント等を合わせると年中活動しているため、マンネリ化しないように毎年新規の活動を入れるなどして取り組んでいる。 • 保護司と言うボランティアの役割、無理にやってもらう活動ではない。 |
| 活動を縮小したい | <ul style="list-style-type: none"> • 後継者がいない。 |

3 他機関等との連携について

問11 貴団体では、活動を行う上で、他の団体や機関と連携の必要性を感じますか。(○は1つだけ)

「感じる」が 44.7%と最も高く、次いで「ときどき感じる」が 28.9%となり、合計した『感じる』は 73.6%と多数を占めています。

前回調査との比較では、『感じる』が 12.6 ポイント減少しています。

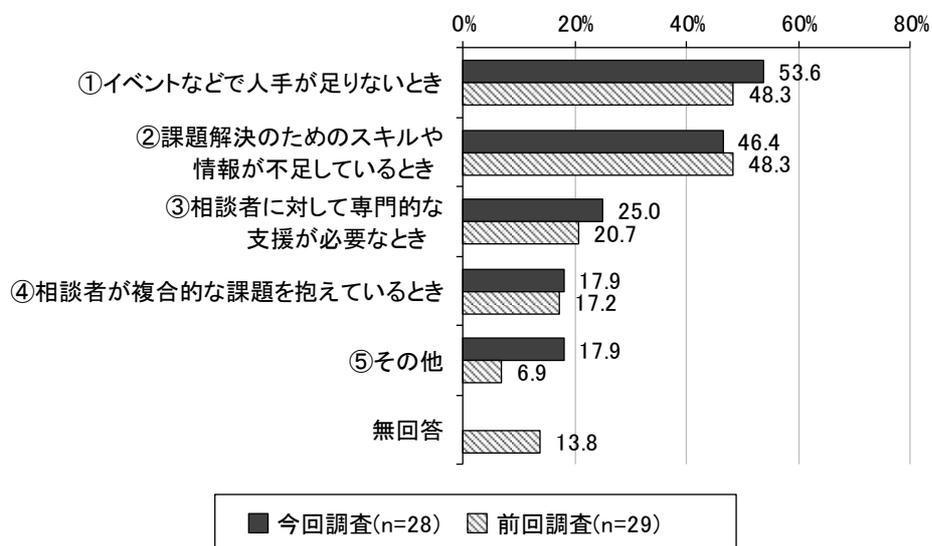


問 11 で「感じる」「ときどき感じる」とお答えの方

問12 連携の必要性を感じるのはどのようなときですか。(○はいくつでも)

「①イベントなどで人手が足りないとき」が 53.6%と最も高く、次いで「②課題解決のためのスキルや情報が不足しているとき」が 46.4%、「③相談者に対して専門的な支援が必要なとき」が 25.0%となっています。

前回調査との比較では、特に大きな違いはみられません。

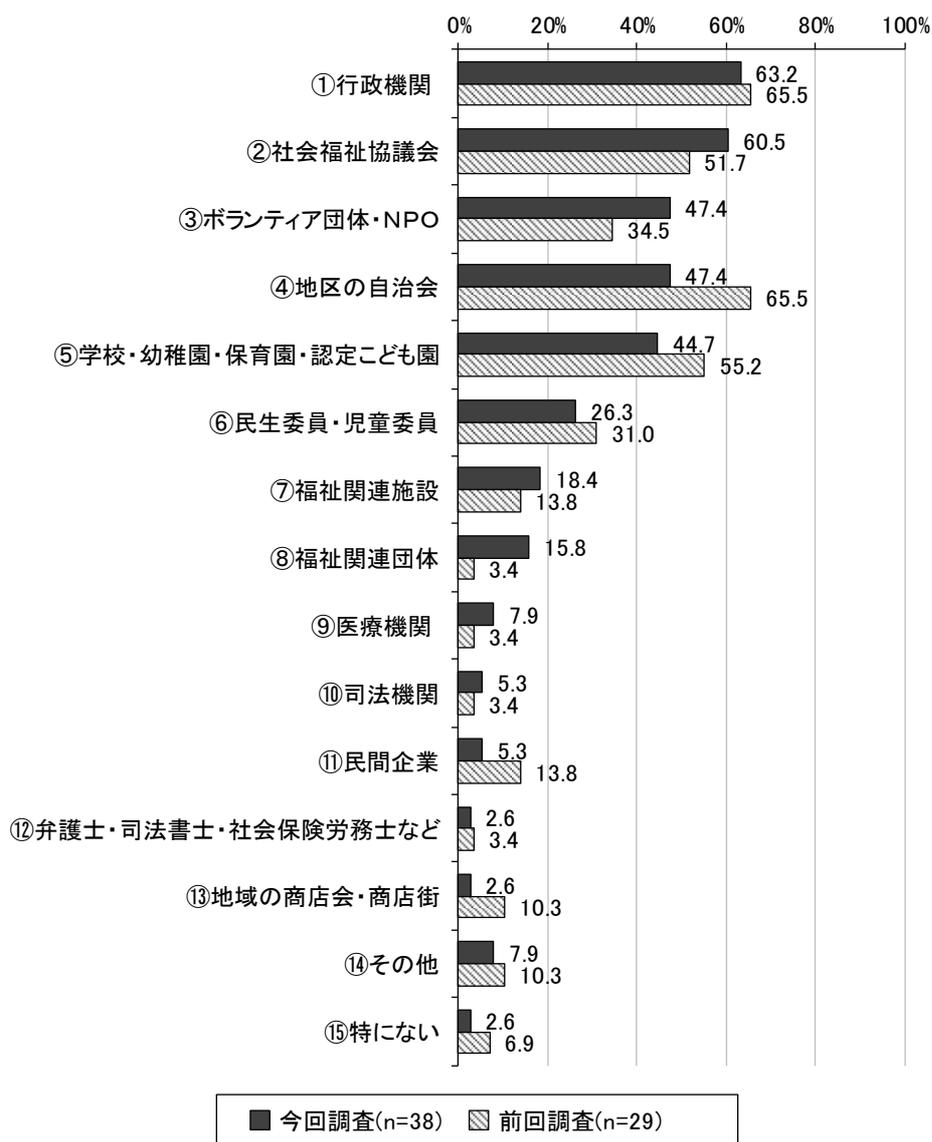


問13 貴団体が活動するうえで、現在、連携・協働関係にある機関等はどこですか。また、今後の活動において、連携・協働関係を築きたいと考える機関等はどこですか。

① 【現在】(〇はいくつでも)

「①行政機関」が63.2%と最も高く、次いで「②社会福祉協議会」が60.5%、「③ボランティア団体・NPO」「④地区の自治会」が47.4%となっています。

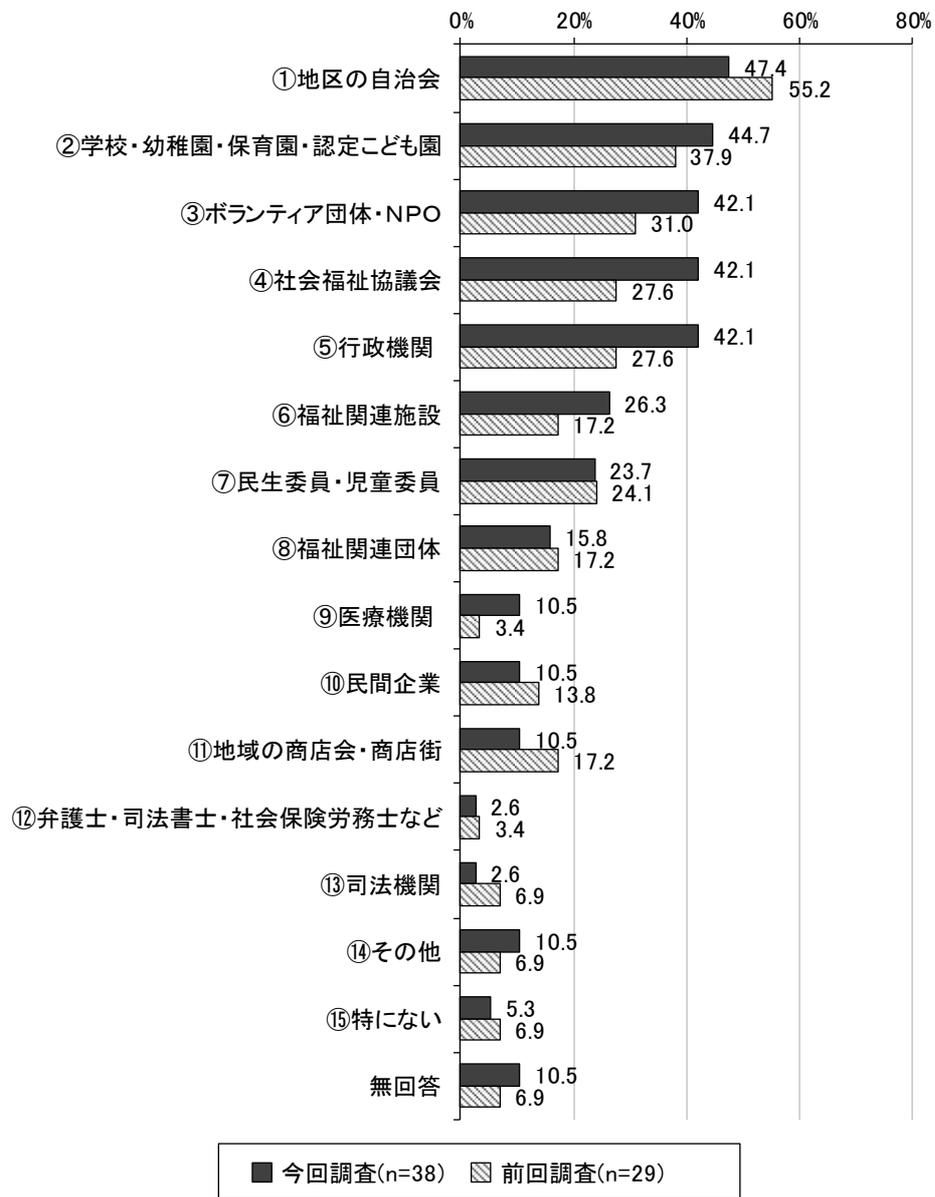
前回調査との比較では、「③ボランティア団体・NPO」が12.9ポイント、「⑧福祉関連団体」が12.4ポイント増加し、「④地区の自治会」が18.1ポイント、「⑤学校・幼稚園・保育園・認定こども園」が10.5ポイント減少しています。



② 【今後】(〇はいくつでも)

「①地区の自治会」が47.4%と最も高く、次いで「②学校・幼稚園・保育園・認定こども園」が44.7%、「③ボランティア団体・NPO」「④社会福祉協議会」「⑤行政機関」が42.1%となっています。

前回調査との比較では、「④社会福祉協議会」「⑤行政機関」が14.5ポイント、「③ボランティア団体・NPO」が11.1ポイント増加しています。



問 13①で「現在、他の機関等と連携・協働関係がある」とお答えの方

問13（1）現在行っている連携・協働関係の内容は、どのようなものですか。具体的にご記入ください。

問 13②で「今後、他の機関等と連携・協働関係を築きたい」とお答えの方

問13（2）今後行いたい連携・協働関係の内容は、どのようなものですか。具体的にご記入ください。

現在行っている連携・協働関係の内容は、社会福祉協議会と連携した活動が多い他、行政、自治会などの関係機関や団体等と連携した活動が多くなっています。

今後行いたい連携・協働関係の内容は、現在実施している活動の継続や、関係機関・団体との連携を強化したいという意見があげられています。

| (1) 現在行っている連携・協働関係の内容 | (2) 今後行いたい連携・協働関係の内容 |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 行政から補助金を受け、毎月活動の報告をしている。社会福祉協議会はボランティアの保険や研修、他の団体との交流もできている。 | <ul style="list-style-type: none"> 支援は訪問型であり個別性が高く、介護保険外のサービスを提供する場合、ケアマネジャーと情報交換できると安心に繋がるので、もっと関りが必要と考えています。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 袖ヶ浦市ボランティア連絡協議会に所属。 | <ul style="list-style-type: none"> 現状維持 |
| <ul style="list-style-type: none"> 社会福祉協議会は地区民児協事務方として緊密に連携活動している。地区社会福祉協議会は推進委員として企画運営活動に参加。地区サロンでは演題から各ボランティアとの連携が生まれる。 | <ul style="list-style-type: none"> — |
| <ul style="list-style-type: none"> 社会福祉協議会とは福祉フェスタ、民生委員とは手話指導、行政機関との総合防災訓練、消防等。 | <ul style="list-style-type: none"> 手話指導 |
| <ul style="list-style-type: none"> 社会福祉協議会との災害時の協力。行政機関の担当課との協力。 | <ul style="list-style-type: none"> 現状維持 |
| <ul style="list-style-type: none"> 市担当者は特に介護保険上連携している。イベントなどでは自治会や社会福祉協議会等の協力が欠かせない。 | <ul style="list-style-type: none"> イベント等で市内のボランティア団体、社会福祉協議会、企業と連携し幅広く実施して行きたい。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 広報や社協だより、議会のひろばなどを音訳したCDを社会福祉協議会から視覚障がい者へ送付して頂く。声の広報をWebにアップして頂く。 | <ul style="list-style-type: none"> 福祉施設において再生機器の準備に難があるかもしれませんが、音訳CDのご利用、声の広報の周知。 |
| <ul style="list-style-type: none"> こども食堂ネットワークより食材の提供をさせて頂いています。社会福祉協議会より助成金を頂いてます。市より補助金を頂いてます。 | <ul style="list-style-type: none"> こども食堂に来れない方への支援をしたい。学校にフードドライブを設置したい。時期の過ぎた物や消費期限の近い物などを提供して頂けたら必要な方に届けられる。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 包括、高齢者支援課、社会福祉協議会から見守りの時に高齢者に渡すパンフレット等を頂く等。 | <ul style="list-style-type: none"> — |
| <ul style="list-style-type: none"> 教育委員会、社会福祉協議会、公民館、自治会、学校、町づくり協議会、スポレク、里山を歩く会、レクリエーション協会等と行っている。 | <ul style="list-style-type: none"> 医療機関、民間企業、地域の商店会・商店街に理解を頂きバックアップをして頂く。また、人材を提供して頂きたい。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 補助金及び他クラブとの交流や全体イベント。 | <ul style="list-style-type: none"> 補助金及び他クラブとの交流や全体イベント。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ボランティア連絡協議会からの施設訪問。シニアクラブでは全ての行事に参加し希望者には踊りを教え、アレワイサノサの参加、芸能大会に出演。 | <ul style="list-style-type: none"> — |
| <ul style="list-style-type: none"> サロンの開設場所（自治会、行政）、サロンでの余興提供（演芸関係団体、NPO、移動交番）、児童支援関係にシニア連合会、レクリーダー会との世代間交流。 | <ul style="list-style-type: none"> 世代間交流活動を学校関係に拡げていきたい。見守り訪問活動の展開強化に向けて、自治会と連携する体制を構築。 |

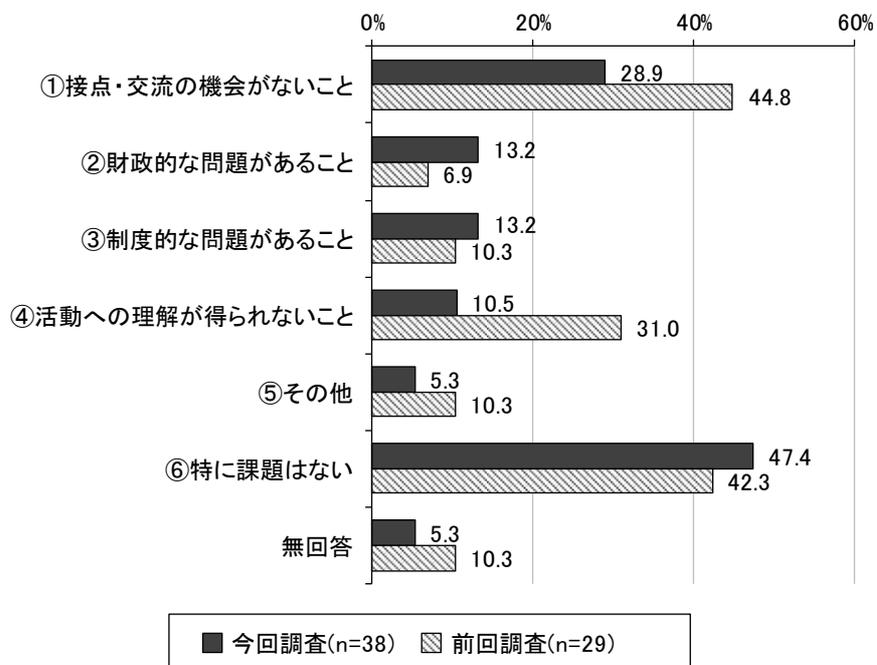
| (1) 現在行っている連携・協働関係の内容 | (2) 今後行いたい連携・協働関係の内容 |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> • 敬老会に出演して貰っている。 | — |
| <ul style="list-style-type: none"> • 敬老会や見守り訪問活動において地元小中学校に協力を依頼している他、駐在所やボランティア、母子栄養推進員などからも協力を得て活動している。 | — |
| <ul style="list-style-type: none"> • 東京、千葉の福祉施設での月1回ボランティアでフラダンスを教えに行っている。 | <ul style="list-style-type: none"> • 静かな動きと身体の構造を崩さずに少しずつリハビリとして動ける身体を作るお手伝いをしたい。 |
| <ul style="list-style-type: none"> • 依頼を受けてできる範囲での協力。 | <ul style="list-style-type: none"> • 地域の課題に役立つ事。 |
| — | <ul style="list-style-type: none"> • 手話の普及活動。 |
| <ul style="list-style-type: none"> • 情報交換 | <ul style="list-style-type: none"> • 情報交換及び支援の協力。 |
| <ul style="list-style-type: none"> • NPO 法人子ども劇場千葉県センターの団体会員、袖ヶ浦市との「子ども一ふまつり」共催。 | <ul style="list-style-type: none"> • NPO 法人子ども劇場千葉県センターの団体会員、袖ヶ浦市との「子ども一ふまつり」共催。 |
| <ul style="list-style-type: none"> • NPO 団体主催のまつり等の行事に参加。 | <ul style="list-style-type: none"> • 現状維持 |
| <ul style="list-style-type: none"> • 活動の中で参加者集め人員への声掛けや協力、講演会などの依頼、研修の訪問など。 | <ul style="list-style-type: none"> • 左記と同じ。 |
| <ul style="list-style-type: none"> • 会員の選出と支援。 | <ul style="list-style-type: none"> • 登下校のパトロールに関して人材の提供。PTAの会員や子ども会の役員の負担が大きいので協働により分担する事で一部の人の無理を減らしたい。 |
| <ul style="list-style-type: none"> • おもちゃ病院市原と日本おもちゃ病院協会の連携協働関係です。 | — |
| <ul style="list-style-type: none"> • 小学校の学童に紙芝居、本の読み聞かせに行っている。 | <ul style="list-style-type: none"> • 保育園に本の読み聞かせ活動を行いたい。 |
| <ul style="list-style-type: none"> • 各地区にあるクラブとスポーツ振興課を通じて情報交換をしている。 | <ul style="list-style-type: none"> • 今の活動を維持。 |
| <ul style="list-style-type: none"> • スポーツレクリエーションを通して自治会へ協力。 | <ul style="list-style-type: none"> • 引き続き連携の強化。 |
| <ul style="list-style-type: none"> • 活動場所の提供、活動日の見守り、イベント等の講師。(2件) | <ul style="list-style-type: none"> • 活動日の見守り。 |
| <ul style="list-style-type: none"> • 行事の協力、イベントの周知。 | <ul style="list-style-type: none"> • 変わらず連携したい。 |
| <ul style="list-style-type: none"> • 依頼者側が必要であるが、手が足りない時に声を掛けて下さると感じております。 | <ul style="list-style-type: none"> • 私どもで無理のない会員の皆さんで話し合い、活動できる事を一番と考えております。 |
| <ul style="list-style-type: none"> • 地域の人からの情報を得ている。 | <ul style="list-style-type: none"> • 福祉の窓口としての民生委員の存在をもっと分かって貰う。 |
| <ul style="list-style-type: none"> • 人手が足りない時にボランティアに入って下さる。助成金や寄付、他機関の紹介、情報共有。 | <ul style="list-style-type: none"> • 情報共有や他機関の紹介などが迅速に行われるように連携を深めたい。 |
| — | <ul style="list-style-type: none"> • 地区の自治会と連携を深めて困っている人への対応や民生委員の活動の理解者を増やしたい。 |
| <ul style="list-style-type: none"> • 会員としての活動参加。 | — |
| <ul style="list-style-type: none"> • 研修等 | — |
| <ul style="list-style-type: none"> • 施設入所等により見守りができず、情報が入手できない(個人情報の緩和)。必要以上にいらぬ。 | — |

問14 他機関等との連携・協働関係を築く際、課題となることは、どういったことですか。

(〇はいくつでも)

「⑥特に課題はない」が47.4%となっておりますが、具体的な課題としては、「①接点・交流の機会がないこと」が28.9%と最も高くなっています。

前回調査との比較では、「④活動への理解が得られないこと」が20.5ポイント、「①接点・交流の機会がないこと」が15.9ポイント減少しています。



問 14 で「①～⑤の課題がある」とお答えの方

問15 その課題はどういった内容のものですか。具体的にご記入ください。

交流や意見交換の機会がないこと、情報共有などが確保できないこと、人員不足で手一杯、費用負担の問題、。個人情報取り扱いなどが課題としてあげられています。

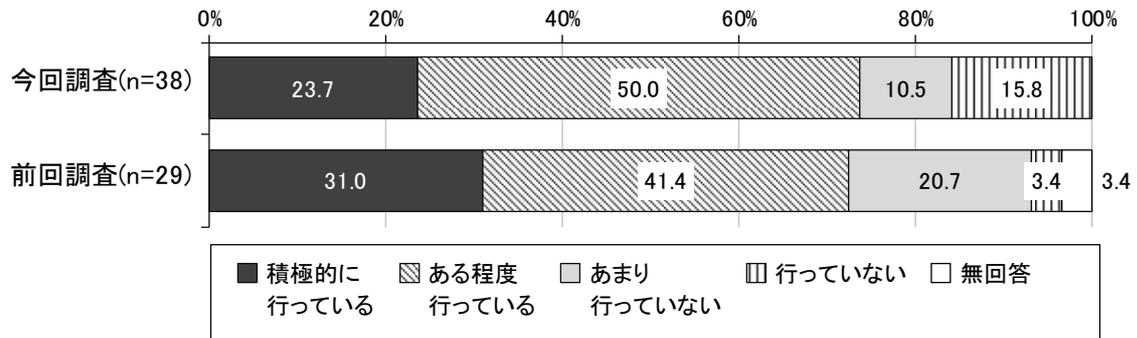
| 課題の具体的な内容 |
|--|
| • 活動の内容を知りたいし意見の交換等ができれば良い。 |
| • 連携・協働するにも打合せ等が必要。 |
| • 他機関とのパイプ役・交渉する人材が不足している。 |
| • 手話通訳同行がないとコミュニケーションが取れないから。 |
| • 他団体と交流する機会がない。（2件） |
| • 他の総合型との交流。 |
| • 個人情報保護。 |
| • 個人情報であるために困っている家族の情報が中々流れて来ない。 |
| • ケアマネジャーの情報を利用者から入手する時になかなか伝えて貰えない事があります。ケアマネジャーから「お助け手帳」を見て当会に電話を貰う事があるが、ケアマネジャーである事を名乗らず関係性も取れない事が多々あります。 |
| • 自治会の脱会者が増えつつある事と住民の福祉活動の理解が薄い。自治会メンバーから必要性や何故との声があり、助け合いの精神が薄いので理解して貰う活動が必要。 |
| • 食材支援を必要としている方にお届けしたいものの、必ず提供できるものが確保できるとは限らないので、常時活動するのは難しいです。学校でのフードドライブ設置も制度的に難しいと思います。 |
| • 自団体への活動で手一杯で、中富ふれあいの会の活動が負担となり活動が形骸化している。 |
| • 安全パトロールに防犯の青パトを借用できて大変助かっているが、車両購入費、維持管理費、ガソリンや消耗品の費用負担を分担している。 |
| • そもそも接点がなく、交流の機会が無いのが現状である。多少の交通費+アルファの資金がないとスタッフが集まらない。 |
| • 費用の問題 |

4 地域福祉について

問16 貴団体では、団体として地域行事へ参加するなど、地域や地域住民との交流を行っていますか。(〇は1つだけ)

「ある程度行っている」が50.0%と最も高く、次いで「積極的に行っている」が23.7%となり、合計すると『行っている』は73.7%となっています。

前回調査との比較では、大きな違いはみられません。



問 16 で「積極的にやっている」「ある程度行っている」とお答えの方

問17 貴団体は地域や地域住民とどういった交流を行っていますか。具体的にご記入ください。

交流の内容としては、地域住民を対象とした季節行事やスポーツイベント等への参加と、高齢者や障がい者、子ども等を対象にしたボランティア活動や交流事業などの実施などが多くなっています。課題としては、担い手や参加者の減少、資金の不足、地域住民の認識不足などがあげられています。

| 問 20 | 対象・目的 | 内容 | 課題・問題点 |
|---------------|--|--|--|
| 積極的に 行っている | • お年寄り、障がい者、地域住民、小中学生。 | • 広く地域の人と交流するイベントやサロン活動。 | • 場所、用具が欲しい。イベントは開催する人員、資金が足りない。 |
| | • 自治会、町づくり協議会、公民館、社会福祉協議会等。交流、ふれあい、健康推進と仲間作り。 | • 共同事業、年2回のふれあい健康イベント。 | • スタッフの確保。参加へのPR活動が浸透せず新興住宅地の住民に伝わっていない。 |
| | • 一人暮らし高齢者を対象。 | • 食事会、バスハイク、敬老会等を行っている。 | • ボランティアの高齢化。 |
| | — | • 社会福祉協議会のサロンの担い手、地区の防災訓練。 | — |
| | • 生徒、児童。青少年の健全育成。 | • 学校の文化祭、体育祭、公民館まつり。 | • 学校行事が平日になり参加が難しい。 |
| | • 敬老会でのフラダンス支援、地域の夏祭りや記念行事などへの参加。 | • フラダンスの披露と観客と一緒に手だけ踊る参加型。ハワイと日本との繋がり等を話す。 | — |
| | — | • 地域住民と盆踊り、施設の掃除、地区の芸能発表会などのイベント。 | • 高齢化です。 |
| | • 地域フェスティバル | • 手話ダンス、折り紙等。 | • 観客不足 |
| ある程度 行っている | • 地区内高齢者を対象に地域への参加を促し高齢者の交流の場として実施。 | • 敬老会、一人暮らし高齢者見守り訪問事業。いきいきサロン、お花見昼食会、ふれあいバスハイク、いきいき料理教室。 | • 参加者が限定。 |
| | • 70才～90才までの高齢者交流サロン。 | • ゲームやぬり絵、合唱等。 | — |
| | • 高齢者 | • 敬老会、ふれあいバスハイク等。 | • — |
| | • 「一人暮らし高齢者及び高齢者夫婦」と「昭和小、奈良小」の児童を対象にして健康増進と健全育成。 | • 敬老会の開催運営、世代交流のスポーツ大会、サロン開設、バスハイク。 | • 手挙げ方式の希望者対象が主体となった活動となっているために、住民全体へ活動を広げてない。 |
| | • 高齢者（シニアクラブ等） | • イベント（作品展等） | • 特になし |

| 問 20 | 対象・目的 | 内容 | 課題・問題点 |
|-----------|---|---|---|
| ある程度行っている | <ul style="list-style-type: none"> 施設との接触がなくなり、施設訪問が様変わりした。 | <ul style="list-style-type: none"> 地域住民との接触はありません。 | — |
| | <ul style="list-style-type: none"> 周知目的で社会福祉協議会サロンでチラシを配布、公民館まつりに参加して地域の方を知って貰う。 | <ul style="list-style-type: none"> チラシの配布、バザーの開催。 | <ul style="list-style-type: none"> 地域住民から支援者を募集する事。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 学童 NPO、袖ヶ浦市。 | <ul style="list-style-type: none"> 依頼、手伝い、補助。 | — |
| | <ul style="list-style-type: none"> 地域住民へ民生委員の知名度を向上するため。 | <ul style="list-style-type: none"> 夏祭り、秋祭り、餅つき大会、見守り訪問、ふれあいサロン、ふれあいバスハイク、敬老会、和やか交流会、防災訓練等。 | <ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化、就業のための無関心等で全て反応が薄い。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 公民館、福祉祭り等への手話教室。君津地区心身障害者スポーツ大会協力、奈良輪小学童保育手話教室。 | <ul style="list-style-type: none"> 手話の普及、通訳補助。 | <ul style="list-style-type: none"> 聴覚障がい者との十分なコミュニケーションが取れる手話技術。 |
| | — | <ul style="list-style-type: none"> 地域福祉フェスタに参加。お楽しみ会に地域の障がい者に参加呼びかけ。 | — |
| | <ul style="list-style-type: none"> そでがうらまつり「踊り連」に参加。 | — | — |
| | <ul style="list-style-type: none"> 君津地域障害者スポーツ大会等 | <ul style="list-style-type: none"> 手話 | <ul style="list-style-type: none"> 福祉フェスタについて話し合いが十分にできていないのが問題。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 地区自治会。場所の確保と参加者の確保。 | <ul style="list-style-type: none"> 地域住民への声掛け、回覧物配布、地区住民の声を聴く。 | <ul style="list-style-type: none"> 地区にも温度差があり、密な交流には難しい。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 地域の方々の理解と協力を得るため。 | <ul style="list-style-type: none"> 総会の出席を依頼、学校行事への参加、安全パトロール。 | <ul style="list-style-type: none"> 登下校時の安全パトロール活動参加者の拡大。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 地域住民 | <ul style="list-style-type: none"> 公民館行事やスポレク行事。 | — |
| | <ul style="list-style-type: none"> 地域住民、クラブの PR。 | <ul style="list-style-type: none"> グラウンドゴルフ大会、のぞみ野まつりへの参加等。 | <ul style="list-style-type: none"> 会員の増加と中々繋がらない。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 地域小学生 | <ul style="list-style-type: none"> ディキャンプ | — |
| | — | <ul style="list-style-type: none"> 地域の祭り他。 | — |

問18 貴団体を利用している地域の人から聞く、日常生活での困りごとや地域の問題・課題などがありますか。また、それに対して貴団体として取り組めることはありますか。ありましたら具体的にご記入ください。

日常生活での困りごと等は、高齢者や障がい者の生活支援（通院や買い物の移動、独居者の支援、コミュニケーションの支援等）、子どもの居場所や交流などがあげられています。

これらに対する取組としては、各団体の活動の範囲で積極的に取り組んでいる状況がうかがえますが、行政や多団体との連携や支援を求める意見もみられます。

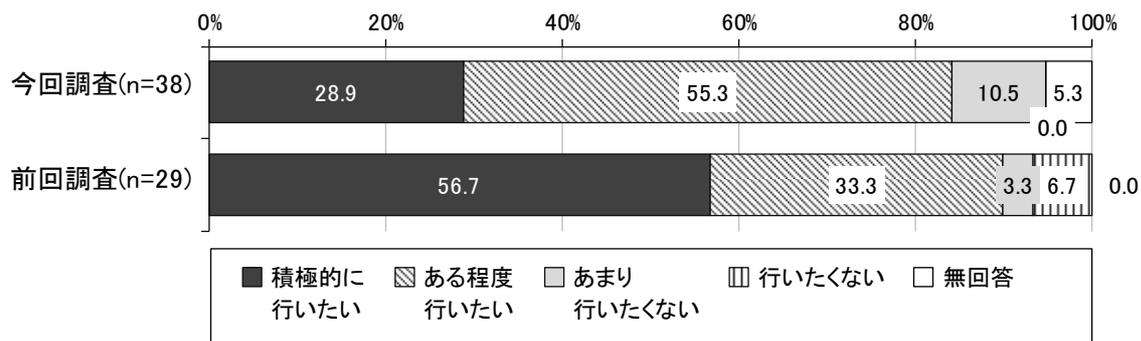
| 日常生活での困りごと地域の問題・課題 | 取り組める内容 |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 高齢化によって買物や医者へ行く事が大変な方が増えていてその支援が難しい。 | — |
| <ul style="list-style-type: none"> 独居の人や車のない人、高齢者などが参加したくても集まれる会場が近くにない。 | <ul style="list-style-type: none"> 人材がいれば近い会場で対応できる。 |
| <ul style="list-style-type: none"> バスの利便性が悪く通院買物に困り、高齢のために自治会役員ができず脱退を考える。自治会役員の担い手がいないために自治会活動が十分にできない。 | <ul style="list-style-type: none"> 自治会と連携し事業を協働する。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 一人暮らしの困り事や高齢に伴う問題。 | <ul style="list-style-type: none"> 相談できる窓口を紹介する。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 高齢者や一人住まいの方が増加。 | <ul style="list-style-type: none"> 現状の見守り活動を継続する。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 軽度の認知症の方を行事に参加するように声掛けしても、その先面倒を看る人がいない。 | <ul style="list-style-type: none"> 小さな団体ですが会員全員がボランティア精神があり、全力で取り組んで行きたいと思っています。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 困りごとはあるが現在は隣近所で解決している。買物難民も多少は有るが車に関しては運転者の年齢もあり、気軽に声掛けはできない。 | — |
| <ul style="list-style-type: none"> サロンの数を増やして欲しい。 | — |
| <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍以降は敬老会、サロン活動の参加者が減っている。若者が減って高齢者、独居者が増えている。民生委員、児童委員に欠員ができたために見守り訪問活動に支障がでた。 | <ul style="list-style-type: none"> サロン活動は社会福祉協議会として持ち回りサロン会を開催して地域のサロン活動の振興を図っている。見守り訪問は見守り事業部会が手作りの弁当を作りタンポポ通信を添えて民生委員に届けて貰っている。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 障がい者の依頼内容に応じる場合の支援者の都合、力量、判断基準等困る事があったので、社会福祉協議会の地区担当者の力を借りて対応を判断でき感謝してます。 | <ul style="list-style-type: none"> 高齢者、障がい者も十分な話し合いや連携先があれば、利用者としても支援者として関われば良いと思っています。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 市民向け行事に聴覚障がい者も自由に参加できて、情報保障がきちんとできる環境の整備。 | — |
| <ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションが取れていない事。 | <ul style="list-style-type: none"> 手話指導や手話通訳同行。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 近くの小さな公園では遊んでいる子がいない。遊具が壊れたままで使えない。雨の日に遊べる場所が無いので代宿児童館を残して欲しい。中央図書館へ行く道路は歩道が狭くガタガタでベビーカーに乗せたり手を繋いで一緒に行くのが危ない。 | <ul style="list-style-type: none"> 子育て世代が集える居場所づくり、公園遊びの日なども設けて増やして行く。機会を見て遊具の修理など行政にお願いする。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 子どもが少なく子ども同士の交流が無い。 | <ul style="list-style-type: none"> 行事を行い、異学年交流を図る。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 一人親家族で金銭的に困っているが行政に相談しようにも仕事があり、開庁の時間に間に合わない。居場所が欲しい引き籠りの子どもがいる。 | <ul style="list-style-type: none"> 本当に困っている大人数でのこども食堂には参加したくない等の家庭のみで行うこども食堂の開催。 |

問19 貴団体では、今後、地域や地域住民との交流を行っていきたいとお考えですか。

(〇は1つだけ)

「ある程度行いたい」が55.3%と最も高く、次いで「積極的に行いたい」が28.9%となり、合計すると『行いたい』は84.2%となっています。

前回調査との比較では、『行いたい』は5.8ポイントの減少と大きな変化はみられなかったものの、「積極的に行いたい」が27.8ポイント減少しています。



問20 お互いが支え合えるまちづくりを進めるにあたっては、地域の様々な課題に対して市民と連携・協働していくことが重要です。貴団体が市民と連携・協働する際に必要だと思うことは何ですか。具体的にご記入ください。

市民と連携・協働する際に必要だと思うことでは、理解と協力が得られるように、自治会の活動など地域への参加や情報発信・情報共有、関係機関との定期的な意見交換などがあげられています。

| 市民と連携・協働する際に必要だと思うこと |
|--|
| • 市民との連携をして交流を図るチャンスであるイベント、福祉フェスタ等についての話し合いの場を与えて欲しい。うちの協会として課題となる壁をなくすのが大事。 |
| • 双方を結びつける情報発信の仕組みが必要である。 |
| • 橋渡しをしてくれる人、団体。 |
| • 個々の話はできても市民との連携となると話が大きくなり、中々そういう機会が持てない。 |
| • 自治会、商店会、ボランティア団体、学校関係等を定期的交流会で課題抽出と対応策を探っていく。 |
| • 情報共有（2件） |
| • 課題を共有化し、問題解決の為に定期的な意見交換が必要と思う。 |
| • 地域の中に積極的に入って行く事。 |
| • 自治会の行事に名前を挙げて参加する。協力できる事は参加して住民に協力者がいる事を周知する。その場に足を運び住民との対話に顔を出す。 |
| • 行政や自治会・学校等と検討し、市民に「心と身体の健康」が大切な事を理解して頂き、団体の活動に参加して頂く作業を推進する。 |
| • 地域の課題を把握して一人一人に「自分達でやらなきゃ」と思わせる事。そのために地域への愛着を持たせるための活動を積極的に行うなど。 |
| • 先ずは継続して行く事。こども食堂を通じて思う事は、町づくりは関係作りであると言う事。こども食堂に来た方が安心してスタッフと話ができる雰囲気作りや対等な関係を築く事が大切。さらに私たちが社会資源の把握に努め、迅速なサポートができるといいなと思います。 |
| • 気軽に相談して貰える雰囲気を作る。 |
| • 困り事等相手の気持ちになり一緒に考える事。 |
| • 小さな困り事でも言葉に出せる場所がある事、それを適切に繋げていける連携ではないでしょうか。 |
| • 地域のため、子どものため、同じ目標を持って取り組む。 |
| • 赤十字奉仕団の理解をして頂き、私達も市民の声を上手に聞けるように研修等を通じて知識を得る事。 |
| • いろいろな障がいへの理解と協力を望みます。 |
| • 更生保護活動への理解。 |
| • 魅力のある活動と若い人達が喜んで参加する企画。 |
| • 生涯スポーツへの関心。 |
| • 負担に感じない範囲での協力と強制をしない事。 |
| • 近年住民が目先の生活に追われて生活にゆとりのない人が目立つ。そのために福祉に関心のある人が少なく、役員のなり手を探すのに苦労する。 |
| • ボランティア協議会。 |
| • 現状で精一杯のためにあまり考えておりません。 |
| • 活動内容から地域住民との連携協働は今のところ考えていません。 |

問21 袖ヶ浦市では、複合化・複雑化した地域の課題が増加する中で、制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民・地域団体・行政などの様々な主体が地域の課題を「我が事」として捉え、住民一人ひとりの暮らしと生きがいを大切に、地域をともに創っていく「地域共生社会」を目指しています。この地域共生社会の実現に向けて、ご意見やご要望などがありましたら、具体的にご記入ください。

地域共生社会の実現に向けて、地域の団体や住民がお互いを理解し繋がり合うことができるように、話し合いの場や協働を推進する体制の整備、市の支援などが求められています。

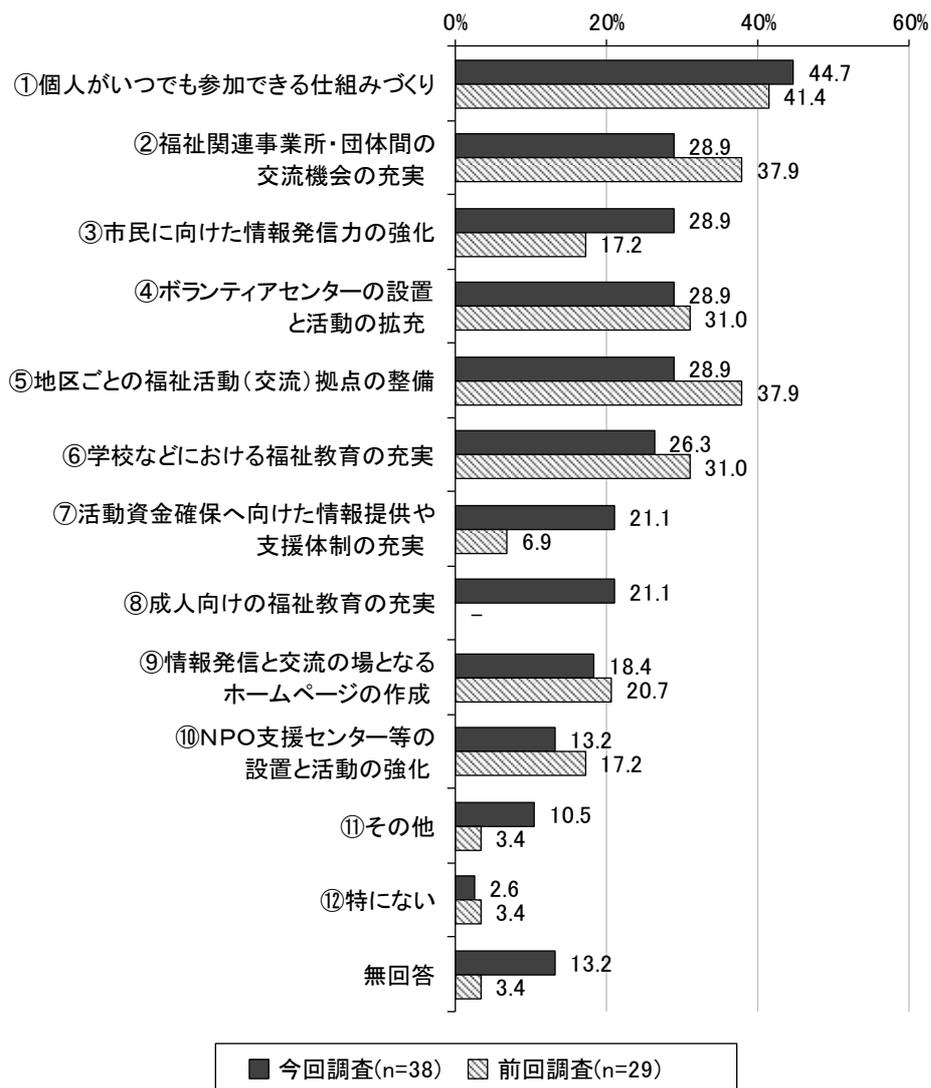
| 地域共生社会の実現に向けた意見や要望 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 子ども・子育てに関する課題解決のための NPO として、行政の生涯学習課や子育て支援課と連携しながら事業を進めているが、他の地域団体や住民の皆さんと繋がっていくためには協働そのものを推進し橋渡しをしてくれる窓口があったらいいと思います。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 市民との連携をして交流を図るチャンスであるイベント、福祉フェスタ等についての話し合いの場を与えて欲しい。うちの協会として課題となる壁をなくすのが大事。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 継続的に話し合う場づくり。市議の自覚と行動。袖ヶ浦市各地区のバランスを考えた行政。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 子どものためのイベントが多く、日程が被ってしまう。関係団体が集まって調整できるとありがたい。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 50 才以下の若い方の市・地域への要望や意見を話し合う場を設けて推進する。新興住宅地市民の自治会設立。市の市民への明るい実現可能な未来ビジョンを示す。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 現状の問題を把握し、各団体は何をすべきか、実現に向けて課題の整理が必要。住民・団体・行政等課題を共有化するため、定期的な意見交換の開催を要望 |
| <ul style="list-style-type: none"> 「外に出て行けない方」「出て行きたくない方」「孤立して近所とも交流を断っている方」について挨拶するチャンスも無く、こんな人が増えて行く地域は困りますが、解決の糸口も見つかりません。第一歩は市や社会福祉協議会、民生委員等の役割を通して関わって頂ければと思います。 |
| <ul style="list-style-type: none"> いろいろな障がいへの理解と協力を望みます。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 地域共生社会を目指す市の姿勢として最初の一步が感じられない。門前迄来ていても内容によっては、市はそこでドアは開けてくれない感じがします。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 地域共生社会と言う言葉は少し前は聞きなれない言葉だったが段々となじみが出て来たと思う。一人一人が必要を実感して自分の周りから始めて進めて行ければいいと思う。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 住民一人一人の具体的な希望や活動に対する意見が見えてない気がする。行政側から目指す目的、目標が提示される事が多く、住民の声が反映されているか疑問に感じている。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 中学生、高校生が中心となって、大人はサポートするなどでも良いのではないかな。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 活動計画書 3 期を読みました。公助の部分に関しては何も言う事はありません。共助、自助の部分に対して、お互いに支え合う協力し合える人間教育を強めて欲しい。 |
| <ul style="list-style-type: none"> こども家庭庁の「子ども若者インデックスボード」によると、安心できる場所の数の多さと自己認識の前向きさはおおむね相関があるとありました。これは子ども若者だけでなく、子育て中のお父さんお母さん、高齢者にも言える事だと思います。「困った事があったら市役所へ」など従来のやり方ではなく、安心できる居場所作り、気軽に相談、話ができるようにすると良いのではないのでしょうか。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 長浦地区です。まちづくり協議会がスタートして少しずつ活動が充実しつつあるが、もっと地域共生社会の中心的役割を果たすような協議会に修正して、市は立ち上げで終わりではなく市の資源を投入すべきである。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 「支え手」として活動を頑張っていますので、「地域共生社会」として見えているものは有りません。 |

問22 袖ヶ浦市において、今後、地域での福祉活動（ボランティア活動や助け合い活動等を含む）をさらに活性化させるためには、どのような取組が必要とお考えですか。

（〇はいくつでも）

「①個人がいつでも参加できる仕組みづくり」が 44.7%と最も高く、次いで「②福祉関連事業所・団体間の交流機会の充実」「③市民に向けた情報発信力の強化」「④ボランティアセンターの設置と活動の拡充」「⑤地区ごとの福祉活動（交流）拠点の整備」が 28.9%となっています。

前回調査との比較では、「⑦活動資金確保へ向けた情報提供や支援体制の充実」が 14.2 ポイント、「③市民に向けた情報発信力の強化」が 11.7 ポイント増加しています。



※「⑧成人向けの福祉教育の充実」は今回調査のみ

5 市が策定する計画に対する意見・要望

問23 袖ヶ浦市が策定する「地域福祉計画」、袖ヶ浦市社会福祉協議会が策定する「地域福祉活動計画」に対するご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

| 意見・要望 |
|--|
| • 地域福祉活動を行っている事を住民全般が知っているとは思えない。行う側の満足感で終わっている活動では意味がない。自治会メンバー地域福祉計画等の活動に幅広く参加させ、住民全般幅広く活動の実態を理解してもらい、意見を求める体制が大事な気がします。 |
| • 分野を超えた横の繋がりが必要。 |
| • 社会福祉協議会といえば「高齢者の支援」が思い浮かびます。それこそ年代の垣根を超えた福祉を考えた支援を望みます。 |
| • 当事者団体、又はそれに関わるボランティア団体が計画にきちんと参加できるような配慮を希望します。 |
| • 福祉とはどこからどこまでの事なのか。ボランティアとして福祉施設から依頼を受けて訪問した際に、気持ちを害するような対応でした。受け入れ側の心構えも教育又は口頭での注意をお願いしたいです。また、訪問したいと思う場所も多くありますが、福祉を受ける側の教育を宜しくお願い致します。 |
| • 利用者のニーズに合った移動手段の充実を希望します。 |
| • 市民に「心と身体の健康第一」明るく誰でも参加できる長期ビジョンをお願いする。学校体育館、臨海スポーツセンターアリーナの冷暖房完備。臨海スポーツセンタープールのリニューアル復活。新興住宅地に自治会設立、集会場を作る。 |
| • 蔵波地区では「さわやかネット蔵波台」が安心して暮らせる町づくり活動を行っています。担い手が減少しつつありますが活動を発展させ、市の「地域共生社会」の中心的な役割を果たす事ができればと考えております。行政の一層のご支援をお願いします。 |
| • 発言が一部の委員に片寄っている。 |

IV ヒアリング調査結果

1 ヒアリング調査の概要

(1) 調査の目的

袖ヶ浦市の「地域福祉計画(第4期)」及び、袖ヶ浦市社会福祉協議会の「地域福祉活動計画(第5期)」の策定にあたり、アンケート調査では把握しきれない具体的な意見や潜在的なニーズを把握するため、事業所及び団体ヒアリング調査を実施しました。

(2) ヒアリング調査の実施状況

ヒアリングにあたっては、市内で活動する事業所及び団体を対象に、ヒアリング調査の希望をうかがい、希望のあった事業所及び団体に対してグループ形式で調査を行いました。

【ヒアリング調査実施の事業所及び団体】

| 日程 | | 事業所・団体名 | |
|--------|-------------|---------|--|
| 11月25日 | 9:00~10:20 | 団体 | 1 蔵波地区民生委員児童委員協議会 2 日常生活支援そでふれ 3 袖ヶ浦市聴覚障害者協会 4 長浦地区社会福祉協議会 5 平岡地区社会福祉協議会 |
| | 10:40~12:00 | 事業所 | 1 特別養護老人ホーム蔵波 2 縁側よいしょ 3 社会福祉法人いずみ会袖ヶ浦学園 4 こひつじかずさ介護支援センター 5 入道雲 6 老人保健施設カトレアンホーム |
| | 13:00~14:20 | 団体 | 1 放課後子ども教室「あそボラ!!やかたっ子広場」 2 豊謡会 3 中富地区社会福祉協議会 4 日本赤十字社袖ヶ浦支部奉仕団 |
| | 14:40~16:00 | 事業所 | 1 特別養護老人ホーム 袖ヶ浦瑞穂 2 特別養護老人ホーム 和心苑 3 社会福祉法人柊の郷 4 グループホームならわの家 5 入道雲 |

2 事業所ヒアリング調査

(1) 事業所の運営状況について

事業所の運営状況については、人材不足や採用の難しさ、職員の高齢化等、人材面の課題が多くあげられました。その他では、ICTに関する意見や財政面の問題、サービスの需給への対応に関する問題などがあげられています。

以下に、ご意見・ご要望を掲載します。

① 人材面の課題

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">採用しても長続きしない。人材派遣会社の紹介料が高額である。新規採用者も経験・実力のある方と同じ1人としてカウントされ配置されるが、スタッフの負担増にもつながり、辞める一因になっているのではないかと。夜勤職員が特に不足している。外国人スタッフは、話すことは問題ないが、記録することが難しいようだ。 |
| <ul style="list-style-type: none">スタッフが高齢化して、体力的な問題も出てきている。体を壊してしまうスタッフもいる。 |
| <ul style="list-style-type: none">求人を出しても人が来ないし、人材派遣会社の紹介料が高額である。同一労働同一賃金ということで、パート職員を正規職員並みにすると経営が成り立たなくなる。 |
| <ul style="list-style-type: none">人手が足りなく、高齢化してきている。最低賃金が毎年上がっても報酬はそんなに上げられず、特に夜勤の人手が不足して、経営的にも課題になっている。1人のマンパワーは100と見るか、いくつと見るかというところが難しい。 |
| <ul style="list-style-type: none">人材確保については、研修会で知り合った人からの情報交換などで採用している。ICT化も既に取り組んでおり、給与面でも安定しているため、働きやすい職場環境となっていると思う。 |
| <ul style="list-style-type: none">人材不足の問題は常にある。人材派遣会社の紹介料が結構負担になっている。長続きしないところが問題。新人教育が終わってこれからというときに、やめてしまい定着しない。 |
| <ul style="list-style-type: none">福祉分野に就職を希望する人が少なく、福祉を教える学校も減っている。福祉に対する興味が低下している。最近の子どもは高齢者等と触れ合う機会もない。小学校の体験教室などで、福祉の仕事に対してどういう印象を与えられるかも大切だと思う。どういう状況かある程度把握しないことには福祉の仕事へのイメージも湧きにくいのではないかと。 |
| <ul style="list-style-type: none">募集をかけても人が来ないので、外国人の採用を着手していく必要がある。高齢化が進んでいるので若い人の人材育成が必要。 |
| <ul style="list-style-type: none">ICTの導入や定期昇給、残業を減らすなど、働きやすい環境づくりに取り組み、離職率はだいぶ下がっている。 |
| <ul style="list-style-type: none">人材の確保と定着が一番の課題。基本給の引き上げやマネージャーによる職員の相談対応など色々取り組んでいるが難しい。外国人の採用が必要になってくると思う。職員の相談対応や新人の研修など、行政でも支援してほしい。 |
| <ul style="list-style-type: none">外国人スタッフの採用・定着にあたっては、日本人側にも問題がみられるケースもある。お互いに対等であるという意識を共有することが大切。国情により違いもあるが、ICTなどの使用は日本人よりも使いこなしている。 |
| <ul style="list-style-type: none">色々な問題に遭遇し、メンタル的にボロボロになる。 |
| <ul style="list-style-type: none">行政や医師会などによる研修が多い。今更というような内容の研修もある。 |
| <ul style="list-style-type: none">福祉に携わる者として地域との連携が求められるが、何ができるのかと考えてしまう。理想と現実との乖離が出てきている。 |

② ICTの導入

- タブレットの導入などを検討しているが、資金的に難しい。
- ICTの導入は進めてきて良かったと思う。切り替えは大変だったが楽になった。ただし、加算対応などの関係で事務量が増え、制度も複雑化し、3年・5年で変わってしまうので、難しいところもある。
- ICT化は進めているが、国が進める制度に即した書類の量が多くて大変。書類を作るために利用者宅に訪問してるようだ。

③ 財政面の問題

- 人材面、資金面で厳しく、施設自体が存続していけるかどうかという現状にある。需要はあるのに、歯がゆさを感じる。
- 介護報酬は決められているが、光熱費など支出の部分は上がっているため経営が厳しい。

④ サービスの需給

- サービスに対する需要の変動性の大きいため、サービスの提供について悩んでいる。
- 利用者の確保が厳しい。ケアマネジャーや医療機関からの紹介などがないと稼働率が上がらない。待機者の実態把握が課題。本当に施設に入りたい、困っているという高齢者が速やかに施設に入れるような形をつくっていく必要があると思う。

(2) 地域や他機関との連携について

地域との連携については、ほとんどの事業者において地域との交流を深めていきたいと考えていますが、自治会をはじめとする地域の団体や住民と接する機会がなく、コロナを機に交流が減ったという事業者もあり、地域との交流が図りやすくなるような環境づくりなどが求められています。他機関との連携については、業種により連携状況に違いはみられますが、事業者間の連携や情報交換の場を求める意見が多くあげられました。

以下に、ご意見・ご要望を掲載します。

① 地域との連携状況

- 今後はボランティアクラブみたいなのを作って、車いすの押し方とかちょっとした疑似的な体験などができる機会をつくれればと模索している。
- 地域の方とは交流をとるようにしていて、何かあったら相談してくださいねといった声もかけもしている。安心感を覚えてもらえるし、利用にもつながるのではないかと考えている。
- 地域によって差があると感じている、高齢者への理解が足りないことが一因だと思う。自治会など地域と繋がりをもつことが必要だと思う。事業所では、スタッフの子どもを職場に連れてきて、働いている姿を見せしている。高齢者と接する機会がつかれ、福祉の仕事に対する理解も深まるのではないかとと思う。
- 民生委員や自治会の方々と接する機会がなく、地域で何が困ってるのかが分からない。社会福祉法人として、どうやって地域に貢献していいのかわからない、情報があるとよい。
- コロナをきっかけに地域との交流がなくなり、その状況が今も続いている。感染症の流行など気を付けながら交流はしていきたいので、ボランティアグループの活動情報などがあるとよい。
- 洪水など災害時には避難所として使えると思うが、コロナによって地域との接点も減ったため、地域の人たちにどう伝えればよいのかわからない。
- 業務以外で職員が個人的にボランティア活動をしており、認知症カフェなど地域の活動に参加している。地域の違いを感じることもある。
- 地域に開かれた施設であるというイメージを持ってもらえるように、地域貢献も考えていきたい。専門職による介護指導や何かアドバイスができるような機会があるとよいと思う。

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 人材不足で余暇活動まで手が回らないので、ボランティアさんに協力していただきたい。地域の方と一緒に、利用者のためにできることなども考えていきたいので、外部の方に来ていただけるような環境づくりも考えたい。しかし、地域支援ボランティアも登録者数が伸びていないようなので、行政も取組を進めていただきたい。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 面会を制限している状況なので、ボランティアの受入れには躊躇がある。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 令和6年度障害福祉サービス等報酬改定で地域連携推進会議が開催を義務付けられたが、具体的な開催方法が示されていないので模索している状況である。しかし、地域との連携を強化していく必要があると考えている。ボランティアについては、利用したいと考えているが、どのように斡旋してもらえるのかが分からない。いずれにしても、地域の住民の方が障がい者について理解していただくことが大切だと思う。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 地域との連携というところでは、ケアマネジャーが入ることで、これまで地域が支援してきた部分が、公的なサービスが入ることで、地域の支援や地域とのつながりが寸断されてしまう面もあるのではないかと考える。 |

② 他機関との連携状況

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 医療機関と連携している。介護は体に負担が大きいので、体に負担がこない介護の仕方など、技術や情報を共有できる何か基盤があるといい。勉強会など交流できるとよいと思う。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ケアマネジャーなど繋がりのあるところもあるが、施設間の連携がない。介護保険の改定時など聞いてみたいと思うことがあるが、他の事業者との繋がりがないので県などに問い合わせている。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 災害時に備えて連携が必要だと思う、お互いに協力できる場所があると思う。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ケアマネジャーの仕事上、介護関係、障がい福祉、医療関係と連携はとれている。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 老健施設なので入院が必要になった方の情報共有など、病院の相談員と連携をとっている。情報共有や介護保険改定時の対応など、特養も含めて施設間の連携があるとよいと思う。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 医療機関との連携は必須。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 救急車を呼んでも受け入れてくれる医療機関がない。市外のケースも多く、交通費の負担の問題なども生じている。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 救急搬送の際に医療機関で受け入れられないことがある。障がい者は断られるケースが多々ある。医療面ではそこが一番困る。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 医師と連携しているが、在宅診療ができる診療所と、昔ながらの往診の先生と、やり方とか考え方が違い、現場が混乱することがある。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 災害時に地域の事業所同士の連携や、高齢になり利用者さんが障がい者施設から高齢者施設に移る時の対応など、情報交換できるとよいので、交流の場があるとよい。 |

(3) 地域福祉に関する現状や課題について

地域福祉に関する現状や課題については、内容は多岐にわたりますが、後見人問題などの身寄りのない高齢者等に関する問題が多くあげられ、今後ますます深刻になるのではないかと危惧する意見も聞かれました。その他では、外出・交通の問題や、高齢化・人口減少が進む地域の将来を見据えた対策などに関する意見があげられました。

以下に、ご意見・ご要望を掲載します。

① 後見人問題など身寄りのいない高齢者等への対応

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 後見人の問題が深刻化している。身寄りのない方などは入院時に必須だが、後見人が決まるまでに裁判などで時間がかかる。時間短縮ができるとよい。後見人が必要な人はこれから増えてくるので、考えていかないといけないと思う。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 身寄りのいない利用者さんは、サービス利用中に体調が急変した場合など、緊急時に連絡がとれる人がいないと対応が難しい。 |

- 後見人は費用がかかるので、誰もがつけられるわけではない。しかし、施設入所の申し込みなど、身元保証人がいないと利用できない。親族がいても身元保証人になってくれない場合もあるし、なつてくれてもどこまで対応してくれるか分からない。身元保証人を引き受ける企業の中にも怪しいところがあったりする。
- 病院から老健への入所希望もあるが、身元保証人がいないと不安な部分もあるので、お断りするケースがある。
- 民間企業の保証制度を使ってトラブルになった方がいる。内容がよく分からないまま高額な料金を支払い契約してしまったようだ。こうしたケースは今後増えてくると思う。身寄りがいても、金銭に関する事は第三者に依頼するケースも増えている。表ざたになっていない問題もたくさんあると思う。悪徳業者も多いので、早い段階でケアマネジャーや地域包括支援センターが関わって対応を考えた方がよいと思う。

② 外出・交通の利便性

- 地区によって違いはあるが、送迎の問題は根深いと思う。通院などどうしているのかと思う。介護タクシーの利用も高額で大変だと思う。
- 施設周辺の交通の便が悪く、交通事故の心配もある。「チョイソコがうら」がもっと利用できるとよい。
- 地域の高齢化が進んでおり、交通の問題がある。「チョイソコがうら」の活用が求められる。
- 高齢化や人口減少が進んでいる地区では、送迎などが本当に難しくなっている。

③ 高齢化や人口減少への対応

- 高齢化や人口減少が進むことを想定した地域づくりを考えていく必要があるのではないか。どことどうやって連携をしていくかなど、地域の体制を考えていった方がよいのではないかな。
- 災害時に支援が必要な人が増えている中で、子どもの安全を優先し、いかに確保するかを考えざるを得なくなっているという一面もある。
- 訪問をしていると、働かない子どもが家にいるケースなど、8050問題を彷彿させるケースに遭遇する。そういう人たちを何らかのコミュニティに参加させるなど、対応を考えていかないと大変なことになると思う。

④ 相談支援

- 相談を受けることが多く、ケアプランのようなものを作成する依頼もあり、お断りしている状況。相談員の人数は限られており、給料面での処遇改善も難しい。障がい福祉の分野は新しい事業所もできないので対応が大変。
- 基幹相談支援センターの相談業務が充実するとよい。ボランティアや医療機関の情報なども含めて、色々な情報発信をしてほしい。障がい者も65歳になると介護保険制度に移行するので、サービスの選択に参考となる情報発信や相談対応をしてほしい。

⑤ 施設入所にあたっての課題

- 老健施設は在宅復帰を目指すところだが、家族形態の変化も相まって施設でずっとみてもらえると考えている家族が多いので、しっかりと説明をして在宅復帰を目指したい。
- 親御さんが高齢になってグループホームを探される方も増えているが、グループホームでは医療的な面で対応が難しいという問題がある。

⑥ 地域の交流、連携

- 施設周辺には家がほとんどなく、地域の交流が難しい。地区のイベントのお知らせもくるが、そこに連れていく人手がない。
- 地域活動への参加の依頼もくるが、人手が足りず、参加する余裕がない。

⑦ 災害時の備え

- 地域に避難所はあるが、障がい者がその避難所に入れるのかという問題がある。障がい者が使える場所の確保が今後の課題だと考えている。
- 土砂災害のリスクのある地域に施設があるため、避難計画やBCPを作成しているものの、避難所までどうやって逃げられるのかという問題がある。

⑧ 行政の支援

- 若年性認知症の人数は少ないが、専門的な知識が求められる一方、医療的なフォローが十分でなく、制度としての運用が難しい。
- 高齢者や障がい者の福祉に関する法律相談など、他市の事例などを参考にして整備してほしい。介護保険や障害福祉サービスの利用基準もあいまいなので、統一した形になるとよい。

3 団体ヒアリング調査

(1) 団体の活動状況について

団体の活動状況については、ほとんどの団体において担い手の不足や高齢化が進んでおり、活動の継続を危惧する意見なども聞かれました。一方、活動を継続していくためには、地域の課題に関心を持ち、共有化することや、解決に向けた意識を高めていくこと、楽しみながら活動に参加することが大切であるという意見などが多くあげられました。

以下に、ご意見・ご要望を掲載します。

① 活動において心がけていること

- ふるさとづくりを進めている。地域の弱点を見つけて、みんなで協力して直していこうと、子どもの見守りや高齢者のお世話、美化活動など、あらゆる活動に取り組んでおり、共生社会を目指している。
- 活動にあたっては、押し付けるのではなく、お互い様の気持ちを持ちながら少しずつの力を寄せ集めて活動しており、楽しみながら活動してもらうことを大切にしている。高齢者でも、頼られてその期待に応えられたときには、喜びにつながるのではないかな。
- 地域の課題はたくさんある中で、自分たちでできることについて仲間と相談し、退職前から準備をして高齢者の日常生活支援の活動をしている。現役の頃から、地域社会に対して問題意識をもつことも大切ではないかな。
- 引きこもりだった方に参加してもらっており、活動を通じて支援をした喜びや仲間と働く喜びなどを感じてもらえたらと思っているし、自分たちにとっても貴重な体験となっている。
- 聴覚障がい者が孤立することのないように、社会との繋がりをつくれるように、イベントの開催や手話サークル、手話の勉強会を開催してる。
- 子どもが遊んでいる様子が見れるように、三者面談に合わせて開催するなど工夫しており、自分の子どもが成長した後も子どもたちが見れるような環境になるとよい。
- ボランティアは楽しくやらなきゃいけないというのをモットーとして活動を続けている。
- 他の団体と意見をかわせられると良いと思う。幅広い活動をされているところの共通点は、「楽しい」というところで、それがないと続かないと思う。それぞれが自分のスタイルで楽しめる機会を作っていくことが大切だと思う。
- 災害などに備えて応急手当の手順など子ども達に伝えていきたい。イベントでの炊き出しなど、小さなところからでも、お手伝いしていければと思う。

② 担い手の課題

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">退職年齢の上昇に伴い限界まで働いてセカンドライフが見えてこない人が多いと思う。このことが地域活動への参加者減の一つの要因になっているのではないか。 |
| <ul style="list-style-type: none">民生委員の任期を終えた後も地区社協として残って活動を継続していただいているので、人数は減っていないが高齢化が進んでいる。 |
| <ul style="list-style-type: none">有償の日常生活支援のボランティアニーズは増えていて、担い手の確保が必要になっている。元気高齢者に空いている時間を使って活動に参加してもらいたいと考えている。また、自分たちだけでは無理があるので、自治会とも連携をとりたい。 |
| <ul style="list-style-type: none">共働き世帯の増加に伴い放課後子ども教室のニーズが増えている。下校時の見守りなど保護者などの協力をお願いしているが、なかなか集まらない。市の担当課と連携をとりながらスタッフの確保について検討している。 |
| <ul style="list-style-type: none">社会福祉協議会のボランティア連絡協議会を通じて、依頼を受けた行事や地域活動に参加して踊りを披露している。シニアクラブの行事にも参加している。会員は全員80歳以上なので、いつまで継続していけるか分からない状況。踊りの団体はいずれも縮小しており、特にコロナをきっかけに縮小が進んでいる。踊りの楽しさを若い世代に伝えていきたいが、若い人が入らない。 |
| <ul style="list-style-type: none">担い手の高齢化が進んでいる。2期お願いしますといっても、1期で辞めてしまう人もいて、地域の活動団体も人数が少なくなっていて、これから先どうなるんだろうと心配している。 |
| <ul style="list-style-type: none">役員の高齢化が進んでいる。役員の仕事を理解していただくのに時間がかかるので、様々な機会を通じて、この仕事に適していると思える人を見つけ、勧誘している。 |

(2) 他機関等との連携について

他機関等との連携については、多くの団体は市行政や社会福祉協議会、他団体と連携しており、今後も連携の継続や新たな連携を希望しています。また、協力してほしい内容については、広報活動における行政からの支援や、連携の仕組みづくり、災害に備えた関係課や関係団体等との協力体制の充実などを求める意見があげられています。

以下に、ご意見・ご要望を掲載します。

① 連携している・連携したい機関等

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">社会福祉協議会や市行政と連携している。将来を見据えた町づくり活動を進めていきたいので、今後も連携をしていきたい。 |
| <ul style="list-style-type: none">民生委員・児童委員は、秘密事項を遵守しながら相談活動などを行っている。民生委員・児童委員を窓口にして、色々なところと連携しながら、情報を伝達して支援につなげていきたい。 |
| <ul style="list-style-type: none">地域の方とは積極的に交流を図りたい。 |
| <ul style="list-style-type: none">有償ボランティアのニーズが増えており、自分たちだけでは手が回らないので、自治会さんなどとも連携をとっていきたい。 |
| <ul style="list-style-type: none">敬老会など、色々な活動団体さんに参加していただき、小中学校の生徒さんにも演奏などを披露していただいているが、最近は参加していただける団体さんが探しにくくなり、頼みづらい。その他にも、活動に応じて、地域包括支援センターや食生活改善推進員、駐在所のおまわりさんなどに協力をいただいている。 |
| <ul style="list-style-type: none">市行政や同じ学校施設で活動をしている団体と連携している。地域の方にも、下校の見守りなどをお願いしているが、もっと協力していただける方が増えるとよい。学校とも連携していきたい。 |
| <ul style="list-style-type: none">ボランティア連絡協議会の会員として依頼に応じて活動しており、今後も学校など、いろいろなところと連携して、踊りの楽しさを伝える機会があればと思う。 |
| <ul style="list-style-type: none">市、社会福祉協議会、ライオンズクラブなどと連携している。能登半島地震の募金活動では県支部とも連携した。今後は福祉フェスタで募金活動をしようかとも考えている。 |

② 協力してほしい内容

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">• 回覧板をメインとした広報では見ない人も多く、サロンなどの日々の活動をタイムリーにお知らせすることができず、必要などころに必要な情報が届けられない。市の SNS をもっと利用できるようにさせていただきたい。各地区のサロン活動というページを設けて各地区の活動を分かるようにするなど、市の広報担当にもっと話を聞いてもらいたい。 |
| <ul style="list-style-type: none">• 市ホームページに掲載されているボランティア情報が更新されず、見る人もいないようだ。ホームページがもっと活用できれば、我々も情報を更新していく。ボランティア情報についても、登録せずに空いている時間を利用して参加申し込みできるようなシステムの制作など、システムに強い市職員などに入ってもらって、活動を支援してほしい。そうすると若い人にも興味を持ってもらえるのではないかな。 |
| <ul style="list-style-type: none">• 聴覚障がい者も参加できるイベントや活動があるので、色々な情報を私たちの協会のサイトに掲載したいと考えているので協力してほしい。 |
| <ul style="list-style-type: none">• 災害時に聴覚に障がい者は逃げ遅れるリスクもあるので、市は情報が早く届くようにしてほしい。また、災害に備えて、防災訓練には、様々な障がい者が参加するべきだと思う。危機管理課と地域福祉課、障がい福祉課など関係課が連携して障がい者の防災訓練への参加を進めてほしい。 |
| <ul style="list-style-type: none">• 災害時要支援者制度の名簿登録に、手を挙げない障がい者もいるようなので、登録するように声をかけていただきたい。 |
| <ul style="list-style-type: none">• 民生委員や自治会長さんなどに協力をお願いしたくても、どの方に、どういう方法で相談をしたらいいのかわからない。仲介をしていただける団体に入っただけのようにするなど、連携を進める仕組みがあると安心できる。 |

(3) 地域福祉に関する現状や課題について

地域福祉に関する現状や課題については、支援が必要な人・必要だと思われる人が増えており、支援体制の充実が求められています。また、地域により社会環境や地域活動の取組状況などが異なり、高齢者等のニーズも変化している状況などを指摘する意見などもあげられています。

以下に、ご意見・ご要望を掲載します。

① 支援が必要な人の状況

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">• 相談は増えていて、難しい複雑な案件も多い。 |
| <ul style="list-style-type: none">• 支援が必要なのに SOS を出さない人が増えていて、危険な状態になっている。民生委員や地域包括支援センターに報告して対応していただいても、本人が大丈夫だというと、そこで終わってしまうようで心配だ。つなぎ役の人、つなぎの仕組みがあるとよいと思う。 |
| <ul style="list-style-type: none">• 引きこもり方などは、年齢やこれまでの生活経験などを考慮した社会復帰を個別に支援していくことが大切ではないか。 |
| <ul style="list-style-type: none">• 聴覚障がい者は、地域のイベントなどの情報が届かないために参加できないことがある。 |
| <ul style="list-style-type: none">• 認知症とまではいえないが、普段話をしててもちょっとおかしいなと感じる人がいる。そういう人をイベントなどにお誘いしたいと思うが、付き添いや行くまでの手段がないため、孤立が進んでしまうと思う。 |
| <ul style="list-style-type: none">• コロナをきっかけに変わったと思う。見守りを兼ねたお弁当支援など、条件を無視して受けようとする人がいたり、個人のプライバシーの問題もあってグレーゾーンの支援の判断がつきにくい人が最近が多いと思う。 |
| <ul style="list-style-type: none">• 民生委員が少なく、三つのブロックを1人で担当していて、手が足りない。もうちょっと手があったら、支援が必要な人に色々としてあげられるのにと感じる。 |

② 地域の現状

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">• これまでの経緯などとも関係があると思うが、高齢者のサロン活動など、地域により活動状況に差がみられる。リーダーの役割も大きいと思う。 |
| <ul style="list-style-type: none">• 役員の人数はそろっているが役員が偏っている地域や、人口が多くても役員が少ない地区などがある。60代の働き盛りで地域のことを知っている人たちを取り込んでいく必要があると思う。特に人口の多いところは入れ替わりも激しい。商店街の企業等も入れ替わりが大分あるのに名簿が更新されていない。 |
| <ul style="list-style-type: none">• 昔のように地域密着型で、隣近所でお茶飲みをするような機会がなくなっている。その辺の流れを地域福祉の中で変えていけたらと思う。 |
| <ul style="list-style-type: none">• 有償ボランティアを行っているが、最近はゴミ出しの依頼が増えている。介護保険制度の改正やヘルパーさんの減少によりゴミ出しの時間帯に対応してくれる人がいないようだ。また、金額を決めて、決まった時間に約束通り支援してもらおう方が気が楽だという意見も聞く。 |

V 調査結果からみえる課題

1 事業所の継続的・安定的な成長

事業所の運営上の課題や困っていること（問6，P6）では、「①スタッフの確保（78.6%）」が最も高く、次いで「②スタッフの質の向上（人材育成など）（50.0%）」となり、人材に関する項目が上位を占めています。必要な支援（問8，P10）についても、「①人材募集や研修制度など人材面での支援（71.4%）」が最も高くなっています。ヒアリング調査でも人材面の課題が多く、経営にも影響が及んでいるなど、深刻な状況がうかがえます。

ICTの導入もしくは拡充予定（問11，P11）では、「現状のICTの活用を継続する（39.3%）」や「導入もしくは拡充していく予定がある（35.7%）」が3割台となっています。ICTを導入もしくは拡充するうえでの課題（問12，P11）は、「①利用者への操作方法の説明が難しい（35.7%）」が最も高く、「②事業所の通信環境が整っていない」及び「③利用者の使用機器が整っていない」が同率（28.6%）で続いています。各種課題はあるものの、業務の改善や多職種連携、情報共有など地域福祉においても効果も期待されるため、デジタル化を図っていく必要があります。

また、ヒアリング調査では、事業運営において資金面での問題や、制度改正に伴う事務量の増加、サービスの需給面での問題など、様々な課題に直面している様子がうかがえます。事業所は地域資源でもあるため、行政や地域においても事業所の継続性や安定的な成長につながるように、デジタル化への対応も含めて必要な支援を検討し、協力していく必要があります。

2 事業所における地域や他機関との連携

現在、連携・協働関係にある機関等（問15，P13）では、「①医療機関（75.0%）」と最も高く、次いで「②福祉関連施設（60.7%）」、「③行政機関（57.1%）」となっています。今後、連携・協働関係を築きたい機関等（問15，P14）では、「①ボランティア団体・NPO（42.9%）」が最も高くなっています。

他の団体や機関と連携の必要性（問13，P12）では、「感じる（53.6%）」と「ときどき感じる（28.6%）」を合わせた『感じる（82.2%）』が多数を占めています。連携の必要性を感じるのとき（問14，P12）は、「①課題解決のためのスキルや情報が不足しているとき（65.2%）」が最も高く、「②相談者が複合的な課題を抱えているとき」及び「③相談者に対して専門的な支援が必要なとき」が同率（60.9%）で続いています。ヒアリング調査でも、制度改正時の対応や救急時の対応、災害時に備えた連携体制など、様々な場面で連携が必要であり、情報共有や意見交換の機会が求められています。

連携・協働関係を築く際の課題（問18，P18）では、「①接点・交流の機会がないこと（46.4%）」が最も高く、具体的な内容（問19，P19）として、業務多忙や新型コロナウイルスの影響、個人情報守秘義務などの問題があげられています。ヒアリング調査でも、新型コロナウイルスをきっかけにボランティアの受入れや地域交流が難しくなったという意見が多くあげられました。

しかし、地域貢献や高齢者等への理解を深めるために、地域との交流が重要であると多くの事業者は認識しており、交流が図りやすくなるような仕組みづくりや交流の場づくりなどを検討していく必要があります。

3 事業所が指摘する地域福祉の課題

利用者から聞く日常生活での困りごとや地域の問題・課題（問 22, P21）では、介護の問題、移動・交通の問題、災害への対応、経済的な不安などがあげられています。また、家族関係のあり方の変化や地域のつながりの希薄化により、支援を必要とする人が増えているという指摘もみられます。

ヒアリング調査でも同様の意見があげられており、中でも後見人問題などの身寄りのない高齢者等に関する問題について、今後ますます深刻になるのではないかと指摘もあり、早急に対応策を検討していく必要があります。

市及び社会福祉協議会が運営している地域連携ネットワークの中核を担う「中核機関」の認知度（問 25, P23）は、「知っている（60.7%）」と過半数を占めるものの、市が取り組んでいる「袖ヶ浦市重層的支援体制整備事業」の認知度（問 26, P24）では、「知らない（60.7%）」が過半数を占めています。後見人問題も含め、複合化・複雑化している地域の課題に対応していくためにも、こうした市や社会福祉協議会の事業について周知を図り、事業所の理解と協力を得られるように取り組んでいく必要があります。

4 団体活動の持続性と活性化

団体の活動を行う中で、今困っていること（問 6, P31）では、「①新たなスタッフ（担い手）が確保できない（76.3%）」及び「②スタッフ（担い手）が高齢化している（73.7%）」が7割台と高くなっています。また、「③活動のリーダー的人材が不足している（42.1%）」は前回（24.1%）よりも増加しており、人材に関する問題が多くみられます。ヒアリング調査でも同様で、人材不足により活動の継続を危惧する意見なども聞かれました。

必要とする支援（問 8, P35）では、「①補助金など資金面での支援」及び「②人材募集や研修制度など人材面での支援」が同率（36.8%）で高く、次いで「③広報活動、ニーズの把握など情報についての支援（21.1%）」となっています。

今後の活動予定（問 9, P35）では、「活動を維持したい、維持することで精一杯（68.4%）」が最も高く、具体的な内容（問 10, P36）として、担い手の高齢化や、担い手及び参加者の減少、活動の負担の大きさなどが理由としてあげられています。

ヒアリング調査では、活動を継続していくためには、地域の課題に関心を持ち、共有化することや、解決に向けた意識を高めていくこと、楽しみながら活動に参加することが大切であるという意見などがあげられています。定年延長などにより退職してからの団体活動への参加が難しくなっていることから、現役世代から地域の課題に関心を持ち、気軽に地域活動に参加できるような環境づくりに取り組んでいく必要があります。

5 団体における他機関等との連携

現在、連携・協働関係にある機関等（問 13, P39）では、「①行政機関（63.2%）」や「②社会福祉協議会（60.5%）」が6割台と高くなっています。今後、連携・協働関係を築きたい機関等（問 13, P40）では、「①地区の自治会（47.4%）」が最も高く、次いで「②学校・幼稚園・保育園・認定こども園（44.7%）」となっています。

他の団体や機関と連携の必要性（問 11, P38）では、「感じる（44.7%）」と「ときどき感じる（28.9%）」を合わせた『感じる（73.6%）』が多数を占めています。連携の必要性を感じる時（問 12, P38）では、「①イベントなどで人手が足りない時（53.6%）」が最も高く、次いで「②課題解決のためのスキルや情報が不足している時（46.4%）」となっています。ヒアリング調査では、広報活動に関する市の支援や、連携の仕組みづくり、災害に備えた関係課や関係団体等との協力体制の必要性を指摘する意見などもあげられています。

他機関等との連携・協働関係を築く際の課題（問 14, P43）では、事業所と同様に「①接点・交流の機会がないこと（28.9%）」が最も高くなっています。

他機関等との連携は、団体活動の活性化につながることを期待されるため、事業所と同様に交流が図りやすくなるような仕組みづくりや交流の場づくりなどを検討していく必要があります。

6 団体が指摘する地域福祉の課題

地域住民から聞く日常生活での困りごとや地域の問題・課題（問 18, P48）では、高齢者や障がい者の生活支援、子どもの居場所や交流などがあげられており、これらの課題に対して、各団体は、それぞれの活動の範囲で積極的に取り組んでいます。市や他機関等との連携及び支援を求める意見もみられます。

また、ヒアリング調査では、支援が必要な人・支援が必要だと思われる人が増えているという指摘もありました。特に支援が必要だと思われる人の把握や対応が難しく、支援活動を行う側の体制も追い付かず、支援につながらなかったり、孤立したりするケースも生じているようです。こうした問題は早い段階で対応が重要であり、一部の人に任せるのではなく、地域ぐるみで取り組んでいく必要があります。

地域での福祉活動を活性化させるために必要な取組（問 22, P52）では、「①個人がいつでも参加できる仕組みづくり（44.7%）」が最も高くなっています。ヒアリング調査では、現役世代もすき間時間を利用して地域活動に参加できるような仕組みがあると良いという意見もあげられています。活動に参加することが負担とならないように、継続した参加につながるように、団体活動の業務の効率化や統合化が図れるような支援や、市や社会福祉協議会の施策との連携、有効な情報の提供など、効果的な支援を検討していく必要があります。

袖ヶ浦市
地域福祉に関する地域福祉に関する事業所・団体調査
結果報告書

発行：袖ヶ浦市福祉部地域福祉課（地域福祉班）
TEL 0438-62-3157

袖ヶ浦市社会福祉協議会
TEL 0438-63-3888

発行年月：令和7年1月

令和6年度
地域福祉に関する
住民意識調査
事業所・団体調査
報告書

— 概要版 —

令和7年1月

袖ヶ浦市

袖ヶ浦市社会福祉協議会

目次

| | |
|---|----|
| 第1編 住民意識調査 | 1 |
| I アンケート調査の概要 | 2 |
| 1 調査の目的 | 2 |
| 2 調査設計 | 2 |
| 3 報告書の見方 | 2 |
| II 調査の結果 | 3 |
| 1 回答者について | 3 |
| 2 地域での暮らしについて | 4 |
| (1) 居住地区の暮らしやすさ (問 11) | 4 |
| (2) 地域社会の中で安心して暮らしていくために大切だと思うこと (問 12) | 5 |
| 3 地域の助け合いやボランティア活動について | 6 |
| (1) 居住地区の暮らしやすさ (問 13) | 6 |
| (1-1) 近所づきあいをしない主な理由 (問 13-1) | 6 |
| (2) 地域の行事や活動への参加状況 (問 14) | 7 |
| (2-1) 活動に参加したきっかけ (問 14-2) | 8 |
| (2-2) 参加していない理由 (問 14-5) | 9 |
| (3) ボランティア活動に参加する上での必要な条件 (問 15) | 10 |
| (4) 地域活動やボランティア活動の参加状況・今後の参加意向 (問 17) | 11 |
| 4 情報入手手段や相談について | 12 |
| (1) 保健福祉サービスなどの情報入手手段 (問 19) | 12 |
| (2) 保健福祉に関する情報発信や相談を行っている機関の認知 (問 21) | 13 |
| 5 権利擁護について | 14 |
| (1) 福祉サービス利用援助事業の認知度 (問 22) | 14 |
| (2) 成年後見制度の認知度 (問 23) | 15 |
| 6 防災対策について | 16 |
| (1) 普段から行っている防災対策 (問 25) | 16 |
| (2) 災害時に必要な住民同士の支援 (問 26) | 17 |
| (3) 地域における避難支援の考え方 (問 27) | 17 |
| 7 再犯防止対策 | 18 |
| (1) 「社会を明るくする運動」や「再犯防止啓発月間」の認知度 (問 28) | 18 |
| (2) 社会復帰を果たすために重要だと考える市の支援 (問 29) | 18 |
| 8 地域共生社会について | 19 |
| (1) 地域共生社会という言葉や意味を聞いた経験の有無 (問 30) | 19 |
| (2) 取り組みそうな活動 (問 32) | 19 |
| (3) 地域福祉の推進に向けて重要だと思うこと (問 33) | 20 |

| | | |
|----|---|----|
| 9 | 袖ヶ浦市の地域福祉の取組について | 22 |
| | (1) 「袖ヶ浦市地域福祉計画」における主要施策の満足度・重要度 (問 35) | 22 |
| 10 | 地域福祉の推進について | 25 |
| | (1) 社会福祉協議会の認知度 (問 36) | 25 |
| | (2) 社会福祉協議会の主な事業・活動で知っているもの (問 37) | 26 |
| | (3) 社会福祉協議会に期待すること (問 38) | 27 |
| | (4) 社会福祉協議会の活動の充実を図る上で重要と思われること (問 39) | 28 |
| 11 | 民生委員・児童委員について | 29 |
| | (1) 民生委員・児童委員の活動の認知度 (問 40) | 29 |
| | (2) 居住地区の民生委員・児童委員の認知度 (問 41) | 29 |
| 12 | 市へのご要望・ご意見 | 30 |
| | (1) 市へのご要望・ご意見 (問 42) | 30 |

第2編 事業所・団体調査..... 31

I アンケート調査及びヒアリング調査の概要..... 32

| | | |
|---|--------------|----|
| 1 | 調査の目的 | 32 |
| 2 | アンケート調査設計 | 32 |
| 3 | アンケート報告書の見方 | 32 |
| 4 | ヒアリング調査の実施状況 | 32 |

II 事業所アンケート調査の結果..... 33

| | | |
|---|--|----|
| 1 | 事業所の概要 | 33 |
| 2 | 事業所の運営について | 34 |
| | (1) 事業所の運営上の課題 (問 6) | 34 |
| | (2) 事業所において必要とする支援 (問 8) | 35 |
| | (3) ICTを導入もしくは拡充していく予定 (問 11) | 36 |
| | (4) ICTを導入もしくは拡充する上での課題 (問 12) | 36 |
| 3 | 他機関との連携について | 37 |
| | (1) 他の団体や機関と連携の必要性 (問 13) | 37 |
| | (2) 連携の必要性を感じる時 (問 14) | 37 |
| | (3) 他機関等との連携・協働関係を築く際に課題となること (問 18) | 38 |
| | (4) 課題の内容 (問 19) | 38 |
| 4 | 地域福祉について | 39 |
| | (1) 利用者から聞く日常生活の困りごとや地域の問題等と 事業者で取り組めること (問 22) | 39 |
| | (2) 地域連携ネットワークの中核を担う「中核機関」の認知度 (問 25) | 39 |
| | (3) 「袖ヶ浦市重層的支援体制整備事業」の認知度 (問 26) | 39 |

| | |
|---|----|
| Ⅲ 団体アンケート調査の結果 | 40 |
| 1 団体等の概要 | 40 |
| 2 団体等の活動について | 41 |
| (1) 貴団体の活動を行う中で困っていること (問 6) | 41 |
| (2) 必要な支援 (問 8) | 42 |
| (3) 今後の活動予定 (問 9) | 43 |
| (4) 今後の活動予定に関する具体的な理由 (問 10) | 43 |
| 3 他機関等との連携について | 44 |
| (1) 他機関等との連携の必要性 (問 11) | 44 |
| (2) 連携の必要性を感じる時 (問 12) | 44 |
| (3) 他機関等との連携・協働関係を築く際の課題 (問 14) | 45 |
| 4 地域福祉について | 45 |
| (1) 利用者から聞く日常生活の困りごとや地域の課題等と 団体として取り組めること (問 18) | 45 |
| (2) 地域での福祉活動をさらに活性化させるために必要な取組 (問 22) | 46 |
| Ⅳ ヒアリング調査の結果 | 47 |
| 1 事業所ヒアリング調査 | 47 |
| (1) 事業所の運営状況について | 47 |
| (2) 地域や他機関との連携について | 47 |
| (3) 地域福祉に関する現状や課題について | 47 |
| 2 団体ヒアリング調査 | 47 |
| (1) 団体の活動状況について | 47 |
| (2) 他機関等との連携について | 47 |
| (3) 地域福祉に関する現状や課題について | 48 |

第1編 住民意識調査

I アンケート調査の概要

1 調査の目的

本調査は、袖ヶ浦市の「地域福祉計画（第4期）」及び、袖ヶ浦市社会福祉協議会の「地域福祉活動計画（第5期）」の策定のための基礎資料とすることを目的として実施しました。

2 調査設計

| | |
|------|---|
| 調査地域 | 袖ヶ浦市全域 |
| 調査対象 | 令和6年8月時点で市内在住の満18歳以上の方 (住民基本台帳から無作為抽出) |
| 標本数 | 1,000件 |
| 調査期間 | 令和6年10月1日(火)～10月22日(火) |
| 調査方法 | 郵送配布・郵送回収による本人記入方式 |
| 回収結果 | 有効回収数：366件 有効回収率：36.6% |

3 報告書の見方

- ◇回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- ◇複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- ◇図表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。

Ⅱ 調査の結果

1 回答者について

| 区分 | 割合 (%) |
|---------------|--------|
| ■ 性別 | |
| 男性 | 43.2 |
| 女性 | 52.5 |
| 答えたくない | 1.1 |
| 無回答 | 3.3 |
| ■ 居住地区 | |
| 昭和地区 | 29.5 |
| 長浦地区 | 42.6 |
| 根形地区 | 8.5 |
| 平岡地区 | 8.5 |
| 中川・富岡地区 | 7.9 |
| 無回答 | 3.0 |
| ■ 年齢 | |
| 18～29歳 | 6.8 |
| 30～39歳 | 10.1 |
| 40～49歳 | 14.2 |
| 50～59歳 | 15.0 |
| 60～64歳 | 6.8 |
| 65～69歳 | 8.5 |
| 70～74歳 | 11.7 |
| 75～79歳 | 11.2 |
| 80歳以上 | 12.6 |
| 無回答 | 3.0 |

| 区分 | 割合 (%) |
|---------------|--------|
| ■ 居住年数 | |
| 1年未満 | 1.4 |
| 1～5年未満 | 8.7 |
| 5～10年未満 | 7.7 |
| 10～20年未満 | 12.0 |
| 20年以上 | 67.2 |
| 無回答 | 3.0 |
| ■ 居住年数 | |
| 住み続けたい | 69.1 |
| しばらくは住み続けたい | 23.0 |
| できれば移りたい | 3.8 |
| ぜひ移りたい | 1.1 |
| 無回答 | 3.0 |
| ■ 家族構成 | |
| 単身 | 8.5 |
| 夫婦のみ | 27.0 |
| 夫婦と子など（2世代） | 41.8 |
| 母と子、または父と子 | 7.7 |
| 親・子・孫（3世代） | 4.9 |
| その他 | 6.8 |
| 無回答 | 3.3 |

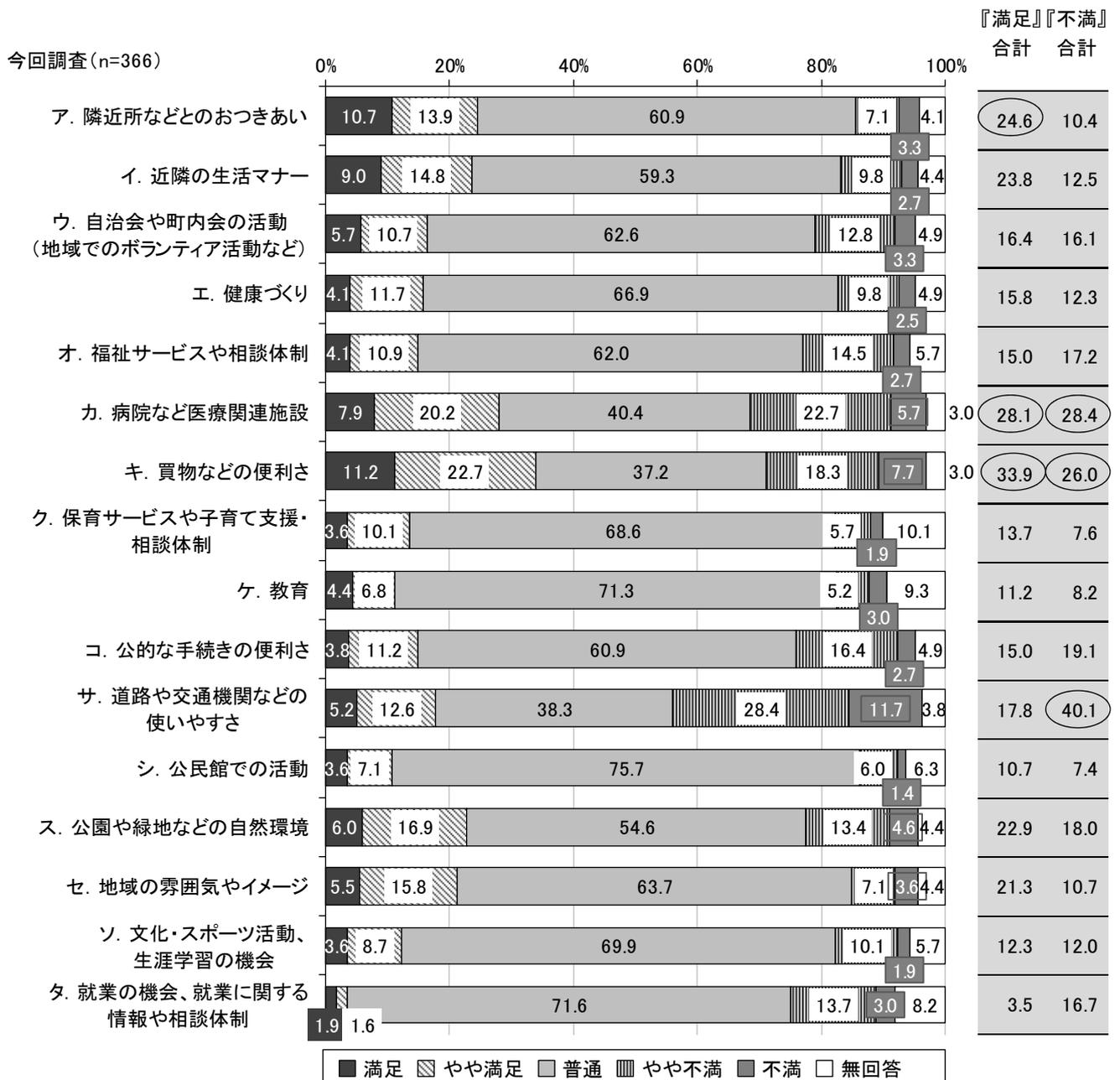
2 地域での暮らしについて

(1) 居住地区の暮らしやすさ

問11 あなたが現在お住まいの地域の暮らしやすさはいかがですか。(それぞれ○は1つだけ)

概ねすべての項目で「普通」が最も高くなっています。『満足』（「満足」と「やや満足」の合計）では〔キ. 買物などの便利さ〕が33.9%と最も高く、次いで〔カ. 病院など医療関連施設〕が28.1%、〔ア. 隣近所などのおつきあい〕が24.6%となっています。一方、『不満』（「やや不満」と「不満」の合計）では〔サ. 道路や交通機関などの使いやすさ〕が40.1%と最も高く、次いで〔カ. 病院など医療関連施設〕が28.4%、〔キ. 買物などの便利さ〕が26.0%となっています。

「袖ヶ浦市地域福祉計画」の主要施策に対する満足度・重要度（P24）の位置づけを示すゾーニングでは、移動手段の確保は「課題ゾーン」にあることも踏まえ、道路や交通機関の利便性のさらなる向上が求められています。



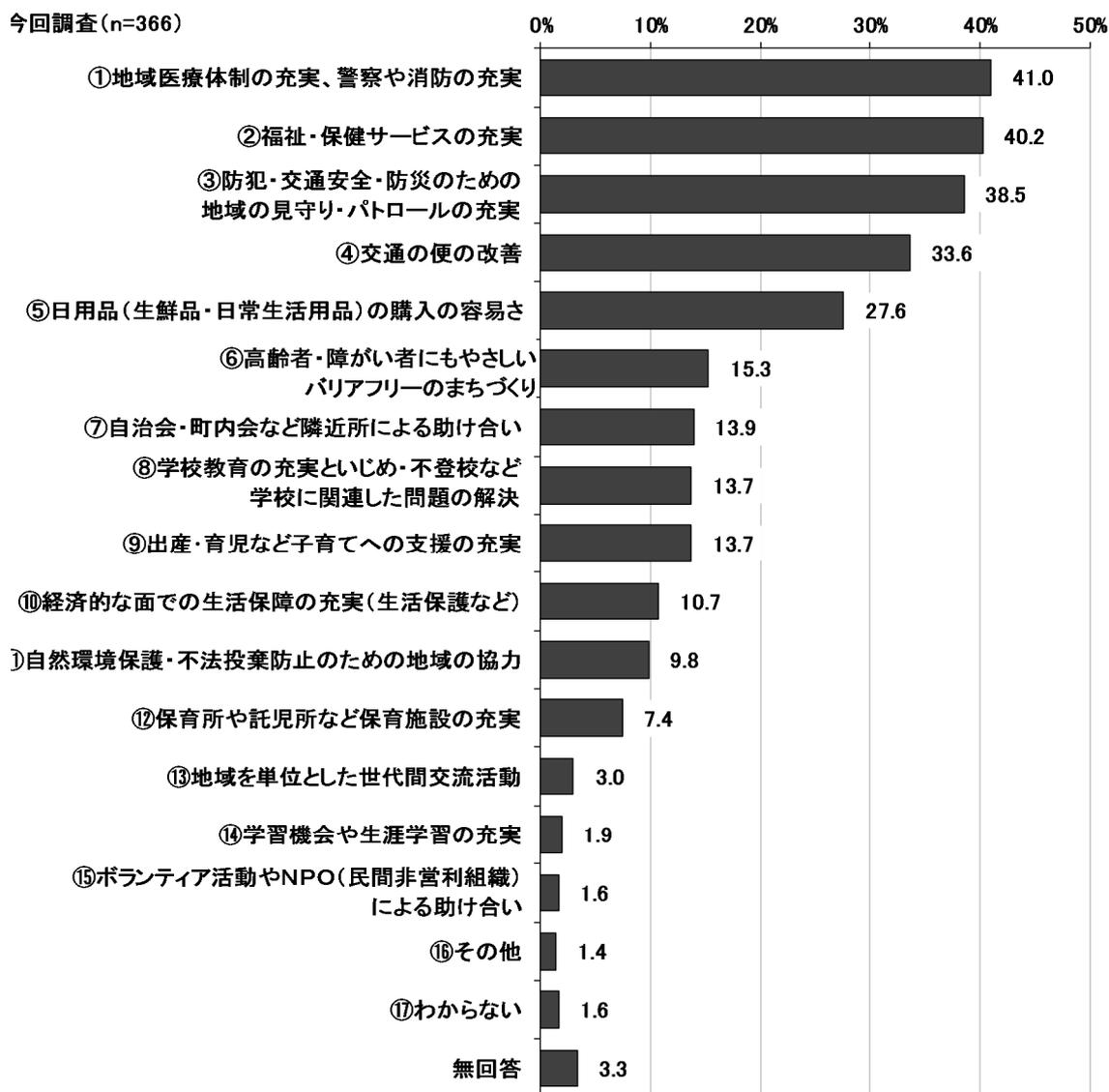
(2) 地域社会の中で安心して暮らしていくために大切だと思うこと

問12 地域社会の中で安心して暮らしていくには、どのようなことが大切だと思いますか。

(〇は3つまで)

「①地域医療体制の充実、警察や消防の充実」が41.0%と最も高く、次いで「②福祉・保健サービスの充実」が40.2%、「③防犯・交通安全・防災のための地域の見守り・パトロールの充実」が38.5%となっています。

居住地区別でみると、「①地域医療体制の充実、警察や消防の充実」は中川・富岡地区が、「③防犯・交通安全・防災のための地域の見守り・パトロールの充実」は長浦地区が、「④交通の便の改善」は平岡地区の割合が高く、地域の特性を踏まえたインフラ整備が求められています。



| 単位: % | ①地域医療体制の充実、警察や消防の充実 | ②福祉・保健サービスの充実 | ③防犯・交通安全・防災のための地域の見守り・パトロールの充実 | ④交通の便の改善 | ⑤日用品(生鮮品・日常生活用品)の購入の容易さ | ⑥高齢者・障がい者にもやさしいバリアフリーのまちづくり | ⑦自治会・町内会など隣近所による助け合い | |
|-----------|---------------------|---------------|--------------------------------|----------|-------------------------|-----------------------------|----------------------|------|
| 全体(n=366) | 41.0 | 40.2 | 38.5 | 33.6 | 27.6 | 15.3 | 13.9 | |
| 居住地区別 | 昭和地区(n=108) | 40.7 | 38.0 | 38.0 | 26.9 | 35.2 | 16.7 | 10.2 |
| | 長浦地区(n=156) | 41.0 | 41.7 | 42.3 | 30.8 | 25.0 | 15.4 | 14.1 |
| | 根形地区(n=31) | 45.2 | 41.9 | 25.8 | 41.9 | 32.3 | 12.9 | 6.5 |
| | 平岡地区(n=31) | 32.3 | 41.9 | 38.7 | 48.4 | 29.0 | 9.7 | 22.6 |
| | 中川・富岡地区(n=29) | 51.7 | 37.9 | 37.9 | 44.8 | 13.8 | 13.8 | 20.7 |

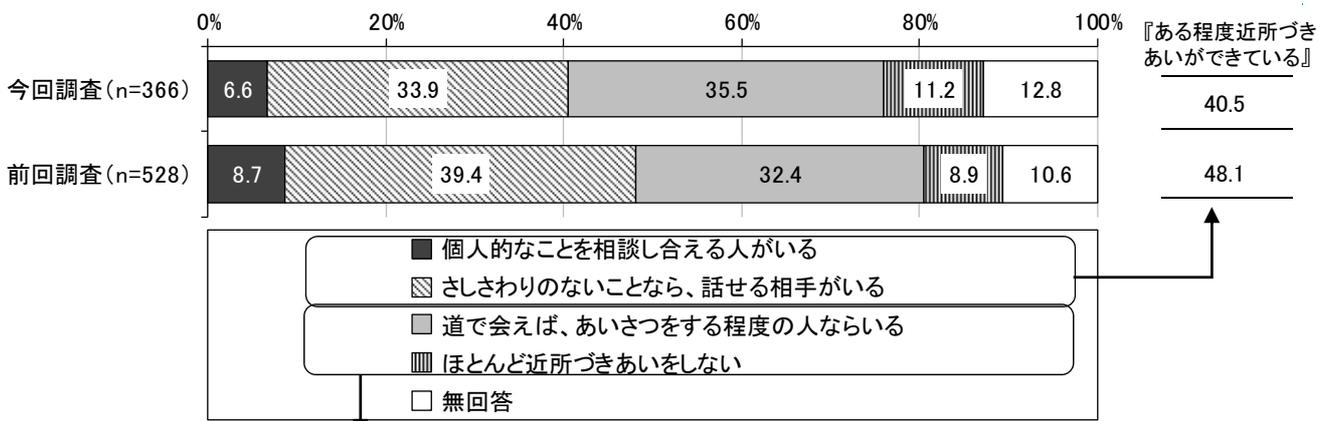
3 地域の助け合いやボランティア活動について

(1) 居住地区の暮らしやすさ

問13 あなたは、隣近所の人とどのようにおつきあいされていますか。(〇は1つだけ)

「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」が35.5%と最も高く、次いで「さしさわりのないことなら、話せる相手がいる」が33.9%、「ほとんど近所づきあいをしない」が11.2%となっています。

前回調査との比較では、『ある程度親密な近所づきあいはできている』（「個人的なことを相談し合える人がある」と「さしさわりのないことなら、話せる相手がいる」の合計）が7.6ポイント低下しており、近隣の住民の暮らしにかかわり合うことに慎重な人が増えている傾向がみられます。

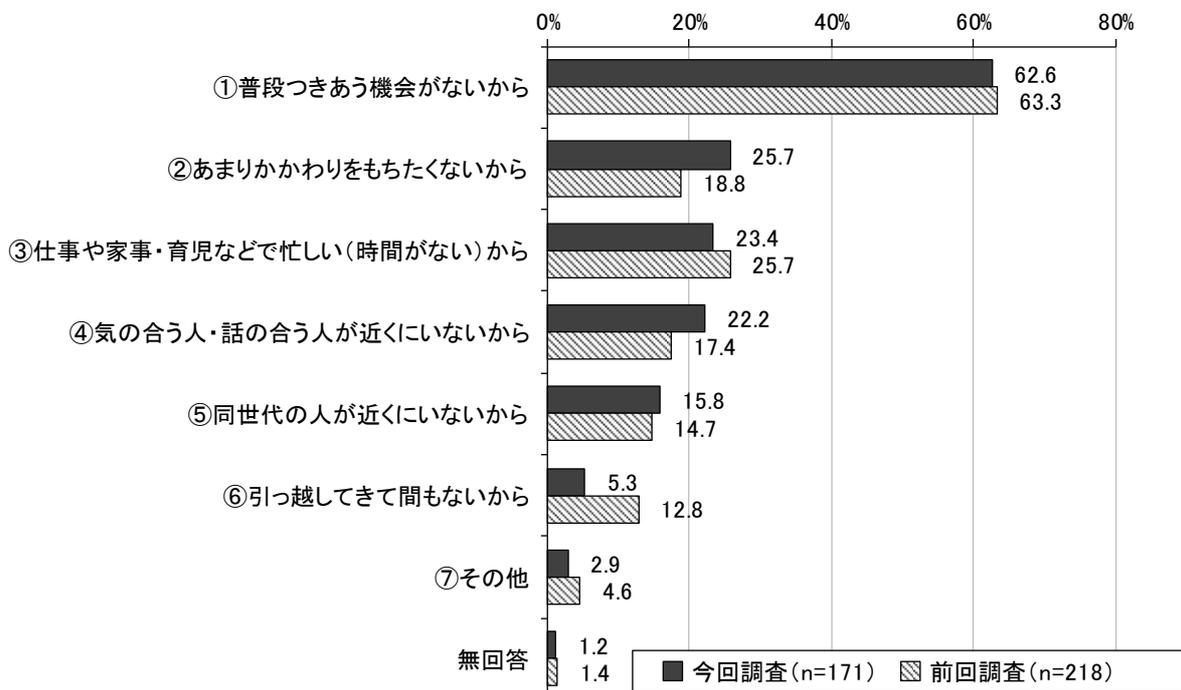


(1-1) 近所づきあいをしない主な理由

問13-1 その主な理由を次の中からお答えください。(〇は2つまで)

「①普段つきあう機会がないから」が62.6%と最も高く、次いで「②あまりかかわりをもちたくないから」が25.7%、「③仕事や家事・育児などで忙しい(時間がない)から」が23.4%となっています。

前回調査との比較では、「②あまりかかわりをもちたくないから」が6.9ポイント増加し、「⑥引っ越してきて間もないから」が7.5ポイント減少しています。



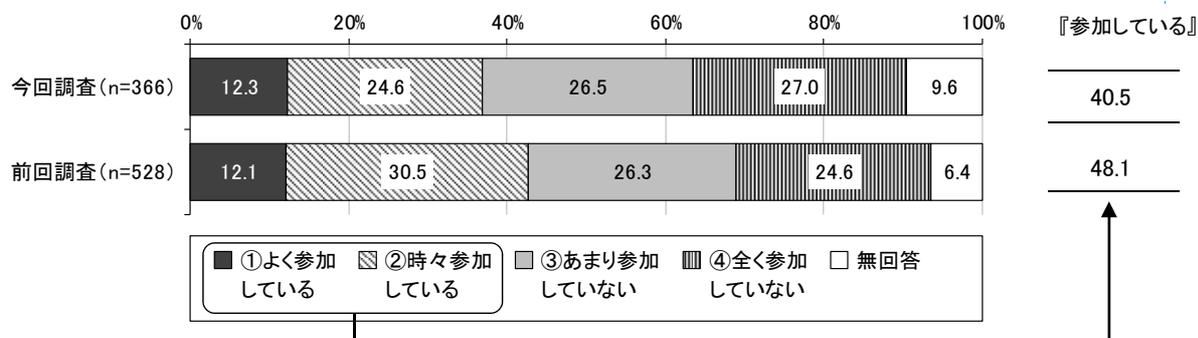
(2) 地域の行事や活動への参加状況

問 14 あなたは、お住まいの地域のいろいろな行事や活動にどの程度参加されていますか。

(○は1つだけ)

「④全く参加していない」が 27.0%と最も高く、次いで「③あまり参加していない」が 26.5%、「②時々参加している」が 24.6%となっています。

前回調査との比較では、「②時々参加している」が 5.9 ポイント減少しています。



(2-1) 活動に参加したきっかけ

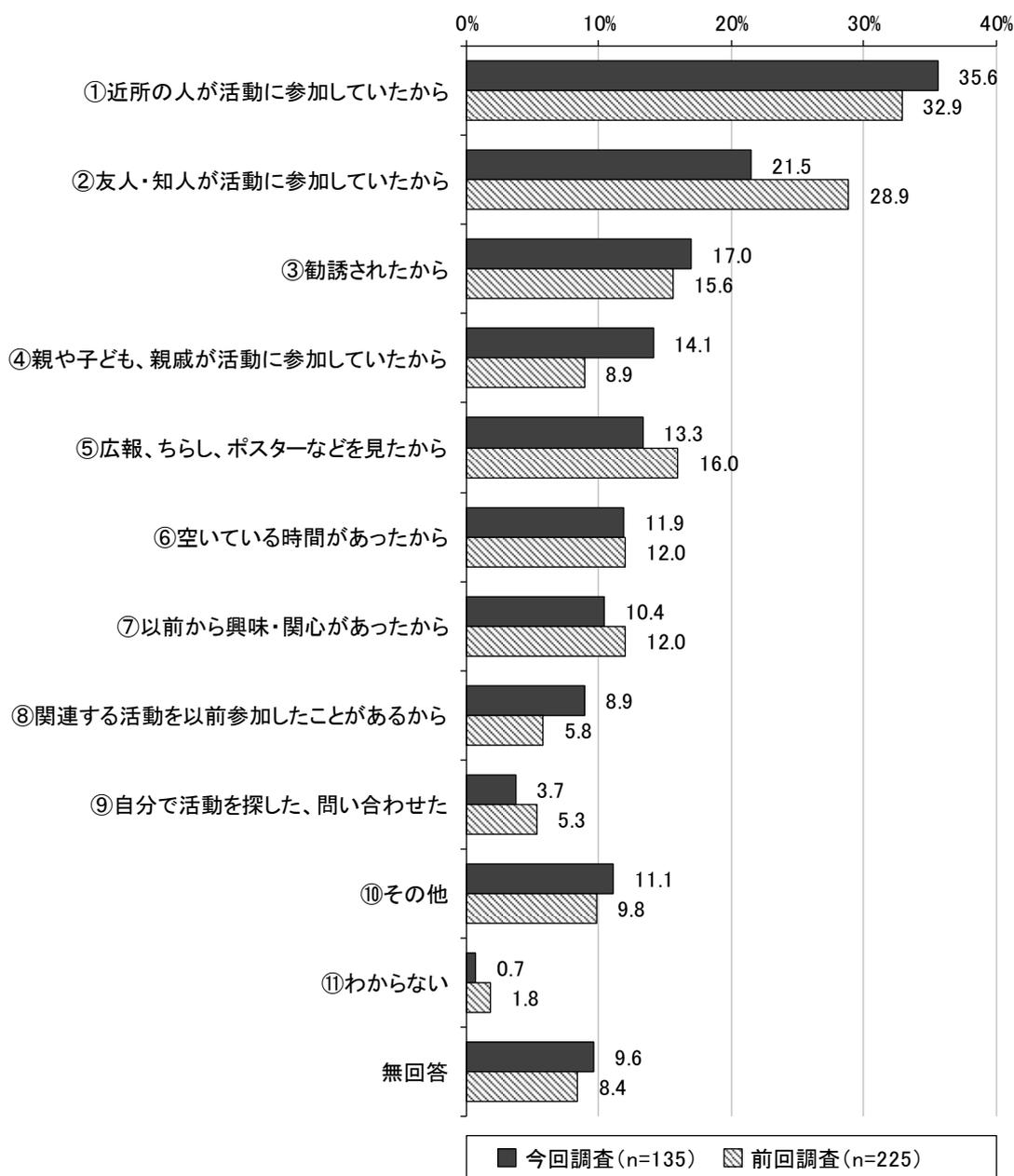
問14で「よく参加している」または「時々参加している」とお答えの方

問14-2 あなたがこういった活動に参加したきっかけをお答えください。(あてはまるものすべてに○)

「①近所の方が活動に参加していたから」が35.6%と最も高く、次いで「②友人・知人が活動に参加していたから」が21.5%、「③勧誘されたから」が17.0%となっています。

前回調査との比較では、「④親や子ども、親戚が活動に参加していたから」が5.2ポイント増加し、「②友人・知人が活動に参加していたから」が7.4ポイント減少しています。

親族の誰か一人が参加することで、他の親族の参加につながる可能性があるため、学校や地域の団体、企業など、多様な主体を巻き込みながら、参加を働きかけていく必要があります。



(2-2) 参加していない理由

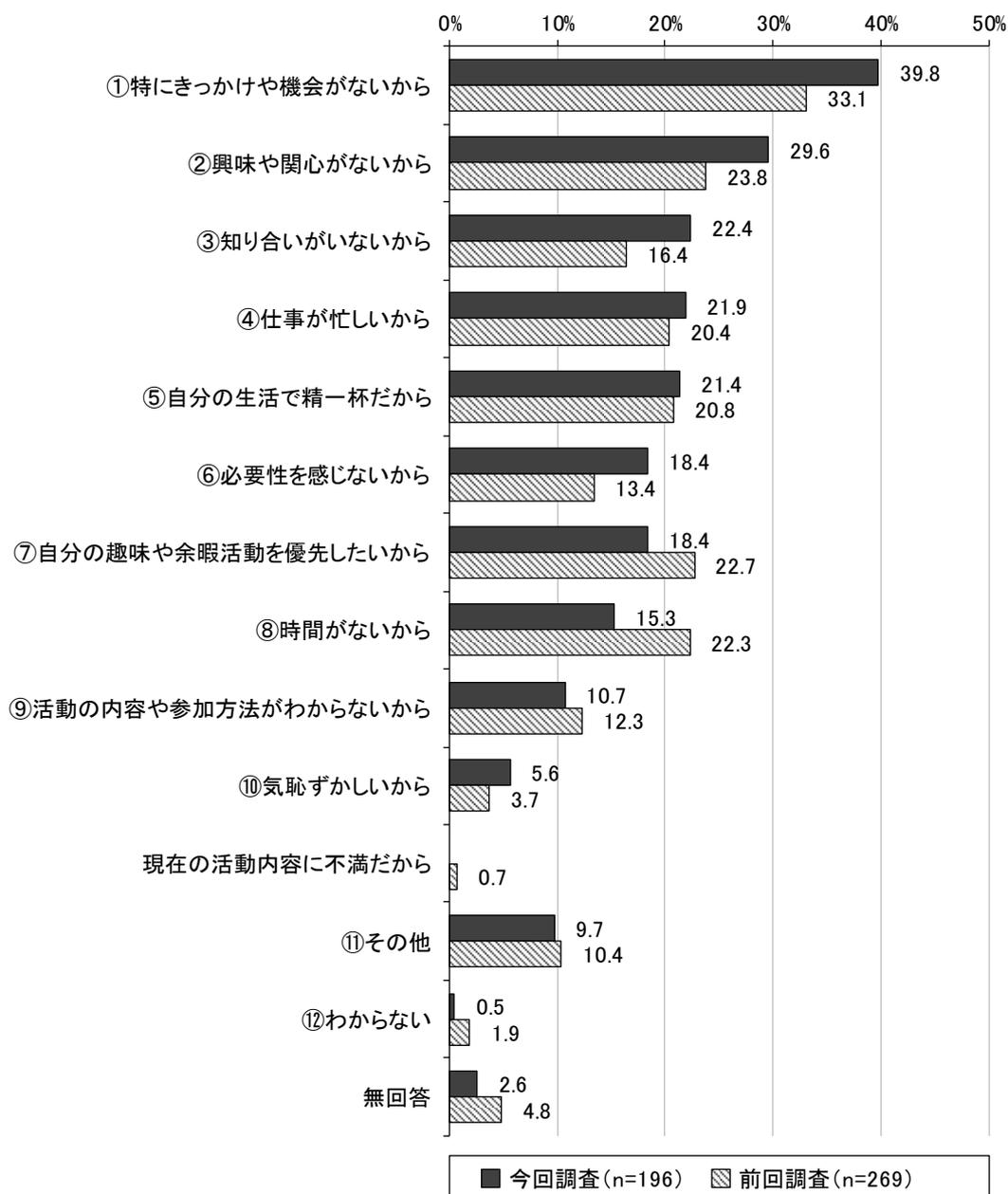
問14で「あまり参加していない」または「全く参加していない」とお答えの方

問14-5 参加されていない理由をお答えください。(〇は3つまで)

「①特にきっかけや機会がないから」が39.8%と最も高く、次いで「②興味や関心がないから」が29.6%、「③知り合いがいないから」が22.4%となっています。

前回調査との比較では、選択肢の数に違いがあるため単純に比較できませんが、同一項目で見ると、「①特にきっかけや機会がないから」が6.7ポイント、「③知り合いがいないから」が6.0ポイント、「②興味や関心がないから」が5.8ポイント、「⑥必要性を感じないから」が5.0ポイント増加し、「⑧時間がないから」が7.0ポイント減少しています。

地域行事等への参加のきっかけや機会につながるように、分かりやすいテーマを設定したり、参加してほしいターゲットへの参加メリットを端的に整理したり、デジタル技術を活用して各活動主体の情報を共有化したりするなど、環境整備についても検討していく必要があります。こうした取組を通じて地域のつながりを深めていくことも大切です。



(3) ボランティア活動に参加する上での必要な条件

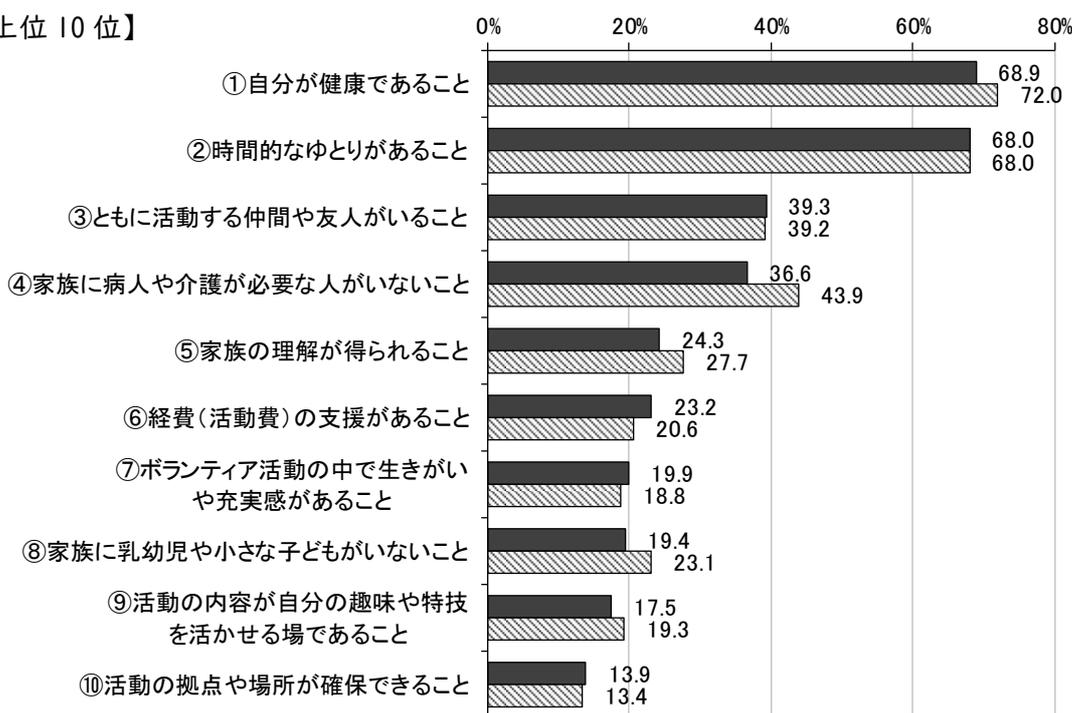
問 15 あなたが地域活動やボランティア活動に参加する上で必要な条件は、どのようなことだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

「①自分が健康であること」が68.9%と最も高く、次いで「②時間的なゆとりがあること」が68.0%、「③ともに活動する仲間や友人がいること」が39.3%となっています。

前回調査との比較では、「④家族に病人や介護が必要な人がいないこと」が7.3ポイント減少しています。

年齢別にみると、64歳以下は「②時間的なゆとりがあること」が高い傾向にあり、仕事や子育てなどの働き盛りの世代が参加しやすい機会の創出や活動メニューの充実を図る必要があります。

【上位10位】



| 単位: % | | ①自分が健康であること | ②時間的なゆとりがあること | ③ともに活動する仲間や友人がいること | ④家族に病人や介護が必要な人がいないこと | ⑤家族の理解が得られること | ⑥経費(活動費)の支援があること | ⑦ボランティア活動の中で生きがいや充実感があること |
|------------|---------------|-------------|---------------|--------------------|----------------------|---------------|------------------|---------------------------|
| 全体 (n=366) | | 68.9 | 68.0 | 39.3 | 36.6 | 24.3 | 23.2 | 19.9 |
| 年齢別 | 18~29歳 (n=25) | 36.0 | 88.0 | 64.0 | 16.0 | 12.0 | 28.0 | 36.0 |
| | 30~39歳 (n=37) | 43.2 | 86.5 | 32.4 | 40.5 | 29.7 | 29.7 | 18.9 |
| | 40~49歳 (n=52) | 57.7 | 80.8 | 36.5 | 40.4 | 28.8 | 32.7 | 17.3 |
| | 50~59歳 (n=55) | 67.3 | 76.4 | 45.5 | 38.2 | 23.6 | 21.8 | 27.3 |
| | 60~64歳 (n=25) | 100.0 | 88.0 | 44.0 | 48.0 | 28.0 | 48.0 | 28.0 |
| | 65~69歳 (n=31) | 77.4 | 64.5 | 41.9 | 35.5 | 29.0 | 19.4 | 32.3 |
| | 70~74歳 (n=43) | 86.0 | 62.8 | 39.5 | 41.9 | 27.9 | 16.3 | 18.6 |
| | 75~79歳 (n=41) | 85.4 | 41.5 | 36.6 | 26.8 | 24.4 | 12.2 | 7.3 |
| | 80歳以上 (n=46) | 69.6 | 39.1 | 30.4 | 39.1 | 17.4 | 10.9 | 10.9 |

(4) 地域活動やボランティア活動の参加状況・今後の参加意向

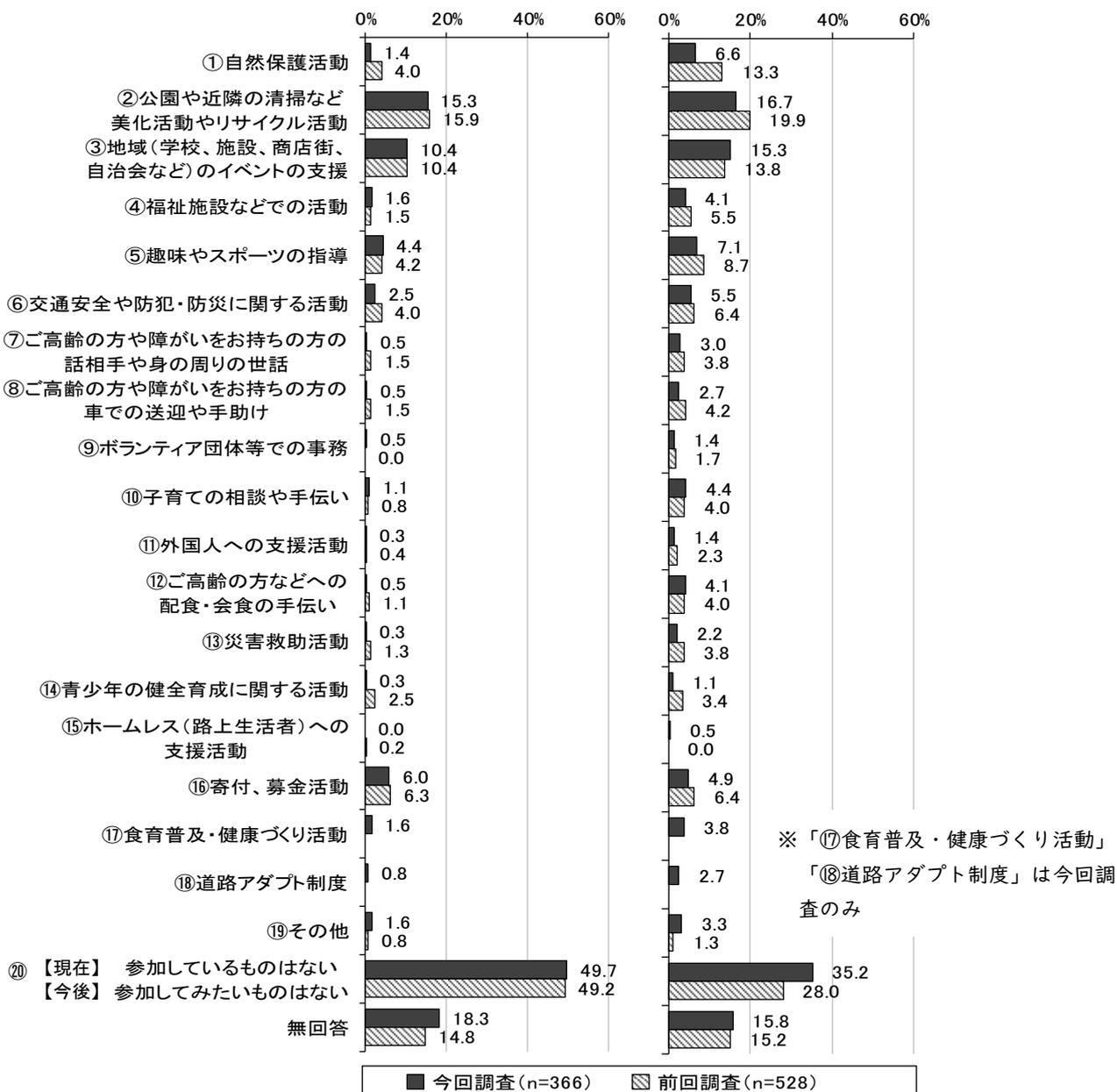
問17 地域活動やボランティア活動の中で、現在参加しているものはありますか。

また、今後参加してみたいものはありますか。(あてはまるものすべてに○)

【現在】では「⑳参加しているものはない」が49.7%と最も高く、次いで「②公園や近隣の清掃など美化活動やリサイクル活動」が15.3%、「③地域(学校、施設、商店街、自治会など)のイベントの支援」が10.4%となっています。

【今後】では「㉑参加してみたいものはない」が35.2%と最も高く、次いで「②公園や近隣の清掃など美化活動やリサイクル活動」が16.7%、「③地域(学校、施設、商店街、自治会など)のイベントの支援」が15.3%となっています。多くの活動は【現在】の参加割合に対して、【今後】の参加意向割合が高くなっているため、市民の参加意向を実践に結びつけていくことが大切です。

より暮らしやすい生活環境を築いていくためには、地域の課題に早期に気づき、対応していくことが重要であることを市民に啓発し、市民のそれぞれのライフスタイルを尊重しながら、無理のない形で各種活動に参加できるように、ワークライフバランスの取組などと連動した参加しやすい環境づくりに取り組んでいく必要があります。



4 情報入手手段や相談について

(1) 保健福祉サービスなどの情報入手手段

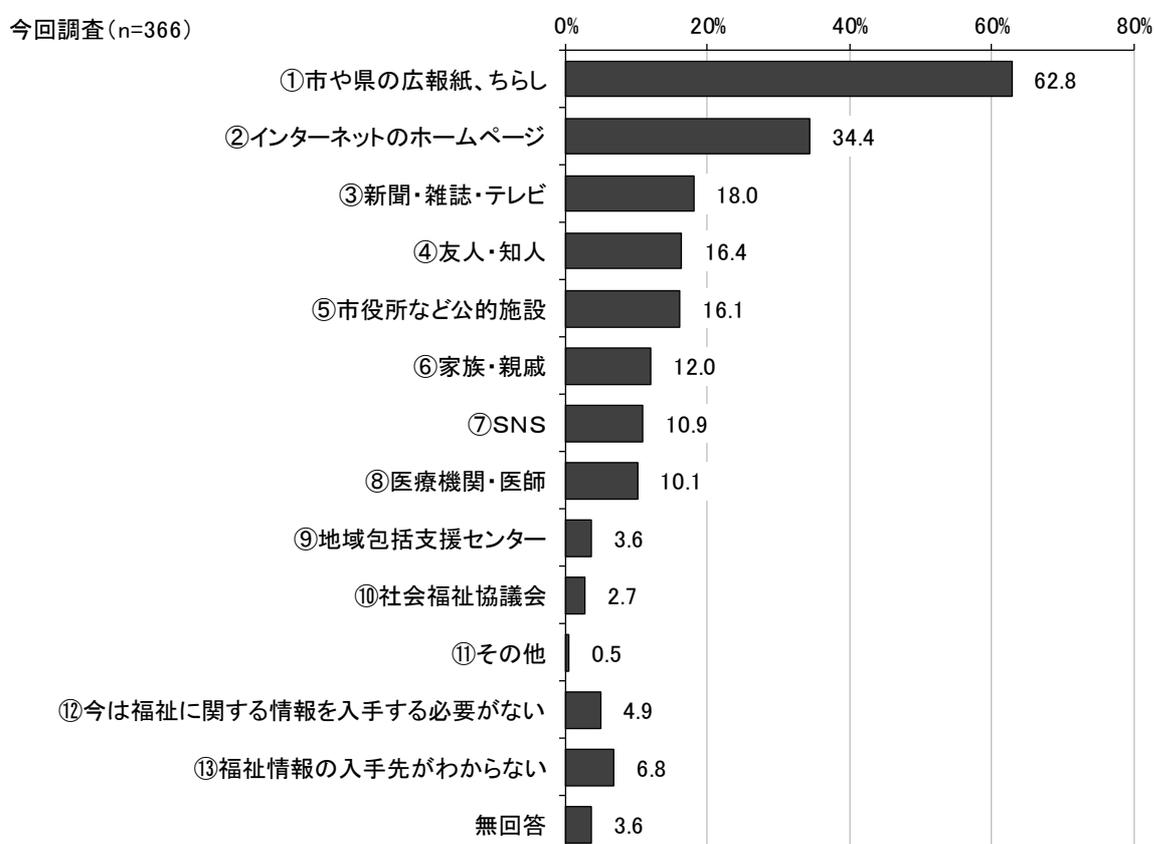
問 19 あなたは、保健福祉サービスなどの情報をどのように入手しますか。

(あてはまるものすべてに○)

「①市や県の広報紙、ちらし」が62.8%と最も高く、次いで「②インターネットのホームページ」が34.4%、「③新聞・雑誌・テレビ」が18.0%となっています。

年齢別にみると、「30～39歳」では「②インターネットのホームページ」、「40～49歳」では「①市や県の広報紙、ちらし」「②インターネットのホームページ」、その他の区分では「①市や県の広報紙、ちらし」が最も高くなっています。

年齢層によって入手手段が異なるため、ICT等のデジタル技術の活用も含めて多様な手段により、必要としている市民に適切に情報が届くように情報提供体制の充実を図る必要があります。



| 単位: % | | ①市や県の広報紙、ちらし | ②インターネットのホームページ | ③新聞・雑誌・テレビ | ④友人・知人 | ⑤市役所など公的施設 | ⑥家族・親戚 | ⑦SNS |
|--------------|---------------|--------------|-----------------|------------|--------|------------|--------|------|
| 全体 (n=366) | | 62.8 | 34.4 | 18.0 | 16.4 | 16.1 | 12.0 | 10.9 |
| 年齢別 | 18～29歳 (n=25) | 36.0 | 32.0 | 4.0 | 8.0 | 8.0 | 24.0 | 32.0 |
| | 30～39歳 (n=37) | 51.4 | 56.8 | 16.2 | 24.3 | 10.8 | 16.2 | 27.0 |
| | 40～49歳 (n=52) | 48.1 | 48.1 | 11.5 | 19.2 | 11.5 | 9.6 | 19.2 |
| | 50～59歳 (n=55) | 60.0 | 43.6 | 7.3 | 9.1 | 7.3 | 9.1 | 7.3 |
| | 60～64歳 (n=25) | 72.0 | 60.0 | 20.0 | 24.0 | 28.0 | 16.0 | 4.0 |
| | 65～69歳 (n=31) | 74.2 | 35.5 | 19.4 | 6.5 | 25.8 | 6.5 | 12.9 |
| | 70～74歳 (n=43) | 81.4 | 34.9 | 23.3 | 11.6 | 20.9 | 7.0 | 2.3 |
| | 75～79歳 (n=41) | 80.5 | 9.8 | 31.7 | 22.0 | 19.5 | 7.3 | 2.4 |
| 80歳以上 (n=46) | | 63.0 | 2.2 | 26.1 | 13.0 | 21.7 | 19.6 | 0.0 |

(2) 保健福祉に関する情報発信や相談を行っている機関の認知

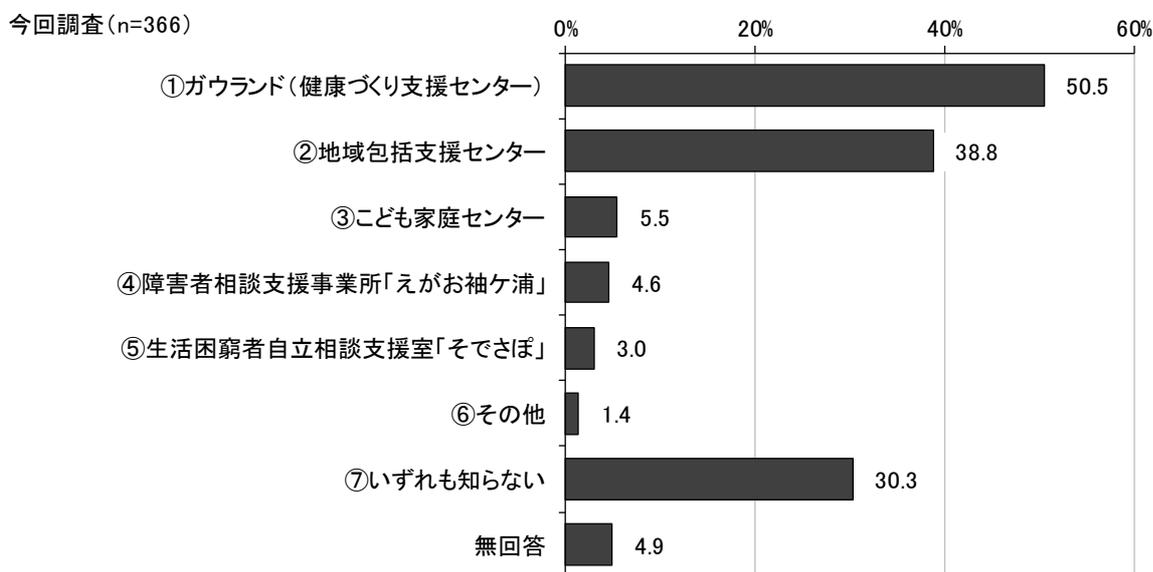
問 21 あなたは、保健福祉に関する情報発信や相談を行っている、下記の機関をご存知ですか。

(あてはまるものすべてに○)

「①ガウランド（健康づくり支援センター）」が 50.5%と最も高く、次いで「②地域包括支援センター」が 38.8%、「⑦いずれも知らない」が 30.3%となっています。

年齢別にみると、《65～69 歳》では「①ガウランド（健康づくり支援センター）」「②地域包括支援センター」、《70～79 歳》では「②地域包括支援センター」、その他の区分では「①ガウランド（健康づくり支援センター）」が最も高くなっています。また、《18～29 歳》《30～39 歳》は「⑦いずれも知らない」が他の年齢階層よりも高くなっています。

近年は相談内容も複雑化した困難事例等も増えており、早期の支援につなぐことができるように、様々な相談窓口があることを周知するとともに、市民が安心して自立した日常生活を送れるように、各支援の関係者が連携しながら包括的に課題を解決するための分野横断的な体制を整えていくことも大切です。



| 単位: % | | ①ガウランド(健康づくり支援センター) | ②地域包括支援センター | ③こども家庭センター | ④障害者相談支援事業所「えがお袖ヶ浦」 | ⑤生活困窮者自立相談支援室「そでさぼ」 | ⑦いずれも知らない |
|------------|---------------|---------------------|-------------|------------|---------------------|---------------------|-----------|
| 全体 (n=366) | | 50.5 | 38.8 | 5.5 | 4.6 | 3.0 | 30.3 |
| 年齢別 | 18～29歳 (n=25) | 52.0 | 28.0 | 12.0 | 0.0 | 0.0 | 44.0 |
| | 30～39歳 (n=37) | 51.4 | 13.5 | 13.5 | 0.0 | 0.0 | 37.8 |
| | 40～49歳 (n=52) | 55.8 | 32.7 | 11.5 | 7.7 | 3.8 | 30.8 |
| | 50～59歳 (n=55) | 50.9 | 30.9 | 5.5 | 7.3 | 5.5 | 30.9 |
| | 60～64歳 (n=25) | 72.0 | 48.0 | 0.0 | 8.0 | 4.0 | 24.0 |
| | 65～69歳 (n=31) | 48.4 | 48.4 | 0.0 | 9.7 | 0.0 | 22.6 |
| | 70～74歳 (n=43) | 55.8 | 60.5 | 4.7 | 4.7 | 7.0 | 25.6 |
| | 75～79歳 (n=41) | 43.9 | 58.5 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 22.0 |
| | 80歳以上 (n=46) | 43.5 | 39.1 | 2.2 | 4.3 | 4.3 | 30.4 |

5 権利擁護について

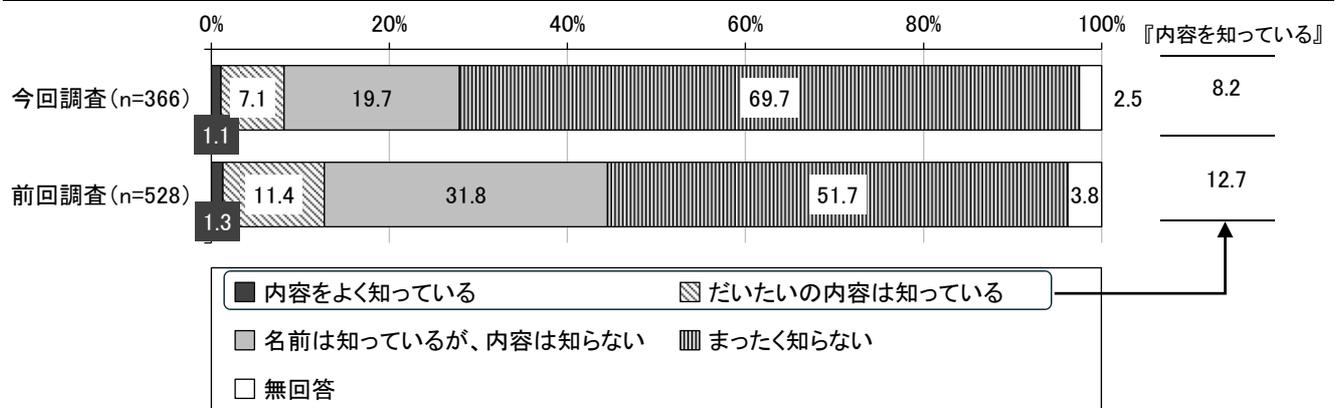
(1) 福祉サービス利用援助事業の認知度

問 22 あなたは、福祉サービス利用援助事業（日常生活自立支援事業・愛称「すまいる」）があることを知っていますか。（○は1つだけ）

「まったく知らない」が 69.7%と最も高く、次いで「名前は知っているが、内容は知らない」が 19.7%、「だいたいの内容は知っている」が 7.1%となっています。『内容を知っている（「内容をよく知っている」と「だいたいの内容は知っている」の合計）』は 8.2%となっています。

前回調査との比較では、「まったく知らない」が 18.0ポイント増加し、「名前は知っているが、内容は知らない」が 12.1ポイント減少し、改善がみられない状況です。

年齢別にみると、すべての区分で「まったく知らない」が最も高く、特に 59歳以下は 8割台と高くなっています。



| 単位：% | | 内容をよく知っている | だいたいの内容は知っている | 名前は知っているが、内容は知らない | まったく知らない | 無回答 |
|------------|---------------|------------|---------------|-------------------|----------|-----|
| 全体 (n=366) | | 1.1 | 7.1 | 19.7 | 69.7 | 2.5 |
| 年齢別 | 18～29歳 (n=25) | 4.0 | 4.0 | 12.0 | 80.0 | 0.0 |
| | 30～39歳 (n=37) | 0.0 | 2.7 | 8.1 | 83.8 | 5.4 |
| | 40～49歳 (n=52) | 0.0 | 9.6 | 7.7 | 80.8 | 1.9 |
| | 50～59歳 (n=55) | 1.8 | 7.3 | 9.1 | 81.8 | 0.0 |
| | 60～64歳 (n=25) | 0.0 | 8.0 | 20.0 | 72.0 | 0.0 |
| | 65～69歳 (n=31) | 0.0 | 6.5 | 38.7 | 54.8 | 0.0 |
| | 70～74歳 (n=43) | 2.3 | 7.0 | 27.9 | 60.5 | 2.3 |
| | 75～79歳 (n=41) | 0.0 | 2.4 | 36.6 | 58.5 | 2.4 |
| | 80歳以上 (n=46) | 2.2 | 15.2 | 21.7 | 56.5 | 4.3 |

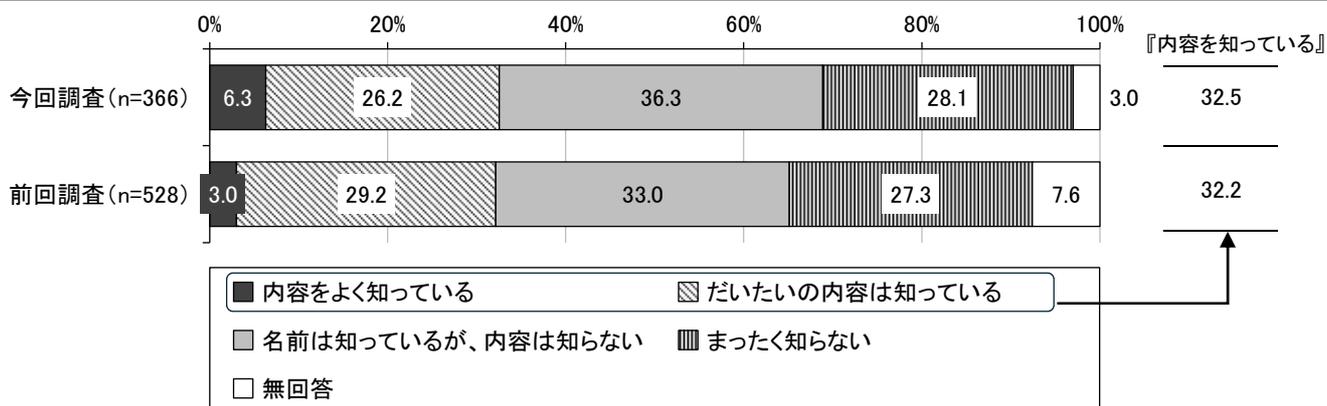
(2) 成年後見制度の認知度

問 23 あなたは、成年後見制度があることを知っていますか。(○は1つだけ)

「名前は知っているが、内容は知らない」が 36.3%と最も高く、次いで「まったく知らない」が 28.1%、
「だいたいの内容は知っている」が 26.2%となっています。『内容を知っている(「内容をよく知っている」と「だいたいの内容は知っている」の合計)』は 32.5%となっています。

前回調査との比較では、特に大きな違いはみられず、改善がみられない状況です。

年齢別にみると、《18～29歳》では「まったく知らない」、《40～49歳》では「名前は知っているが、内容は知らない」「まったく知らない」、《70～79歳》では「だいたいの内容は知っている」、その他の区分では「名前は知っているが、内容は知らない」が最も高くなっています。



| 単位: % | | 内容をよく知っている | だいたいの内容は知っている | 名前は知っているが、内容は知らない | まったく知らない | 無回答 |
|-----------|--------------|------------|---------------|-------------------|----------|-----|
| 全体(n=366) | | 6.3 | 26.2 | 36.3 | 28.1 | 3.0 |
| 年齢別 | 18～29歳(n=25) | 12.0 | 20.0 | 28.0 | 40.0 | 0.0 |
| | 30～39歳(n=37) | 5.4 | 8.1 | 43.2 | 37.8 | 5.4 |
| | 40～49歳(n=52) | 5.8 | 23.1 | 34.6 | 34.6 | 1.9 |
| | 50～59歳(n=55) | 10.9 | 20.0 | 38.2 | 30.9 | 0.0 |
| | 60～64歳(n=25) | 0.0 | 24.0 | 60.0 | 16.0 | 0.0 |
| | 65～69歳(n=31) | 6.5 | 32.3 | 35.5 | 25.8 | 0.0 |
| | 70～74歳(n=43) | 11.6 | 37.2 | 32.6 | 16.3 | 2.3 |
| | 75～79歳(n=41) | 0.0 | 43.9 | 31.7 | 19.5 | 4.9 |
| | 80歳以上(n=46) | 4.3 | 26.1 | 37.0 | 26.1 | 6.5 |

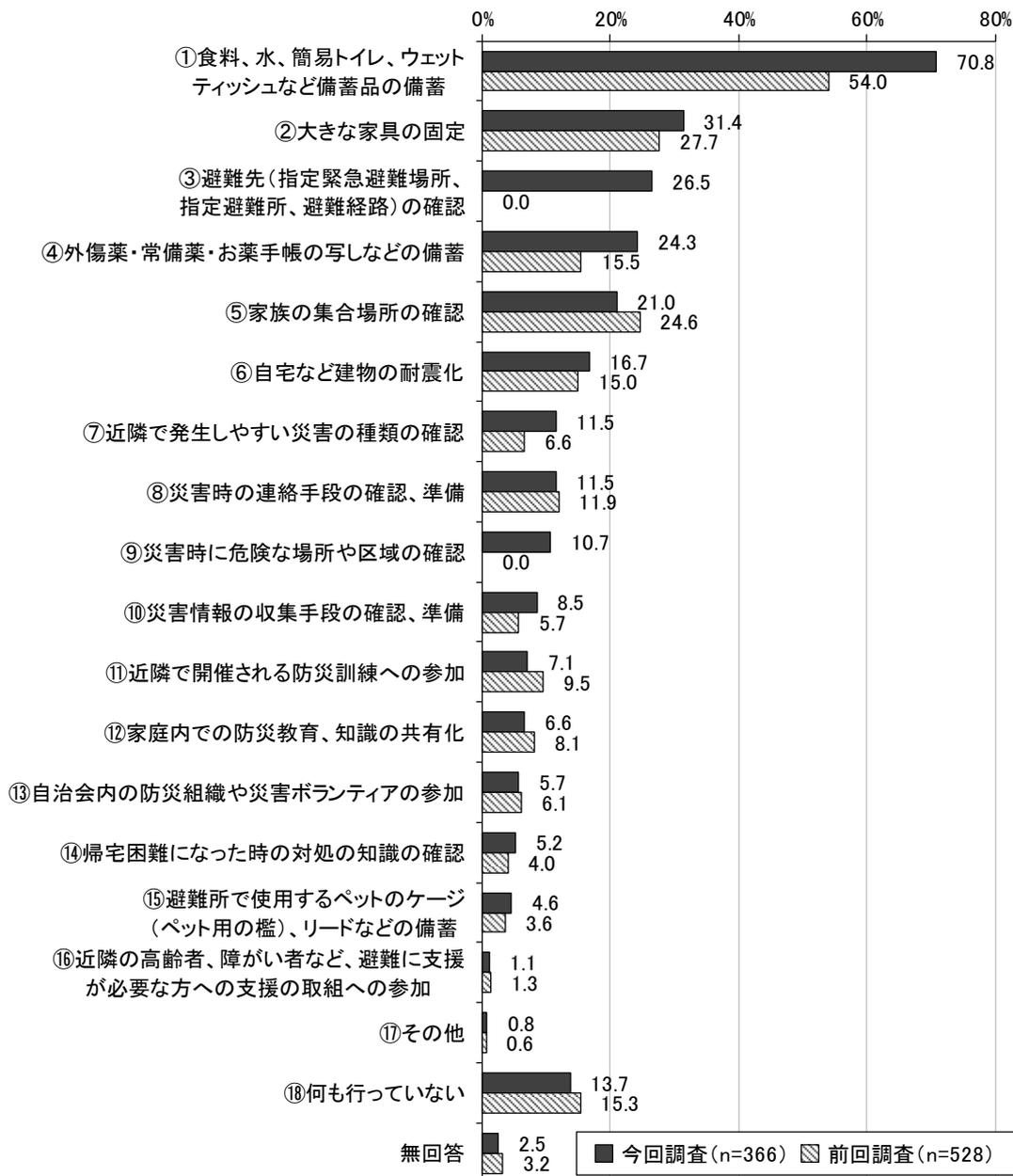
6 防災対策について

(1) 普段から行っている防災対策

問25 あなたは、どのような防災対策を普段から行っていますか。(あてはまるものすべてに○)

「①食料、水、簡易トイレ、ウェットティッシュなど備蓄品の備蓄」が70.8%と最も高く、次いで「②大きな家具の固定」が31.4%、「③避難先（指定緊急避難場所、指定避難所、避難経路）の確認」が26.5%となっています。

前回調査との比較では、選択肢の数に違いがあるため単純に比較できませんが、同一項目でみると、「①食料、水、簡易トイレ、ウェットティッシュなど備蓄品の備蓄」が16.8ポイント、「④外傷薬・常備薬・お薬手帳の写しなどの備蓄」が8.8ポイント増加し、相次ぐ大規模災害の発生に伴い、防災意識が高まっている様子がうかがえます。



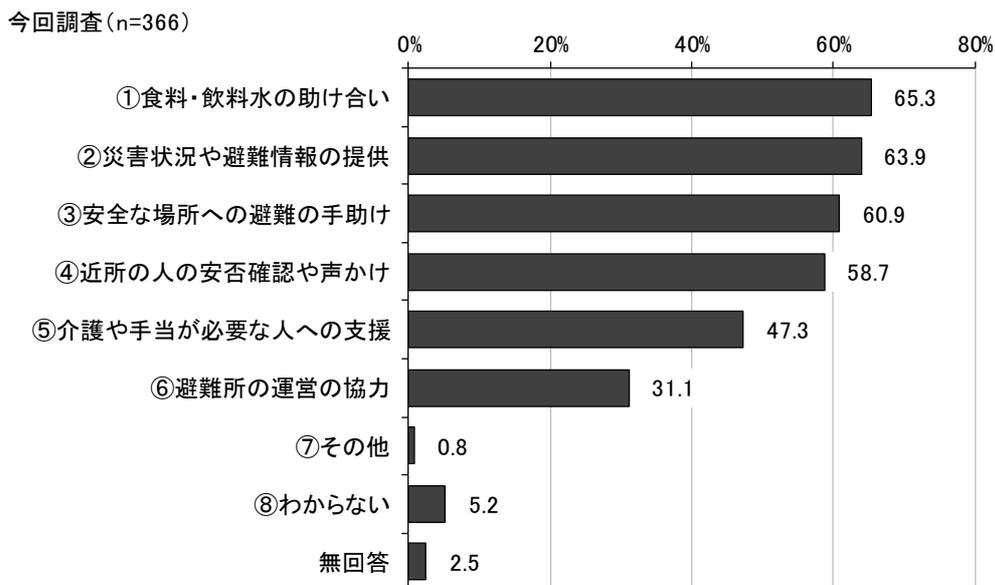
※今回調査のみ：「③避難先（指定緊急避難場所、指定避難所、避難経路）の確認」「⑨災害時に危険な場所や区域の確認」

(2) 災害時に必要な住民同士の支援

問 26 あなたは災害が起こった場合に、住民がお互いにどのような支援をすることが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

「①食料・飲料水の助け合い」が 65.3%と最も高く、次いで「②災害状況や避難情報の提供」が 63.9%、「③安全な場所への避難の手助け」が 60.9%となっています。

支え合いの必要性を認識している方は多くいるため、実際に災害時の支え合い活動につながるように、防災訓練等への参加促進や、「自分達の地域は自分達で守る」という意識の醸成、防災に関する情報提供など、災害時に自助・共助につながるような仕組みづくりが必要です。

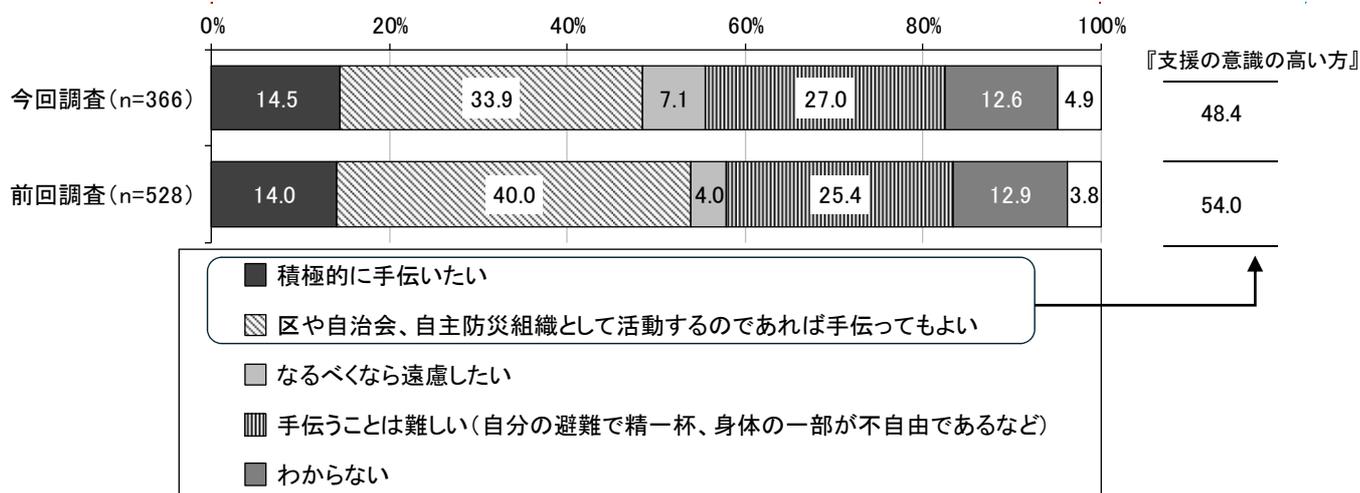


(3) 地域における避難支援の考え方

問 27 現在、災害のときに一人では避難できない方の避難を支援する人が不足しています。地域における避難支援について、どのように思いますか。(○は1つだけ)

「区や自治会、自主防災組織として活動するのであれば手伝ってもよい」が 33.9%と最も高く、次いで「手伝うことは難しい(自分の避難で精一杯、身体の一部が不自由であるなど)」が 27.0%、「積極的に手伝いたい」が 14.5%となっています。

前回調査との比較では、『支援の意識の高い方』が 5.6 ポイント低下しており、いざという時のための支え合いの仕組みづくりについては課題があると考えられます。



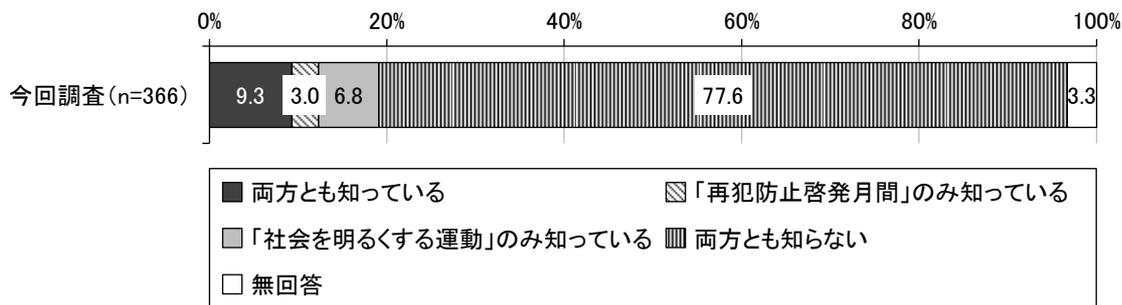
7 再犯防止対策

(1) 「社会を明るくする運動」や「再犯防止啓発月間」の認知度

問 28 犯罪や非行のない安全で安心な明るい地域社会を築くための全国的な運動である「社会を明るくする運動」や「再犯防止啓発月間」を知っていますか。(○は1つだけ)

「両方とも知らない」が77.6%と最も高く、次いで「両方とも知っている」が9.3%、「『社会を明るくする運動』のみ知っている」が6.8%となっています。

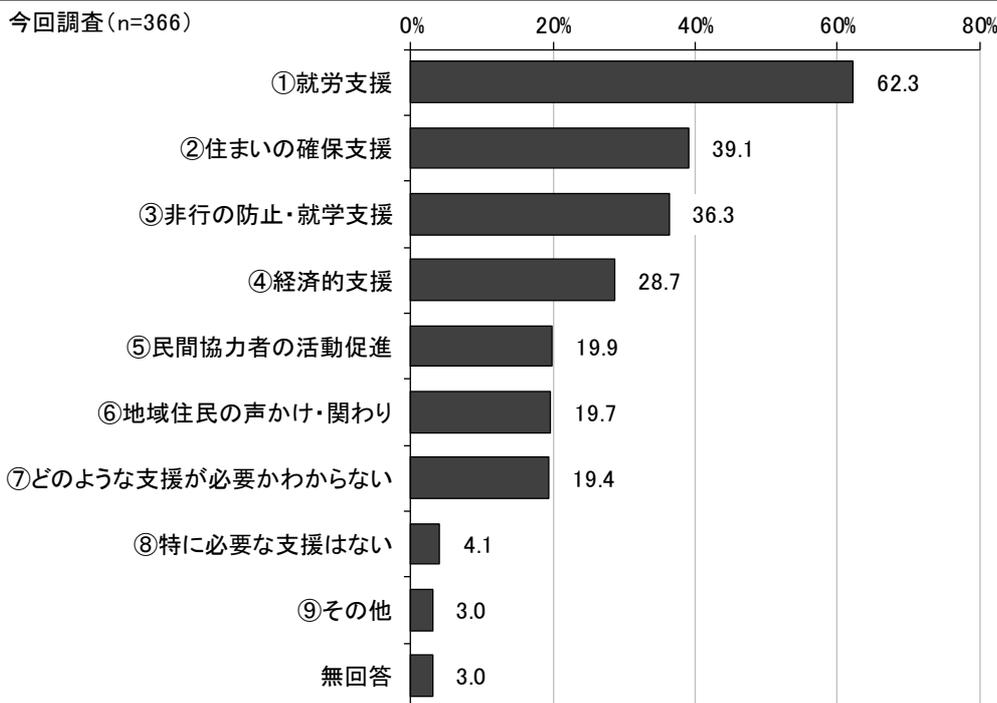
仕事や住まいを確保できないなど、様々な困難に直面することが再犯にもつながるため、再犯防止についての関心と理解を深め、立ち直りを社会全体で応援していけるように、「社会を明るくする運動」や「再犯防止啓発月間」の普及啓発を図る必要があります。



(2) 社会復帰を果たすために重要だと考える市の支援

問 29 犯罪や非行の防止、犯罪や非行をした人たちの立ち直りを応援し、社会復帰を果たすために、市が行う支援として何が重要だと考えますか。(あてはまるものすべてに○)

「①就労支援」が62.3%と最も高く、次いで「②住まいの確保支援」が39.1%、「③非行の防止・就学支援」が36.3%となっています。



8 地域共生社会について

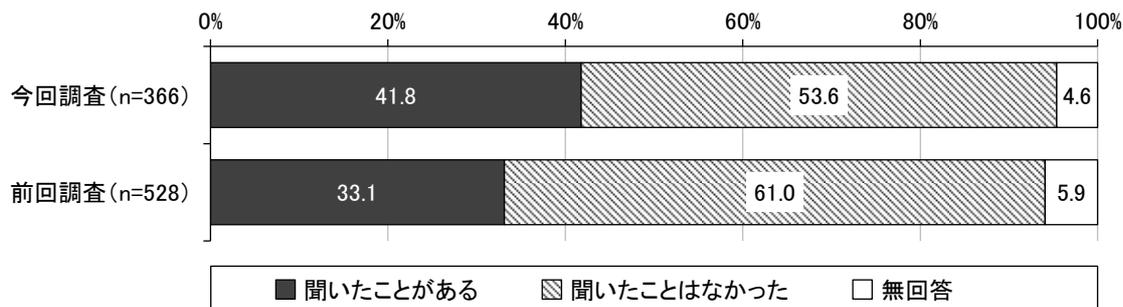
(1) 地域共生社会という言葉や意味を聞いた経験の有無

問 30 あなたは、これまでに、地域共生社会という言葉や意味を聞いたことがありますか。

(○は1つだけ)

「聞いたことがある」が41.8%、「聞いたことはなかった」が53.6%となっています。

前回調査との比較では、「聞いたことがある」が8.7ポイント増加し、「聞いたことはなかった」が7.4ポイント減少しています。

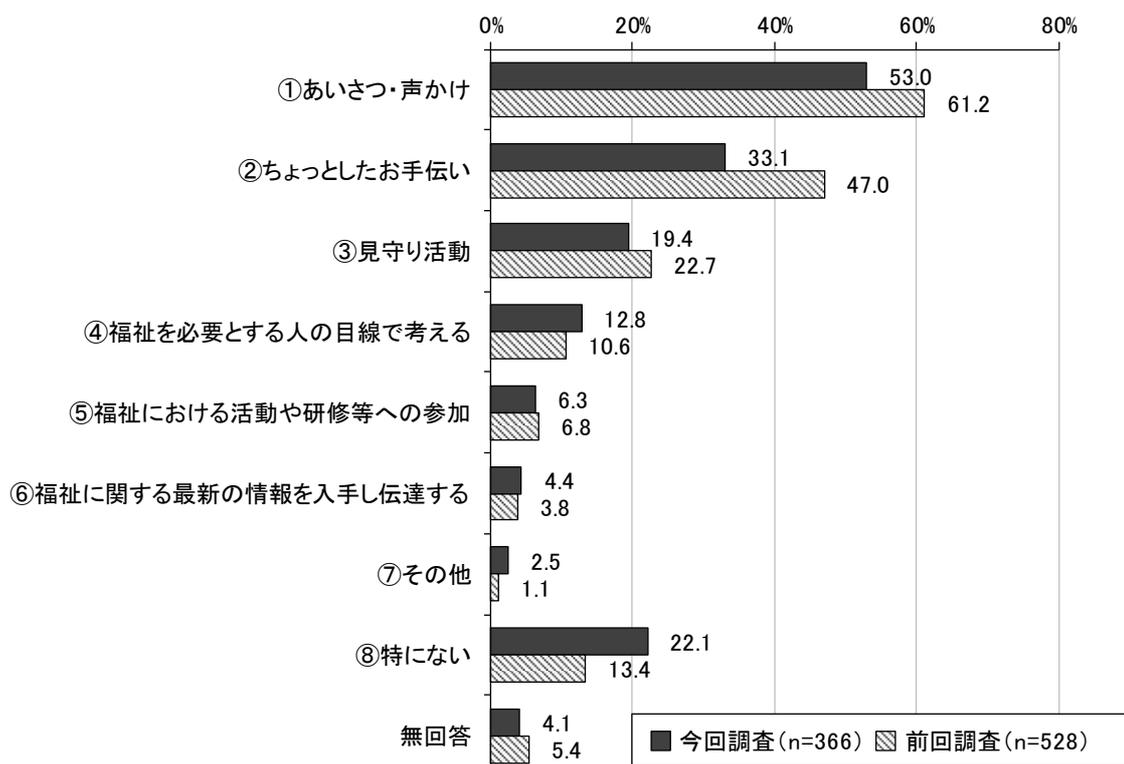


(2) 取り組みそうな活動

問 32 あなた自身が取り組みそうな活動はありますか。(あてはまるものすべてに○)

「①あいさつ・声かけ」が53.0%と最も高く、次いで「②ちょっとしたお手伝い」が33.1%、「⑨特にない」が22.1%となっています。

前回調査との比較では、「⑨特にない」が8.7ポイント増加し、「②ちょっとしたお手伝い」が13.9ポイント、「①あいさつ・声かけ」が8.2ポイント減少しており、主体的な取組への展開が進んでいない状況がうかがえます。



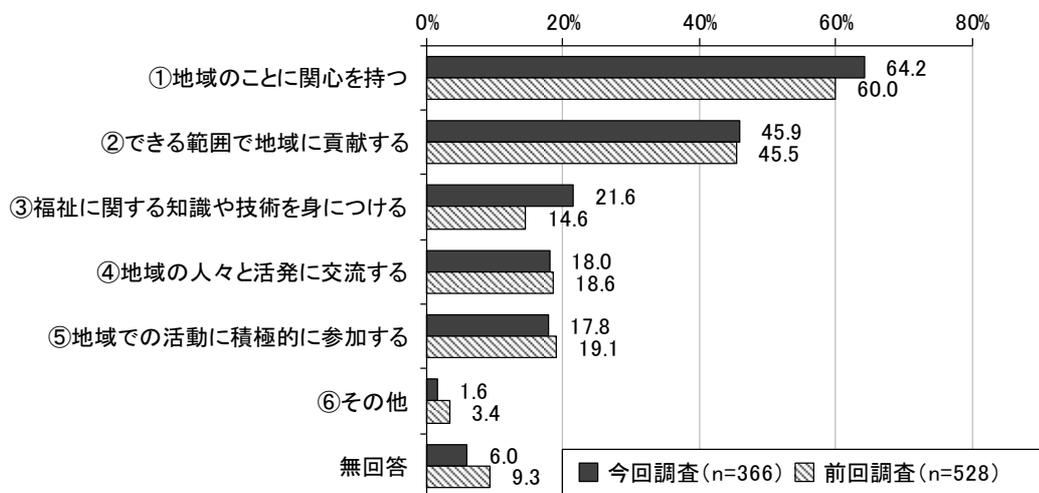
(3) 地域福祉の推進に向けて重要だと思うこと

問 33 地域福祉の推進のためには、自助（一人ひとりの取組）、共助（周囲や地域のサポート）、公助（国や自治体などによる公的な支援）の連携が重要だと考えられます。あなたは地域福祉の推進のため、（1）自助、（2）共助、（3）公助において、どのようなことが重要だと考えますか。

【自助】（あてはまるものすべてに○）

「①地域のことに興味を持つ」が64.2%と最も高く、次いで「②できる範囲で地域に貢献する」が45.9%、「③福祉に関する知識や技術を身につける」が21.6%となっています。

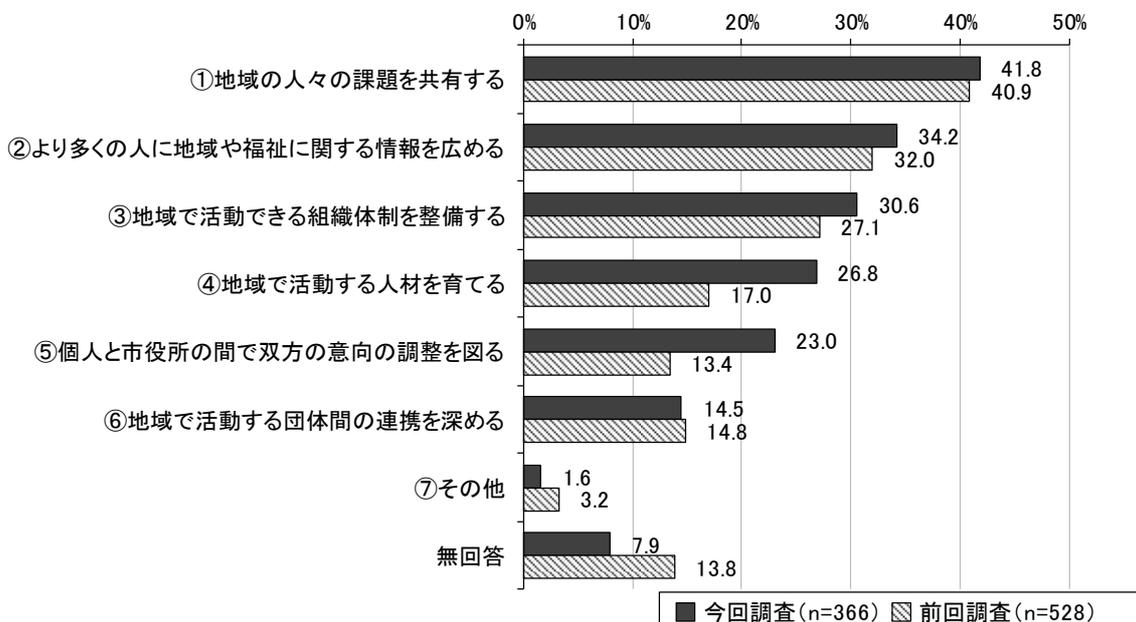
前回調査との比較では、「③福祉に関する知識や技術を身につける」が7.0ポイント増加しています。地域福祉の大切さを認識しつつも、「④地域の人々と活発に交流する（18.0%）」及び「⑤地域での活動に積極的に参加する（17.8%）」は1割台にとどまり、その基盤となる身近な人間関係を築こうとする自発性が弱い傾向もみられます。



【共助】（あてはまるものすべてに○）

「①地域の人々の課題を共有する」が41.8%と最も高く、次いで「②より多くの人に地域や福祉に関する情報を広める」が34.2%、「③地域で活動できる組織体制を整備する」が30.6%となっています。

前回調査との比較では、「④地域で活動する人材を育てる」が9.8ポイント、「⑤個人と市役所の間で双方の意向の調整を図る」が9.6ポイント増加しています。

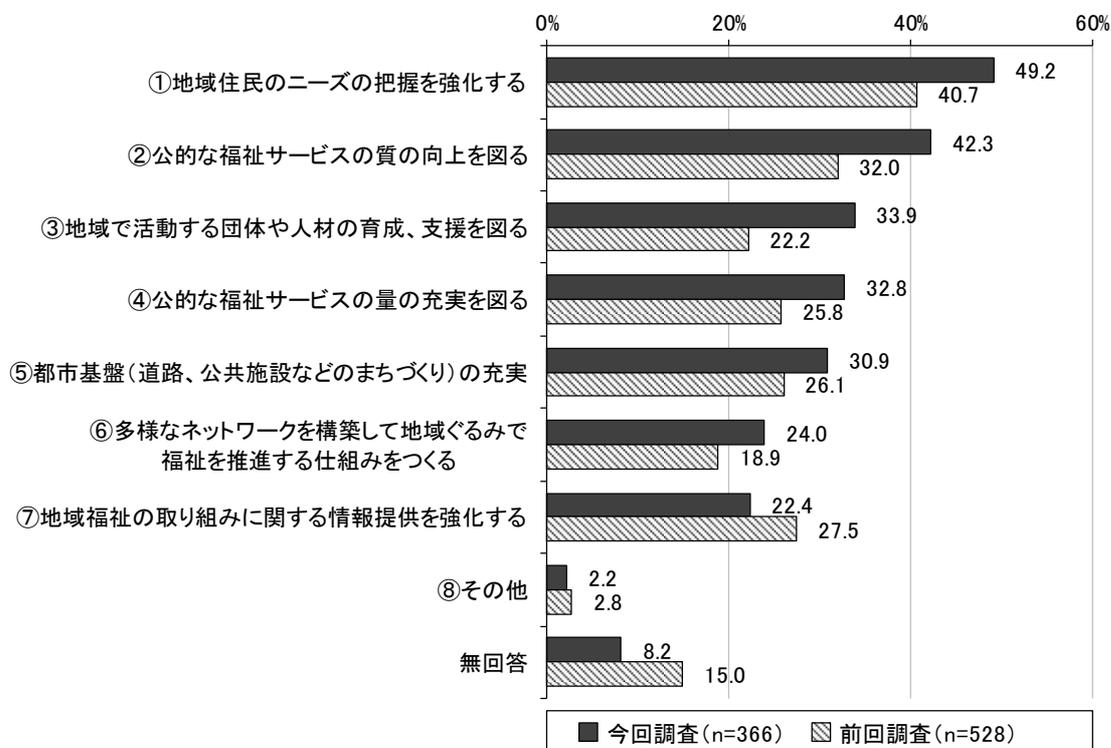


【公助】（あてはまるものすべてに○）

「①地域住民のニーズの把握を強化する」が49.2%と最も高く、次いで「②公的な福祉サービスの質の向上を図る」が42.3%、「③地域で活動する団体や人材の育成、支援を図る」が33.9%となっています。

前回調査との比較では、「⑦地域福祉の取り組みに関する情報提供を強化する」「⑧その他」を除く項目で増加しており、特に「②公的な福祉サービスの質の向上を図る」「③地域で活動する団体や人材の育成、支援を図る」で10.0ポイント以上となっています。

また、【共助】とあわせてみると、人材に関する項目が増加しており、民間企業など多様な主体を巻き込んだ人材育成の取組を進めていく必要があります。また、行政と住民は、それぞれの立場や役割があるため、生活支援コーディネーターのような人材の確保・育成はもとより、ICTなどのデジタル技術も活用し、意見の調整を図りやすい環境を整えていくことも必要です。



9 袖ヶ浦市の地域福祉の取組について

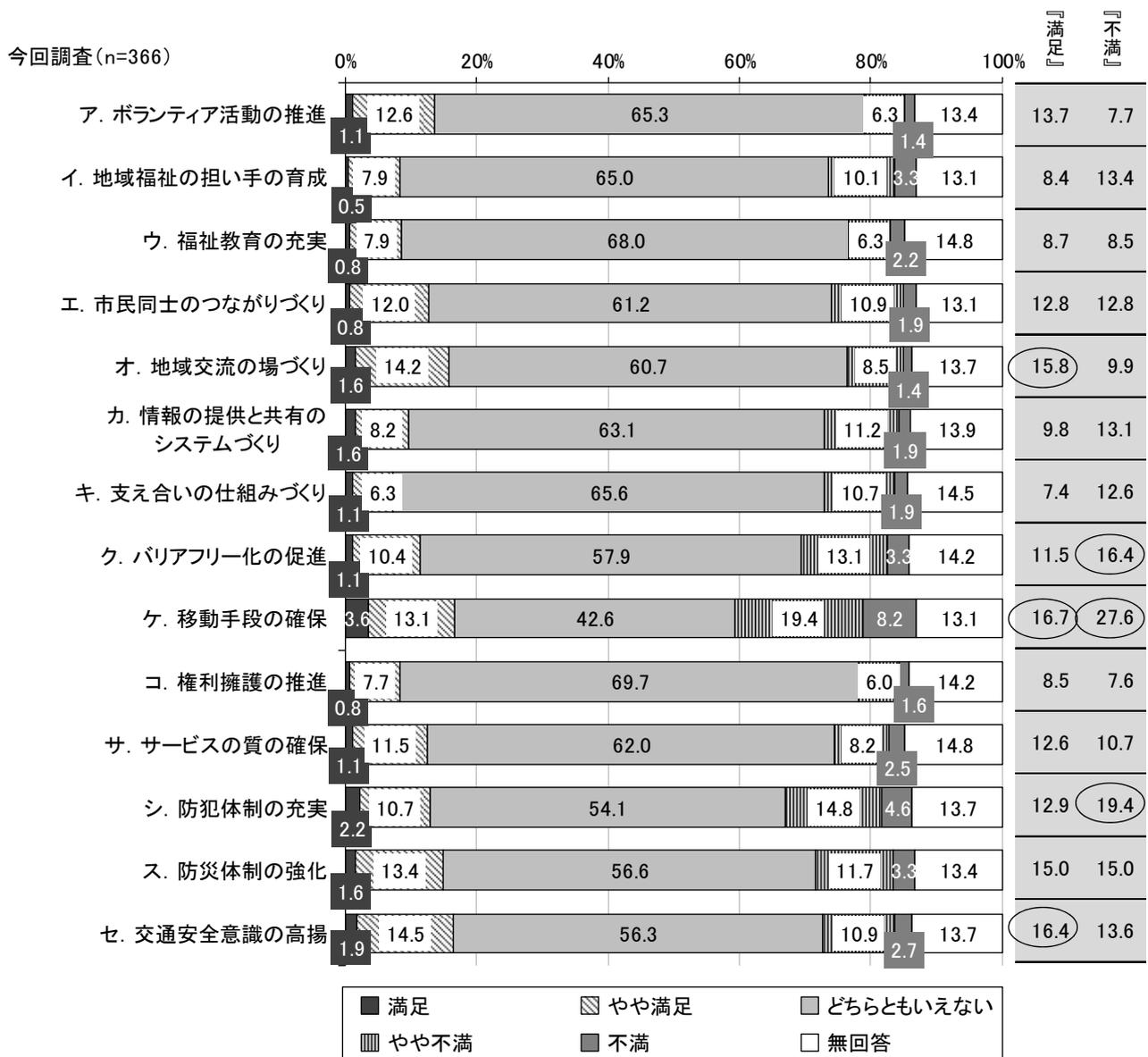
(1) 「袖ヶ浦市地域福祉計画」における主要施策の満足度・重要度

問 35 現行の「袖ヶ浦市地域福祉計画」における主要施策（以下のア～セ）に対する、①現状の満足度と②今後の地域福祉推進における重要度について、5段階の評価をおうかがいします。

【満足度】（○は1つだけ）

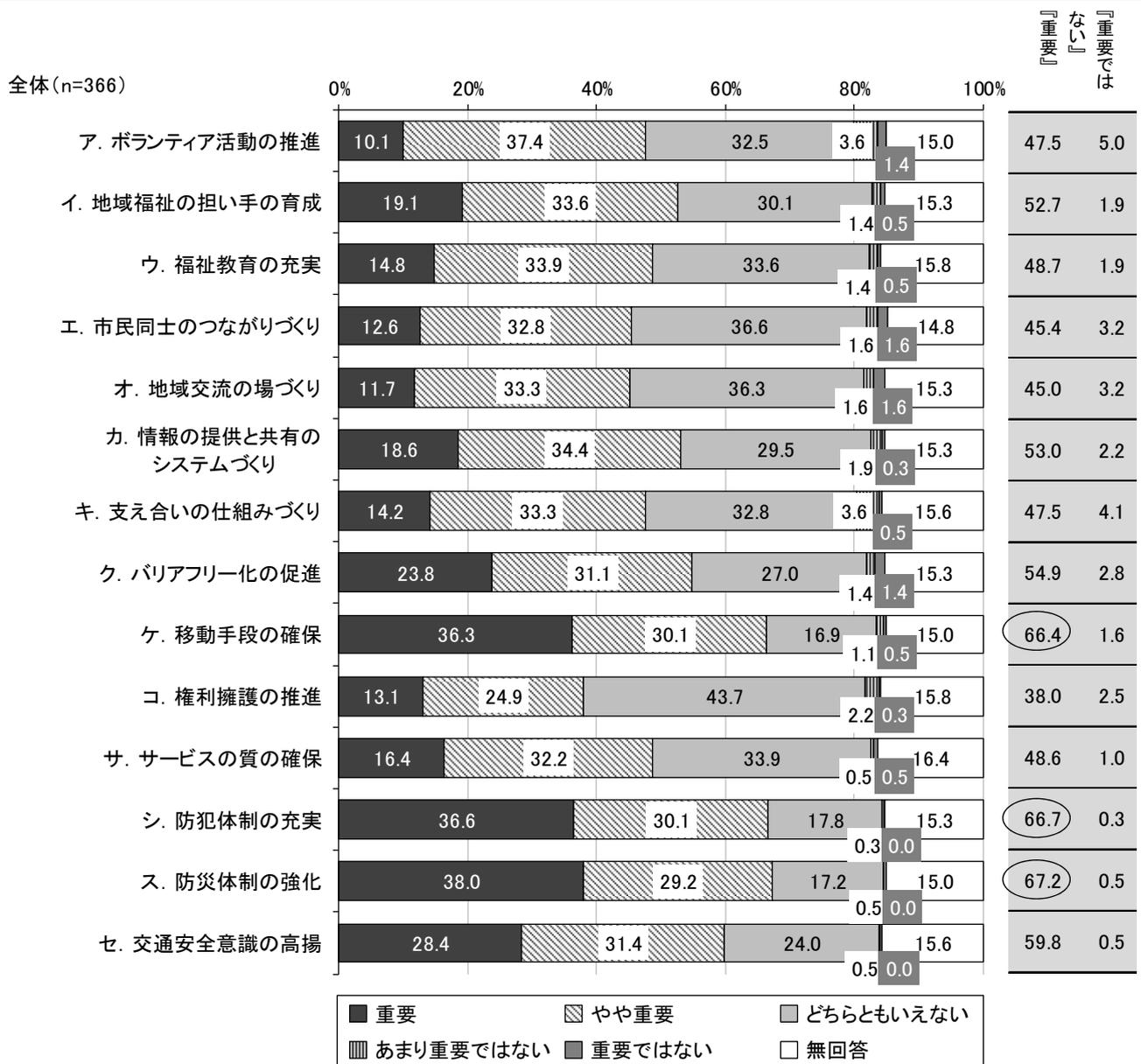
すべての項目で「どちらともいえない」が最も高く、〔ケ. 移動手段の確保〕を除いた項目で5割以上となっています。また、『満足』（『満足』と『やや満足』の合計）、『不満』（『やや不満』と『不満』の合計）では〔ケ. 移動手段の確保〕がそれぞれ16.7%、27.6%と最も高くなっています。次いで、『満足』では〔セ. 交通安全意識の高揚〕が16.4%、〔オ. 地域交流の場づくり〕が15.8%、『不満』では〔シ. 防犯体制の充実〕が19.4%、〔ク. バリアフリー化の促進〕が16.4%となっています。

前回調査との比較では、『満足』において〔ケ. 移動手段の確保〕が5.9ポイント増加しており、改善されていると感じている市民が増加している様子がうかがえます。



【重要度】(〇は1つだけ)

概ねすべての項目で、『重要』(「重要」と「やや重要」の合計)が高く、〔コ. 権利擁護の推進〕を除いた項目で4割以上となっています。また、『重要』では〔ス. 防災体制の強化〕が67.2%と最も高く、次いで〔シ. 防犯体制の充実〕が66.7%、〔ケ. 移動手段の確保〕が66.4%となっています。一方、『重要ではない』(「あまり重要ではない」と「重要ではない」の合計)ではすべての項目で1割未満となっています。



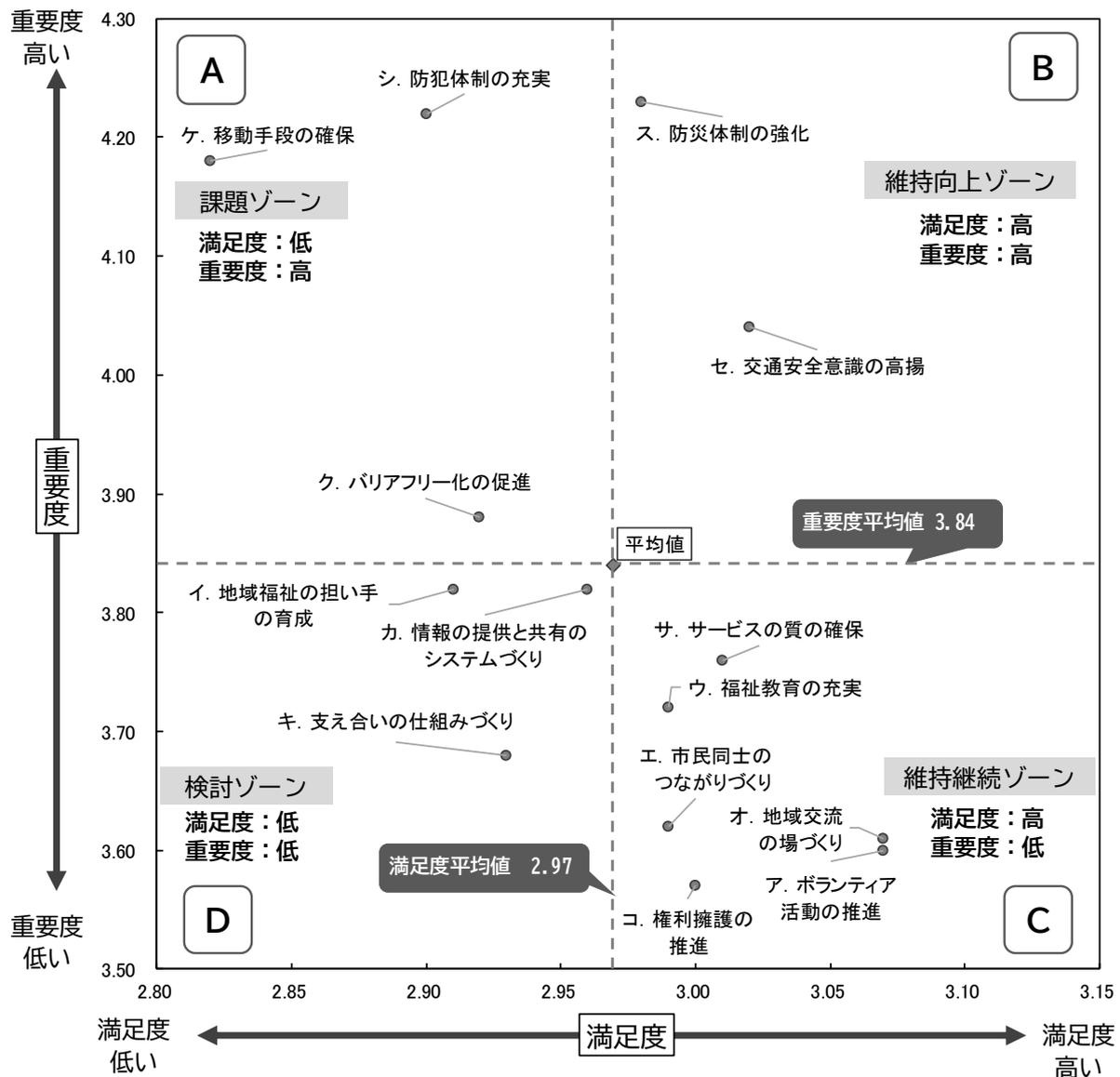
【主要施策のプロット図】

※地域福祉計画の主要施策の満足度と重要度について、前述の割合でみるのとは別に、主要施策の位置関係を明確にするために評価点の算出を行った結果、以下のとおりとなっています。

(A)課題ゾーンに該当する3つの施策については、重要度が高い一方で、満足度が低いことから、今後はより力を入れていくべき施策となります。特に〔ケ. 移動手段の確保〕は、満足度は前回より増加したものの依然として他の項目よりも低く、満足度の向上に向けた取組が必要と考えられます。

(B)維持向上ゾーン及び(C)維持検討ゾーンに該当する8つの施策については、今後も引き続き満足度の向上を目指していくべき施策となります。特に、(B)維持向上ゾーンに該当する〔ス. 防災体制の強化〕と〔セ. 交通安全意識の高揚〕は、市民が重要だと思う施策に対して、一定の評価が得られていると考えられます。ただし、満足度の評価点としては5段階評価の中間である3.00点付近であることから、満足度がより向上するよう市民のニーズに応じていく必要があります。

(D)検討ゾーンの3施策のうち〔カ. 情報の提供と共有のシステムづくり〕については、満足度がわずかに平均値を下回っていることから、(C)維持継続ゾーンに近いとも考えられますが、〔イ. 地域福祉の担い手の育成〕〔キ. 支え合いの仕組みづくり〕の施策も含め、今後の地域福祉を推し進めていくにあたっては重要な取組となるため、満足度の向上のみならず、市民にとって重要であると感じてもらえるよう取り組む必要があると考えられます。



10 地域福祉の推進について

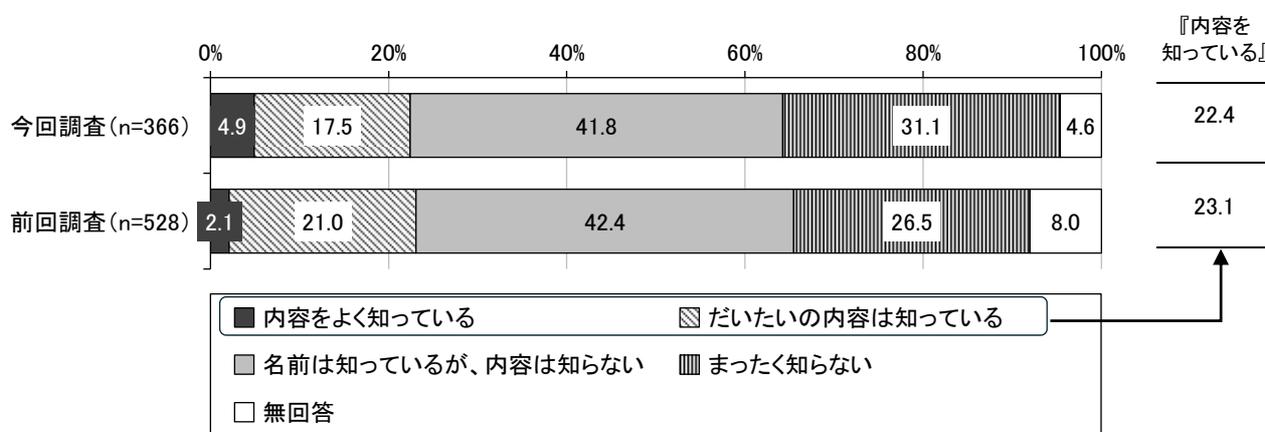
(1) 社会福祉協議会の認知度

問 36 地域福祉の推進において、中心的役割を担っている社会福祉協議会の活動を知っていますか。(〇は1つだけ)

「名前は知っているが、内容は知らない」が 41.8%と最も高く、次いで「まったく知らない」が 31.1%、「だいたいの内容は知っている」が 17.5%となっています。『内容を知っている(「内容をよく知っている」と「だいたいの内容は知っている」の合計)』は 22.4%となっています。

前回調査との比較では、特に大きな違いはみられません。

年齢別にみると、《18～49歳》では「まったく知らない」、《50歳以上》では「名前は知っているが、内容は知らない」が最も高くなっています。特に39歳以下の認知度が低くなっています。

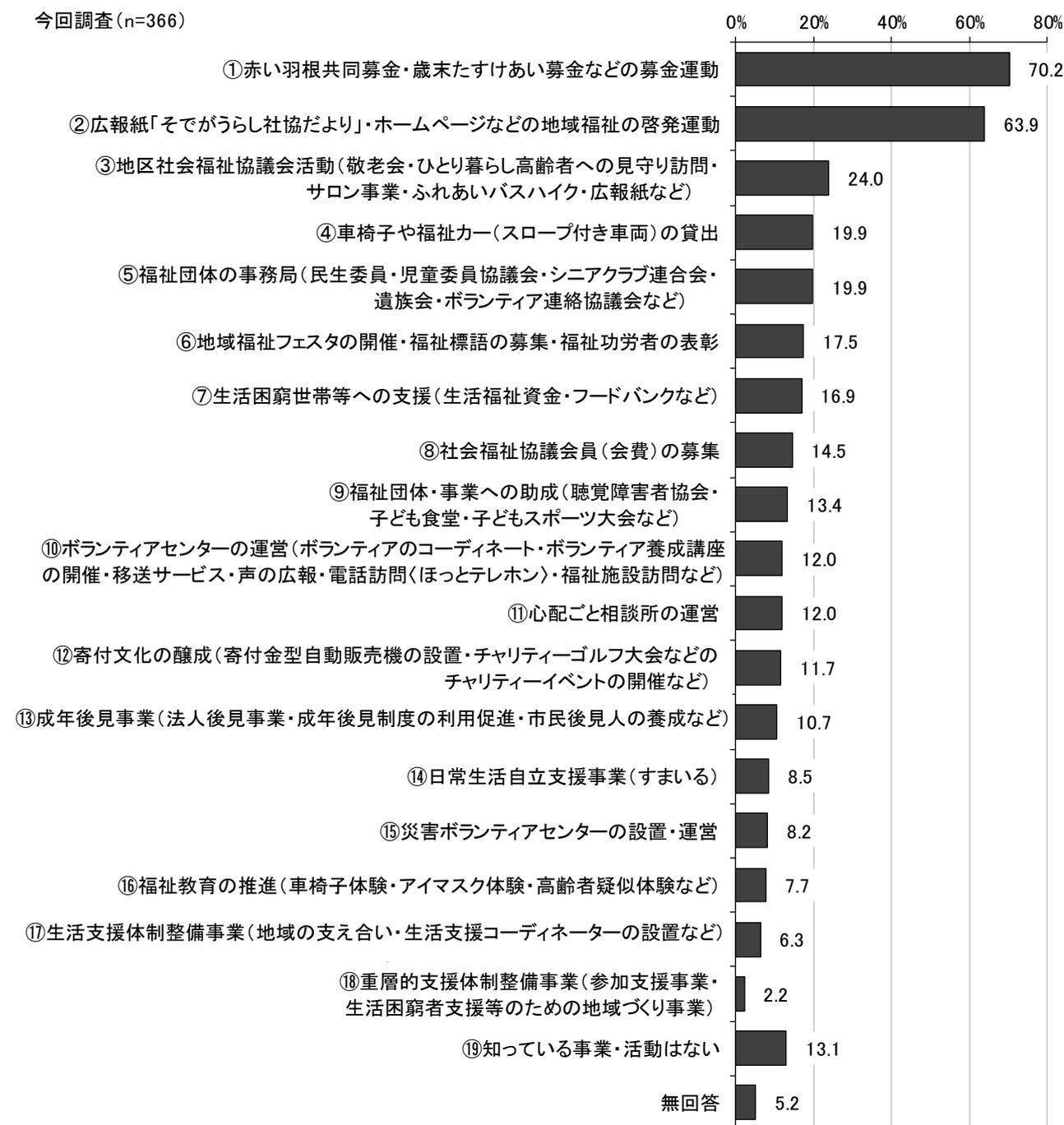


| 単位: % | | 内容をよく知っている | だいたいの内容は知っている | 名前は知っているが、内容は知らない | まったく知らない | 無回答 | 『内容を知っている』 |
|-----------|--------------|------------|---------------|-------------------|----------|------|------------|
| 全体(n=366) | | 4.9 | 17.5 | 41.8 | 31.1 | 4.6 | 22.4 |
| 年齢別 | 18～29歳(n=25) | 4.0 | 0.0 | 28.0 | 64.0 | 4.0 | 4.0 |
| | 30～39歳(n=37) | 0.0 | 8.1 | 37.8 | 54.1 | 0.0 | 8.1 |
| | 40～49歳(n=52) | 1.9 | 17.3 | 32.7 | 48.1 | 0.0 | 19.2 |
| | 50～59歳(n=55) | 7.3 | 12.7 | 45.5 | 30.9 | 3.6 | 20.0 |
| | 60～64歳(n=25) | 0.0 | 32.0 | 40.0 | 28.0 | 0.0 | 32.0 |
| | 65～69歳(n=31) | 3.2 | 22.6 | 54.8 | 16.1 | 3.2 | 25.8 |
| | 70～74歳(n=43) | 4.7 | 25.6 | 51.2 | 14.0 | 4.7 | 30.3 |
| | 75～79歳(n=41) | 7.3 | 24.4 | 51.2 | 12.2 | 4.9 | 31.7 |
| | 80歳以上(n=46) | 10.9 | 17.4 | 32.6 | 19.6 | 19.6 | 28.3 |

(2) 社会福祉協議会の主な事業・活動で知っているもの

問 37 社会福祉協議会の主な事業・活動には、以下のようなものがあります。これらのうち、あなたが知っているものはありますか。(あてはまるものすべてに○)

「①赤い羽根共同募金・歳末たすけあい募金などの募金運動」が70.2%と最も高く、次いで「②広報紙『そでがうらし社協だより』・ホームページなどの地域福祉の啓発運動」が63.9%、「③地区社会福祉協議会活動（敬老会・ひとり暮らし高齢者への見守り訪問・サロン事業・ふれあいバスハイク・広報紙など）」が24.0%となり、これらの項目以外は認知度が3割を下回っています。そのため、社会福祉協議会が取り組む各種地域福祉活動について周知し、理解と協力が得られるように取り組む必要があります。

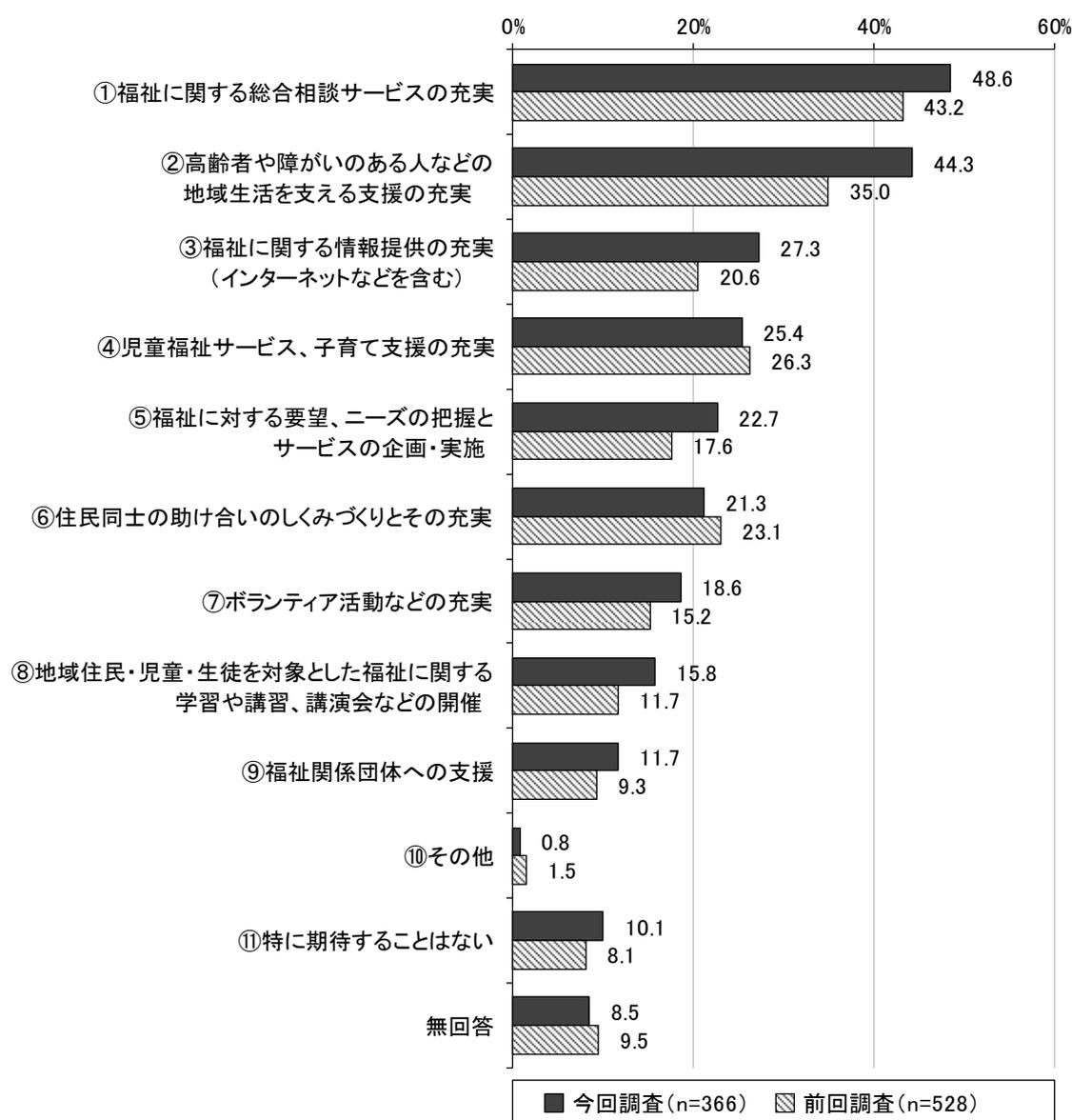


(3) 社会福祉協議会に期待すること

問 38 社会福祉協議会にどのようなことを期待しますか。(あてはまるものすべてに○)

「①福祉に関する総合相談サービスの充実」が48.6%と最も高く、次いで「②高齢者や障がいのある人などの地域生活を支える支援の充実」が44.3%、「③福祉に関する情報提供の充実（インターネットなどを含む）」が27.3%となっています。

前回調査との比較では、選択肢の数に違いがあるため単純に比較できませんが、同一項目でみると、「②高齢者や障がいのある人などの地域生活を支える支援の充実」が9.3ポイント、「③福祉に関する情報提供の充実（インターネットなどを含む）」が6.7ポイント、「①福祉に関する総合相談サービスの充実」が5.4ポイント、「⑤福祉に対する要望、ニーズの把握とサービスの企画・実施」が5.1ポイント増加しています。全般に前回は上回るものが多く、地域福祉の推進の中心的役割を担う社会福祉協議会の取組に対する期待が高まっている様子がうかがえます。



(4) 社会福祉協議会の活動の充実を図る上で重要と思われること

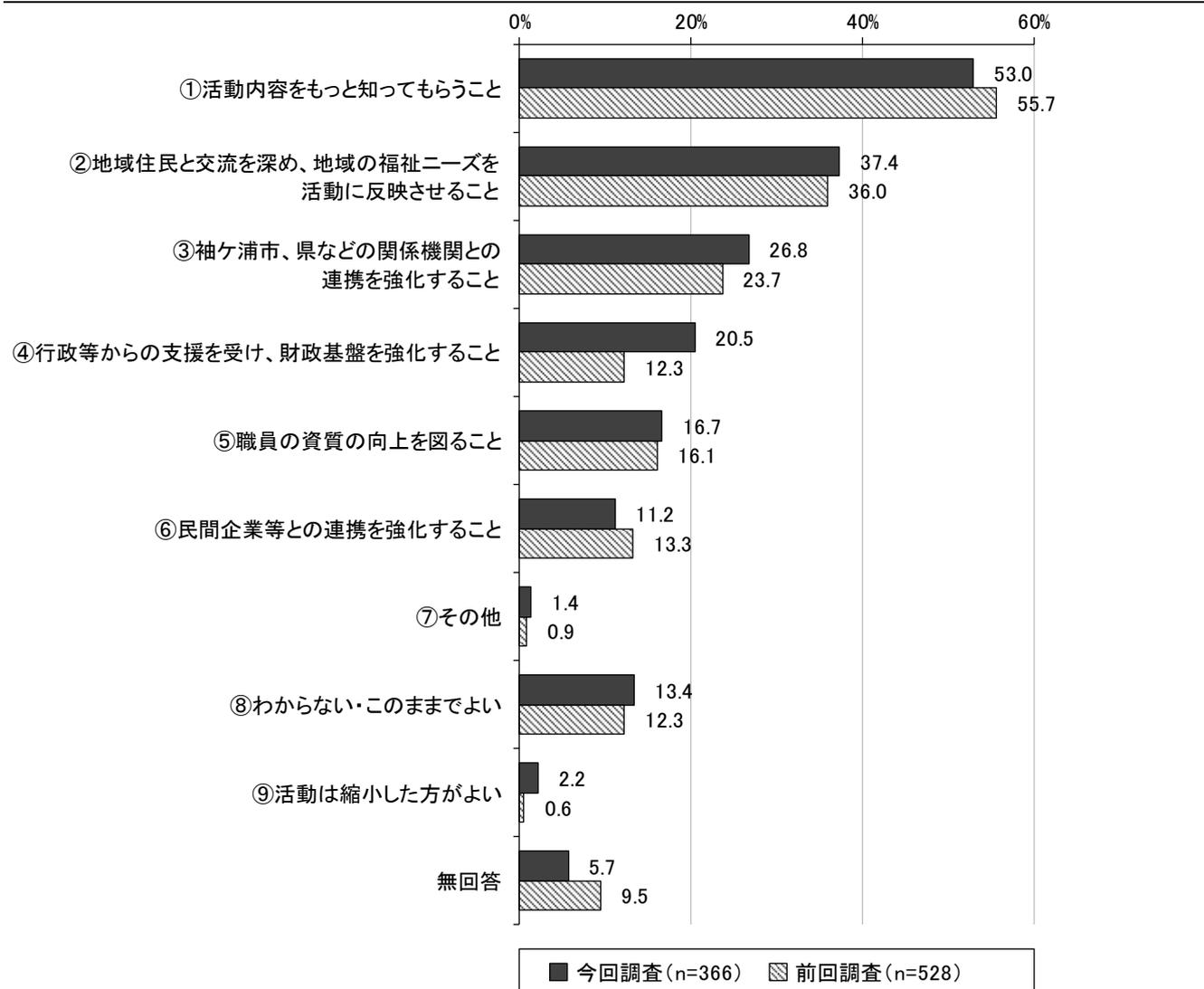
問 39 社会福祉協議会の活動の充実を図る上で、あなたが重要と思われることはどのようなことですか。

(〇は3つまで)

「①活動内容をもっと知ってもらうこと」が53.0%と最も高く、次いで「②地域住民と交流を深め、地域の福祉ニーズを活動に反映させること」が37.4%、「③袖ヶ浦市、県などの関係機関との連携を強化すること」が26.8%となっています。

前回調査との比較では、「④行政等からの支援を受け、財政基盤を強化すること」が8.2ポイント増加しています。

地域とのつながりを深め、社会福祉協議会への期待に添うことができるように、地域福祉活動の充実を図っていく必要があります。



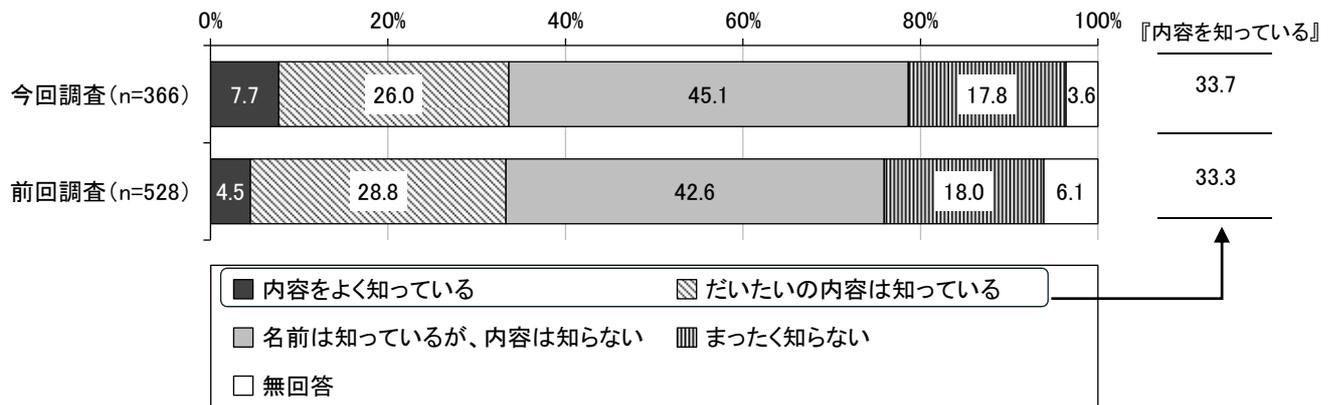
11 民生委員・児童委員について

(1) 民生委員・児童委員の活動の認知度

問40 あなたは民生委員・児童委員の活動を知っていますか。(○は1つだけ)

「名前は知っているが、内容は知らない」が45.1%と最も高く、次いで「だいたいの内容は知っている」が26.0%となり、合計した『内容を知っている』は33.7%となっています。

前回調査との比較では、特に大きな違いはみられません。



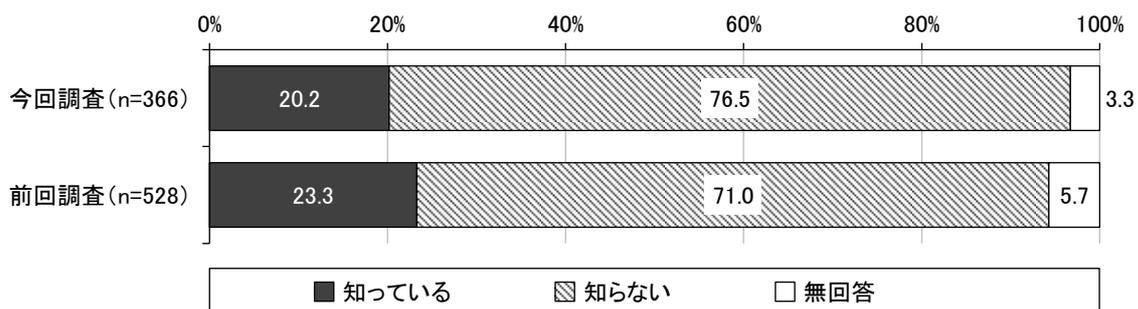
(2) 居住地区の民生委員・児童委員の認知度

問41 あなたの住んでいる地域の担当の民生委員・児童委員がだれか、知っていますか。(○は1つだけ)

「知っている」が20.2%、「知らない」が76.5%となっています。

前回調査との比較では、「知らない」が5.5ポイント増加しています。

居住地区別にみると、すべての区分で「知らない」が高くなっていますが、《平岡地区》は他の居住地区よりも認知度が高くなっています。身近な地域の相談員である民生委員・児童委員の活動について、様々な機会を通じて周知を進めていく必要があります。



| 単位: % | | 知っている | 知らない | 無回答 |
|------------|----------------|-------|------|-----|
| 全体 (n=366) | | 20.2 | 76.5 | 3.3 |
| 居住地区別 | 昭和地区 (n=108) | 17.6 | 77.8 | 4.6 |
| | 長浦地区 (n=156) | 20.5 | 76.3 | 3.2 |
| | 根形地区 (n=31) | 6.5 | 90.3 | 3.2 |
| | 平岡地区 (n=31) | 32.3 | 64.5 | 3.2 |
| | 中川・富岡地区 (n=29) | 24.1 | 75.9 | 0.0 |

12 市へのご要望・ご意見

(1) 市へのご要望・ご意見

問 42 地域の支え合い、助け合い、地域福祉について、袖ヶ浦市へのご要望・ご意見等がございましたら、自由にお書きください。

自由回答は、65名の方から、合わせて70件のご要望・ご意見をいただきました。

内容の内訳は以下のとおりとなっており、「情報提供に関すること」と「市政や職員の対応などに関すること」（ともに11件）が最も多くなっています。次いで「福祉全般に関すること」（9件）、「地域インフラに関すること」と「災害・防犯対策に関すること」（ともに7件）、「高齢者福祉に関すること」と「市の財政に関すること」（ともに4件）となっており、ご要望・ご意見は様々な分野にわたっています。

| 分類項目 | 件数 |
|-------------------|-----|
| 情報提供に関すること | 11件 |
| 市政や職員の対応などに関すること | 11件 |
| 福祉全般に関すること | 9件 |
| 地域インフラに関すること | 7件 |
| 災害・防犯対策に関すること | 7件 |
| 高齢者福祉に関すること | 4件 |
| 市の財政に関すること | 4件 |
| 児童福祉・子育てに関すること | 3件 |
| 地域活動やボランティアに関すること | 2件 |
| 交通に関すること | 2件 |
| 相談に関すること | 1件 |
| 福祉をよく知らない・わからない | 3件 |
| その他 | 6件 |

第2編 事業所・団体調査

I アンケート調査及びヒアリング調査の概要

1 調査の目的

本調査は、袖ヶ浦市の「地域福祉計画（第4期）」及び、袖ヶ浦市社会福祉協議会の「地域福祉活動計画（第5期）」の策定のための基礎資料とすることを目的として実施しました。

2 アンケート調査設計

| | |
|------|--|
| 調査対象 | 令和6年8月時点で袖ヶ浦市において福祉関連事業を展開している事業所及び福祉関連活動を実施している団体 |
| 標本数 | 事業所50件、福祉関係団体等50件 |
| 調査期間 | 令和6年10月1日（火）～10月22日（火） |
| 調査方法 | 郵送配布・郵送回収による本人記入方式 |
| 回収結果 | 事業所：有効回収数：28件 有効回収率：56.0% 福祉関係団体等：有効回収数：38件 有効回収率：76.0% |

3 アンケート報告書の見方

- ◇回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- ◇複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- ◇図表中の「n（number of case）」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。

4 ヒアリング調査の実施状況

| | |
|---------------|--|
| 調査対象 | 市内で活動する事業所及び団体を対象に、ヒアリング調査の希望をうかがい、希望のあった事業所及び団体に対してグループ形式で調査を実施 |
| 標本数 | 事業所50件、福祉関係団体等50件 |
| 調査実施日 | 令和6年11月25日（月） |
| 参加事業所 ・団体数 | 事業所：午前6事業所、午後5事業所 団体：午前5団体、午後4団体 |

Ⅱ 事業所アンケート調査の結果

1 事業者の概要

【事業所】

| 区分 | 割合 (%) |
|--------------|--------|
| ■法人組織 | |
| 株式会社 | 17.9 |
| 有限会社 | 7.1 |
| 社会福祉法人 | 46.4 |
| 特定非営利活動法人 | 14.3 |
| その他 | 14.3 |

| 区分 | 割合 (%) |
|--------------|--------|
| ■活動年数 | |
| 1年未満 | 0.0 |
| 1～3年未満 | 7.1 |
| 3～5年未満 | 10.7 |
| 5～10年未満 | 14.3 |
| 10～20年未満 | 28.6 |
| 20年以上 | 39.3 |

| 区分 | 割合 (%) |
|------------------------|--------|
| ■主な活動範囲又は利用者の範囲 | |
| 1. 昭和地区 | 57.1 |
| 2. 長浦地区 | 57.1 |
| 3. 根形地区 | 50.0 |
| 4. 平岡地区 | 60.7 |
| 5. 中川・富岡地区 | 57.1 |
| 6. 近隣市 | 42.9 |
| 7. 千葉県内 | 14.3 |
| 8. その他の地域 | 10.7 |

| 区分 | 割合 (%) |
|--------------|--------|
| ■活動分野 | |
| 高齢者福祉 | 75.0 |
| 障がい者福祉 | 32.1 |
| 児童福祉 | 14.3 |
| その他 | 14.3 |

| 区分 | 割合 (%) |
|--------------|--------|
| ■従業員数 | |
| 5人未満 | 3.6 |
| 5～10人未満 | 21.4 |
| 10～20人未満 | 7.1 |
| 20～30人未満 | 21.4 |
| 30～40人未満 | 7.1 |
| 40～50人未満 | 7.1 |
| 50～100人未満 | 28.6 |
| 100人以上 | 3.6 |

| 区分 | 割合 (%) |
|------------------|--------|
| ■従業員の平均年齢 | |
| 40歳未満 | 0.0 |
| 40～49歳ぐらい | 42.9 |
| 50～59歳ぐらい | 28.6 |
| 60～69歳ぐらい | 21.4 |
| 70～79歳ぐらい | 0.0 |
| 80歳以上 | 0.0 |
| わからない | 0.0 |
| 無回答 | 7.1 |

2 事業所の運営について

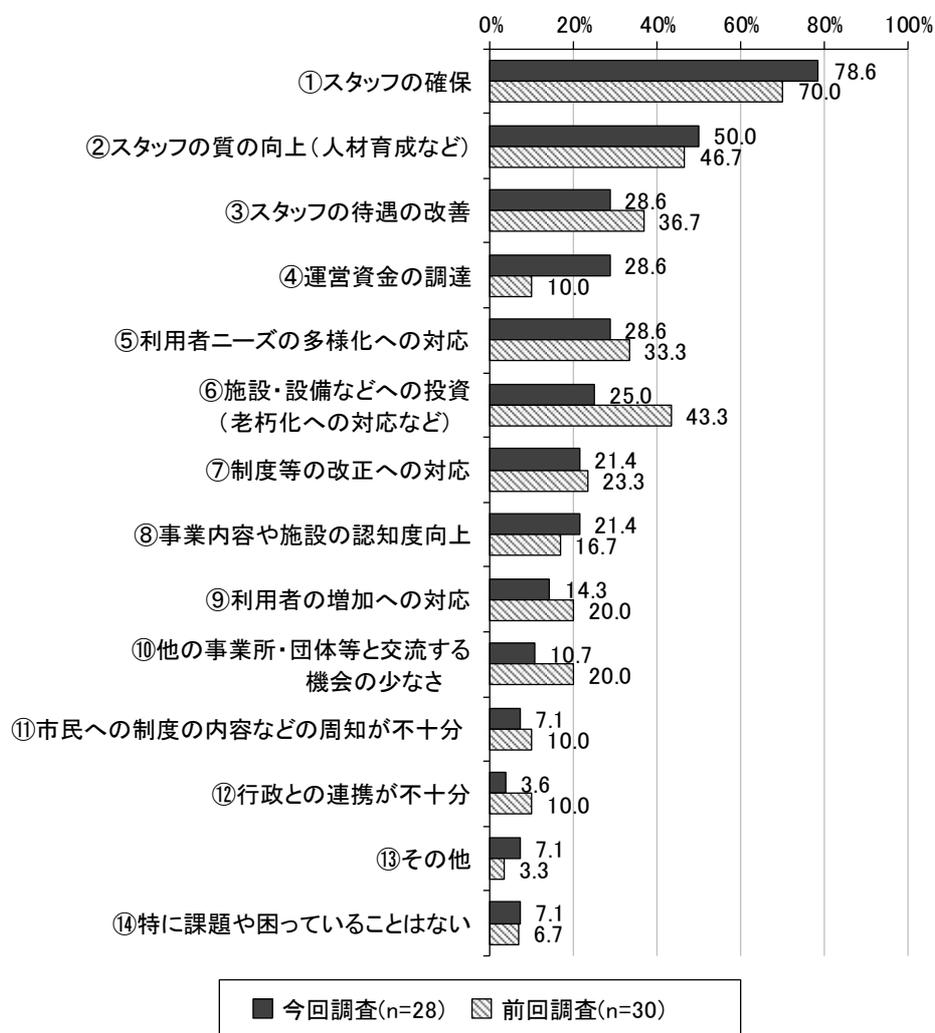
(1) 事業所の運営上の課題

問6 貴事業所の運営上の課題や困っていることは何ですか。(〇は5つまで)

「①スタッフの確保」が78.6%と最も高く、次いで「②スタッフの質の向上（人材育成など）」が50.0%、「③スタッフの待遇の改善」「④運営資金の調達」が28.6%となっています。

前回調査との比較では、「④運営資金の調達」が18.6ポイント増加しています。

人材についてはヒアリング調査でも多くの意見があげられており、経営にも影響が及んでいるなど、深刻な状況がうかがえます。また、その他には、事業運営における資金面での問題や、制度改正に伴う事務量の増加、サービスの需給面での問題など、様々な課題に直面している様子が見えます。事業所は地域資源でもあるため、行政や地域においても事業所の継続性や安定的な成長につながるように、デジタル化への対応も含めて必要な支援を検討し、協力していく必要があります。

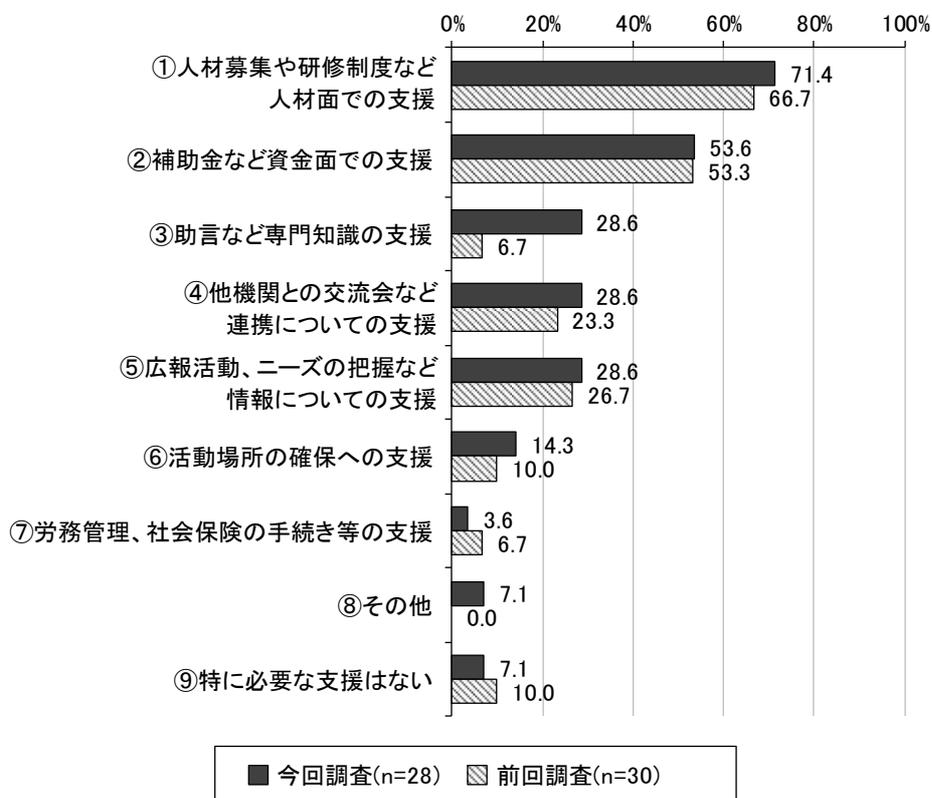


(2) 事業所において必要とする支援

問8 貴事業所では次のような支援を必要としていますか。(〇はいくつでも)

「①人材募集や研修制度など人材面での支援」が71.4%と最も高く、次いで「②補助金など資金面での支援」が53.6%となっています。

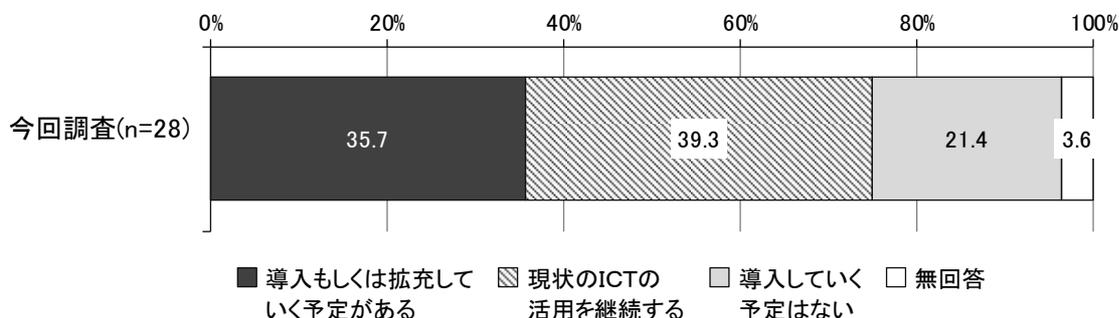
前回調査との比較では、「③助言など専門知識の支援」が21.9ポイント増加しています。



(3) ICTを導入もしくは拡充していく予定

問11 今後、貴事業所においてICTを導入もしくは拡充していく予定はありますか。(〇は1つだけ)

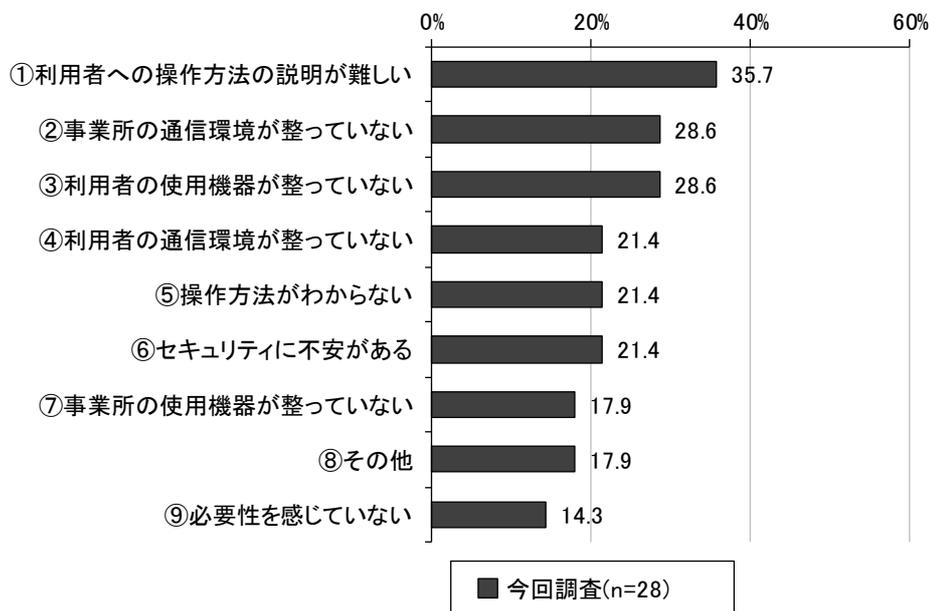
「現状のICTの活用を継続する」が39.3%と最も高く、次いで「導入もしくは拡充していく予定がある」が35.7%となっています。



(4) ICTを導入もしくは拡充する上での課題

問12 ICTを導入もしくは拡充する上で課題となることは何ですか。(〇はいくつでも)

「①利用者への操作方法の説明が難しい」が35.7%と最も高く、次いで「②事業所の通信環境が整っていない」「③利用者の使用機器が整っていない」が28.6%となっています。各種課題はあるものの、業務の改善や多職種連携、情報共有など地域福祉においても効果が期待されるため、デジタル化を図っていく必要があります。



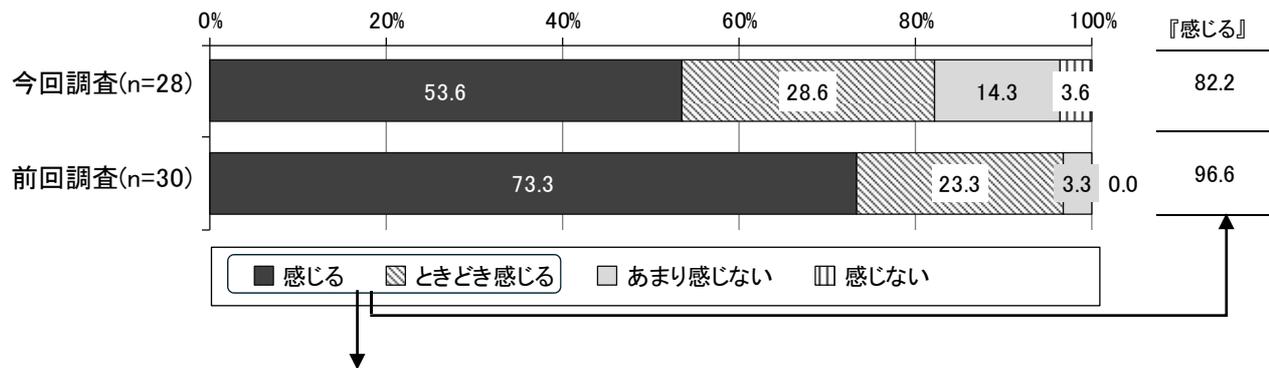
3 他機関との連携について

(1) 他の団体や機関と連携の必要性

問 13 貴事業所では、活動を行ううえで、他の団体や機関と連携の必要性を感じますか。(○は1つだけ)

「感じる」が 53.6%と最も高く、次いで「ときどき感じる」が 28.6%となり、合計すると『感じる』は 82.2%と多数を占めています。

前回調査との比較では、『感じる』が 14.4 ポイント減少しています。



(2) 連携の必要性を感じる時

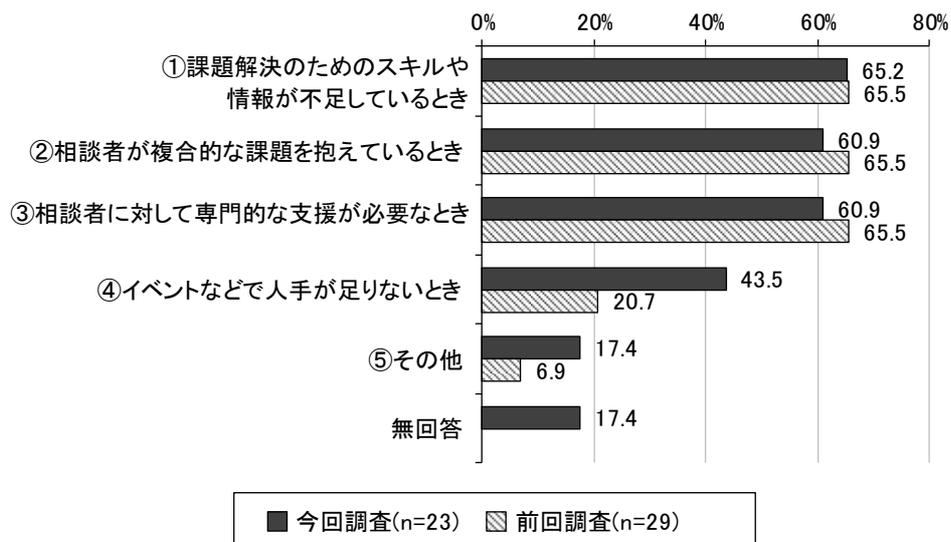
問 13で「感じる」「ときどき感じる」とお答えの方

問 14 連携の必要性を感じるのはどのようなときですか。(○はいくつでも)

「①課題解決のためのスキルや情報が不足しているとき」が 65.2%と最も高く、次いで「②相談者が複合的な課題を抱えているとき」「③相談者に対して専門的な支援が必要なとき」が 60.9%となっています。

前回調査との比較では、「④イベントなどで人手が足りないとき」が 22.8 ポイント増加しています。

ヒアリング調査でも、制度改正時の対応や救急時の対応、災害時に備えた連携体制など、様々な場面で連携が必要であり、情報共有や意見交換の機会が求められています。



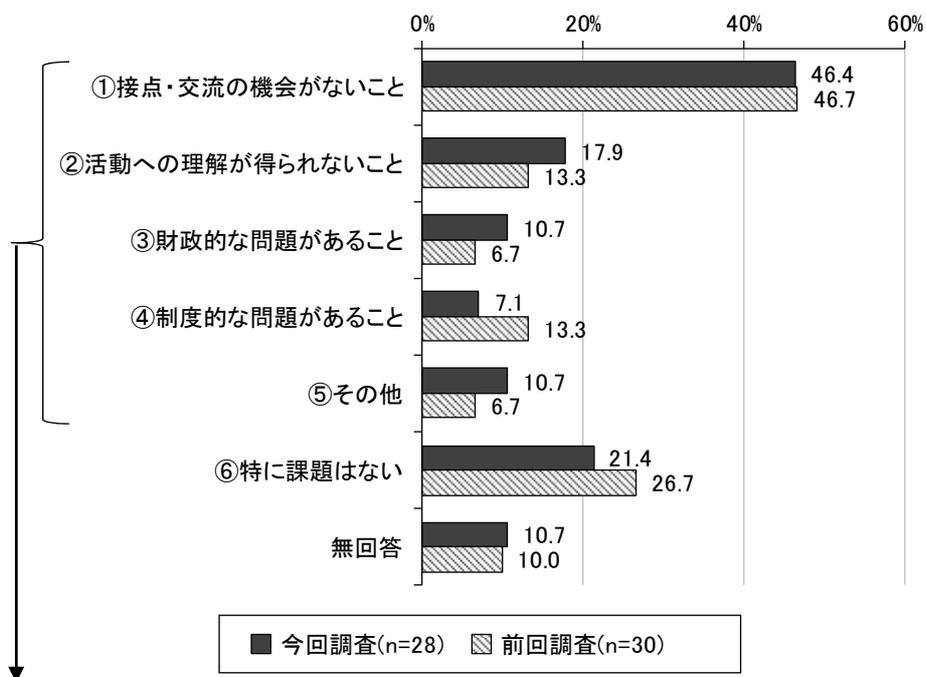
(3) 他機関等との連携・協働関係を築く際に課題となること

問 18 他機関等との連携・協働関係を築く際、課題となることは、どういったことですか。

(〇はいくつでも)

「①接点・交流の機会がないこと」が46.4%と最も高く、「②活動への理解が得られないこと」が17.9%となっています。また、「⑥特に課題はない」が21.4%となっています。

前回調査との比較では、特に大きな違いはみられません。



(4) 課題の内容

問 18で「①～⑤の課題がある」とお答えの方

問 19 その課題はどういった内容のものですか。具体的にご記入ください。

人手不足や業務多忙などの問題があげられています。また、個人情報に関する守秘義務の問題や新型コロナウイルス感染症をきっかけに外部との交流がなくなり、その状態が続いていることなどがあげられています。

ヒアリング調査でも、新型コロナウイルスをきっかけにボランティアの受入れや地域交流が難しくなったという意見が多くあげられました。

しかし、地域貢献や高齢者等への理解を深めるために、地域との交流が重要であると多くの事業者は認識しており、交流が図りやすくなるような仕組みづくりや交流の場づくりなどを検討していく必要があります。

4 地域福祉について

(1) 利用者から聞く日常生活の困りごとや地域の問題等と事業者として取り組めること
 問 22 貴事業所を利用している地域の人から聞く、日常生活での困りごとや地域の問題・課題などがありますか。また、それに対して貴事業所として取り組めることはありますか。ありましたら具体的にご記入ください。

日常生活での困りごと等は、介護の問題、移動の問題、災害への対応、経済的な不安などがあげられています。また、家族や地域のつながりの希薄化による支援不足を指摘する意見もみられます。

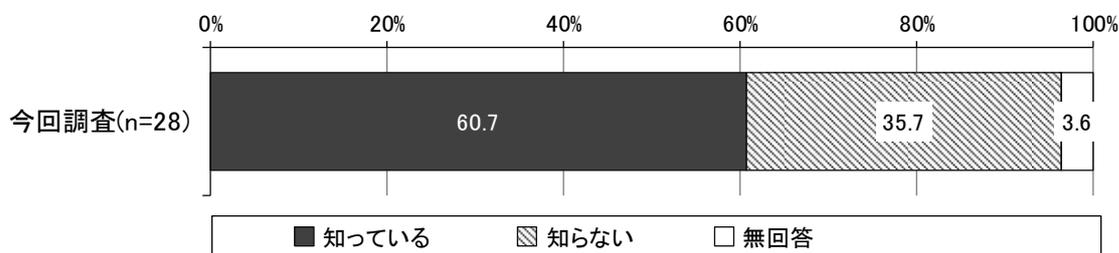
これらの困りごとに対する取組としては、交流活動や関係者間の連携、情報収集の他、施設や職員など地域資源の活用に関する取組などがあげられています。また、課題として、人員不足や個人情報等の取扱い、行政の支援を求める意見などもみられます。

ヒアリング調査でも同様の意見があげられており、中でも後見人問題などの身寄りのない高齢者等に関する問題について、今後ますます深刻になるのではないかと指摘もあり、早急に対応策を検討していく必要があります。

(2) 地域連携ネットワークの中核を担う「中核機関」の認知度

問 25 地域連携ネットワークの中核を担う「中核機関」は、本市では令和4年度に整備し、市及び社会福祉協議会によって運営しておりますが、「中核機関」を知っていますか。(○は1つだけ)

「知っている」が60.7%と過半数を占めるものの、「知らない」が35.7%と3分の1程度を占めています。

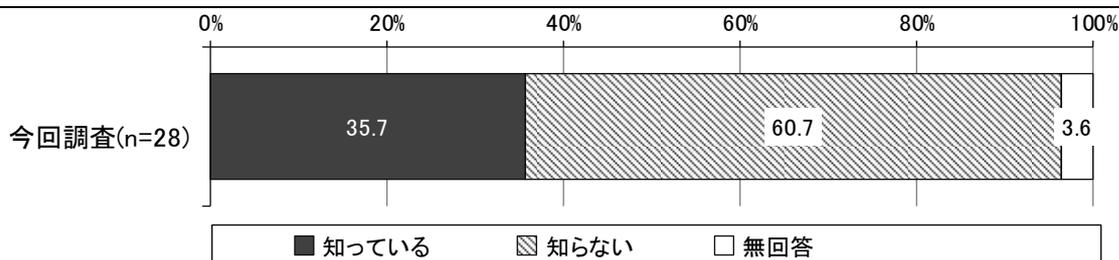


(3) 「袖ヶ浦市重層的支援体制整備事業」の認知度

問 26 袖ヶ浦市では、複合化・複雑化する市民からの相談に対し、分野ごとまたは福祉の既存の制度を超えた対応が行えるように、「袖ヶ浦市重層的支援体制整備事業」に取り組んでいることを知っていますか。(○は1つだけ)

「知らない」が60.7%と過半数を占め、「知っている」は35.7%と3分の1程度となっています。

後見人問題も含め、複合化・複雑化している地域の課題に対応していくためにも、こうした市や社会福祉協議会の事業について周知を図り、事業所の理解と協力を得られるように取り組んでいく必要があります。



Ⅲ 団体アンケート調査の結果

1 団体等の概要

【団体】

| 区分 | 割合 (%) |
|--------------|--------|
| ■法人組織 | |
| ボランティア団体 | 63.2 |
| 地縁団体 | 5.3 |
| 当事者団体 | 7.9 |
| 特定非営利活動法人 | 7.9 |
| その他 | 10.5 |
| 無回答 | 5.3 |

| | |
|-----------------|------|
| ■活動分野 | |
| 高齢者支援 | 47.4 |
| 障がい者支援 | 34.2 |
| 子育て支援 | 36.8 |
| 健康づくり・医療 | 18.4 |
| 子どもや青少年の健全育成 | 44.7 |
| 社会教育・社会体育・生涯学習等 | 21.1 |
| 地域の清掃・美化、地域おこし | 13.2 |
| 消防・防災・防犯等 | 10.5 |
| 自然環境保護 | 2.6 |
| 国際交流 | 0.0 |
| 人権擁護 | 2.6 |
| その他 | 7.9 |

| | |
|--------------|------|
| ■活動年数 | |
| 1年未満 | 0.0 |
| 1～3年未満 | 2.6 |
| 3～5年未満 | 2.6 |
| 5～10年未満 | 5.3 |
| 10～20年未満 | 34.2 |
| 20年以上 | 52.6 |
| 無回答 | 2.6 |

| 区分 | 割合 (%) |
|--------------|--------|
| ■構成員数 | |
| 5人未満 | 2.7 |
| 5～10人未満 | 18.9 |
| 10～20人未満 | 16.2 |
| 20～30人未満 | 8.1 |
| 30～40人未満 | 8.1 |
| 40～50人未満 | 2.7 |
| 50～100人未満 | 5.4 |
| 100人以上 | 16.2 |
| 無回答 | 21.6 |

| | |
|------------------|------|
| ■構成員の平均年齢 | |
| 40歳未満 | 5.4 |
| 40～49歳ぐらい | 10.8 |
| 50～59歳ぐらい | 2.7 |
| 60～69歳ぐらい | 32.4 |
| 70～79歳ぐらい | 27.0 |
| 80歳以上 | 2.7 |
| わからない | 2.7 |
| 無回答 | 16.2 |

| | |
|--------------|------|
| ■活動範囲 | |
| 昭和地区 | 47.4 |
| 長浦地区 | 50.0 |
| 根形地区 | 36.8 |
| 平岡地区 | 42.1 |
| 中川・富岡地区 | 36.8 |
| 近隣市 | 15.8 |
| 千葉県内 | 5.3 |
| その他の地域 | 5.3 |

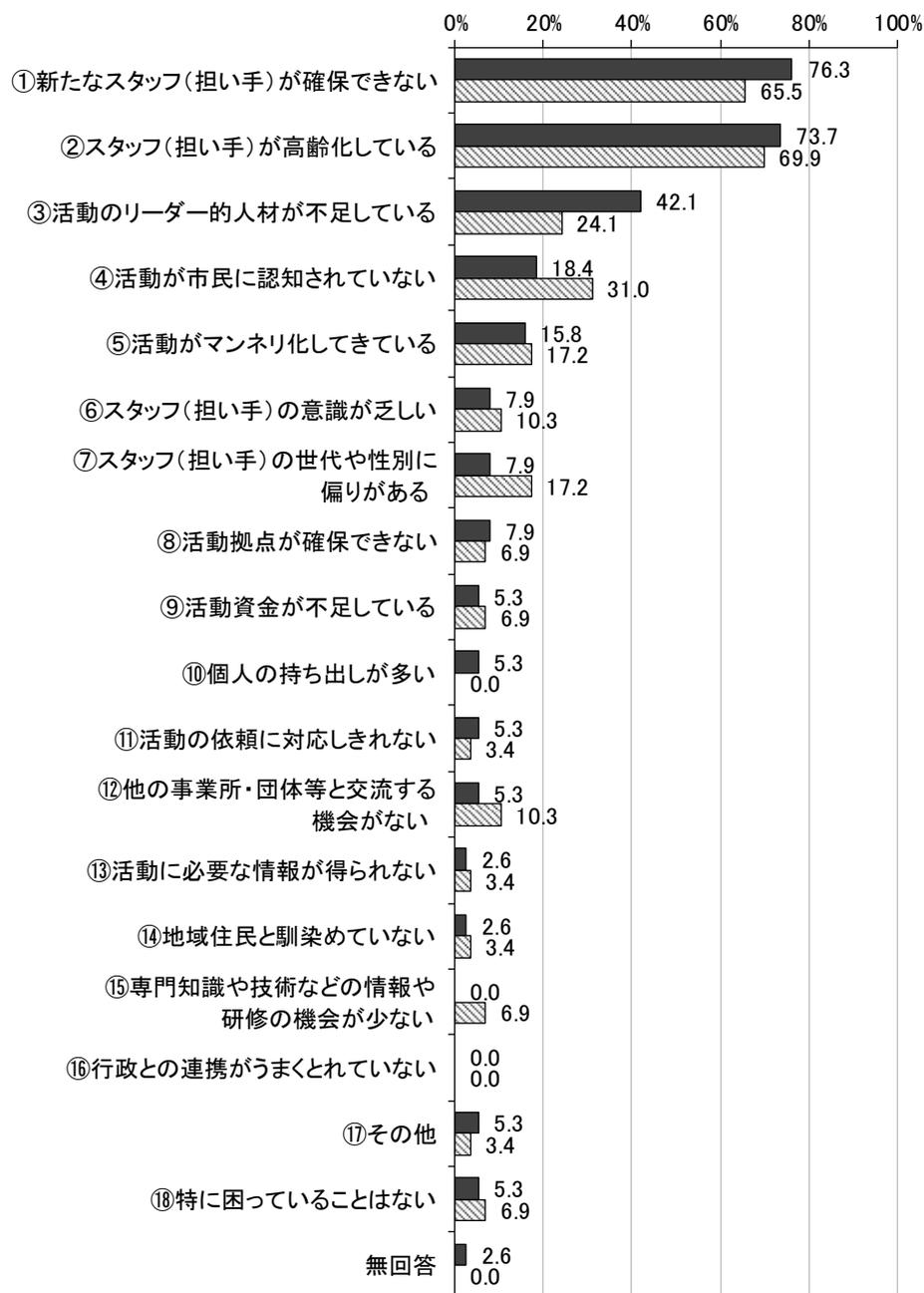
2 団体等の活動について

(1) 貴団体の活動を行う中で困っていること

問6 貴団体の活動を行う中で、今困っていることは何ですか。(〇は5つまで)

「①新たなスタッフ(担い手)が確保できない」が76.3%と最も高く、次いで「②スタッフ(担い手)が高齢化している」が73.7%、「③活動のリーダー的人材が不足している」が42.1%となっています。ヒアリング調査でも同様で、人材不足により活動の継続を危惧する意見なども聞かれました。

前回調査との比較では、「③活動のリーダー的人材が不足している」が18.0ポイント増加し、「④活動が市民に認知されていない」が12.6ポイント減少しています。



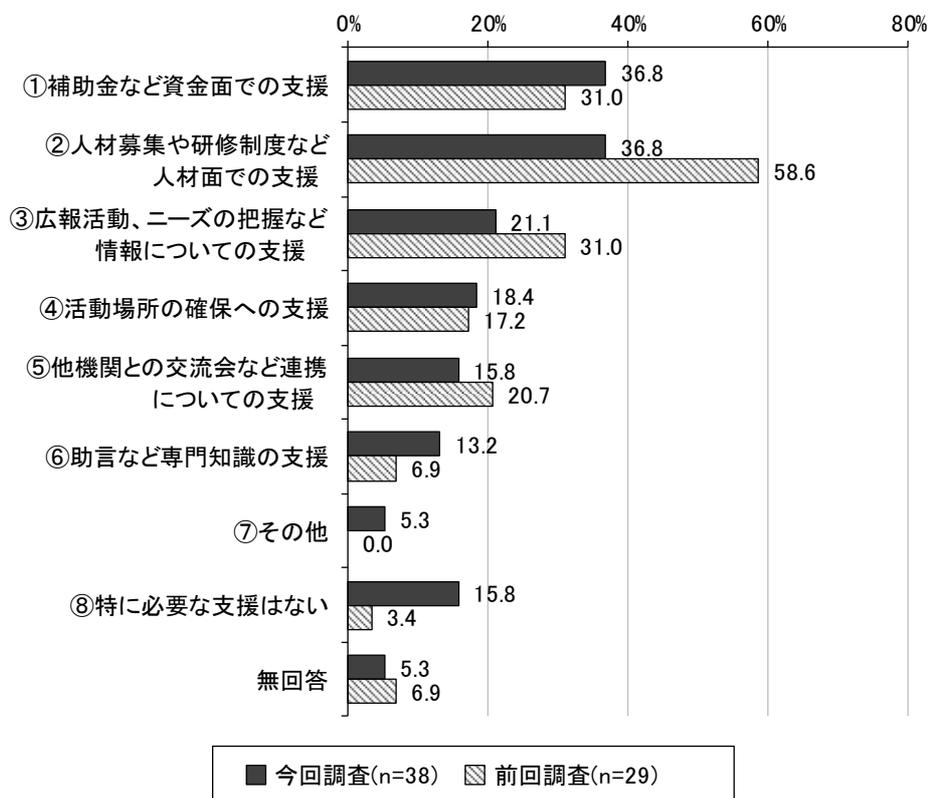
■ 今回調査(n=38) ▨ 前回調査(n=29)

(2) 必要な支援

問8 貴団体では次のような支援を必要としていますか。(〇はいくつでも)

「①補助金など資金面での支援」「②人材募集や研修制度など人材面での支援」が36.8%と高く、次いで「③広報活動、ニーズの把握など情報についての支援」が21.1%となっています。

前回調査との比較では、「②人材募集や研修制度など人材面での支援」が21.8ポイント減少し、「⑧特に必要な支援はない」が12.4ポイント増加しています。

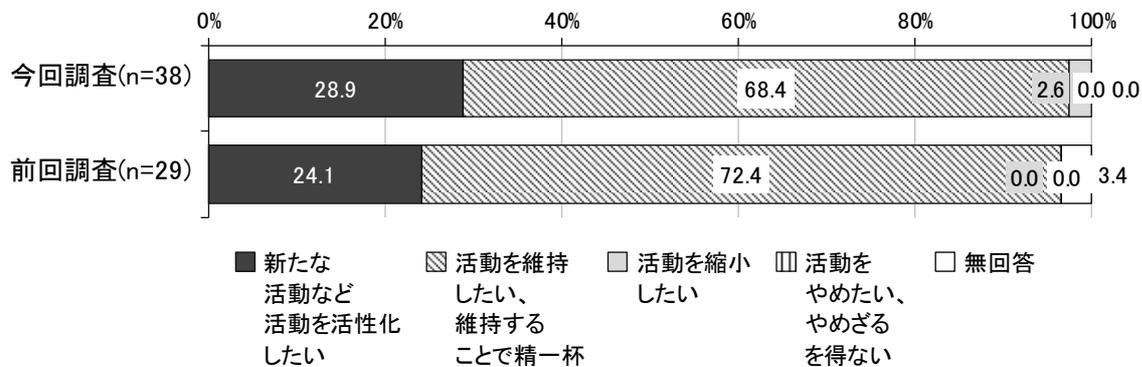


(3) 今後の活動予定

問9 貴団体は、今後どのように活動していく予定ですか。(〇は1つだけ)

「活動を維持したい、維持することで精一杯」が68.4%と最も高く、次いで「新たな活動など活動を活性化していきたい」が28.9%となっています。

前回調査との比較では、特に大きな違いはみられません。



(4) 今後の活動予定に関する具体的な理由

問10 問9で回答した理由は何ですか。具体的にご記入ください。

「活動を活性化したい」理由は、地域の方のため、地域の繋がりや交流を図るためなどの理由があげられています。

「維持することで精一杯」という理由は、担い手の高齢化や、担い手及び参加者の減少、活動の負担の大きさなどが理由としてあげられています。

ヒアリング調査では、活動を継続していくためには、地域の課題に関心を持ち、共有化することや、解決に向けた意識を高めていくこと、楽しみながら活動に参加することが大切であるという意見などがあげられています。定年延長などにより退職してからの団体活動への参加が難しくなっていることから、現役世代から地域の課題に関心を持ち、気軽に地域活動に参加できるような環境づくりに取り組んでいく必要があります。

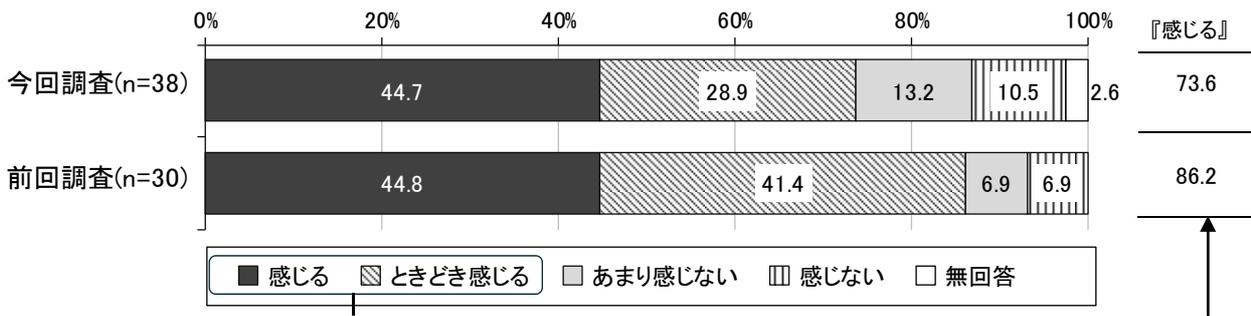
3 他機関等との連携について

(1) 他機関等との連携の必要性

問11 貴団体では、活動を行う上で、他の団体や機関と連携の必要性を感じますか。(○は1つだけ)

「感じる」が44.7%と最も高く、次いで「ときどき感じる」が28.9%となり、合計した『感じる』は73.6%と多数を占めています。

前回調査との比較では、『感じる』が12.6ポイント減少しています。



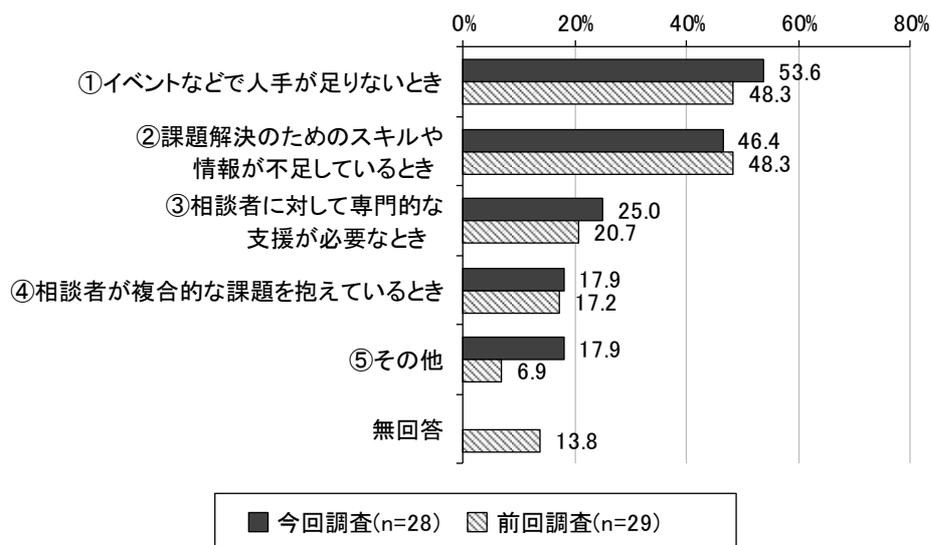
(2) 連携の必要性を感じる時

問11で「感じる」「ときどき感じる」とお答えの方

問12 連携の必要性を感じるのはどのようなときですか。(○はいくつでも)

「①イベントなどで人手が足りないとき」が53.6%と最も高く、次いで「②課題解決のためのスキルや情報が不足しているとき」が46.4%、「③相談者に対して専門的な支援が必要なとき」が25.0%となっています。ヒアリング調査では、広報活動に関する市の支援や、連携の仕組みづくり、災害に備えた関係課や関係団体等との協力体制の必要性を指摘する意見などもあげられています。

前回調査との比較では、特に大きな違いはみられません。



(3) 他機関等との連携・協働関係を築く際の課題

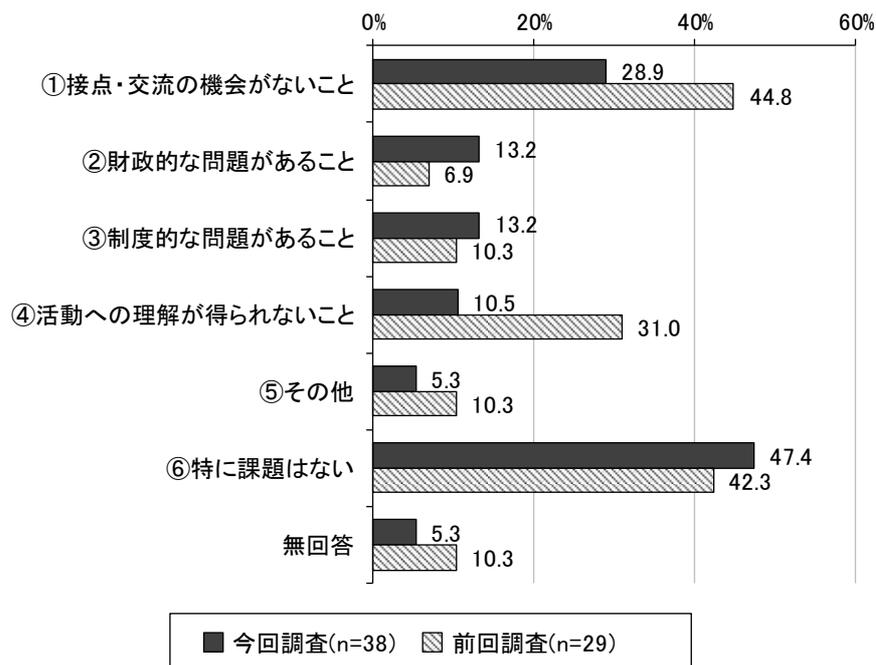
問 14 他機関等との連携・協働関係を築く際、課題となることは、どういったことですか。

(〇はいくつでも)

「⑥特に課題はない」が47.4%に上ります。課題としては、「①接点・交流の機会がないこと」が28.9%と最も高く、事業所と同様となっています。

前回調査との比較では、「④活動への理解が得られないこと」が20.5ポイント、「①接点・交流の機会がないこと」が15.9ポイント減少しています。

他機関等との連携は、団体活動の活性化につながることを期待されるため、事業所と同様に交流が図りやすくなるような仕組みづくりや交流の場づくりなどを検討していく必要があります。



4 地域福祉について

(1) 利用者から聞く日常生活の困りごとや地域の課題等と団体として取り組めること

問 18 貴団体を利用している地域の人から聞く、日常生活での困りごとや地域の問題・課題などはありませんか。また、それに対して貴団体として取り組めることはありますか。

ありましたら具体的にご記入ください。

日常生活での困りごと等は、高齢者や障がい者の生活支援（通院や買い物の移動、独居者の支援、コミュニケーションの支援等）、子どもの居場所や交流などがあげられています。

これらに対する取組としては、各団体の活動の範囲で積極的に取り組んでいる状況がうかがえますが、行政や多団体との連携や支援を求める意見もみられます。

ヒアリング調査では、支援が必要な人・支援が必要だと思われる人が増えているという指摘もありました。特に支援が必要だと思われる人の把握や対応が難しく、支援活動を行う側の体制も追いつかず、支援につながらなったり、孤立したりするケースも生じているようです。こうした問題は早い段階で対応が重要であり、一部の人に任せるのではなく、地域ぐるみで取り組んでいく必要があります。

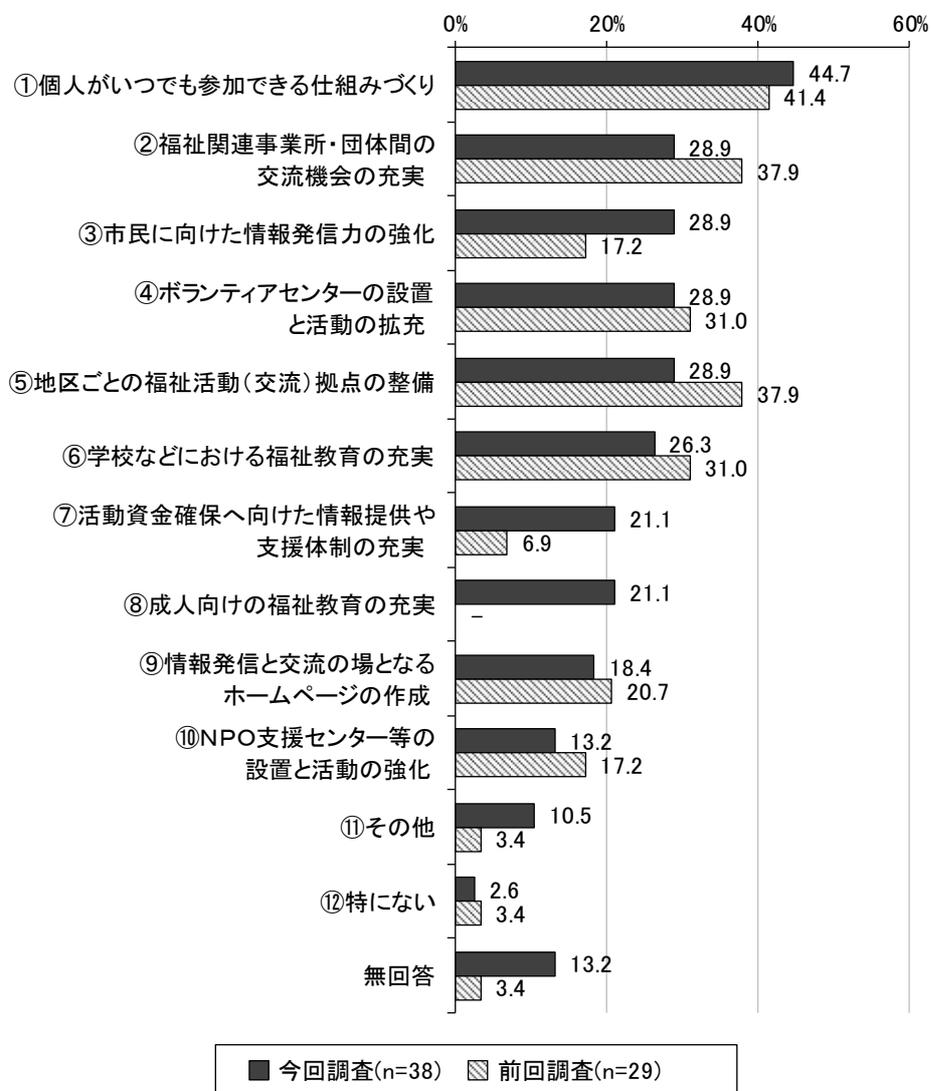
(2) 地域での福祉活動をさらに活性化させるために必要な取組

問 22 袖ヶ浦市において、今後、地域での福祉活動（ボランティア活動や助け合い活動等を含む）をさらに活性化させるためには、どのような取組が必要とお考えですか。（〇はいくつでも）

「①個人がいつでも参加できる仕組みづくり」が44.7%と最も高く、次いで「②福祉関連事業所・団体間の交流機会の充実」「③市民に向けた情報発信力の強化」「④ボランティアセンターの設置と活動の拡充」「⑤地区ごとの福祉活動（交流）拠点の整備」が28.9%となっています。

前回調査との比較では、「⑦活動資金確保へ向けた情報提供や支援体制の充実」が14.2ポイント、「③市民に向けた情報発信力の強化」が11.7ポイント増加しています。

ヒアリング調査では、現役世代もすき間時間を利用して地域活動に参加できるような仕組みがあると良いという意見もあげられています。活動に参加することが負担とならないように、継続した参加につながるように、団体活動の業務の効率化や統合化が図れるような支援や、市や社会福祉協議会の施策との連携、有効な情報の提供など、効果的な支援を検討していく必要があります。



※「⑧成人向けの福祉教育の充実」は今回調査のみ

IV ヒアリング調査の結果

1 事業所ヒアリング調査

(1) 事業所の運営状況について

事業所の運営状況については、人材不足や採用の難しさ、職員の高齢化等、人材面の課題が多くあげられました。その他では、ICTに関する意見や財政面の問題、サービスの需給への対応に関する問題などがあげられています。

(2) 地域や他機関との連携について

地域との連携については、ほとんどの事業者において地域との交流を深めていきたいと考えていますが、自治会をはじめとする地域の団体や住民と接する機会がなく、コロナ禍を機に交流が減ったという事業者もあり、地域との交流が図りやすくなるような環境づくりなどが求められています。他機関との連携については、業種により連携状況に違いはみられますが、事業者間の連携や情報交換の場を求める意見が多くあげられました。また、救急医療など医療体制を危惧する意見もきかれました。

(3) 地域福祉に関する現状や課題について

地域福祉に関する現状や課題については、内容は多岐にわたりますが、後見人問題などの身寄りのない高齢者等に関する課題が多くあげられ、今後ますます深刻になるのではないかと危惧する意見も聞かれました。その他では、外出・交通の問題や、高齢化・人口減少が進む地域の将来を見据えた対策などに関する意見があげられました。

2 団体ヒアリング調査

(1) 団体の活動状況について

団体の活動状況については、ほとんどの団体において担い手の不足や高齢化が進んでおり、活動の継続を危惧する意見なども聞かれました。一方、活動を継続していくためには、地域の課題に関心を持ち、共有化することや、解決に向けた意識を高めていくこと、楽しみながら活動に参加することが大切であるという意見などが多くあげられました。

(2) 他機関等との連携について

他機関等との連携については、多くの団体は市行政や社会福祉協議会、他団体と連携しており、今後も連携の継続や新たな連携を希望しています。また、協力してほしい内容については、広報活動における行政からの支援や、連携の仕組みづくり、災害に備えた関係課や関係団体等との協力体制の充実などを求める意見があげられています。

(3) 地域福祉に関する現状や課題について

地域福祉に関する現状や課題については、支援が必要な人・必要だと思われる人が増えており、支援体制の充実が求められています。また、地域により社会環境や地域活動の取組状況などが異なり、高齢者等のニーズも変化している状況などを指摘する意見などもあげられています。

(3) 袖ヶ浦市地域福祉計画(第3期)の取組事業の目標値の見直しについて(報告)

| 目標1 福祉情報の提供と教育の充実 | | | | 目標値等の推移 | | | | | | | | | | 目標値の見直し事項 | | | |
|-------------------|-----------------------------------|--|---|---------------------|--------------------|-------------|--------|-------|-------|-------|--------|-------|--------|-----------|---|---------|--------|
| 所管課等 | 事業名 | 事業内容 | 取組 | 現状値 (H30 年度末) | 目標値 (R7 年度末) | 年度 | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7(現) | R7(新) | 目標値を見直した事由 | 第2期実施計画 | その他の計画 |
| 子育て支援課 | 【2】 子育て支援ポータルサイトによる 情報提供 | 子育て支援ポータルサイト「はっぴー ネット」にて、各種子育て関連団体の情報提供を行います。 | 年間閲覧数(単年度) | 2,674回 | 4,000回 | 目標値 | | 3,000 | 3,200 | 3,400 | 3,600 | 3,800 | 4,000回 | 2,200回 | 令和5年6月から閲覧数のカウント方法が変更となったことにより、目標値と実績値に大幅な乖離が生じたことから、令和5年度の実績を考慮し、目標値の見直しを行った。 | - | - |
| | | | | | | 実績 | 2,674回 | 4,759 | 5,195 | 3,133 | 2,091 | | | | | | |
| | | | | | | 達成度 | | A | A | B | C | | | | | | |
| 市民協働推進課 | 【3】 市民活動情報サイトによる情報提供 | 市民に対して、市民活動情報サイト「ガウラ・ナビ」により、市内で活動する市民活動団体・ボランティア団体等の情報提供を行います。 | 市民活動情報サイトへのアクセス数 | 2,728回 | 4,100回 | 目標値 | | 2,900 | 3,000 | 3,100 | 3,200 | 3,500 | 4,100回 | 12,000回 | 令和5年6月から閲覧数のカウント方法が変更となったことにより、目標値と実績値に大幅な乖離が生じた。令和7年度より市民活動サポートセンターが設置されることも考慮し、目標値の見直しを行った。 | - | - |
| | | | | | | 実績 | 2,728回 | 3,830 | 1,785 | 1,857 | 10,110 | | | | | | |
| | | | | | | 達成度 | | A | C | C | A | | | | | | |
| 市民協働推進課 | 【4】 市政(まちづくり)講座 | 地域コミュニティで活動する担い手を養成するため、地域づくりに役立つ知識を学ぶ講座を実施します。 | まちづくり講座開催数 | 7回 | 7回 | 目標値 | | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7回 | 5回 | 連続講座であったまちづくり講座の実施方法を変更したことにより、開催回数目標値の見直しを行った。 | - | - |
| | | | | | | 実績 | 7回 | 1 | 1 | 7 | 7 | | | | | | |
| | | | | | | 達成度 | | E | E | A | A | | | | | | |
| 生涯学習課 | 【5】 職員出前講座 | 市民の学習機会の拡大を図り、市政に関する情報を市民に提供します。 | 受講者数 | 6,182人 | 6,200人 | 目標値 | | 2,000 | 2,000 | 2,000 | 2,500 | 3,000 | 6,200人 | 3,700人 | コロナ禍以降、開講数を徐々に増やし、受講者数も増加傾向にあるものの、実績値に大幅な乖離が生じたことから、目標値の見直しを行った。 | - | - |
| | | | | | | 実績 | 6,182人 | 456 | 1,659 | 2,241 | 3,664 | | | | | | |
| | | | | | | 達成度 | | E | E | A | A | | | | | | |
| 学校教育課 | 【6】 子どもを育む、 学校・家庭地域 推進事業 | 学校・家庭・地域が連携しながら子どもを育むため、地域ぐるみで学校を支援する体制づくりを進めるとともに、その指針である「袖ヶ浦市子育ての提言」や基本的な生活習慣を身につけさせるための「がうらっ子の心得」を活用し、健全育成のための啓発を行います。 | 1中学校区あたりの学校支援ボランティア登録者数 ※1…学校として確保したい登録者数を目標値として設定 | 155人 | 120人 ※1 | 目標値 | | 120 | 120 | 120 | 120 | 120 | 120人 | 180人 | 登録者数が、コロナ感染症の5類移行に伴い、大きく増加したが、登録者の高齢化等を考慮し、推移を鑑みて目標値の見直しを行った。 | - | - |
| | | | | | | 実績 | 155人 | 148 | 146 | 153 | 195 | | | | | | |
| | | | | | | 達成度 | | A | A | A | A | | | | | | |
| 複数課 生涯学習課 | 【7】 家庭教育総合推進事業 | 発達段階に応じた子育てに関する学習機会を提供するため、家庭教育支援に関する総合的な取組について検討し、各公民館実施の家庭教育学級により、家庭教育力の向上を図ります。家庭教育及び子育てに関する施策の充実と情報の共有を図るため、関係課が連携した家庭教育推進協議会を開催します。 | 子育てに関する悩みや不安を軽減できたとする受講者の割合 | - | 70% | 目標値 | | 50 | 55 | 60 | 90 | 90 | 70% | 90% | 講座受講者の満足度は以前から高く、その実績を考慮し、目標値の見直しを行った。 | - | - |
| | | | | | | 実績 | - | 99.1 | 94.9 | 93.3 | 96.3 | | | | | | |
| | | | | | | 達成度 | | A | A | A | A | | | | | | |
| 複数課 生涯学習課 | 【14】 青少年教育推進事業 | 児童等を対象に体験活動の機会を提供し、社会生活に必要な規範意識や協調性を醸成するため、青少年健全育成団体への支援や講座等を実施します。 | 講座開催回数 | 61回 | 63回 | 目標値 | | 63 | 63 | 63 | 63 | 62 | 63回 | 60回 | 講座開催回数は、各交流センターで実施する回数の積み重ねによるものであり、地区によっては参加者数が減少している地区もあることからそれらを考慮し、目標値の見直しを行った。 | - | - |
| | | | | | | 実績 | 61回 | 27 | 46 | 59 | 62 | | | | | | |
| | | | | | | 市民会館 公民館 | | 27 | 46 | 59 | 62 | | | | | | |
| | | | 達成度 | | E | E | B | B | | | | | | | | | |
| | | | 参加延べ人数 | 1,395人 | 1,500人 | 目標値 | | 1,270 | 1,240 | 1,300 | 1,090 | 1,025 | 1,500人 | 1,075人 | 上記、講座開催回数の修正に伴い、目標値の見直しを行った。 | - | - |
| 実績 | 1,395人 | 295 | 642 | 788 | 1,059 | | | | | | | | | | | | |
| 達成度 | | E | E | C | B | | | | | | | | | | | | |

| 所管課等 | 事業名 | 事業内容 | 取組 | 現状値 (H30 年度末) | 目標値 (R7 年度末) | 年度 | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7(現) | R7(新) | 目標値を見直した事由 | 第2期実施計画 | その他の計画 |
|----------|---------------------|---|--|---------------------|--------------------|-----|--------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|--|---------|--------|
| 生涯学習課 | 【15】 成人教育推進事業 | 市民の学習ニーズと地域課題や生活課題に対応した講座等を実施します。 | 参加者数【三学大学分】 ※4…講座回数、参加予定人数を見直し、講座内容を充実させる方向で目標値を設定 | 1,800人 | 1,350人 ※4 | 目標値 | | 1,350 | 1,350 | 1,350 | 900 | 900 | 1,350人 | 900人 | 講師により参加者数の変動が予想されるため、実績値を考慮し、目標値の見直しを行った。 | ○ | - |
| | | | | | | 実績 | 1,800人 | 282 | 307 | 1,128 | 1,238 | | | | | | |
| | | | | | | 達成度 | | E | E | B | A | | | | | | |
| | | | 年間開催【三学大学分】 ※4…講座回数、参加予定人数を見直し、講座内容を充実させる方向で目標値を設定 | 4回 | 3回 ※4 | 目標値 | | 3 | 3 | 3 | 2 | 2 | 3回 | 2回 | コロナ禍以降は2回で実施しており、今後も同回数の実施を予定していることから、目標値の見直しを行った。 | ○ | - |
| | | | | | | 実績 | 4回 | 1 | 2 | 2 | 2 | | | | | | |
| | | | | | | 達成度 | | E | D | D | A | | | | | | |
| | | | 講座の延べ開催回数 【各公民館分】 ※4…講座回数、参加予定人数を見直し、講座内容を充実させる方向で目標値を設定 | 100回 | 83回 ※4 | 目標値 | | 86 | 87 | 85 | 74 | 70 | 83回 | 68回 | 各交流センターの地域性等の実情にあわせ、実施回数より講座内容をさらに充実させることを目指し、目標値の見直しを行った。 | - | - |
| | | | | | | 実績 | 100回 | 59 | 71 | 80 | 71 | | | | | | |
| | | | | | | 達成度 | | E | E | B | B | | | | | | |
| | | | 延べ参加人数 【各公民館分】 ※4…講座回数、参加予定人数を見直し、講座内容を充実させる方向で目標値を設定 | 1,670人 | 1,380人 ※4 | 目標値 | | 1,528 | 1,532 | 1,607 | 1,382 | 1,167 | 1,380人 | 1,243人 | 各交流センターの地域性等の実情にあわせ、実施回数を考慮し、に見合った目標値の見直しを行った。 | - | - |
| | | | | | | 実績 | 1,670人 | 763 | 1,026 | 1,231 | 1,337 | | | | | | |
| | | | | | | 達成度 | | E | E | C | B | | | | | | |
| 市民会館・公民館 | 【16】 高齢者いきがい促進事業 | 健康で充実した生活を送ることができるよう、学習や交流活動を通して一人ひとりの生きがいを促進するとともに、仲間づくりを行います。 | 高齢者学級等の延べ参加人数 ※5…講座回数、参加予定人数を見直し、講座内容を充実させる方向で目標値を設定 | 1,709人 | 1,670人 ※5 | 目標値 | | 1,520 | 1,550 | 1,580 | 1,610 | 1,150 | 1,670人 | 1,150人 | コロナ禍以降、参加者数は回復傾向にあるが、参加者の高齢化や開催方法の見直しにより講座回数が減少したことなどから、目標値と実績値に大幅な乖離が生じているため実績を考慮し、目標値の見直しを行った。 | - | - |
| | | | | | | 実績 | 1,709人 | 702 | 845 | 1,086 | 1,173 | | | | | | |
| | | | | | | 達成度 | | E | E | C | C | | | | | | |

| 目標2 地域のつながりの充実 | | | | | 目標値等の推移 | | | | | | | | | 目標値の見直し事項 | | | |
|----------------|------------------------------------|--|---------------------------------|---------------------|--------------------|-----|---------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|-----------|--|---------|----------|
| 所管課等 | 事業名 | 事業内容 | 取組 | 現状値 (H30 年度末) | 目標値 (R7 年度末) | 年度 | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7(現) | R7(新) | 目標値を見直した事由 | 第2期実施計画 | その他の計画 |
| 市民協働推進課 | 【17】 自治会の加入促進への取組 | 転入の手続きをした市民等に対して、自治会への加入を促すチラシを配付します。また、賃貸住宅等の入居者に対しても、千葉県宅地建物取引業協会南総支部等の協力のもと、チラシを配布していきます。加えて、市ホームページや広報紙を活用して、自治会活動に関する記事を定期的に掲載し、自治会への加入促進に努めます。 | 自治会加入率(加入世帯数÷常住世帯数) | 62.8% | 66% | 目標値 | | 63.5 | 64 | 64.5 | 60.0 | 60.3 | 66% | 60.5% | 転入世帯の自治会加入が進んでいないことや高齢化に伴い自治会から退会する世帯が見受けられることから、目標値の見直しを行った。 | ○ | - |
| | | | | | | 実績 | 62.8% | 61.4 | 59.3 | 57.9 | 56.7 | | | | | | |
| | | | | | | 達成度 | | B | B | B | B | | | | | | |
| 高齢者支援課 | 【19】 高齢者見守りネットワーク事業 | 高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、協力事業者、関係団体等によるネットワークにより「さりげない見守り」を実施します。 | 協力事業者数・関係団体数 | 59団体 | 65団体 | 目標値 | | 60 | 61 | 62 | 70 | 71 | 65団体 | 72団体 | 協力事業者や関係団体に対し、登録の勧誘に努めた結果、登録数が微増傾向にあることから目標値の見直しを行った。 | ○ | - |
| | | | | | | 実績 | 59団体 | 69 | 69 | 69 | 70 | | | | | | |
| | | | | | | 達成度 | | A | A | A | A | | | | | | |
| 地域福祉課 | 【22】 地域福祉活動団体支援事業 | 地域コミュニティの形成を目的として、主に、子ども食堂や学習支援事業など、貧困家庭やひとり親家庭の子ども及び保護者への支援活動を行う団体を支援します。 | 子ども食堂・学習支援事業開催箇所 | 1箇所 | 4箇所 | 目標値 | | 1 | 1 | 2 | 1 | 3 | 4箇所 | 7箇所 | 学習支援事業については、1箇所を実施し、子ども食堂については、増加傾向にあることから目標値の見直しを行った。 | - | - |
| | | | | | | 実績 | 1箇所 | 1 | 1 | 2 | 3 | | | | | | |
| | | | | | | 達成度 | | A | A | A | A | | | | | | |
| 高齢者支援課 | 【23】 介護予防・生活支援サービス事業(住民主体型サービス) | 住民主体の助け合いによる生活支援活動を行う団体に対し、その活動の維持・拡大に対する支援を行うとともに、新たな活動団体の創出を支援します。(生活支援体制整備事業と一体的なものとして実施) | 住民主体の支援活動団体数 | 4団体 | 8団体 | 目標値 | | 5 | 6 | 6 | 8 | 8 | 8団体 | 10団体 | 周知・啓発活動を実施した結果、団体件数が増加傾向にあることから、目標値の見直しを行った。 | ○ | - |
| | | | | | | 実績 | 4団体 | 7 | 8 | 10 | 11 | | | | | | |
| | | | | | | 達成度 | | A | A | A | A | | | | | | |
| 高齢者支援課 | 【24】 生活支援体制整備事業 | 担い手の育成やサービスの創出につながるよう普及啓発を行います。住民主体の支援活動団体間の連携づくりに努めます。 | 住民主体の支援活動団体数 | 4団体 | 8団体 | 目標値 | | 5 | 6 | 6 | 8 | 8 | 8団体 | 10団体 | 周知・啓発活動を実施した結果、団体件数が増加傾向にあることから、目標値の見直しを行った。 | ○ | - |
| | | | | | | 実績 | 4団体 | 7 | 8 | 10 | 11 | | | | | | |
| | | | | | | 達成度 | | A | A | A | A | | | | | | |
| 高齢者支援課 | 【26】 認知症サポーター養成事業 | 認知症の人やその家族が、住み慣れた地域で安心して生活していくことができるよう、認知症に対する正しい理解を深め、認知症の人やその家族を温かく見守る応援者となる認知症サポーターの養成を、地域住民や企業等幅広く実施していきます。また、認知症サポーターステップアップ研修の開催により、サポーターが地域で自主的に活動できるよう意識付けや情報提供を行っていきます。 | 認知症サポーター養成講座開催回数 | 26回 | 26回 | 目標値 | | 26 | 26 | 26 | 12 | 26 | 26回 | 12回 | 養成講座の受講ニーズの減少により、開催回数の目標値の見直しを行った。 | ○ | - |
| | | | | | | 実績 | 26回 | 6 | 5 | 10 | 14 | | | | | | |
| | | | | | | 達成度 | | E | E | E | B | | | | | | |
| 高齢者支援課 | 【27】 シルバー人材センター支援事業 | 高齢者が健康でいきいきとした暮らし、生活の充実を図るため、高齢者の経験と技能を活かした就労の場を確保するシルバー人材センターの運営を支援します。 | 業務の受託件数 | 1,482件 | 1,485件 | 目標値 | | 1,485 | 1,485 | 1,485 | 1,399 | 1,399 | 1,485件 | 1,399件 | シルバー人材センターと協議し、実績を踏まえ、目標値の見直しを行った。 | ○ | - |
| | | | | | | 実績 | 1,482件 | 1,437 | 1,399 | 1,321 | 1,417 | | | | | | |
| | | | | | | 達成度 | | B | B | B | A | | | | | | |
| 高齢者支援課 | 【28】 世代間支え合い家族支援事業 | 高齢者と子等が新たに袖ヶ浦市で同居又は近隣に居住するため、住宅の新築、購入、増改築、転居等に要する費用の一部を助成することにより、世代間でお互いに支え合いながら生活する多世代家族の形成を促進し、高齢者の孤立を防ぐとともに、家族の絆の再生を図ります。 | 制度の周知回数 ※7…過去の実績値を考慮して目標値を設定 | 18回 | 15回 ※7 | 目標値 | | 15 | 15 | 15 | 15 | 2 | 15回 | 2回 | 世代間でお互いに支え合いながら生活する多世代家族の形成を促進するため、各事業者等への周知から、県のサイトなどを活用した周知方法へ変更したため目標値の見直しを行った。 | - | 男女共同参画計画 |
| | | | | | | 実績 | 18回 | 10 | 11 | 10 | 9 | | | | | | |
| | | | | | | 達成度 | | C | C | C | C | | | | | | |
| 消防本部予防課 | 【38】 住宅用火災警報器の設置促進 | 住宅火災時に発生する死傷者の低減を目的に、市火災予防条例で義務化されている住宅用火災警報器の設置促進を図ります。 | 袖ヶ浦市内住宅用火災警報器設置率 | 69% | 80% | 目標値 | | 70 | 72 | 74 | 79 | 81 | 80% | 83% | 令和3年度時点の全国の住警器設置率を目標値に設定し目標値の見直しを行った。 | ○ | - |
| | | | | | | 実績 | 69% | 74 | 75 | 78 | 77 | | | | | | |
| | | | | | | 達成度 | | A | A | A | B | | | | | | |
| 保育幼稚園課 | 【44】 地域子育て支援拠点事業 | 自宅で保育する子育て中の保護者と児童が気軽に利用できる場を設け、親子同士交流を図ります。また、専門職による相談業務を行い、子育てに関する悩みや不安を解消します。子育てに関する情報提供や各種イベント・講座を実施し、児童の健全な育成を支援する地域の拠点としていきます。 | 子育て支援センター延べ利用者数 | 29,494人 | 32,000人 | 目標値 | | 30,000 | 30,000 | 30,000 | 30,000 | 30,000 | 32,000人 | 19,000人 | 保育園の利用者が増加しているため、相対的に支援センターの利用者数が減少傾向にあることから目標値の見直しを行った。 | - | - |
| | | | | | | 実績 | 29,494人 | 11,021 | 12,984 | 14,938 | 17,701 | | | | | | |
| | | | | | | 達成度 | | E | E | E | D | | | | | | |

| 目標3 地域の福祉に関わる人材づくり | | | | | 目標値等の推移 | | | | | | | | | 目標値の見直し事項 | | | | | | |
|--------------------|-----------------------------|---|------------------------|---------------------|--------------------|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-----------|--|---------|--------|--|---|---|
| 所管課等 | 事業名 | 事業内容 | 取組 | 現状値 (H30 年度末) | 目標値 (R7 年度末) | 年度 | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7(現) | R7(新) | 目標値を見直した事由 | 第2期実施計画 | その他の計画 | | | |
| 生涯学習課 | 【55】 生涯学習ボラン ティア促進事業 | 市民の主体的な生涯学習活動を支援するため、地域の人材活用を図ります。 養成講座や各種の研修活動を通してボランティアを養成し、社会教育機関等で実施する事業で活用を図ります。 【生涯学習ボランティア】 ・社会教育推進員 ・保育ボランティア ・ユースボランティア ・アドバイザーバンク | 生涯学習ボランティアの人数 | 126人 | 130人 | 目標値 | | 127 | 127 | 128 | 127 | 130 | 130人 | 135人 | 周知・啓発活動を実施した結果、ボランティアの人数が増加傾向にあることから、目標値の見直しを行った。 | ○ | - | | | |
| | | | | | | 実績 | 126人 | 129 | 125 | 117 | 120 | | | | | | | | | |
| | | | | | | 達成度 | | A | B | B | B | | | | | | | | | |
| | | | 保育ボランティア実施件数 | 37件 | 40件 | 目標値 | | 37 | 38 | 38 | 20 | 20 | 40件 | 25件 | | | | 講座受講時における保育のニーズが、減少傾向にあることから目標値の見直しを行った。 | ○ | - |
| | | | | | | 実績 | 37件 | 15 | 13 | 22 | 22 | | | | | | | | | |
| | | | | | | 達成度 | | E | E | E | A | | | | | | | | | |
| 中央図書館 | 【56】 おはなし会ボラン ティア推進事業 | 子どもの読書活動を促進するため、図書館及び保育所・幼稚園・学校等でのおはなし会を実施するためのボランティアを養成します。 | おはなし会・ブックスタートボランティア登録数 | 49名 | 53名 | 目標値 | | 53 | 53 | 53 | 53 | 53 | 53名 | 65名 | おはなし会、ブックスタートともにボランティアを計画的に養成しているが、高齢化による活動辞退などの自然減も考慮し、目標値の見直しを行った。 | - | - | | | |
| | | | | | | 実績 | 49名 | 61 | 58 | 68 | 75 | | | | | | | | | |
| | | | | | | 達成度 | | A | A | A | A | | | | | | | | | |

| 目標4 地域福祉サービス・仕組みの充実 | | | | | 目標値等の推移 | | | | | | | | | 目標値の見直し事項 | | | | | | |
|----------------------------|--------------------------------------|--|-------------------|---------------------|--------------------|-----|---------|-------|-------|-------|-------|-------|---------|-----------|--|---------|--------|--|---|---|
| 所管課等 | 事業名 | 事業内容 | 取組 | 現状値 (H30 年度末) | 目標値 (R7 年度末) | 年度 | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7(現) | R7(新) | 目標値を見直した事由 | 第2期実施計画 | その他の計画 | | | |
| 高齢者支援課 | 【66】 高齢者移動支援 事業 | 居宅で生活する移動手段を持っていない高齢者に対し、日常生活に必要な移動手段の確保と経済的負担を軽減するため、高齢者移動支援タクシーを利用した場合に、その運賃の一部を助成することにより高齢者の移動を支援します。 | 高齢者移動支援タクシー利用率(%) | - | 60% | 目標値 | | 60 | 60 | 60 | 70 | 60 | 60% | 70% | 周知・啓発活動を実施し、対象者の拡充や利用率の向上に努めてきた結果、増加傾向にあることから、目標値の見直しを行った。 | ○ | - | | | |
| | | | | | | 実績 | - | 66 | 69 | 72 | 71 | | | | | | | | | |
| | | | | | | 達成度 | | A | A | A | A | | | | | | | | | |
| | | | 制度の周知回数 | - | 3回 | 目標値 | | 3 | 3 | 3 | 4 | 3 | 3回 | 4回 | | | | 上記利用率の向上を図るため、制度の周知回数の目標値の見直しを行った。 | ○ | - |
| | | | | | | 実績 | - | 3 | 4 | 3 | 4 | | | | | | | | | |
| | | | | | | 達成度 | | A | A | A | A | | | | | | | | | |
| 企画政策課(R2-R4) 高齢者支援課(R5) | 【68】 地域公共交通づ くり支援事業 | 交通弱者の移動手段について、地域住民・NPO等が主体となった取組に対して支援します。 | 各団体の平均外出支援者数 | 15.2人/日 | 15.5人/日 | 目標値 | | 15.5 | 15.5 | 15.5 | 14.7 | 15.5 | 15.5人/日 | 14.7人/日 | 第2期実施計画の数値に修正した。 ※令和6年度末で「平川いきいきサポート」の活動は終了する予定。 | ○ | - | | | |
| | | | | | | 実績 | 15.2人/日 | 10.4 | 14.7 | 15.2 | 15.6 | | | | | | | | | |
| | | | | | | 達成度 | | C | B | B | A | | | | | | | | | |
| 地域福祉課 | 【71】 ながうら・ひらか わ健康福祉支援 室運営事業 | 身近な地域での保健福祉に関する相談窓口としての健康福祉支援室について、地域包括支援センターを含めた運営体制の検討・見直しを図り、より良い体制を目指します。 | 運営体制の検討 | 検討 | 見直し | 目標値 | | 検討 | 検討 | 検討 | 設置・運営 | 見直し | 見直し | 終了 | | | | 長浦地区地域包括支援センター 平川地区地域包括支援センター の開設に伴い、ながうら・ひらかわ健康福祉 支援室運営事業を終了したことによる。 | - | - |
| | | | | | | 実績 | 検討 | 検討 | 検討 | 検討 | 設置・運営 | | | | | | | | | |
| | | | | | | 達成度 | | A | A | A | A | | | | | | | | | |
| 障がい者支援課 | 【73】 相談支援事業 | 障がいのある人が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう支援するため、相談窓口により障がい者や障がい者の介護を行う者などからの相談に応じ、必要な支援を行います。 | 障害者相談支援事業相談件数 | 768件 | 1,008件 | 目標値 | | 1,008 | 1,008 | 1,008 | 1,170 | 1,210 | 1,008件 | 1,250件 | 障がい者及び障がい児への支援ニーズが高まっており、相談件数も増加傾向にあることから目標値の見直しを行った。 | ○ | - | | | |
| | | | | | | 実績 | 768件 | 509 | 1,130 | 1,338 | 1,620 | | | | | | | | | |
| | | | | | | 達成度 | | E | A | A | A | | | | | | | | | |
| | | | 発達障害児等療育支援事業申請件数 | 79件 | 103件 | 目標値 | | 103 | 103 | 103 | 103 | 103 | 103件 | 174件 | | | | 早期の診断、療育支援のニーズが高まっており、利用者も増加傾向にあることから目標値の見直しを行った。 | ○ | - |
| | | | | | | 実績 | 79件 | 138 | 144 | 116 | 147 | | | | | | | | | |
| | | | | | | 達成度 | | A | A | A | A | | | | | | | | | |

| | | | | 現状値 (H30 年度末) | 目標値 (R7 年度末) | 年度 | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7(現) | R7(新) | 目標値を見直した事由 | 第2期実施計画 | その他の計画 |
|-------|------------------------|--|---|---------------------|--------------------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------------|-------|---|---------|---------------------|
| 介護保険課 | 【76】 介護相談員派遣 等事業 | 新規で要介護認定を受けた人や施設利用者を介護相談員が訪問し、介護サービスの利用に関する相談等に応じます。また、相談等の内容を介護サービスの改善に反映させ、介護サービスの質の向上に努めます。 | 在宅相談訪問件数 ※12…新規の要介護認定数、施設入居者数が年度によりばらつきがあることを考慮 | 555件 | 480件 ※12 | 目標値 | | 480 | 480 | 480 | 480 | 480 | 480件 ※12 | 120件 | 市内の地域密着型の介護サービス施設が増え、利用者数も増加傾向にあることから、②施設利用者相談件数及び①在宅相談訪問件数について、両相談訪問件数の見直しを行った。 ※右記記載の計画において、①在宅相談訪問件数と②施設利用者相談件数の合計数値を600件としている。 | — | 高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画 |
| | | | | 実績 | | 555件 | 404 | 486 | 336 | 336 | | | | | | | |
| | | | | 達成度 | | | E | A | C | C | | | | | | | |
| | | | 施設利用者相談訪問件数 ※12…新規の要介護認定数、施設入居者数が年度によりばらつきがあることを考慮 | 430件 | 420件 ※12 | 目標値 | | 720 | 420 | 420 | 420 | 420 | 420件 ※12 | 480件 | | | |
| | | | | 実績 | | 430件 | 12 | 0 | 62 | 346 | | | | | | | |
| | | | | 達成度 | | | E | E | E | B | | | | | | | |

| 目標5 地域福祉推進への支援 | | | | | | 目標値等の推移 | | | | | | | | 目標値の見直し事項 | | | |
|----------------|---------------------------|--|------------------|---------------------|--------------------|---------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-----------|------------------------------------|---------|--------|
| 所管課等 | 事業名 | 事業内容 | 取組 | 現状値 (H30 年度末) | 目標値 (R7 年度末) | 年度 | H30 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7(現) | R7(新) | 目標値を見直した事由 | 第2期実施計画 | その他の計画 |
| スポーツ振興課 | 【95】 総合型地域スポーツクラブ活性化事業 | スポーツ、レクリエーション等の活動を通して、地域の子どもから高齢者まで共に活動できる市内5地区の総合型地域スポーツクラブの活性化を図り、地域住民の交流促進を目指します。 ・5地区の連携を目的とした連絡協議会の運営 ・スポーツイベントの実施(スポーツ教室、交流大会、ウォーキングフェスタ) ・クラブマネージャーの育成 | クラブ会員数(5クラブの総合計) | 1,296人 | 1,540人 | 目標値 | | 1,340 | 1,380 | 1,420 | 1,460 | 1,500 | 1,540人 | 997人 | コロナ禍を経て、会員の脱会が相次いだことから目標値の見直しを行った。 | — | — |
| | | | | | | 実績 | 1,296人 | 968 | 922 | 870 | 879 | | | | | | |
| | | | | | | 達成度 | | E | E | E | C | | | | | | |